

令和3事業年度 業務実績報告書

第19期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

令和4年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和3事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	14
(1) 伝統芸能の公開	22
(2) 現代舞台芸術の公演	68
(3) 青少年等を対象とした公演	79
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	87
(5) 快適な観劇環境の形成	100
(6) 広報・営業活動の充実	111
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	126
(8) 日本博の運営・実施	129
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	134
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	138
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	151
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	157
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	161
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	175
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	180
III 予算、収支計画及び資金計画	188
IV その他業務運営に関する重要事項	196

令和3事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	5
<3> 日本博の運営・実施	7
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	8
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	9
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	10
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	11
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	11
III 予算、収支計画及び資金計画	12
IV その他業務運営に関する重要事項	13
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	14
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	15
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	16

令和3事業年度業務実績報告書

第19期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

令和4年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の 質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

1 文化芸術活動に対する援助	p.1
(1) 助成金の交付	p.5
(2) 助成に関する情報等の収集及び提供	p.12
(3) 基金の管理運用	p.13
(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)	p.13
(5) 文化芸術関係者に対する新型コロナウイルスワクチン職域接種	p.13

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 資金運用収入予測を踏まえ、芸術文化振興基金及び同基金を原資とした助成事業の将来構想の検討

エ アーツカウンシルとしての機能強化及び地域版アーツカウンシル・文化庁等との連携推進

オ 助成事業によって得られた成果等の活用に関する検討

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

新型コロナウイルス感染症の拡大等により影響を受けた文化芸術団体等に対する支援

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② 専門委員・専門調査員・PD・PO による助成の成果等に対する調査・評価・次年度のための審査への活用
- ③ 職員による会計調査、PD・PO による助成対象活動の公演等調査及び意見交換の実施
会計調査:30 件以上(団体数) 公演等調査:540 件以上(助成対象件数)
- ④ PD・PO の体制強化及び調査研究の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 手続の合理化のため、新たな助成業務システムを活用し、令和 4 年度助成対象活動を募集

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方について検討し、新制度による令和 4 年度芸術文化振興基金助成対象活動の募集

エ 文化庁連携による PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進

するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・ホームページ掲載

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

エ 助成金に関する応募相談の受付

相談件数:200 件以上(団体数)

(3) 芸術文化振興基金の管理運用

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

新型コロナウイルス感染症の拡大により活動自粛を余儀なくされた文化芸術団体等に対し、感染対策を行いつつ、直面する課題を克服し、活動の再開・継続に向けた積極的取組等に必要な経費を支援

《中期目標の指標・関連指標》

1-1 効果的な助成が行われたか。 (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-2 助成金の交付状況	P. 5 に掲載
1-3 公演等調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	361 件 (H25-29 実績平均 : 488.4 件)
1-4 会計調査件数 (前中期目標期間実績の維持)	32 件 (H25-29 実績平均 : 96.4 件)
1-5 プログラムディレクター・プログラムオフィサーと芸術団体等との意見交換会及び応募相談会の実施件数(前中期目標期間実績以上)	意見交換会 : 140 件(H28-29 実績平均 : 136.5 件) 応募相談会 : 363 件(H28-29 実績平均 : 270.0 件)
1-6 文化芸術活動に対する援助について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
1-A 芸術文化振興基金の運用状況や資金の受入状況	P. 13 に掲載

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・会計調査、応募相談の件数について、数値目標を達成した。 ・公演等調査については、現地に赴いて公演等の実施状況を調査するものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等に伴って現地に赴くことが困難となり、また、調査先から現地入りに難色を示されることもあり、数値目標が達成できなかった。 ・基金助成事業の役割をこれまで以上に明確にするため、「芸術文化振興基金助成金交付の基本方針」を改正した。これに伴い審査基準の見直しを行い、令和4年度分の募集から適用した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により多くの活動で計画変更が生じていることから、手続きの負担軽減を目的に、芸術文化振興基金助成金交付要綱及び文化芸術振興費補助金交付要綱を一部改正した。 ・毎年実施している芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成金交付事業に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等を支援することを目的として令和2年5月に創設した文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とする助成事業を2回実施した(助成実績：60団体6,100万円)。 ・基金部にアーツカウンシル機能が導入されて10年が経過したことから、今後の方向性を検討するため、芸術文化振興基金運営委員会に特別部会を設置し、公開会議を開催した。その成果を「アーツカウンシル機能の今後の方向性について(報告書)」にとりまとめ、11月に振興会ホームページで公表した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、積極的にオンラインを活用した。 ・新型コロナウイルス感染症に対して、早期概算払いの実施など前年度に引き続き柔軟な対応を行った。 ・基金助成事業については新制度(助成金の定額化、助成対象経費の選択制)の導入について統括団体へ事前説明を行い、6月に振興会ホームページで募集概要を公表し、例年より一か月早く8月下旬に募集案内を公表する等、事前の周知に努めた。 ・助成事業に関する調査研究を実施し、結果や報告書等の成果を振興会ホームページに公表した。 ・令和3年度助成対象活動の申込受付より電子申請となったことから、助成事業の実態把握、助成事業の効果検証に資するため、試行的に交付要望書のデータを蓄積し、本格的なデータベース構築に向けたデータの量的・統計的な分析を行った。 ・令和2年度第2次補正予算で措置された活動継続・技能向上等支援事業費補助金について、令和3年度に繰越承認を受け、78,820件の「額の確定」業務を完了した。 ・文化芸術関係者に対する支援のため、文化庁と共同で新型コロナウイルスワクチン職域接種を2回実施した(1回目：7/5～9、2,055名。2回目：8/9～13、2,059名)。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	<p>会計調査の実施状況：32件/30件以上(106.7%) 公演等調査の実施状況：361件/540件以上(66.9%) 相談件数：363件/団体数200件以上(181.5%)</p>
主要な業務実績	<p>(1) 助成金の交付 基金による助成金：交付件数466件、助成金交付額747,440千円 補助金による助成金：交付件数441件、助成金交付額5,708,890千円 文化芸術復興創造基金による助成金：交付件数60件、助成金交付額61,000千円</p> <p>(2) 助成に関する情報等の収集及び提供 HPアクセス件数：425,529件(うち芸術文化振興基金HP408,750件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業HP：16,779件)</p> <p>(3) 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用 基金運用益：979,992千円(利回り1.38%) 芸術文化振興基金への寄附：19件600,582千円 (2年度実績9件600,184千円、398千円の増) 文化芸術復興創造基金への寄附：115件64,477千円 (2年度実績277件7,876千円、56,602千円の増)</p>

	<p>(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業) 額の確定件数 78,820 件、40,166,580 千円</p> <p>(5) 文化芸術関係者に対する新型コロナウイルスワクチン職域接種 2回実施(1回目：7/5～9、2,055名。2回目：8/9～13、2,059名)</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公演等調査の実施件数が新型コロナウイルス感染症の影響で当初目標を下回ったが、新型コロナウイルス感染症対応が求められる中、目標とする実施件数を達成するため、令和4年度においても対面を要するものについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施し、要望が多いオンラインでの各種相談にも柔軟に対応する。

(1) 助成金の交付

ア 助成金の交付

① 令和3年度助成金の交付実績

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付件数(件)	助成金交付額 (千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	529	251	479,938	205	400,702
	音楽	100	54	146,064	41	117,002
	舞踊	82	34	56,306	30	49,339
	演劇	347	163	277,568	134	234,361
	伝統芸能の公開活動	49	26	44,602	23	37,228
	美術の創造普及活動	29	7	10,598	7	9,814
	多分野共同等芸術創造活動	48	16	16,588	12	10,891
小計	655	300	551,726	247	458,635	
映像芸術 創造活動	国内映画祭等の活動	53	36	72,064	31	67,578
	国内映画祭等	37	29	67,604	26	64,957
	日本映画上映活動	16	7	4,460	5	2,621
	小計	53	36	72,064	31	67,578
地域文化 振興活動	地域文化施設公演・展示活動	240	127	199,698	108	160,172
	文化会館公演	116	62	89,205	49	61,075
	美術館等展示	124	65	110,493	59	99,097
	歴史的集落・町並み、 文化的景観保存活用活動	12	10	5,346	9	3,826
	民俗文化財の保存活用活動	26	18	11,384	10	5,956
	小計	278	155	216,428	127	169,954
文化振興普及 団体活動	アマチュア等の文化団体活動	151	74	70,221	55	44,007
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承 等活動	8	6	11,100	6	7,266
	小計	159	80	81,321	61	51,273
合計	1,145	571	921,539	466	747,440	

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付件数 (件)	助成金交付額 (千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	音楽	96	72	1,785,497	71	1,759,887
	舞踊	54	27	615,287	27	581,936
	演劇	153	80	685,378	78	645,619
	伝統芸能	43	26	86,623	26	82,805
	大衆芸能	21	13	121,999	13	113,354
	小計	367	218	3,294,784	215	3,183,601
国際芸術交流 支援事業	海外公演	22	16	204,157	7	89,332
	国際共同制作公演(海外公演)	2	2	28,707	1	25,936
	国際共同制作公演(国内公演)	10	3	22,171	2	12,211
	国際フェスティバル	7	3	127,029	3	116,179
	小計	41	24	382,064	13	243,658
機能強化推進事業 劇場・音楽堂等	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	19	16	832,127	16	794,179
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	275	146	1,203,635	144	970,741
	共同制作支援事業	2	2	61,539	2	57,394
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	47	28	246,228	25	169,837
	小計	343	192	2,343,529	187	1,992,151

映画製作への支援	劇映画	65	21	279,470	18	251,650
	記録映画	29	14	60,090	8	37,830
	アニメーション映画	4	1	1,070	0	0
	小計	98	36	340,630	26	289,480
合計		849	470	6,361,007	441	5,708,890

(c) 文化芸術復興創造基金による助成金

(第1回)

助成対象分野	応募件数(件)	交付件数(件)	助成金交付額(千円)
舞踊	19	3	7,000
演劇	105	14	19,000
伝統芸能・大衆芸能	48	7	9,000
美術館等展示活動	15	2	4,000
合計	187	26	39,000

(第2回)

助成対象分野	応募件数(件)	交付件数(件)	助成金交付額(千円)
音楽	16	4	2,500
舞踊	8	2	2,000
演劇	56	18	11,500
伝統芸能・大衆芸能	16	6	3,500
美術	10	3	2,000
映画	5	1	500
合計	111	34	22,000

- 文化芸術振興費補助金による「国際芸術交流支援事業」、「映画製作への支援」及び芸術文化振興基金による「国内映画祭等の活動」について、3年度第2回分の募集を実施、9/21の運営委員会で承認され、9/30に結果を公表した。

■文化芸術復興創造基金による支援事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術団体等を支援することを目的として令和2年5月に創設した文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とする助成事業を2回実施した。
- 第1回は、文化芸術復興創造基金の趣旨に賛同いただいた東京海上ホールディングス株式会社の寄附を原資とし、4分野26団体に3,900万円の助成金を交付した(9月募集、11月採択結果公表)。
- 第2回は、文化芸術復興創造基金への寄附に加え、文化庁、日本芸術院らと開催した「文化芸術復興創造基金文化功労者・日本芸術院会員チャリティオークション」の売り上げを充当し、6分野34団体に2,200万円の助成金を交付した(1月募集、3月採択結果公表)。
- 文化芸術復興創造基金の助成の成果については、助成団体ホームページ及び振興会ホームページで公表した。

■新型コロナウイルス感染症に関連した対応

- 3年度助成事業においては、新型コロナウイルス感染症対策に関する経費を助成対象経費とする旨を募集案内に明記しており、助成対象経費として認めたことに加え、3年度助成対象活動採択団体に対して通知の上、次のような柔軟な対応を行った。3年度舞台芸術創造活動活性化事業及び芸術文化振興基金助成事業について、無観客公演も助成対象とすることや中止となった場合の助成対象経費に係るキャンセル料等について柔軟に対応すること、また、劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、配信等経費も助成対象経費とすることなど。
- 舞台芸術創造活動活性化事業及び劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、団体の状況に応じて早期概算払いを行った。
- 国際芸術交流支援事業については、活動実施時期によって上半期(4/1～9/30)、下半期(10/1～3/31)の2回に分けて募集を行い、第2回の募集は5月に実施した。

■その他

- 平成31年度文化芸術振興費補助金による映画製作への支援で採択された劇映画「宮本から君へ」が、麻薬及び向精神薬取締法違反により有罪が確定した者が出演しており、これに対し、国の事業による助成金を交付することは、公益性の観点から、適当でないため、元年7月10日付けで助成金不交付決定通知書を発出していた件について、これを不服とした申請団体が元年12月20日東京地裁に訴状を提出していた案件につき、6/21、助成金を交付しない旨の決定を取り消すという判決が下された。これに対し、7/2に控訴状を東京高等裁所に提出、8月に控

訴理由書を提出し、10/26に第1回口頭弁論期日、12/23に第2回口頭弁論期日が行われ、3/3に第一審の判決を取り消すという判決が下された。これに対して原告(申請団体)側は控訴審判決を不服として、3/16に上告状兼上告受理申立書を提出した。

② 令和4年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

(a) 審査の実施

運営委員会、4部会及び14専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

《審査の経過》

9月21日	第57回運営委員会 4年度文化芸術振興費補助金による助成対象活動募集案内の内容等を了承。
11月1日～19日	4年度助成事業 応募受付期間
12月上旬～下旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12月下旬～2月上旬	各専門委員による応募活動1件ごとの書面審査。
1月28日	第58回運営委員会(書面審議) 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1月下旬～3月上旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3月上旬～中旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3月14日	第59回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

■運営委員会

・第57回：9/21、第58回：1/28(書面審議)、第59回：3/14

■舞台芸術・美術等部会(2回開催・1月、3月)

- ・音楽専門委員会：(2回開催・12月、2月)
- ・舞踊専門委員会：(2回開催・12月、2月)
- ・演劇専門委員会：(3回開催・12月、2月(第1分科会1回、第2分科会1回))
- ・伝統芸能・大衆芸能専門委員会：(3回開催・12月、2月(伝統芸能分科会1回、大衆芸能分科会1回))
- ・美術専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・多分野共同等専門委員会：(2回開催・12月、2月)

■映像芸術部会(2回開催・1月、3月)

- ・劇映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・記録映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・アニメーション映画専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・映画祭等専門委員会(2回開催・12月、2月)

■地域文化活動部会(2回開催・1月、3月)

- ・文化施設公演活動等専門委員会(2回開催・12月、2～3月)
- ・文化施設展示活動専門委員会(2回開催・12月、2月)
- ・文化団体活動専門委員会(2回開催・12月、2月)

■文化財部会(2回開催・1月、3月)

- ・文化財保存活用専門委員会(2回開催・12月、3月)

③ 令和4年度助成対象活動及び助成金交付予定額等の公表

- ・金利低迷により、芸術文化振興基金の運用益収入の見込みが減少傾向にあることを踏まえ、より効果的・効率的な助成制度とするため、助成金の定額化、助成対象経費の選択制を導入し、4年度分の募集を行った。
- ・4年度の基金及び補助金による助成対象活動及び助成金交付予定額等について、審査に当たった委員の氏名及び審査の方法等と併せ、ホームページ等において3/31付けで公表。助成対象分野別の応募件数、採択件数及び助成金交付予定額については以下のとおり。

(a) 基金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	553	169	408,500
	音楽	133	38	124,500
	舞踊	76	20	48,000

	演劇	344	111	236,000
	伝統芸能の公開活動	69	16	38,000
	美術の創造普及活動	39	7	9,500
	多分野共同等芸術創造活動	39	12	14,000
	小計	700	204	470,000
映像芸術創造活動	国内映画祭等の活動	32	24	34,600
	国内映画祭等	22	18	31,900
	日本映画上映活動	10	6	2,700
	小計	32	24	34,600
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	264	99	169,500
	文化会館公演	121	54	75,500
	美術館等展示	143	45	94,000
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	11	6	4,700
	民俗文化財の保存活用活動	28	13	9,300
	小計	303	118	183,500
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	210	73	59,700
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	11	7	9,500
	小計	221	80	69,200
合計		1,256	426	757,300

※国内映画祭等の活動には、第2回募集分は含まれていない。

(b) 補助金による助成金

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術創造活動 活性化事業	複数年計画支援	45	27	1,818,199
	公演事業支援 [一般枠]	311	192	1,401,899
	公演事業支援 [ステップアップ枠]	31	13	87,536
	小計	387	232	3,307,634
国際芸術交流 支援事業	海外公演	20	11	159,410
	国際共同制作公演(海外公演)	5	2	11,463
	国際共同制作公演(国内公演)	0	0	0
	国際フェスティバル	5	3	120,182
	小計	30	16	291,055
劇場・音楽堂等 機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	16	16	810,406
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	231	144	1,077,727
	共同制作支援事業	1	1	39,676
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	45	19	220,471
	小計	293	180	2,148,280
映画製作への支援	劇映画	41	10	124,000
	記録映画	12	3	26,980
	アニメーション映画	6	1	23,400
	小計	59	14	174,380
合計		769	442	5,921,349

※国際芸術交流支援事業の海外公演と国際共同制作公演(海外公演、国内公演)、映画製作への支援には、第2回募集分は含まれていない。
※国際芸術交流支援事業の海外公演には、内定留保の1件を含んでいる。

イ 助成金交付事務の効率化等

① 審査基準の策定及び事前公表

- ・ 応募受付(11/1~19)に先駆け、募集案内を振興会ホームページに掲載するとともに審査基準の公表を行った。

② 専門委員・専門調査員・PD・PO による助成の成果等に対する調査・評価・次年度のための審査への活用

■ 舞台芸術創造活動活性化事業

- ・本事業の事後評価については、元年度以降実施している方法により、5月～7月にかけて音楽はじめ5分野について、各専門委員会で書面評価・合議評価を行い、8月～2月にかけて、対面での出席人数削減のためにオンラインを積極的に活用した助成対象団体との意見交換を通じて、評価結果を伝達した。
- ・3年度事業分の全ての助成対象活動を対象に、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員により、公演等調査を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

《「舞台芸術創造活動活性化事業」事後評価の経過》

6月上旬～6月中旬	専門委員会(書面審議) 事後評価の方法及び評価基準等について審議・決定。 PD・POが評価コメント素案を作成。
6月下旬～7月中旬	各専門委員による評価コメントの素案等により書面審査を実施。
7月上旬～7月下旬	専門委員会 評価コメントの素案を基に合議により評価を実施。
8月3日	舞台芸術・美術等部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月21日	第57回運営委員会 事後評価の結果を報告。

■国際芸術交流支援事業

- ・本事業の事後評価については、元年度に部会で決定した方針に従って、日本国内で実施された活動(国際共同制作公演・国内公演、国際フェスティバル)に関して、公演調査報告書等に基づいて、舞台芸術創造活動活性化事業同様に各専門委員会において書面評価・合議評価を行い、助成対象団体との意見交換会を通じて評価結果を伝達した。
- ・3年度事業分の助成対象活動については、日本国内で実施する活動に限り、公演等調査を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部調査は中止を余儀なくされた。

■劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- ・劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(30年度に採択した団体のうち、3年採択の4団体)、共同制作支援事業において「事後評価」を行った。なお、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については、新型コロナウイルスの影響による事業変更や中止が多発したことにより、十分なエビデンスを得ることが難しいため、評価は行わなかった。評価は、専門委員、PD・POが公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行い作成した報告書、取得したエビデンス、劇場等から提出された成果報告書及び実績報告書に基づき行うこととし、その評価の方法及び評価基準については、6月に書面開催した文化施設公演活動等専門委員会第一分科会において承認された。その後、7月にかけて同第一分科会で書面審査、合議審査を行った。評価コメントを作成するとともに、採択審査時の評点を基礎として増減を行い評点の評価を行った。評価対象団体に対しては9月～10月にかけて評価結果の伝達・意見交換を行った。
- ・3年度事業分の助成対象活動については、専門委員、PD・POによる公演等調査(活動調査、ヒアリング調査)を行った。活動調査は劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び共同制作支援事業については全助成対象団体活動を調査対象とし、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業については、抽出された7施設において実施した。また、劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業(3年度に採択した4団体)及び地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業(抽出した7施設)についてはPD・POによるヒアリング調査を行った。

《「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」事後評価の経過》

6月中旬～下旬	PD・PO及び事務方が評価コメント素案を作成。
6月15日～22日	第3回専門委員会(書面開催) 評価の方法及び評価基準等について審議・決定。
7月2日～19日	各専門委員が評価コメント素案、評点により書面審査を実施。
7月28日	第4回専門委員会 評価コメント素案、評点を基に合議により評価を実施。
8月31日	第3回地域文化活動部会 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
9月21日	第57回運営委員会 評価の結果を報告。

③職員による会計調査、PD・POによる助成対象活動の公演等調査及び意見交換の実施

■会計調査

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため基金部事務職員による会計調査を実施。

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
会計調査	団体数	32件	32件	30件以上	106.7%

	助成対象活動数	98 活動	—	—	—
--	---------	-------	---	---	---

■公演等調査

- ・助成対象活動について、専門委員、専門調査員、PD・PO及び文化芸術活動調査員による公演等調査を実施。「舞台芸術創造活動活性化事業」については3年度の全ての助成対象活動を対象として調査を実施し、「国際芸術交流支援事業」については、国内で開催される事業に限り、実施。
- ・「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」については、助成対象活動を視察して個々の活動状況を確認する「活動調査」と、劇場・音楽堂等の担当者へ聞き取りを行い、その実態と成果の確認を行う「ヒアリング調査」を実施。
- ・ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部調査等は中止を余儀なくされた。

区分		実績	不採択その他の活動の調査含む	年度計画	達成率
公演等調査	助成対象件数	361 件	—	540 件以上	66.9%
	延べ調査回数	886 回	—	—	—
	(内訳)				
	舞台芸術創造活動活性化事業				
	助成対象件数	204 件	207 件		
	延べ調査回数	659 回	—		
	劇場・音楽堂等機能強化推進事業				
	助成対象件数	60 件	—		
	活動調査	96 回	—		
	ヒアリング調査	11 回	—		
	国際芸術交流支援事業				
	助成対象件数	7 件	—		
	活動調査	27 回	—		
基金による助成(創造普及 65、地域文化 25)					
助成対象件数	90 件	99 件			
延べ調査回数	93 回	—			

■意見交換会

- ・舞台芸術創造活動活性化事業及び国際芸術交流支援事業について、8/3の舞台芸術・美術等部会で評価を決定し、8/19～2/8まで、意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体152件、実施件数140件。

区分		音楽	舞踊	演劇	伝統芸能	大衆芸能	計
意見交換	団体数	41 件	25 件	48 件	16 件	10 件	140 件
	助成対象活動数	111 件	36 件	87 件	29 件	18 件	281 件

- ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業について、8/31の地域文化活動部会で評価を決定し、9/21～10/18まで、意見交換会(評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。対象団体5件。

事業別	評価の種類	団体数	助成対象活動数(事業数)
劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	事後評価	4*1	4(235*2)
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	事後評価	0*3	0(0)
共同制作支援事業	事後評価	1*4	1(1)
合計		5	5(236)

- *1 30年度に採択した16団体のうち、3年採択の4団体について事後評価を実施した。5年採択の12団体については今回評価を行わなかったが、評価とは別に意見交換を行った(4年度に最終年度評価を実施する予定)。
- *2 総合支援事業の事業数については採択期間3か年(30年度～2年度)の各団体の助成対象事業数の合計。
- *3 新型コロナウイルスの影響による事業変更や中止が多発したことにより、十分なエビデンスを得ることが難しいため、評価を行わなかった。ただし、2年度にヒアリングのモデル調査を実施した団体に対しては、意見交換を行った。
- *4 採択団体2団体のうち、事業を実施することができた1団体のみを事後評価の対象とした。

④PD・POの体制強化及び調査研究

(a) PD・POの体制強化

- ・4年3月末日現在、PD・POの配置は以下のとおり。

分野	PD	PO	計
音楽	1	7	8
舞踊	1	4	5
演劇	1	7	8

伝統芸能・大衆芸能	1	5	6
調査研究	1	-	1
(劇場・音楽堂等担当 ※1)	(4)	(15)	(19)
合計	5	23	28

※1 劇場・音楽堂等担当は、各分野担当と兼務

(b) 調査研究

■運営費交付金による調査研究

- データベースの構築について、試行として舞台芸術創造活動活性化事業の音楽分野一般及び劇場・音楽堂等機能強化推進事業の総合支援事業、地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業における交付要望書等を行列形式で統合し、量的・統計的分析を実施し、本格導入に向け検討を行った。また、助成対象団体の受賞歴などの定性データ等を読み込み、それぞれから成果を検討した。
- 助成対象団体において外部からの評価指標となる文化芸術における受賞歴について、継続的かつ体系的に収集するため、4分野のPD・POからの意見をもとに作成した賞・コンクールのリストを引き続き更新した。
- 日本における今後のアーツカウンシルの在り方の検討に向け、各都道府県(京都府を除く)、政令指定都市66団体に対し、アーツカウンシル設置に関する自治体の実態について、アンケートによる調査を行い、結果をまとめ分析し、振興会ホームページで公表した。

■寄附金による調査研究

- 2年度に実施した「アーツカウンシルイングランドにおける『Strategy 2020-2030 Arts Council England』」の翻訳資料について、体裁等を整え、振興会ホームページで公表した。
- 「フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査」について、調査結果を報告書にまとめ、発刊するとともに振興会ホームページで公表した。また、振興会管理施設に向けて、新たに配布することとし、幅広い周知に努めた。
- アーツカウンシルイングランドにおける「Arts Council England Delivery Plan 21-24」を日本語に訳し、部内において共有した。
- 「文化芸術活動に係る評価手法に関する調査研究」について、11月から令和4年8月まで株式会社文化科学研究所と委託契約を締結し、国内外の評価に関する調査研究レポートや学術文献の収集、整理を行っている。
- 「カナダにおける文化芸術活動に対する助成システムに関する実態調査」について、調査対象や調査事項を検討し、仕様を作成した。

⑤地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- 日本における今後のアーツカウンシルの在り方の検討に向け、各都道府県(京都府を除く)、政令指定都市66団体に対し、アーツカウンシル設置に関する自治体の実態について、アンケートによる調査を行い、結果をまとめ分析し、振興会ホームページで公表した。
- 電子申請システムの導入に伴い、都道府県・政令指定都市による応募の取りまとめは行わず、団体から直接応募に変更したが、地域に密着し、かつ広く応募を求めたいため、都道府県・政令指定都市には、引き続き広報協力を依頼し、募集開始等に係る情報提供を行った。チラシ・パンフレット・ポスターを送付し、配架掲出を依頼するとともに、メールによる周知を行った。

⑥新たな助成業務システムの活用、令和4年度助成対象活動の募集

- 助成金交付事務手続の合理化を図るため、2年度から設計・構築作業を行ってきた新たな助成業務システムについて、稼働を開始した。
- 基金運用収入の将来見込みを踏まえ、効果的かつ効率的な支援の方策を含めた基金及び基金助成事業の新たな制度について、主な変更点と概要をホームページで公表した。
- 4年度募集分から基金助成事業の制度を大きく見直したことから、それを周知するため、申請を検討している団体に向けて、例年より1か月ほど早い8月末に募集案内を公開した。
- 基金助成事業については、4年度募集の制度変更についての説明会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9/9にオンラインで実施し、9/17にインターネット上で説明会の動画を公開した。
- 3年度助成対象活動の申込受付より電子申請となったことから、助成事業の実態把握、助成事業の効果検証に資するため、試行的に交付要望書のデータを蓄積し、本格的なデータベース構築に向けたデータの量的・統計的な分析を行った。

ウ 基金及び基金助成事業の将来の在り方についての検討、新制度による令和4年度芸術文化振興基金助成対象活動の募集

- 基金助成事業の役割をこれまで以上に明確にするため、「芸術文化振興基金助成金交付の基本方針」を改正した。

これに伴い審査基準の見直しを行い、4年度分の募集から適用した。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの活動で計画変更が生じていることから手続きの軽減化を図ることを目的に、芸術文化振興基金助成金交付要綱及び文化芸術振興費補助金による助成金交付要綱を一部改正した。

エ PD・PO を活用した審査・評価の仕組みの検討及び地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

■芸術文化振興基金特別部会の開催

- ・平成 23 年、我が国の文化政策の新たな展開として、文化芸術活動への支援策を一層実効性の高いものにするため、基金部にアーツカウンシル機能が導入され、試行期間 5 年、本格実施 5 年、合わせて 10 年を経過したことから、今後アーツカウンシル機能をどう高め、構築していくべきか、その方向性を検討するため、芸術文化振興基金運営委員会に特別部会を設置し、6 月から 9 月にかけて 8 回にわたり、公開で会議を開催した。

【構成員】

- ・運営委員及び専門委員会の専門員の中から複数名、振興会プログラムディレクター、振興会担当理事、必要に応じて専門家
- ・特別部会の成果を「アーツカウンシル機能の今後の方向性について(報告書)」にとりまとめ、11 月に振興会ホームページで公表した。併せて冊子も作成した。
- ・振興会内部役職員向けに、特別部会の部会長をつとめた衛紀生芸術文化振興基金運営委員会委員長代理の講演会『社会の中の劇場～報告書「アーツカウンシル機能の今後の方向性」で貫かれたこと』を開催し、業務への活用の一助とした(2/4)。

■地域版アーツカウンシル等との連携推進

- ・2 年度に実施したアーツカウンシル・ネットワーク参加者に対する「地域アーツカウンシル実態調査アンケート」について、結果をまとめアーツカウンシル・ネットワーク内で共有した。
- ・アーツカウンシル・ネットワークミーティングを実施した。第 1 回(8/27)はオンラインで「芸術文化振興基金助成事業の 4 年度募集に向けた制度の見直しについて」「新規加盟団体の取り組み紹介」「今後の AC-net のありかたについて」等の内容で行った。第 2 回(12/3)は対面で開催 (iichiko 総合文化センター・大分県大分市：オンライン併用)し、「地域アーツカウンシルの先進的取り組みの紹介」等を行ったほか、振興会より「アーツカウンシル機能の今後の方向性について(報告書)」を配布、紹介した。第 3 回(2/25)はオンラインで「地域アーツカウンシルの人員体制及び予算の現状」「専門人材の採用及び育成について」等の内容で行った。

オ 助成事業成果等の振興会の他事業への活用

- ・振興会内部役職員向けに、芸術文化振興基金特別部会の部会長をつとめた衛紀生芸術文化振興基金運営委員会委員長代理の講演会『社会の中の劇場～報告書「アーツカウンシル機能の今後の方向性」で貫かれたこと』を開催し、業務への活用の一助とした(2/4)。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報収集、提供

- ・官民の文化芸術活動への支援に関する情報を引き続き収集し、最新のデータに更新した。

イ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、事例集の作成・配布・ホームページ掲載

①ホームページ上の情報の充実

《アクセス件数》

区 分	件 数	前年度実績
芸術文化振興基金 HP	408,750 件	341,460 件
劇場音楽堂等機能強化推進事業 HP	16,779 件	18,196 件
合 計	425,529 件	359,656 件

- ・助成事業に関する説明会をオンラインで実施した後、振興会ホームページにてアーカイブ配信。
- ・助成事業に応募した者に任意で協力を求めた「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」の集計結果を振興会ホームページに掲載。

②事例集の作成・配布・掲載

- ・2 年度の助成事業を紹介する事例集を作成し、PDF 版をホームページに掲載した。併せて、冊子版を作成し配布した。

ウ 募集情報のホームページへの掲載、ポスター配布等

① 募集情報のホームページへの掲載

- ・4年度募集分から基金助成事業の制度を大きく見直したことから、それを周知するため、申請を検討している団体に向けて、例年より1か月ほど早い8月末に募集案内を公開した。
- ・基金助成事業については、4年度募集の制度変更についての説明会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9/9にオンラインで実施し、9/17にインターネット上で説明会の動画を公開した。
- ・補助金による助成事業は制度変更がないため、例年どおり9月末に募集案内をホームページに公開した。

②ポスター配布等

- ・広報用ポスター(3,200枚) チラシ(18,000枚)、地域力×文化力パンフレット(53,000枚)を配布(例年どおり、配布先に応じて必要数を印刷)。

エ 応募相談の受付

区分	実績	年度計画	達成率
応募相談会	363件	200件以上(団体数)	181.5%

■応募説明会

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が出ないよう、特定の場所に助成金交付希望者を集めることは見合わせた。

■応募相談会

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が出ないよう、例年行っていた国内各地で助成金交付希望者向けの対面での応募相談会は原則として見合わせ、代わりにオンラインで応募に関する相談を受けた。

(3) 基金の管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 979,992千円(利回り1.38%)

- ・基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、低金利下においても必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 資金の受入

①寄附先への感謝状の贈呈並びにホームページ等での広報

《寄附の受入》

区分	実績		前年度実績		対前年度増減
	件数	金額	件数	金額	金額
芸術文化振興基金	19件	600,582千円	9件	600,184千円	398千円
文化芸術復興創造基金	115件	64,477千円	277件	7,876千円	56,602千円

- ・文化芸術復興創造基金による支援事業の資金に充当するため、文化功労者及び日本芸術院会員から寄附される作品によるチャリティオークションを一般社団法人アート東京が実施するオンラインオークションの中で実施した。

◇ オークション売上 1,569千円(33点)

◇ 文化功労者・芸術院会員による現金寄附 5,170千円(18人)

◇ 合計額 6,739千円

(4) 文化芸術活動に対する緊急支援(文化芸術活動の継続支援事業)

- ・2年度第2次補正予算で措置された活動継続・技能向上等支援事業費補助金について、3年度に繰越承認を受け、「額の確定」業務を完了した。(額の確定件数:78,820件、40,166,580千円)
- ・「文化芸術活動の継続支援事業」及び新型コロナウイルス感染症拡大による影響に関するアンケート調査を実施(回答数:個人18,370件、団体1,484件)した。
- ・活動継続・技能向上等支援事業費補助金(文化芸術・スポーツ活動の継続支援事業)交付要綱第24条第1項に基づき、9/15~17に21件の会計調査(オンライン調査)を実施した。
- ・本事業のオンライン申請システム運用期間内に、「交付決定通知書」及び「額の確定通知書」をダウンロードできなかったという問い合わせが少なからず寄せられたことから、額の確定した全ての方に両通知書を郵送した。

(5) 文化芸術関係者に対する新型コロナウイルスワクチン職域接種

- ・文化芸術関係者に対する支援のため、文化庁と共同で新型コロナウイルスワクチン職域接種を2回実施した(1回目:7/5~9、2,055名。2回目:8/9~13、2,059名)。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したものを除き、概ね計画どおり実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で公演を実施した。また、劇場施設の利用者に対しても感染症対策への協力を要請した。 ・新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案した入場者数の数値目標について、現代舞台芸術分野は達成することができたが、伝統芸能分野では達成することができなかった。代替措置として、劇場に足を運ばない観客に引き続き伝統芸能に親しんでもらうため、公演映像を積極的にインターネット配信した。また、中止公演は無観客収録を行い、インターネット配信による公開を推進した。 ・旅行代理店との連携を強化し、振興会では初めての試みとなる、上演演目に所縁の地域をオンラインで巡って上演演目に対する理解を深める旅行代理店主催のツアーを実施した。「新しい生活様式」に対応した集客手段により、これまでにない客層にもアピールすることで新しい観客層の開拓を図った。 ・コロナ禍においても比較的来場が見込まれる地元地域との連携を強化し、入場者数増加と併せて地域の活性化も図った。 ・国立劇場では、各公演において国立劇場開場 55 周年に相応しい演目の上演を行った。 ・現代舞台芸術分野では、舞台芸術グローバル拠点事業を活用して、国際的なレピュテーションの確立に向けた様々な取組を推進した。 ・「新国デジタルシアター」を開設するなど、公演映像等の配信を促進した。 ・日本博事業では、新しい文化芸術の鑑賞方法として、3DCG のバーチャル空間におけるデジタルコンテンツにより国内外から多様な「日本の美」を体験できる「バーチャル日本博」を開設し、2 月には最先端の ICT を活用した「メタバース」として大幅にリニューアルした。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1、2記載) 《公演実績》表 参照
主要な業務実績	<p>〈1〉 伝統芸能分野</p> <p>〈2〉 現代舞台芸術分野</p> <p>〈3〉 日本博の運営・実施</p> <p>各表参照</p>
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・3 年度も、新型コロナウイルス感染症流行の影響が大きく、公演中に緊急事態宣言が発出された場合もあった。感染症の影響による団体観劇の減少を補い、個人客の集客を図るため、販売促進のための多種多様なイベントやキャンペーンにも積極的に取り組んだが、多くの公演で入場者数が目標を下回った。 ・今後も感染症予防の取組を徹底し、安全・安心を確保しつつ、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。 ・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。 ・当年度の成果を活かしつつ、コロナ後の新たな環境を見据えたデジタルコンテンツやメタバース、NFT 等を活用した新たな文化芸術の魅力発信について検討・試行を継続する。 ・東京 2020 大会後に日本博事業のレガシーを引き継ぐべく成果の検証を総括し、後継事業へつなげていく。

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したものを除き、概ね計画どおり実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で公演を実施した。また、劇場施設の利用者に対しても感染症対策への協力を要請した。 ・政府・自治体の要請等により上演時間や販売座席数を制限した。文楽公演では、入場者数の増加を図るため、上演時間を短縮した公演は1日の公演回数を追加した。 ・新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案した入場者数の数値目標を達成することができなかった。年度計画策定時に想定していたよりも新型コロナウイルス感染症が継続的に流行し、長期にわたって緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が続いていたため、観客の観劇マインドの低下が引き続いたことが要因である。 ・特に、6～8月に実施した各館の鑑賞教室では、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、事前予約していた学校等団体からのキャンセルが発生した。このため、該当公演においては大きく達成率が下がっている。仮にこのキャンセルがなければ、新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案した入場者数について、伝統芸能分野全体での達成率は84.7%であった。 ・劇場に足を運べない観客に引き続き伝統芸能に親んでもらうため、公演映像を積極的にインターネット配信した。また、中止公演は無観客収録を行い、インターネット配信による公開を推進した。 ・旅行代理店との連携を強化し、振興会では初めての試みとなる、上演演目に所縁の地域をオンラインで巡って上演演目に対する理解を深める旅行代理店主催のツアーを実施した。「新しい生活様式」に対応した集客手段により、これまでにない客層にもアピールすることで新しい観客層の開拓を図った。 ・コロナ禍においても比較的来場が見込まれる地元地域との連携を強化し、入場者数増加と併せて地域の活性化も図った。 ・国立劇場では、各公演において国立劇場開場55周年に相応しい演目の上演を行った。 ・歌舞伎公演では、初役での起用や、若手俳優の積極的な登用による芸の継承などの取組を推進し、評論家や観客から高い評価を得た。 ・文楽公演では、技芸継承に相応しい名作の上演を行うことで、長期的な視点で安定的な公演の継続を図った。 ・舞踊・邦楽等の公演では、当初東京2020大会に来場する外国人観光客を対象とした公演を予定していたが、東京2020大会が無観客での実施となったため、計画を変更してより広い客層に伝統芸能に親んでもらうための入門公演として実施した。 ・大衆芸能公演では、演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストラーション」を関連団体と協力して開催し、好評を得た。 ・能楽堂では、連続性や関連性を持たせた月間特集の企画や平成24年から取り組んできた「再発見する」シリーズの継続など充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。 ・国立劇場おきなわでは、組踊をより多くの方に知ってもらうためのオーディオガイドの活用や動画配信など様々な取組を推進した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表1記載) 《公演実績》表 参照
主要な業務実績	<p>(1) 伝統芸能の公開</p> <p>ア 主催公演の実施</p> <p>① 歌舞伎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場開場55周年記念に相応しい演目の上演を行った。 ・物語の流れを分かりやすく整理した通し狂言の上演を行った(10月「伊勢音頭恋寝刃」、1月「南総里見八犬伝」)。

- ・現在一般的に行われている演出と異なる型による上演(11月「一谷嫩軍記」)。
- ・解説付きの入門公演による新規客層の開拓を図った(3月「入門 “盛綱陣屋” をたのしむ」)。
- ・次世代の俳優を積極的に起用することによる芸の継承の実現を図った。

②文楽

- ・各公演において国立劇場開場55周年記念に相応しい演目の上演を行った。12月に『仮名手本忠臣蔵』を上演し、多くの観客動員を記録することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の中でも十分な観劇機会を創出できるよう、3部制での上演を年間通じて行った。
- ・芸継承に相応しい名作の上演を行うことで、長期的視点で文楽公演を安定して行ってゆけるよう配慮した。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・国立劇場開場 55 周年記念に相応しい演目の上演を行った。
- ・舞踊等は日本舞踊独自の上演形式の素踊り、上方で独自の美を育んできた座敷舞、異なるジャンルとの共演が実現した新作など幅広く上演した。
- ・邦楽は特定の楽器に焦点をあて、その歴史から種類を演奏と解説を含めた愛好者向けのシリーズや、三曲・長唄では「平家物語」「源氏物語」といったテーマを持たせるなどして趣向を凝らした。
- ・雅楽は聖徳太子千四百年御聖忌に因んだ天王寺舞楽と、五行思想に関連した舞楽や管絃を上演した。全体的に企画性の高い公演を実施した。

④大衆芸能

- ・日本博事業として演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストラーション」を日本演芸家連合の協力を得て開催し、2 日間 8 コースで 106 人の参加と 96.9%の高い満足回答を得た。
- ・3 月中席では、平成 16 年 9 月以来 16 年ぶりとなる講談をトリとした企画において、入場率 97.2%となる大きな成果をあげることができた。
- ・文楽劇場の上方演芸特選会は、上方演芸 4 団体との協力し振興会ガイドラインに沿い販売座席数・上演時間を制限して実施した。

⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・4 月企画公演〈日本人と自然〉では、復曲能「泰山木」観世宗家、金剛宗家の共演だけでなく、観世宗家が金剛家所蔵の面を、金剛宗家が観世家所蔵の面を用いるなど、大変貴重な上演機会となった。
- ・5 月狂言企画公演では、国立能楽堂制作による新作「鮎」を含む、生き物をテーマとした曲種の異なる狂言 3 番が並び、月間特集「日本人と自然 草木成仏」の下、バラエティに富んだ内容となった。
- ・5 月特別公演では能「半蔀」を初めて「立花」の小書で上演することができた。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を 6 月の能楽鑑賞教室から独立させ、10 月に実施し、日本文化の発信に貢献した。
- ・12 月企画公演〈狂言と落語・講談〉は、「特集・在原業平」として多様な芸能で業平ゆかりの作品をご覧ください。在原業平の様々な描かれ方と、それぞれの芸能の特色を一度に味わえる、密度の濃い内容となった。
- ・3 月特別企画公演〈能・狂言を再発見する〉は平成 24 年から取り組んできた「再発見する」シリーズの一環。前回までは能のみを扱ってきたが、今回はその枠を狂言にも押し広げ、大きな成果を挙げた。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、公演中止となった 6 月男性舞踊家の会(無観客)、与那国シヨンガネー(無観客)及び 11 月の組踊公演「執心鐘入」(有観客)を撮影し、同映像を期間限定・有料で配信した。男性舞踊家の会は、9 月にスクリーン上演も実施した。

イ 演目の拡充

- ・国立劇場の歌舞伎公演で過去に上演した通し狂言の台本・演出の見直し(1 月

「南総里見八犬伝」)や、埋もれていた場面の復活(11月「一谷嫩軍記」)により、レパートリーの定着・拡充を実現。

- ・「国立劇場歌舞伎脚本募集」事業の実施による新たな才能の発掘。
- ・歌舞伎座2月大歌舞伎で上演された「鼠小僧次郎吉」では、平成5年に国立劇場で上演した際の台本が使用されており、歌舞伎のレパートリー拡充に貢献することができた。
- ・文楽劇場の錦秋文楽公演では、近年三段目のみの上演機会が多くなっている「ひらかな盛衰記」について、四段目を取り上げて通し上演の再現を試みた(三段目のうち「大津宿屋の段」「笹引の段」は26年ぶり、四段目の「辻法印の段」「神崎揚屋の段」は33年ぶりの上演)。
- ・上演機会の少ない場面を上演した(4月文楽公演「傾城阿波の鳴門」、夏休み文楽公演「舌切雀」、錦秋文楽公演「蘆屋道満大内鑑」保名物狂の段、初春文楽公演「絵本太功記」二条城配膳の段)。
- ・舞踊・邦楽等においては、新作委嘱作品を上演した(5月特別企画公演「二つの小宇宙」における初演2作品、10月邦楽公演における新作委嘱作品「IN THE END WAS THE WORD」)。
- ・演芸場の2月特別企画公演「圓朝に挑む！」で、橘家圓太郎が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の長編『月謡荻江一節』を自ら咀嚼し、「一名荻江の伝」として上演した。
- ・能楽堂では、「泰山木」(4月企画公演)・「岩船」(3月特別企画公演)といった復曲能、新制作の狂言「袴裂」などを積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。
- ・国立劇場おきなわでは、上演機会が少ない優れた演目(組踊「大川敵討」～糺しの場～)や新作(喜劇「うるま西遊記」～沙悟浄、涙のつんだら節～)を上演した。
- ・「新作組踊・戯曲大賞」の公募・選考・表彰を行った。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした鑑賞教室、社会人を対象とした公演、親子を対象とした公演を各館で実施した。
- ・外国人を対象としたDiscoverシリーズを各館で実施した。
- ・計画当初は東京2020大会に来場する外国人観光客を対象とした公演を大会期間に合わせて予定していたが、東京2020大会が無観客での実施となったため、計画を変更して入門公演を実施した。より広い客層に伝統芸能に対して親しみを感じてもらうために、実演を交えた解説を名作の上演と組み合わせ実施した(7月邦楽公演「日本音楽のススメ」、8月舞踊公演「日本舞踊のススメ」、8月特別企画公演「日本の太鼓」)。
- ・演芸場では、7月に「親子で楽しむ演芸会」を2年ぶりに開催した。前売り期間中に国等の要請により販売制限をしたが、総席数の89.7%の入場率を得て多くの親子に演芸の楽しみを届けることができた。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ・国際文化交流公演等を2公演実施。(本館：7月Discover KABUKI、12月Discover BUNRAKU)
- ・12月Discover BUNRAKUには各国駐日大使を招待し15の国と地域28名が参加。
- ・芸術団体との連携協力を1公演実施。(本館：5月特別企画公演)
- ・子供たちに地元の伝統文化を知ってもらい、生活する地域に誇りをもつ感情を育むとともに、将来の観客層の拡大に繋げるため、文楽協会主催の「子供たちのための人形浄瑠璃文楽体験教室」(文化庁・子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業)を受託した。舞台デモンストレーション、演目鑑賞、体験コーナーを含む体験教室の企画立案、制作等に参画した。

(5) 快適な観劇環境の形成

- ・観客用設備の適切な維持管理・改善を実施。
- ・四季を感じられるロビー飾り等を実施。
- ・快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)をロビーに配架。

	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人利用者への対応として、外国語によるチラシ・リーフレット等の作成及び字幕表示等の多言語対応を実施。 ・文楽劇場では、観劇の雰囲気盛り上げ、公演演目の周知を図るため、正面玄関の柱に、公演に登場する文楽人形等の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビー大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出。初春公演では新春らしいロビー飾りを実施。 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Twitter、Instagramに加え、TripAdvisorに写真を掲載するなど、SNSを利用した広報活動を実施した。 ・一般社団法人VR革新機構の「ボランティア撮影公益事業プログラム制度」に参加して、国立劇場(大・小劇場)の3Dビュー+VR映像を撮影した。舞台の裏側や花道下、楽屋等の映像を振興会ホームページで公開し、施設利用者や観客に向けて、国立劇場の周知を図った。 ・旅行代理店・ホテル・外部団体との連携を一層強化し、本館では、株式会社エイチ・アイ・エスと提携し、令和4年5月文楽公演の演目に所縁の地域である京都をめぐるオンラインツアー(ライブ配信)を、振興会で初めて実施し、より幅広い客層の新規開拓を図った。 ・東京都及び東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会主催の東京オリンピック・パラリンピック海外メディア向け特別企画に協力した。本館では舞台上で歌舞伎俳優による歌舞伎の解説を行い、能楽堂では能「羽衣」を上演した。 ・劇場の地元や演目に所縁の地域の観光協会との提携によるチラシ・ポスターの掲示やSNSでの広報や、劇場近隣店舗・ホテル・旅行代理店・日本学生支援機構との連携強化による公演の周知を実施した。 ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で減少した集客の回復を図るため、ロビーでの七夕飾りや季節に応じた装飾、演目所縁の地域の物産展やパネル展示、プレゼント抽選会、日本の伝統文化との提携による終演後のワークショップ、骨伝導イヤホンによる音声同時解説等、個人客の集客も視野に入れた多種多様なイベントやサービスを積極的に実施した。 ・今年度からPRTIMESを積極的に活用し、歌舞伎公演や文楽公演のチケット販売促進を目的としたキャンペーンやイベントに関する広報にも重点を置いた。 ・地域、美術館・博物館等の文化施設や旅行代理店等との連携による講座・ワークショップ・オンラインツアー等のイベントや割引キャンペーンを通じて、公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・文楽公演において、芸員のインタビュー動画や、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画をホームページに公開。 ・文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信。 ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策について、事前に協議を行うなど利用者に協力を要請した。 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートを実施。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、公演中に緊急事態宣言が発出された場合もあった。感染症の影響による団体観劇の減少を補い、個人客の集客を図るため、販売促進のための多種多様なイベントやキャンペーンにも積極的に取り組んだが、多くの公演で入場者数が目標を下回った。 ・今後も感染症予防の取組を徹底し、安全・安心を確保しつつ、演目や出演者に関する情報を観客によりアピールする工夫をはじめ、それぞれの公演の特色や魅力をより多角的に紹介するなど、広報宣伝等の効果的な施策を検討していきたい。企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行い、より魅力ある番組作りに努めるとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝・営業活動ができるよう、担当部署が連携し、工夫を重ねていく。

〈2〉現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したものを除き、概ね計画どおり実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染症対策を講じた上で公演を実施した。また、劇場施設の利用者に対しても感染症対策への協力を要請した。 ・オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇の4分野の入場者数達成率平均は103.6%。(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案) ・舞台芸術グローバル拠点事業を活用して、国際的なレピュテーションの確立に向けた様々な取組を推進した。 ・「新国デジタルシアター」を開設し、公演映像等の配信を促進した。 ・各分野の出演者、スタッフが新国立劇場公演に関連し受賞をした。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	<p>公演数、公演回数、公演日数、入場者数(年度計画 別表2記載) 《公演実績》表 参照</p>
主要な業務実績	<p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <p>①オペラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12公演51回のオペラ公演を実施した。 ・5作品を新制作し、レパートリーを充実させた。 ・東京文化会館、ザルツブルク・イースター音楽祭、ザクセン州立歌劇場との共同新制作により「ニュルンベルクのマイスタージンガー」を上演した。 ・入国制限の緩和にいち早く対応し、政府の実施する水際対策を遵守しながら海外の芸術家の招聘を続けた。 ・新型コロナウイルス感染症により当初招聘を予定していたキャストの来日が一部困難になったため、日本人歌手の出演機会が大幅に増加し、国内の優れた芸術家の存在を発信する機会を得た。 ・日本語字幕を表示に加え、令和元年度から実施している、全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらずじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の公演環境整備を更に推進した。 ・妻屋秀和が「ドン・カルロ」ほかの歌唱により令和3年度(第72回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。 <p>②バレエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5公演36回のバレエ公演を実施した。 ・例年年末に上演する「くるみ割り人形」を、今年度はお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、過去最高の動員数を達成した。 ・公演中止となった「 Coppélia 」では無観客上演・ライブ配信を実施し、約16万回の最大同時視聴件数を得た。 ・「白鳥の湖」ほかの成果により、令和3年度(第72回)芸術選奨において、新国立劇場バレエ団の奥村康祐が文部科学大臣賞を、井澤駿が文部科学大臣新人賞をそれぞれ受賞。 ・新国立劇場バレエ団の米沢唯が第35回服部智恵子賞を受賞。 ・新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案した目標入場者数を達成した。 <p>③現代舞踊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3公演10回の現代舞踊公演を計画どおり実施した。 <p>④演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6公演113回の演劇公演を実施した。 ・複数年かけて舞台づくりに取り組む「こっこつプロジェクト」(第一期)の作品として、主催公演での上演が実現した(「あーぶくたった、にいたった」)。 ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を、全てオンライン配信で実施した。 ・「反応工程」の美術を手掛けた伊藤雅子が第29回読売演劇大賞最優秀ス

	<p>タッフ賞を受賞した。</p> <p>(3) 青少年等を対象とした公演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に青少年を対象とした公演等を 5 公演実施(1 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止)。 <p>(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術グローバル拠点事業の一環として、海外劇場等との共同制作に着手した。 ・舞台芸術グローバル拠点事業の一環として、アーティストの活動環境の整備等に着手した。 ・共催などによる公演等を 3 公演実施(1 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)。 ・全国各地の文化施設等における公演を 9 公演実施(2 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止)。 ・国際文化交流公演等を 2 公演実施(1 公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止)。 <p>(5) 快適な観劇環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施(令和 3 年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む))。 <p>(6) 広報・営業活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページと SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を連動させ、動画も活用して積極的に情報発信に努めた。 ・「新国デジタルシアター」を開設し公演動画等の配信を促進した。 ・オペラ・ヨーロッパとパートナーシップ協定を締結し、OperaVision のプロジェクトパートナーとなるなど、舞台芸術グローバル拠点事業の一環として、国際的な情報発信の取組を促進した。 <p>(7) 劇場施設の使用効率の向上等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

〈3〉日本博の運営・実施

自己評定	A
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、前年度に引き続き、国立文化施設、民間団体を含め、事業実施団体と連携協力し、ほとんどの事業を中止することなく実施できた。 ・新しい文化芸術の鑑賞方法として、3DCG のバーチャル空間におけるデジタルコンテンツにより国内外から多様な「日本の美」を体験できる「バーチャル日本博」を東京 2020 大会期間中の 8 月に開設し、2 月には最先端の ICT を活用した「メタバース」として大幅にリニューアルした。 ・日本博の広報及びプロモーションのため、広報番組・PR動画等を制作し、日本博公式ホームページ・SNS、テレビ等の多様な媒体により国内外に向けて情報発信を積極的に行った。 ・在日外国人プロフェッショナルやインフルエンサーを活用したプロモーションを行い、国内外に向けて情報を発信した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本博主催・共催型プロジェクトとして公募を行い、44件を採択した。 ・公募助成型であるイノベーション型プロジェクトについて、日本博事務局において公募を行い、41件を採択した。 ・日本博公式ホームページにおける「デジタルギャラリー」（掲載動画・VRコンテンツ398本）、「YouTube日本博チャンネル」（配信動画224本）などを活用して、コロナ後の新たな環境を見据えた国内観光需要の喚起・インバウンド需要回復に向けた取組を推進した。 ・新しい文化芸術の鑑賞方法として、3DCGのバーチャル空間におけるデジタルコンテンツにより国内外から多様な「日本の美」を体験できる「バーチャル日本博」を東京2020大会期間中の8月に開設し、2月には最先端のICTを活用した「メタバース」として大幅にリニューアルした。 ・日本博の広報及びプロモーションのため、広報番組・PR動画を制作し、日本博公式ホームページ・SNS、テレビ等の多様な媒体により国内外に向けて情報発信を積極的に行った。 ・在日外国人プロフェッショナルやインフルエンサーを活用したプロモーションを行い、国内外に向けて情報を発信した。 ・国立劇場における広報活動として、6・7月歌舞伎鑑賞教室の期間中、デジタルサイネージ広告及びフォトスポットを大劇場ロビー内に設置した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・当年度の成果を活かしつつ、コロナ後の新たな環境を見据えたデジタルコンテンツやメタバース、NFT 等を活用した新たな文化芸術の魅力発信について検討・試行を継続する。 ・東京 2020 大会後に日本博事業のレガシーを引き継ぐべく成果の検証を総括し、後継事業へつなげていく。

(1) 伝統芸能の公開	p.22
ア 主催公演の実施	p.23
① 歌舞伎	p.25
② 文楽	p.28
③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等	p.33
舞踊	p.36
邦楽	p.37
雅楽	p.38
声明	p.39
民俗芸能	p.40
特別企画	p.40
④ 大衆芸能	p.43
定席公演(上席・中席)	p.46
若手新人公演(花形演芸会)	p.48
新春国立名人会／国立名人会	p.49
特別企画公演	p.51
浪曲名人会／浪曲錬声会／上方演芸特選会	p.52
⑤ 能楽	p.54
定例公演	p.57
普及公演	p.57
企画公演、鑑賞教室	p.59
⑥ 組踊等沖縄伝統芸能	p.62
イ 演目の拡充	p.66

2 - (1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

- ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施
- イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施
- ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施
- エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施
- オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施
- カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

- ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表 1 のとおり主催公演を実施、日本博に関連した公演を企画
 - イ 演目の拡充
 - ①歌舞伎：復活等の上演に際して「国立劇場文芸研究会」において補綴、台本を作成
新作脚本募集の選考及び表彰を実施
 - ②文楽：新作の上演に向けて上演台本作成作業を実施、上演が途絶えていた場面の復活上演を準備
 - ③舞踊・邦楽：新作委嘱作品の上演
 - ④大衆芸能：上演機会の少ない優れた演目を上演
 - ⑤能楽：復曲作品の初演、国立能楽堂で制作初演された新作及び他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演
 - ⑥組踊等沖縄伝統芸能：上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演
「新作組踊・戯曲大賞」として公募し、選考・表彰の実施
- 効果的な映像活用や復帰 50 周年と関連して検討との連携(国民文化祭、世界のうちなーんちゅ大会)を図る

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 伝統芸能の公開の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	157 公演 (H25-29 実績平均：183.8 公演)
2-6 伝統芸能の公開について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

ア 主催公演の実施

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
歌舞伎	6 公演 (計画:6 公演) 本館大劇場		実績	182 回	134 日	92,272 人	41.0%	225,164	68.5%
			計画	191 回	134 日	134,720 人	56.6%	237,858	
文楽	10 公演 (計画:10 公演) 本館小劇場、文楽劇場		実績	409 回	154 日	92,375 人	39.6%	234,056	81.6%
			計画	409 回	154 日	113,232 人	53.0%	213,656	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	15 公演 (計画:14 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	21 回	15 日	8,488 人	57.4%	14,788	85.7%
			計画	21 回	15 日	9,899 人	74.2%	13,340	
舞踊	4 公演 (計画:4 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	7 回	4 日	2,743 人	61.3%	4,478	91.0%
			計画	7 回	4 日	3,013 人	67.3%	4,476	
邦楽	6 公演 (計画:5 公演) 本館小劇場、文楽劇場		実績	9 回	6 日	2,925 人	54.8%	5,337	81.3%
			計画	9 回	6 日	3,596 人	73.0%	4,923	
雅楽	2 公演 (計画:2 公演) 本館大小劇場		実績	2 回	2 日	1,351 人	63.2%	2,138	101.6%
			計画	2 回	2 日	1,330 人	82.0%	1,622	
声明	0 公演 (計画:0 公演) 本館大劇場		実績						
			計画						
民俗芸能	0 公演 (計画:0 公演) 本館小劇場		実績						
			計画						
特別企画	3 公演 (計画:3 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	3 回	3 日	1,469 人	51.8%	2,835	74.9%
			計画	3 回	3 日	1,960 人	84.5%	2,319	
大衆芸能	60 公演 (計画:60 公演) 演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール		実績	283 回	281 日	31,044 人	39.7%	78,155	75.3%
			計画	283 回	281 日	41,229 人	61.0%	67,577	
能楽	49 公演 (計画:49 公演) 能楽堂		実績	60 回	54 日	30,950 人	84.8%	36,518	90.1%
			計画	60 回	54 日	34,333 人	94.4%	36,366	
小計	140 公演 (計画:139 公演)		実績	955 回	638 日	255,129 人	43.3%	588,681	76.5%
			計画	964 回	638 日	333,413 人	58.6%	568,797	
組踊等 沖縄伝統芸能	17 公演 (計画:17 公演) 国立劇場おきなわ 大劇場		実績	27 回	23 日	7,007 人	49.0%	14,309	80.2%
			計画	26 回	23 日	8,737 人	69.9%	12,506	
総合計	157 公演 (計画:156 公演)		実績	982 回	661 日	262,136 人	43.5%	602,990	76.6%
			計画	990 回	661 日	342,150 人	58.9%	581,303	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部公演を中止し、又は、座席数を制限して販売した。そのため、公演中止や販売制限を勘案した公演計画によることとする。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※6月歌舞伎鑑賞教室・7月歌舞伎鑑賞教室・6月文楽鑑賞教室・6月能楽鑑賞教室・沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(6月歌舞伎鑑賞教室7,708枚、7月歌舞伎鑑賞教室8,799枚、6月文楽鑑賞教室8,229枚、6月能楽鑑賞教室2,183枚、沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」364枚、合計27,283枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、歌舞伎80.7%、文楽88.8%、能楽96.5%、組踊等沖縄伝統芸能84.4%、総合計84.6%である。

《公演実績(伝統芸能分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
歌舞伎	6 公演 (計画:6 公演) 本館大劇場		実績	182 回	134 日	92,272 人	41.0%	225,164	67.6%
			計画	191 回	134 日	136,580 人	56.2%	242,848	
文楽	10 公演 (計画:10 公演) 本館小劇場、文楽劇場		実績	409 回	154 日	92,375 人	39.5%	234,056	65.0%
			計画	474 回	176 日	142,060 人	55.8%	254,462	
舞踊・邦楽・雅楽・ 声明・民俗芸能等	15 公演 (計画:19 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	21 回	15 日	8,488 人	57.4%	14,788	64.4%
			計画	27 回	19 日	13,180 人	73.4%	17,955	
舞踊	4 公演 (計画:4 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	7 回	4 日	2,743 人	61.3%	4,478	87.6%
			計画	7 回	4 日	3,130 人	66.9%	4,682	
邦楽	6 公演 (計画:5 公演) 本館小劇場、文楽劇場		実績	9 回	6 日	2,925 人	54.8%	5,337	79.9%
			計画	9 回	6 日	3,660 人	73.2%	5,001	
雅楽	2 公演 (計画:2 公演) 本館大小劇場		実績	2 回	2 日	1,351 人	63.2%	2,138	100.1%
			計画	2 回	2 日	1,350 人	81.9%	1,648	
声明	0 公演 (計画:1 公演) 本館大劇場		実績	/	/	/	/	/	/
			計画	1 回	1 日	1,110 人	68.9%	1,610	
民俗芸能	0 公演 (計画:1 公演) 本館小劇場		実績	/	/	/	/	/	/
			計画	2 回	1 日	640 人	84.9%	754	
特別企画	3 公演 (計画:6 公演) 本館大小劇場、文楽劇場		実績	3 回	3 日	1,469 人	51.8%	2,835	44.7%
			計画	6 回	5 日	3,290 人	77.2%	4,260	
大衆芸能	60 公演 (計画:62 公演) 演芸場、文楽劇場、 文楽劇場小ホール		実績	283 回	281 日	31,044 人	39.7%	78,155	73.2%
			計画	289 回	287 日	42,398 人	61.3%	69,193	
能楽	49 公演 (計画:51 公演) 能楽堂		実績	60 回	54 日	30,950 人	84.8%	36,518	87.3%
			計画	62 回	56 日	35,460 人	94.4%	37,544	
小計	140 公演 (計画:148 公演)		実績	955 回	638 日	255,129 人	43.3%	588,681	69.0%
			計画	1,043 回	672 日	369,678 人	59.6%	620,496	
組踊等 沖縄伝統芸能	17 公演 (計画:20 公演) 国立劇場おきなわ 大劇場		実績	27 回	23 日	7,007 人	49.0%	14,309	66.8%
			計画	32 回	27 日	10,497 人	71.0%	14,785	
総合計	157 公演 (計画:168 公演)		実績	982 回	661 日	262,136 人	43.5%	602,990	69.0%
			計画	1,075 回	699 日	380,175 人	59.8%	635,281	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6 月歌舞伎鑑賞教室・7月歌舞伎鑑賞教室・6 月文楽鑑賞教室・6 月能楽鑑賞教室・沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」において、4 月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(6 月歌舞伎鑑賞教室 7,708 枚、7 月歌舞伎鑑賞教室 8,799 枚、6 月文楽鑑賞教室 8,229 枚、6 月能楽鑑賞教室 2,183 枚、沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」364 枚、合計 27,283 枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、歌舞伎 79.6%、文楽 70.8%、能楽 93.4%、組踊等沖縄伝統芸能 70.2%、総合計 76.1%である。

① 歌舞伎

《制作方針》

10月、11月、1月の歌舞伎公演は、国立劇場開場55周年記念に相応しい充実した内容の公演を制作する。また、3月歌舞伎公演は、一般向けの入門公演として実施する。

6月・7月には青少年等を対象とした入門公演を実施する。6月は東京公演の後、神奈川県において移動公演を実施する。7月は東京2020大会の開催期間に合わせて、外国人向けの公演も実施する。

いずれの公演も、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し、上演時間が長時間に及ばないように配慮した上で実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

○

10月歌舞伎公演は『伊勢音頭恋寝刃』を上演する。縁切りから殺しに至る巧みな運びと洗練された様式美によって単独での上演も多い人気場面「油屋」に至るまでの経緯が分かりやすくなるよう、「相の山」より通し狂言の形態で上演する。主人公の福岡貢を勤める中村梅玉は、四代目梅玉襲名時(平成4年4月歌舞伎座)に貢を初めて勤めて以降、当り役として高い評価を受けてきた。今回は、中村時蔵の仲居万野、中村又五郎の藤浪左膳・料理人喜助、中村扇雀の今田万次郎ほか、多彩な共演者を得て、文化庁芸術祭主催公演に相応しい格調高い舞台を提供する。また、若手俳優を積極的に起用し、次世代への芸の継承を図る。

11月歌舞伎公演は、義太夫狂言の名作『一谷嫩軍記』を取り上げる。名舞台として知られる「熊谷陣屋」を中心に据え、「御影浜浜辺」を前につけた場割で上演する。「御影浜浜辺」は、歌舞伎では上演機会が少なく、昭和47年4月当劇場で復活して以来49年ぶりの上演となる。「熊谷陣屋」は、通常の公演ではカットされることが多い相模と藤の方の入り込みや、梶原の弥陀六詮議の部分も含めて上演する。四代目中村芝翫が江戸期以来の古風な型を受け継いで完成させた「芝翫型」の熊谷直実を、当代中村芝翫が当劇場で初めて勤める。また、白毫の弥陀六を中村鴈治郎が初役で勤めるほか、中村錦之助の源義経、片岡孝太郎の相模など適材適所の配役で上演する。また、若手俳優を積極的に起用し、次世代への芸の継承を図る。

初春歌舞伎公演は、江戸時代後期の戯作者・曲亭馬琴の代表作を歌舞伎化した『南総里見八犬伝』を、五幕七場の通し狂言の形態で上演する。国立劇場では、昭和44年3月に初めて本作を取り上げて以来、いずれも尾上菊五郎劇団を中心とした座組で、戦後初の劇化である渥美清太郎の脚色台本を基本に上演を重ねてきた。平成27年1月以来7年ぶりとなる今回は、当劇場の過去4回の上演全てに出演してきた尾上菊五郎の監修の下、台本を適宜補綴しつつ、新春に相応しい華やかで娯楽性豊かな作品づくりを目指す。

3月歌舞伎公演は、「歌舞伎名作入門」と銘打ち、義太夫狂言屈指の名場面として知られる『近江源氏先陣館ー盛綱陣屋ー』を取り上げる。近年、時代物の立役にも積極的に挑み、着実に芸域を広げている花形の尾上菊之助を中心に、ベテランと若手が融合した多彩な座組で上演する。日頃歌舞伎になじみの薄い一般の客層を主なターゲットとして、本編上演前に「入門「盛綱陣屋」をたのしむ」と題した事前解説を提供することで、本作の魅力を予備知識なしでも楽しめるよう工夫を凝らす。

○

歌舞伎を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図ることを目的として、主に歌舞伎初心者を対象とした入門公演「歌舞伎鑑賞教室」を実施する。名作の上演に先立ち、歌舞伎の魅力や様々な約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介する「解説 歌舞伎のみかた」を合わせて上演する。

6月は、幕末から明治にかけて活躍した落語家・三遊亭円朝が口演した人情噺を題材にした「人情噺文七元結」を取り上げる。尾上菊五郎の監修を得て、尾上松緑が初役で左官長兵衛を勤め、中村扇雀の女房お兼、中村魁春の角海老女房お駒ほか充実の配役を揃えて臨む。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を実施する。さらに、地方における鑑賞機会を提供するため、横浜市の神奈川県立青少年センターで移動公演を行う。

節目の100回目となる7月は、三大名作の一つとして知られる『義経千本桜』の中でも特に人気の高い「河連法眼館」を取り上げる。中村又五郎の佐藤忠信・源九郎狐、市川高麗蔵の静御前ほかの配役で臨む。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を実施する。また、各種学校の夏休み期間に当たる時期は「親子で楽しむ歌舞伎教室」として、児童・生徒と保護者が一緒に鑑賞できる機会を提供する。さらに、外国人を対象とした入門公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を実施する。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 通し狂言「伊勢音頭恋寝刃」	本館 大劇場	10/2~26	実績	23回	23日	5,694人	17.1%	33,212	46.5%
			計画	23回	23日	12,255人	36.9%	33,212	
11月歌舞伎公演 「一谷嫩軍記」	本館 大劇場	11/2~25	実績	25回	22日	7,135人	19.8%	36,100	37.2%
			計画	36回	22日	19,181人	36.9%	51,984	
1月歌舞伎公演 通し狂言「南総里見八犬伝」	本館 大劇場	1/3~27	実績	23回	23日	17,468人	50.3%	34,707	112.4%
			計画	23回	23日	15,547人	44.8%	34,707	
3月歌舞伎公演《歌舞伎名作入門》 入門“盛綱陣屋”をたのしむ・ 「近江源氏先陣館-盛綱陣屋-」	本館 大劇場	3/3~27	実績	25回	23日	11,012人	29.2%	37,725	86.0%
			計画	23回	23日	12,807人	36.9%	34,707	
歌舞伎公演【小計】4公演 (計画:4公演)			実績	96回	91日	41,309人	29.1%	141,744	69.1%
			計画	105回	91日	59,790人	38.7%	154,610	
6月歌舞伎鑑賞教室 「人情嘶文七元結」	本館 大劇場	6/2~23	実績	40回	20日	21,686人	55.9%	38,800	62.2%
			計画	40回	20日	34,850人	90.0%	38,720	
7月歌舞伎鑑賞教室 「義経千本桜」	本館 大劇場	7/3~27	実績	46回	23日	29,277人	65.6%	44,620	73.0%
			計画	46回	23日	40,080人	90.0%	44,528	
歌舞伎鑑賞教室【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	86回	43日	50,963人	61.1%	83,420	68.0%
			計画	86回	43日	74,930人	90.0%	83,248	
歌舞伎【合計】6公演 (計画:6公演)			実績	182回	134日	92,272人	41.0%	225,164	68.5%
			計画	191回	134日	134,720人	56.7%	237,858	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※6月歌舞伎鑑賞教室・7月歌舞伎鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(6月歌舞伎鑑賞教室7,708枚、7月歌舞伎鑑賞教室8,799枚、合計16,507枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、6月歌舞伎鑑賞教室84.3%、7月歌舞伎鑑賞教室95.0%、歌舞伎鑑賞教室【小計】90.0%、歌舞伎【合計】80.7%である。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
10月歌舞伎公演 通し狂言「伊勢音頭恋寝刃」	本館 大劇場	10/2~26	実績	23回	23日	5,694人	17.1%	33,212	44.1%
			計画	23回	23日	12,900人	36.9%	34,960	
11月歌舞伎公演 「一谷嫩軍記」	本館 大劇場	11/2~25	実績	25回	22日	7,135人	19.8%	36,100	35.3%
			計画	36回	22日	20,190人	36.9%	54,720	
1月歌舞伎公演 通し狂言「南総里見八犬伝」	本館 大劇場	1/3~27	実績	23回	23日	17,468人	50.3%	34,707	111.5%
			計画	23回	23日	15,660人	44.8%	34,960	
3月歌舞伎公演《歌舞伎名作入門》 入門“盛綱陣屋”をたのしむ・ 「近江源氏先陣館-盛綱陣屋-」	本館 大劇場	3/3~27	実績	25回	23日	11,012人	29.2%	37,725	85.4%
			計画	23回	23日	12,900人	36.9%	34,960	
歌舞伎公演【小計】4公演 (計画:4公演)			実績	96回	91日	41,309人	29.1%	141,744	67.0%
			計画	105回	91日	61,650人	38.6%	159,600	
6月歌舞伎鑑賞教室 「人情嘶文七元結」	本館 大劇場	6/2~23	実績	40回	20日	21,686人	55.9%	38,800	62.2%
			計画	40回	20日	34,850人	90.0%	38,720	
7月歌舞伎鑑賞教室 「義経千本桜」	本館 大劇場	7/3~27	実績	46回	23日	29,277人	65.6%	44,620	73.0%
			計画	46回	23日	40,080人	90.0%	44,528	
歌舞伎鑑賞教室【小計】2公演 (計画:2公演)			実績	86回	43日	50,963人	61.1%	83,420	68.0%
			計画	86回	43日	74,930人	90.0%	83,248	
歌舞伎【合計】6公演 (計画:6公演)			実績	182回	134日	92,272人	41.0%	225,164	67.6%
			計画	191回	134日	136,580人	56.2%	242,848	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6月歌舞伎鑑賞教室・7月歌舞伎鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(6月歌舞伎鑑賞教室 7,708 枚、7月歌舞伎鑑賞教室 8,799 枚、合計 16,507 枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、6月歌舞伎鑑賞教室 84.3%、7月歌舞伎鑑賞教室 95.0%、歌舞伎鑑賞教室【小計】90.0%、歌舞伎【合計】79.6%である。

(b) 外部専門家等の意見

- ・歌舞伎公演専門委員会について、第1回は書面開催とし、第2回は3/23に開催した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
6公演 182回	-	650人	650人	628人	-	96.6%

※全公演ウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・10月は、国立劇場開場55周年記念の歌舞伎公演の嚆矢として、通し狂言の形態で上演したことに対し、当劇場の存在価値を示した公演と外部専門家から評価を受けた。当り役としての評判を確立している中村梅玉の福岡貢はもとより、ベテラン勢が存在感を発揮する一方、歌舞伎の将来を担う若手俳優陣も大いに成果を挙げ、芸の継承が図られた。また、実力のある名題俳優に活躍の場が与えられたことも有意義であった。
- ・11月は、「御影浜浜辺」を49年ぶりに復活したこと、「熊谷陣屋」を普段カットされることが多い“相模と藤の方の入り込み”、“弥陀六詮議”から丁寧に上演したこと、また「陣屋」を当劇場で初めて“芝翫型”で上演したことが特色として挙げられる。外部専門家から、通と初心者どちらの観客にも親切かつ有益な好企画と評価された。現在、芝翫型をただ一人継承する中村芝翫の熊谷直実の熱演が再評価された他、中村鴈治郎の弥陀六をはじめ総体的に各役のバランスが取れた充実した一幕との評価も得られた。また、若手俳優陣にも活躍の場が与えられ、芸の継承が図られた。
- ・1月は、従来の台本を見直して上演時間の短縮化を図ることで通し狂言の形態での上演を実現することができた。監修の尾上菊五郎の意向を汲み取り、里見家再興を願う八犬士と悪の権化扇谷定正の対立という構図を明確にすることを意図して台本を補綴し、序幕の前にイラストパネルとナレーションによるプロローグを設けるなど新たな工夫を凝らした。劇評ではスピーディーな仕上がりに仕立て直したと評価を受け、新春に相応しい華やかで娯楽性豊かな作品を提供するという目標を達成することができた。
- ・3月は、「歌舞伎名作入門」と銘打ち、有名狂言でありながらやや難解な部類に入る「盛綱陣屋」を日頃歌舞伎になじみの薄い一般の歌舞伎初心者でも無理なく理解し、楽しめるよう、作品内容に寄り添った丁寧な事前解説を心がけて提供した。岳父・中村吉右衛門の当たり役である佐々木盛綱に初役で挑んだ尾上菊之助をはじめ、若手主体の清新な配役による上演が評価を受け、SNS等でも話題になった。
- ・公演内容を短くまとめて英文を付した映像を海外へ向けて無料配信した(11月歌舞伎公演、初春歌舞伎公演)。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(10月歌舞伎公演)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(11月歌舞伎公演)
- ・令和3年度日本博主催・共催型プロジェクト(7月 Discover KABUKI)
- ・日本博参画プロジェクト(全公演)
- ・beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive2)申請(11月歌舞伎公演、初春歌舞伎公演)。
- ・午後5時の部の開演前に、観客サービスの一環として出演者(中村橋之助)による事前解説を実施した(11月歌舞伎公演)。
- ・出演者2名の新型コロナウイルス感染に伴い、3/3～9は代役で上演した(3月歌舞伎公演)。

② 文 楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとり、次世代への技芸の継承やレパートリーの拡充につながるよう、また観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

5 月文楽公演は新型コロナウイルス感染対策として、上演時間を短めに設定した三部制で開催する。午後 8 時までには終演するという限られた条件の中で各部に名作を揃えて上演し、文楽の醍醐味を堪能できる構成とする。

9 月文楽公演は、国立劇場開場 55 周年記念事業の嚆矢とし、新型コロナウイルス感染対策として、上演時間を短めに設定した三部制で開催する。

第一部は国立劇場開場 55 周年記念にふさわしく『寿式三番叟』で幕を開け、続いて仲秋の名月の季節を描いた『双蝶々曲輪日記』、第二部は東京では 16 年ぶりとなる和田四郎の件を盛り込んだ珍しい台本を用いた『卅三間堂棟由来』と『日高川入相花王』、第三部は人気の高い『伊賀越道中双六』沼津の段を中心に、呉服屋十兵衛に光を当てた構成とする。

12 月文楽公演は、中堅、若手技芸員が中核を担う公演である。本年は開場 55 周年記念ということもあり、新型コロナウイルス感染症の対策を踏まえた上演時間を配慮したうえで、大作『仮名手本忠臣蔵』の二段目から八段目までのうちから抜粋して上演する。中堅、若手技芸員が大役や難役を経験することで、今後の技芸の向上につなげることを目指す。

2 月文楽公演は、各部に文楽の醍醐味を堪能できる多彩な作品を揃えて上演する。第一部では豪放な時代物『御所桜堀川夜討』と、繊細な情趣をもった世話物『艶容女舞衣』という対照的な構成、第二部では大名家に勤める女性による仇討ちを描いた物語『加賀見山田錦絵』を半通しの形で、第三部では能や狂言を人形浄瑠璃に移した共通点を持った時代物『平家女護島』と景事作品『釣女』を取り上げる。それぞれの部が異なった文楽の魅力をもつに味わうことができ、観客の多様な興味を喚起できる公演を制作する。

12 月文楽鑑賞教室は、学生等の青少年を主な観劇対象とする。三業の技芸員が文楽の仕組みについての解説を行い、短時間で文楽の特色を見せることができる名作を上演する。

文楽作品は、人情の機微を描く名作『新版歌祭文』を上演し、文楽の醍醐味を堪能していただく。

「社会人のための文楽鑑賞教室」は夜の部に、お勤め帰りの観客にも気軽に鑑賞できる時間帯に実施する。

12 月「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」は、外国人向けプレゼンテーションを行い、日本の伝統的な文化・芸能の魅力を日本国内外に発信する。

世話物の名作『新版歌祭文』を上演することで、日本文化の生活・風習を紹介する好機として捉え、『新版歌祭文』の鑑賞と共に、解説では英語のネイティブスピーカー(米国人)で日本食文化研究者である案内役が自身の異文化に傾倒した体験を生かし、在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に日本の伝統芸能・文楽を分かりやすく紹介する。

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて、解説時間を昨年度までと比べて圧縮し、外国人にも伝わりやすいと思われる視覚的な演出に特化し、作品の世界観と人形解説のみで解説コーナーを構成する。

文楽劇場では、新型コロナウイルス感染症予防対策として当面の間は三部制公演とする。

4 月文楽公演では、第一部に上方の四季を題材にした景事「花競四季寿」と近松門左衛門の「丹波与作侍夜のこむろぶし」を改作した「恋女房染分手綱」を組み合わせ、2 時間強の上演時間とする。第二部は 2 時間程度の公演に飽き足りない観客向けに、近松の時代物「国性爺合戦」を 3 時間 30 分で上演することを試みる。第三部は新たな観客層の開拓を目的に、午後 6 時開演、2 時間の上演時間とし、「傾城阿波の鳴門」を本公演では 33 年ぶりに取り上げ、「小鍛冶」は「刀剣乱舞 ONLINE」とコラボレーションし、刀剣男子の小狐丸を文楽人形で再現・展示する。

夏休み特別公演は、第一部を親子劇場、第二部を名作劇場、第三部をサマーレイトショーと題した 3 部制が定着する。第一部では動物が活躍する「うつぼ猿」、「解説ぶんらくってなあに?」、「舌切雀」を上演する。「舌切雀」は平成 11 年度の国立文楽劇場台本作成事業で復活し、同 14 年に初演、今回で三演と

なるが、初演以来の宙乗り演出に加え、今回は大幅に世代交代した配役、時事的な演出も工夫した。第二部はコロナ禍以前の2部制の上演時間4時間に挑戦し、「生写朝顔話」を上演した。5月東京公演では上演しなかった「薬売りの段」「浜松小屋の段」を上演し、好評を得た。第三部は夏狂言の代表作「夏祭浪花鑑」を上演する。

錦秋文楽公演は、3部制で半通し上演に近づけた内容の公演を試みる。第一部は「蘆屋道満大内鑑」を上演機会の多い「葛の葉子別れの段」「乱菊の乱れ」の前に「保名物狂の段」を12年ぶりに上演、物語の内容を分かり易くなる構成とする。「ひらかな盛衰記」は近年三段目のみの上演機会が多くなっているため、この公演では第二部で三段目を第三部では四段目を取り上げ、通し上演の再現を試みる。第二部の「大津宿屋の段」「笹引の段」の上演は26年ぶり、「逆櫓の段」もフルバージョンによる上演である。第三部は幕開きに「団子売」を挟み、四段目の「辻法印の段」「神崎揚屋の段」を33年ぶりに上演する。また、公演前に豊竹咲太夫が文化功労者の顕彰を受けることが発表された。

初春文楽公演は、人形浄瑠璃文楽の名称の由来となった松島文楽座が開場して150年にあたるのを記念して「文楽座命名一五〇年」と冠を付けた公演とする。第一部はコロナ禍の収束を願う「寿式三番叟」、令和3年初春公演で三段目を上演した「菅原伝授手習鑑」から四段目の「寺入りの段」「寺子屋の段」を上演する。第二部では、松島文楽座の開場公演でも上演された「絵本太功記」から上演機会の多い「夕顔棚の段」「尼ヶ崎の段」の前に「二条城配膳の段」を11年ぶりに上演し、武智光秀一族の悲劇のはじまりを印象付ける構成とする。第三部は夜の部の入場者数が増加することを念頭に開演時間を30分繰り上げ、午後5時30分とする。大晦日から元旦を背景とする「お染久松物」の「染模様妹背門松」を、「生玉の段」から「質店の段」「蔵前の段」まで幕なしで上演する構成で、「蔵前の段」は原作どおりの悲劇的な結末の台本を24年ぶりに採用する。公演の掉尾を飾る演目として「戻鶯色相肩」を17年ぶりに上演し、華やかな幕切れとする。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
5月文楽公演 「心中宵庚申」/「生写朝顔話」/「撰州合邦辻」/「契情倭莊子」	本館 小劇場	5/9～26	実績	15回	5日	3,492人	67.7%	5,160	75.8%	
			計画	15回	5日	4,609人	92.0%	5,010		
9月文楽公演 「寿式三番叟」/「双蝶々曲輪日記」/「卅三間堂棟由来」/「日高川入相花王」/「伊賀越道中双六」		9/4～21	実績	51回	17日	11,790人	45.0%	26,214	75.2%	
			計画	51回	17日	15,670人	92.0%	17,034		
12月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵」		12/4～17	実績	13回	13日	6,465人	96.8%	6,682	121.2%	
			計画	13回	13日	5,333人	79.8%	6,682		
2月文楽公演 「二人禿」/「御所桜堀川夜討」/「艶容女舞衣」/「加賀見山旧錦絵」/「平家女護島」/「釣女」		2/5～22	実績	31回	11日	7,995人	48.4%	16,523	72.7%	
			計画	31回	11日	11,004人	66.6%	16,523		
文楽(本館)【小計】4公演 (計画:4公演)			実績	110回	46日	29,742人	54.5%	54,579	81.2%	
			計画	110回	46日	36,616人	80.9%	45,249		
12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」/「新版歌祭文」	本館 小劇場	12/4～17	実績	25回	13日	8,139人	63.3%	12,850	76.9%	
			計画	25回	13日	10,587人	82.4%	12,850		
文楽鑑賞教室(本館)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	25回	13日	8,139人	63.3%	12,850	76.9%	
			計画	25回	13日	10,587人	82.4%	12,850		
文楽(本館)【合計】5公演 (計画:5公演)			実績	135回	59日	37,881人	56.2%	67,429	80.3%	
			計画	135回	59日	47,203人	81.2%	58,099		
4月文楽公演 「花競四季寿」/「恋女房染分手綱」/「国性爺合戦」/「傾城阿波の鳴門」/「小鍛冶」	文楽 劇場	4/3～25	実績	63回	21日	11,969人	42.4%	28,224	78.4%	
			計画	63回	21日	15,273人	54.1%	28,224		
夏休み文楽特別公演 「うつぼ猿」/「解説 文楽ってなあに？」/「舌切雀」/「生写朝顔話」/「夏祭浪花鑑」		7/16～8/3	実績	54回	18日	13,240人	37.5%	35,262	98.1%	
			計画	54回	18日	13,500人	55.8%	24,192		
錦秋文楽公演 「蘆屋道満大内鑑」/「ひらかな盛衰記」/「団子売」/「ひらかな盛衰記」		10/30～11/21	実績	66回	22日	13,095人	28.7%	45,606	86.6%	
			計画	66回	22日	15,124人	33.2%	45,606		
初春文楽公演		1/3～26	実績	69回	23日	13,964人	29.3%	47,679	92.3%	

「寿式三番叟」/「菅原伝授手習鑑」/ 「絵本太功記」/「染模様妹背門松」/ 「辰鴛色相肩」			計画	69回	23日	15,124人	31.7%	47,679	
文楽(文楽劇場)公演 【小計】	4公演	(計画:4公演)	実績	252回	84日	52,268人	33.3%	156,771	88.6%
			計画	252回	84日	59,021人	40.5%	145,701	
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、 「卅三間堂棟由来」	文楽 劇場	6/3~17	実績	22回	11日	2,226人	22.6%	9,856	31.8%
			計画	22回	11日	7,008人	71.1%	9,856	
文楽(文楽劇場)鑑賞教室 【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	22回	11日	2,226人	22.6%	9,856	31.8%
			計画	22回	11日	7,008人	71.1%	9,856	
文楽(文楽劇場)【合計】	5公演	(計画:5公演)	実績	274回	95日	54,494人	32.7%	166,627	82.5%
			計画	274回	95日	66,029人	42.4%	155,557	
文楽【総合計】	10公演	(計画:10公演)	実績	409回	154日	92,375人	39.5%	234,056	81.6%
			計画	409回	154日	113,232人	53.0%	213,656	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※6月文楽鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(8,229枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、6月文楽鑑賞教室149.2%、文楽(文楽劇場)鑑賞教室【小計】149.2%、文楽(文楽劇場)【合計】95.0%、文楽【総合計】88.8%である。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月文楽公演 「心中宵庚申」/「生写朝顔話」/「撰 州合邦辻」/「契情倭莊子」	本館 小劇場	5/9~26	実績	15回	5日	3,492人	67.7%	5,160	22.3%
計画			51回	17日	15,670人	92.0%	17,034		
9月文楽公演 「寿式三番叟」/「双蝶々曲輪日記」/ 「卅三間堂棟由来」/「日高川入相花 王」/「伊賀越道中双六」		9/4~21	実績	51回	17日	11,790人	45.0%	26,214	75.2%
計画			51回	17日	15,670人	92.0%	17,034		
12月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵」		12/4~17	実績	13回	13日	6,465人	96.8%	6,682	111.3%
計画			13回	13日	5,810人	79.8%	7,280		
2月文楽公演 「二人禿」/「御所桜堀川夜討」/「艶容 女舞衣」/「加賀見山旧錦絵」/「平 家女護島」/「釣女」		2/5~22	実績	31回	11日	7,995人	48.4%	16,523	42.0%
計画			51回	17日	19,020人	66.6%	28,560		
文楽(本館)【小計】	4公演	(計画:4公演)	実績	110回	46日	29,742人	54.5%	54,579	52.9%
			計画	166回	64日	56,170人	80.3%	69,908	
12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、 「新版歌祭文」	本館 小劇場	12/4~17	実績	25回	13日	8,139人	63.3%	12,850	71.5%
			計画	25回	13日	11,390人	82.4%	13,825	
文楽鑑賞教室(本館)【小計】	1公演	(計画:1公演)	実績	25回	13日	8,139人	63.3%	12,850	71.5%
			計画	25回	13日	11,390人	82.4%	13,825	
文楽(本館)【合計】	5公演	(計画:5公演)	実績	135回	59日	37,881人	56.2%	67,429	56.1%
			計画	191回	77日	67,560人	80.7%	83,733	
4月文楽公演 「花競四季寿」/「恋女房染分手綱」/ 「国性爺合戦」/「傾城阿波の鳴門」/ 「小鍛冶」	文楽 劇場	4/3~25	実績	63回	21日	11,969人	42.4%	28,224	74.8%
			計画	66回	22日	16,000人	54.1%	29,568	
夏休み文楽特別公演 「うつぼ猿」/「解説 文楽ってなあ に?」/「舌切雀」/「生写朝顔話」/ 「夏祭浪花鑑」	文楽 劇場	7/16~8/3	実績	54回	18日	13,240人	37.5%	35,262	98.1%
			計画	54回	18日	13,500人	55.8%	24,192	
錦秋文楽公演 「蘆屋道満大内鑑」/「ひらかな盛 衰記」/「団子売」/「ひらかな盛衰 記」	文楽 劇場	10/30~11/21	実績	66回	22日	13,095人	28.7%	45,606	81.8%
			計画	66回	22日	16,000人	33.2%	48,246	
初春文楽公演 「寿式三番叟」/「菅原伝授手習鑑」/ 「絵本太功記」/「染模様妹背門松」/ 「辰鴛色相肩」	文楽 劇場	1/3~26	実績	69回	23日	13,964人	29.3%	47,679	87.3%
			計画	69回	23日	16,000人	31.7%	50,439	

文楽(文楽劇場)公演			実績	252回	84日	52,268人	33.3%	156,771	85.0%
【小計】 4公演 (計画:4公演)			計画	255回	85日	61,500人	40.3%	152,445	
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、 「卅三間堂棟由来」	文楽 劇場	6/3~17	実績	22回	11日	2,226人	22.6%	9,856	17.1%
			計画	28回	14日	13,000人	71.1%	18,284	
文楽(文楽劇場)鑑賞教室			実績	22回	11日	2,226人	22.6%	9,856	17.1%
【小計】 1公演 (計画:1公演)			計画	28回	14日	13,000人	71.1%	18,284	
文楽(文楽劇場)【合計】 5公演 (計画:5公演)			実績	274回	95日	54,494人	32.7%	166,627	73.1%
			計画	283回	99日	74,500人	43.6%	170,729	
文楽【総合計】 10公演 (計画:10公演)			実績	409回	154日	92,375人	39.5%	234,056	65.0%
			計画	474回	176日	142,060人	55.8%	254,462	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6月文楽鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(8,229枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、6月文楽鑑賞教室80.4%、文楽(文楽劇場)鑑賞教室【小計】80.4%、文楽(文楽劇場)【合計】84.2%、文楽【総合計】70.8%である。

(b) 外部専門家等の意見

- ・文楽公演専門委員会(本館)について、第1回を书面開催、第2回を3/25に開催した。
- ・文楽公演専門委員会(文楽劇場)について、第1回を书面開催、第2回を3/7に開催した。

(c) アンケート調査

区分	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
本館	5公演 135回	-	432人	432人	408人	-	94.4%
文楽劇場	5公演 5回	956人	786人	770人	737人	82.2%	95.7%
合計	10公演 140回	-	1,218人	1,202人	1,145人	-	95.3%

※本館はウェブアンケートを実施。

本館12月「Discover BUNRAKU」については、無料配布プログラムにアンケート用紙を挟み込み、実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・文楽座、文楽協会と連携し、出演者及びスタッフを対象とした楽屋、舞台における徹底した感染症対策を講じ、規律ある公演を年間通じて持続することができた。
- ・出演者の中に感染者が複数出たため、一部公演中止を余儀なくされたが、専門家の助言を仰ぎながら徹底した検査の実施等によって、可能な状況においては、感染の再拡大に至ることなく公演を実施できた。
- ・上演時間が限られ、また頻繁かつ急な出演者の休演及び代役を要請する事態を想定しなければならない状況が続き、上演頻度の高い演目に限定せざるを得ない中、本館では、9月公演『卅三間堂棟由来』において東京では17年ぶりに和田四郎の件を復活させた。上演頻度の高い演目でも異なる観点から鑑賞できる機会を設定できた。
- ・12月公演においては昨年以上に若手に重点を置いた配役を行い、人気演目『仮名手本忠臣蔵』を限られた条件の中で上演し、コロナ禍以降では画期的な集客を実現できた。
- ・文楽劇場では、コロナ禍の中で2時間30分程度の比較的短い上演時間で文楽を鑑賞してもらうという方針のもと、当分の間3部制による公演構成を実施することとした。
- ・公演内容を短くまとめて英文を付した映像を海外へ向けて無料配信した(本館9月文楽公演、本館12月文楽公演・文楽鑑賞教室、文楽劇場4月文楽公演)。
- ・文楽劇場では、4月14日に重要無形文化財保持者・日本藝術院会員・文化功労者の吉田簀助が4月25日の千穂楽を以て引退することを表明した。ところが国及び大阪府の要請により新型コロナウイルス感染症予防のための緊急事態宣言が発出されたため、25日を休演とし、24日を急遽千穂楽とすることとなった。「国性爺合戦」の「楼門の段」で錦祥女役であった簀助は、24日の「楼門の段」の幕が引かれた後、引退セレモニーで挨拶し、その模様は当日から無料配信を行った。
- ・文楽劇場4月公演第三部は新たな観客層の開拓を目的に、「小鍛冶」は「刀剣乱舞 ONLINE」とコラボレーションし、刀剣男士の小狐丸を文楽人形で再現・展示して話題となり、入場者数の増加にも寄与した。

【特記事項】

- ・本館5月文楽公演は、4/25に発出された緊急事態宣言を受け、初日5/9から5/11までの上演を中止とした。その後、5/12を初日として公演を開催したが、出演者複数に新型コロナウイルスの感染が確認されたため、5/18から千秋楽5/26までの公演を中止した。

- ・本館 2 月文楽公演は、出演者複数から新型コロナウイルス陽性反応が確認され、代演での上演が不可能となった第三部については、2/5 から 2/12 まで中止とした。第一部・第二部については、代演で上演予定であったが、第二部の出演者から陽性反応が確認されたため急遽中止し、濃厚接触疑いを含め第一部も上演不可能となったため、2/12 まで全公演中止とした。
- ・文楽劇場 4 月文楽公演は、4/25 に発出された新型コロナウイルス感染症予防のための緊急事態宣言の国及び大阪府の要請により、25 日を休演とした。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive1)申請(文楽劇場 4 月文楽公演)
- ・コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業(ARTS for the future!)申請(文楽劇場夏休み文楽特別公演)
- ・令和 3 年度(第 76 回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場 錦秋文楽公演)
- ・令和 3 年度日本博主催・共催型プロジェクト(本館 12 月 Discover BUNRAKU)
- ・日本博参画プロジェクト(本館：5 月文楽公演、9 月文楽公演、12 月文楽公演、2 月文楽公演、文楽劇場：夏休み文楽特別公演、錦秋文楽公演、初春文楽公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive2)申請(本館 9 月文楽公演、本館 12 月文楽公演・文楽鑑賞教室)。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive2)によるキャンセル料支援申請(本館 5 月文楽公演)。
- ・各公演とも、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・Discover BUNRAKU では、各国駐日大使を招待し、15 の国と地域 28 名が参加。
- ・文楽劇場では、動画ストーリーミングサービスを用い、インターネット上で公演記録映像の有料動画配信を行った。(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、錦秋文楽公演、初春文楽公演)

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

(a)《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
舞踊	4 公演(計画:4 公演)	実績	7 回	4 日	2,743 人	61.3%	4,478	91.0%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	4 日	3,013 人	67.3%	4,476	
邦楽	6 公演(計画:6 公演)	実績	9 回	6 日	2,925 人	54.8%	5,337	81.3%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	9 回	6 日	3,596 人	73.0%	4,923	
雅楽	2 公演(計画:2 公演)	実績	2 回	2 日	1,351 人	63.2%	2,138	101.6%
	本館大小劇場	計画	2 回	2 日	1,330 人	82.0%	1,622	
声明	0 公演(計画:0 公演)	実績						
	本館大劇場	計画						
民俗芸能	0 公演(計画:0 公演)	実績						
	本館小劇場	計画						
特別企画	3 公演(計画:3 公演)	実績	3 回	3 日	1,469 人	51.8%	2,835	74.9%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	3 回	3 日	1,960 人	84.5%	2,319	
合計	15 公演 (計画:15 公演)	実績	21 回	15 日	8,488 人	57.4%	14,788	85.7%
		計画	21 回	15 日	9,899 人	74.2%	13,340	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

(a)《公演実績》(年度当初の公演計画)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
舞踊	4 公演(計画:4 公演)	実績	7 回	4 日	2,743 人	61.3%	4,478	87.6%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	7 回	4 日	3,130 人	66.9%	4,682	
邦楽	6 公演(計画:6 公演)	実績	9 回	6 日	2,925 人	54.8%	5,337	79.9%
	本館小劇場、文楽劇場	計画	9 回	6 日	3,660 人	73.2%	5,001	
雅楽	2 公演(計画:2 公演)	実績	2 回	2 日	1,351 人	63.2%	2,138	100.1%
	本館大小劇場	計画	2 回	2 日	1,350 人	81.9%	1,648	
声明	0 公演(計画:1 公演)	実績						
	本館大劇場	計画	1 回	1 日	1,110 人	68.9%	1,610	
民俗芸能	0 公演(計画:1 公演)	実績						
	本館小劇場	計画	2 回	1 日	640 人	84.9%	754	
特別企画	3 公演(計画:6 公演)	実績	3 回	3 日	1,469 人	51.8%	2,835	44.7%
	本館大小劇場、文楽劇場	計画	6 回	5 日	3,290 人	77.2%	4,260	
合計	15 公演 (計画:20 公演)	実績	21 回	15 日	8,488 人	57.4%	14,788	64.4%
		計画	27 回	19 日	13,180 人	73.4%	17,955	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 公演専門委員会を本館各ジャンルで各2回開催。第1回は書面開催、第2回は対面で開催。
 - ◇ 3/30 舞踊公演専門委員会
 - ◇ 3/28 邦楽公演専門委員会
 - ◇ 3/24 雅楽・声明公演専門委員会
 - ◇ 3/30 民俗芸能公演専門委員会
- ・ 短期公演等専門委員会(文楽劇場)を第1回は書面開催、第2回は対面で開催(3/4)。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
12公演 17回	-	670人	602人	584人	-	97.0%

※舞踊3公演、邦楽5公演、雅楽2公演、特別企画2公演でウェブアンケートを実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

【本館】

《舞踊》

- ・ 8月「日本舞踊のススメ」は、日本舞踊の魅力をより広い客層に楽しんでもらうため、解説と実演の入門公演の形式で、コンテンポラリーダンスとの比較・実演で日本舞踊の特徴を提示した。
- ・ 11月「舞の会」は、古典の名作のほか、若手の起用や新振付の作品などを上演し、上方舞の充実に資する舞台成果を得た。
- ・ 3月「素踊りの世界」は、テーマを設けた解説と名作の鑑賞を通じてより深く素踊りの魅力や楽しみ方にふれる公演として昨年度よりシリーズ化した。今回は歌舞伎舞踊との比較をテーマに、踊り方の違いなどを解説で解き明かし、性格の異なる舞踊作品を上演した。

《邦楽》

- ・ 7月「日本音楽のススメ」では、若年層が日頃親しんでいる音楽の傾向を踏まえJ-ロックの要素とともに伝統音楽の魅力を紹介した。解説では箏曲や長唄でJ-ロックの曲を演奏し、伝統音楽の表現力の多彩さを示した。
- ・ 10月「日本音楽の流れⅣ―笛・尺八―」では、雅楽から現代曲まで様々な笛・尺八の作品を紹介した。解説では希少な楽器も紹介しその多様さを示すとともに、委嘱新作の初演では伝統音楽の可能性を拓く試みをした。
- ・ 10月「文楽素浄瑠璃の会」では、文楽座重鎮の至芸と中堅の瑞々しい技芸をお楽しみいただいた。名作・名場面を一挙で紹介することにより作品理解が深まった。また、動画ストリーミングサービスを用い、インターネット上で公演記録映像の有料動画配信を行った。
- ・ 1月「邦楽鑑賞会―三曲の会」「邦楽鑑賞会―長唄の会」では、それぞれテーマを設けて開催した。文学作品や主人公の役柄に応じたテーマで、人間国宝を中心とする質の高い演奏を届けた。

《雅楽》

- ・ 9月「天王寺舞楽」では、大阪の四天王寺に伝承されてきた重要無形民俗文化財の舞楽をお楽しみいただいた。聖徳太子千四百年御聖忌を記念し、特有の舞楽と聖霊会の進行を支える舞楽を、解説を交えて紹介することで、太子信仰の中心的行事における芸能として長い伝統を持つ天王寺舞楽の歴史的価値と魅力を伝えることができた。
- ・ 11月「五行の環」では、五行思想と雅楽の結びつきを、専門家による解説を交えて掘り下げて紹介し、五行にあてはめられた各調子(五調子)から二曲ずつ、五気が相互に生かし合う「相生」と相互に打ち克つ「相剋」に当てはめて上演した。通常雅楽の演奏会では行わない複数調子の一挙上演と、更に管絃の楽器編成や舞楽の演出、舞台上の演奏位置やその彩色にも工夫を凝らし、各調子それぞれの魅力と空間的な音のめぐりを感じていただけるよう図った。

《声明》

- ・ 2月声明は、新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止となった。令和2年度に中止となった公演の振替公演として、およそ半世紀ぶりの真言宗智山派総本山の出演で、真言宗最大の法要の一つである大曼荼羅供養法会を紹介する予定であった。舞台美術として実寸大の曼荼羅図を配し、現地では5~6時間に及ぶ長大な法要について、見どころを厳選して上演することで、その魅力を伝えられる予定であった。

《民俗芸能》

- ・ 本館6月民俗芸能公演「花祭」は、新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止となった。令和2年度に中止となった公演の振替公演として、現地で行われる祭礼の一通りの流れを紹介する予定であった。

《特別企画》

- ・ 本館5月特別企画公演「二つの小宇宙」は、「出会い」をテーマに、一つは「歌舞伎」、「文楽」、「雅楽」、「生活文化」との他ジャンルの共演、またもう一つは「声明」、「コンテンポラリーダンス」の古典と現代の共演という組み合わせで、国立劇場でしか実現はできない好企画であった。
- ・ 本館8月特別企画公演「日本の太鼓」は、東京2020大会開催期間の公演として、和太鼓をテーマとした公演を開催した。和太鼓の広がりを紹介する目的で、「入門的な解説」、「民俗芸能の太鼓」、

「創作太鼓の演奏」という3つのパートに分けた構成としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、民俗芸能の団体が上京することができず、映像での紹介となった。林英哲氏による創作太鼓は、ソロ演奏あり、英哲風雲の会との合奏あり、様々な打法を披露し、演劇的な見せ場もある意欲的な作品であった。

【文楽劇場】

《舞踊》

- ・10月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」は、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のための上演時間短縮等により各部演目を一番減らしての上演であったが、柱のひとつである上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の競演を実現し、歌舞伎舞踊、素踊り、座敷舞などバラエティーに富んだ作品を取り上げ、凝縮した形で舞踊の魅力を掘り下げる企画内容とした。

《邦楽》

- ・8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、従来第一人者が出演する演奏会と位置づけてきたが、今回は咲太夫の弟子である竹本織太夫が、鶴澤清志郎と「女殺油地獄」、切語りで重要無形文化財保持者の豊竹咲太夫と鶴澤燕三による「新版歌祭文」、竹本千歳太夫と豊澤富助による「彦山権現誓助剣」を上演した。なお、千歳太夫は平成3年度芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)を受賞したが、受賞理由に「彦山権現誓助剣」が挙げられている。

《特別企画》

- ・5月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」では、公演記録映像の内容を短くまとめて英文を付した映像を海外へ向けて無料配信した(5/22～6/4)。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場：10月舞踊公演)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(本館：10月邦楽(素浄瑠璃)、11月雅楽、本館11月舞踊)
- ・日本博主催・共催型プロジェクト(本館：4月特別企画、5月特別企画、7月邦楽、8月舞踊、8月特別企画、9月雅楽、10月邦楽(日本音楽の流れ)、11月舞踊、11月雅楽、1月邦楽(三曲)、1月邦楽(長唄)、3月舞踊)
- ・日本博参画プロジェクト(本館：10月邦楽(素浄瑠璃))
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場の全公演)
- ・上演内容に応じて、字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章等を表示し鑑賞の助けとした。
- ・東京2020大会が無観客で実施されたことに伴い、8月舞踊公演、7月特別企画公演及び8月特別企画公演は公演内容を見直して実施した。
- ・「文化芸術収益強化事業」として文化庁の委託を受け、公演のデジタルコンテンツ配信を行った。コロナ禍における「新たな生活様式」に対応した舞台芸術鑑賞機会を設け、インタラクティブ動画技術を活用した「音楽」教科書向け邦楽演奏の収録・有料動画配信を行うことで、有料配信を通じた新たな収入源確保の手段を調査、検証。(ジャンルは、尺八2種・箏曲・地歌・三曲合奏・三味線組歌の6種類)

舞 踊

《制作方針》

本館では、各公演の企画意図に即しつつ、現在鑑賞することのできる最高水準の舞台を制作することを根幹とし、古典を軸に日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家により、流派にとらわれず国立劇場独自の企画を盛り込みながら、広範な観客層への普及を図る。東京を中心に発展・継承されてきた歌舞伎舞踊と、京阪を中心に発展・継承されてきた上方舞を両輪とする。また、公演の意図や曲の性格に適した中堅や若手舞踊家の起用を積極的に行う。

文楽劇場「東西名流舞踊鑑賞会」は、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家が一堂に会する恒例の舞踊公演である。上方四流(井上流、榎茂都流、山村流、吉村流)の家元、代表者クラスの競演を柱のひとつに、歌舞伎舞踊や素踊り、昭和に誕生した創作作品、そして情緒豊かな座敷舞など様々な色合いの作品を上演し、舞踊の魅力に迫る内容とした。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
8月舞踊公演 「日本舞踊のススメ」	本館 大劇場	8/1	実績	1回	1日	729人	75.2%	970	88.9%
			計画	1回	1日	820人	84.7%	968	
11月舞踊公演 「舞の会—京阪の座敷舞」	本館 小劇場	11/20	実績	3回	1日	941人	55.6%	1,692	71.8%
			計画	3回	1日	1,310人	77.4%	1,692	
3月舞踊公演 「素踊りの世界」	本館 小劇場	3/5	実績	1回	1日	540人	91.5%	590	158.8%
			計画	1回	1日	340人	57.6%	590	
舞踊(本館)【小計】3公演 (計画:3公演)			実績	5回	3日	2,210人	68.0%	3,252	89.5%
			計画	5回	3日	2,470人	76.0%	3,250	
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/9	実績	2回	1日	533人	43.5%	1,226	98.2%
			計画	2回	1日	543人	44.3%	1,226	
舞踊(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	533人	43.5%	1,226	98.2%
			計画	2回	1日	543人	44.3%	1,226	
舞踊【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	7回	4日	2,743人	61.3%	4,478	91.0%
			計画	7回	4日	3,013人	67.3%	4,476	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
8月舞踊公演 「日本舞踊のススメ」	本館 大劇場	8/1	実績	1回	1日	729人	75.2%	970	88.9%
			計画	1回	1日	820人	84.7%	968	
11月舞踊公演 「舞の会—京阪の座敷舞」	本館 小劇場	11/20	実績	3回	1日	941人	55.6%	1,692	68.7%
			計画	3回	1日	1,370人	77.4%	1,770	
3月舞踊公演 「素踊りの世界」	本館 小劇場	3/5	実績	1回	1日	540人	91.5%	590	158.8%
			計画	1回	1日	340人	57.6%	590	
舞踊(本館)【小計】3公演 (計画:3公演)			実績	5回	3日	2,210人	68.0%	3,252	87.4%
			計画	5回	3日	2,530人	76.0%	3,328	
10月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	文楽 劇場	10/9	実績	2回	1日	533人	43.5%	1,226	88.8%
			計画	2回	1日	600人	44.3%	1,354	
舞踊(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	2回	1日	533人	43.5%	1,226	88.8%
			計画	2回	1日	600人	44.3%	1,354	
舞踊【合計】4公演 (計画:4公演)			実績	7回	4日	2,743人	61.3%	4,478	87.6%
			計画	7回	4日	3,130人	66.9%	4,682	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場：10月舞踊公演)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(本館：11月舞踊公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：10月舞踊公演)
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館3公演)
- ・東京2020大会が無観客で実施されたことに伴い、8月舞踊公演は公演内容を見直して実施した。

邦 楽

《制作方針》

邦楽のジャンルの特性や各作品のバランスを考慮し、国立劇場ならではの高い水準の舞台を目指す。出演者には重要無形文化財保持者を中心に、公演の方針や作品の内容に応じて適宜すぐれた演奏家を起用する。

本館では、7月「日本音楽のススメ」で、若年層が日頃親しんでいる音楽の傾向を踏まえJ-ロックの要素とともに伝統音楽(箏曲・長唄)の魅力を紹介する公演を実施する。10月「日本音楽の流れⅣー笛・尺八ー」では、日本の代表的な管楽器「笛」「尺八」の歴史や特色を紹介するとともに各分野の実力者による演奏を紹介する。10月「文楽素浄瑠璃の会」では、重鎮の至芸と中堅の瑞々しい浄瑠璃を上演する。1月「邦楽鑑賞会ー三曲の会ー」「邦楽鑑賞会ー長唄の会ー」では、それぞれにテーマを設けた構成により質の高い公演を実施する。

文楽劇場8月公演「文楽素浄瑠璃の会」は、人形の演技に頼ることなく太夫・三味線の演奏のみで観客の想像力に働きかけ浄瑠璃の魅力を引き立て、改めて曲の内容の魅力に触れていただく。今回は「彦山権現誓助剣」毛谷村の段、「新版歌祭文」油屋飯椀の段、「女殺油地獄」豊島屋油店の段と聞きごたえのある3曲を上演するとともに、技芸の伝承に寄与する出演者・演目を企画する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
7月邦楽公演 「日本音楽のススメ」 ※年度計画外	本館 小劇場	7/24	実績	1回	1日	257人	45.6%	564	80.3%
			計画	1回	1日	320人	84.9%	377	
10月邦楽公演 「日本音楽の流れⅣー笛・尺八ー」	本館 小劇場	10/9	実績	1回	1日	358人	63.5%	564	79.7%
			計画	1回	1日	449人	79.6%	564	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10/23	実績	2回	1日	716人	63.5%	1,128	77.2%
			計画	2回	1日	927人	82.2%	1,128	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会ー三曲の会ー」	本館 小劇場	1/15	実績	2回	1日	520人	44.1%	1,180	67.5%
			計画	2回	1日	770人	65.3%	1,180	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会ー長唄の会ー」	本館 小劇場	1/29	実績	2回	1日	660人	55.9%	1,180	78.6%
			計画	2回	1日	840人	71.2%	1,180	
邦楽(本館)【小計】5公演 (計画:4公演)			実績	8回	5日	2,511人	54.4%	4,616	76.0%
			計画	8回	5日	3,306人	74.6%	4,429	
8月邦楽公演 「第24回文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/21	実績	1回	1日	414人	57.4%	721	142.8%
			計画	1回	1日	290人	58.7%	494	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	414人	57.4%	721	142.8%
			計画	1回	1日	290人	58.7%	494	
邦楽【合計】6公演 (計画:5公演)			実績	9回	6日	2,925人	54.8%	5,337	81.3%
			計画	9回	6日	3,596人	73.0%	4,923	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
7月邦楽公演 「日本音楽のススメ」 ※年度計画外	本館 小劇場	7/24	実績	1回	1日	257人	45.6%	564	80.3%
			計画	1回	1日	320人	84.9%	377	
10月邦楽公演 「日本音楽の流れⅣ－笛・尺八－」	本館 小劇場	10/9	実績	1回	1日	358人	63.5%	564	76.2%
			計画	1回	1日	470人	79.7%	590	
10月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	本館 小劇場	10/23	実績	2回	1日	716人	63.5%	1,128	73.8%
			計画	2回	1日	970人	82.2%	1,180	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会—三曲の会—」	本館 小劇場	1/15	実績	2回	1日	520人	44.1%	1,180	67.5%
			計画	2回	1日	770人	65.3%	1,180	
1月邦楽公演 「邦楽鑑賞会—長唄の会—」	本館 小劇場	1/29	実績	2回	1日	660人	55.9%	1,180	78.6%
			計画	2回	1日	840人	71.2%	1,180	
邦楽(本館)【小計】5公演 (計画:4公演)			実績	8回	5日	2,511人	54.4%	4,616	74.5%
			計画	8回	5日	3,370人	74.8%	4,507	
8月邦楽公演 「第24回文楽素浄瑠璃の会」	文楽 劇場	8/21	実績	1回	1日	414人	57.4%	721	142.8%
			計画	1回	1日	290人	58.7%	494	
邦楽(文楽劇場)【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	414人	57.4%	721	142.8%
			計画	1回	1日	290人	58.7%	494	
邦楽【合計】6公演 (計画:5公演)			実績	9回	6日	2,925人	54.8%	5,337	79.9%
			計画	9回	6日	3,660人	73.2%	5,001	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(本館：7月邦楽公演、10月邦楽公演(日本音楽の流れ)、1月邦楽公演(三曲)、1月邦楽公演(長唄))
- 日本博参画プロジェクト(本館：10月邦楽公演(素浄瑠璃)、文楽劇場：8月邦楽公演)
- 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：8月邦楽公演)
- beyond2020プログラム認証事業
- 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした。
- 8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、動画ストーリーミングサービスを用い、インターネット上で公演記録映像の有料動画配信を行った。
- 東京2020大会が無観客で実施されたことに伴い、7月特別企画公演の公演内容を見直して7月邦楽公演として実施した。

雅 楽

《制作方針》

日本古来の歌舞と中国や朝鮮から渡来した舞や器楽を源流にして平安時代の王朝文化の中で大成した雅楽について、代表的な古典曲、廃絶した雅楽曲の復元曲など、その多彩な魅力を伝える公演を企画する。

9月公演は、大阪の四天王寺で伝承されてきた「天王寺舞楽」を紹介する。四天王寺の石舞台上で発展した舞楽は独自の舞振りや演出を伝承しており、昭和52年重要無形民俗文化財に指定されている。天王寺特有の舞楽と、聖徳太子を供養する法要として特に重要と位置づけられている「聖霊会」において、その進行にかかわる舞楽を取り上げる。聖徳太子1400年御聖忌にあたる年に、太子信仰の中心的行事における芸能として長い伝統を持つ天王寺舞楽の歴史的価値と魅力を伝える。

11月公演は、雅楽と五行思想の関係を掘り下げて紹介する。五行思想は、万物の各要素を「木-火-土-金-水」の五つに分類し、循環する宇宙全体を把える思想体系で、古代中国から日本に文物が流入する過程で音楽理論の整理統合が進み、雅楽の各調子を五行に当てはめて考える日本独自の音楽理論が成立した。今回は五気が相互に生かし合う「相生」と相互に打ち克つ「相剋」の五行に該当する調子より、古典を中心にした選曲で二曲ずつ計十曲を上演する。管絃の楽器編成や舞楽の演出、舞台上の演奏位置やその彩色にも工夫を凝らすことで、各調子それぞれの魅力と空間的な音のめぐりを感じていただけるよう図る。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
-----	----	----	----	----	----	------	-----	-----	-----

9月雅楽公演 「天王寺舞楽」	本館 大劇場	9/18	実績	1回	1日	815人	51.8%	1,574	90.6%
			計画	1回	1日	900人	85.1%	1,058	
11月雅楽公演 「五行の環」	本館 小劇場	11/13	実績	1回	1日	536人	95.0%	564	124.7%
			計画	1回	1日	430人	76.2%	564	
雅楽【合計】2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	1,351人	63.2%	2,138	101.6%
			計画	2回	2日	1,330人	82.0%	1,622	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
9月雅楽公演 「天王寺舞楽」	本館 大劇場	9/18	実績	1回	1日	815人	51.8%	1,574	90.6%
			計画	1回	1日	900人	85.1%	1,058	
11月雅楽公演 「五行の環」	本館 小劇場	11/13	実績	1回	1日	536人	95.0%	564	119.1%
			計画	1回	1日	450人	76.3%	590	
雅楽【合計】2公演 (計画:2公演)			実績	2回	2日	1,351人	63.2%	2,138	100.1%
			計画	2回	2日	1,350人	81.9%	1,648	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(本館:11月雅楽公演)
- ・日本博主催・共催型プロジェクト(本館:9月雅楽公演、11月雅楽公演)
- ・beyond2020プログラム認証事業
- ・字幕表示装置により、曲目や演奏形式についての解説文を表示し鑑賞の助けとした。

声 明

《制作方針》

仏教儀式において僧侶が唱える声明について、国立劇場ではその豊かな音楽性に着目して、各宗本山で行われている代表的な法会の紹介、廃絶している法会の復活、日本の現代詩を声明によってうたう試みなど様々な取組を行う。

2月公演では、真言宗智山派の総本山智積院の出演による、真言最大の法要儀式と言われる「大曼荼羅供養法会(大曼荼羅供)」を取り上げ、華やかで洗練された智山声明の魅力を紹介する。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月声明公演 「智積院の声明」 ※公演中止	本館 大劇場	2/5	実績						
			計画						
声明【合計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			計画						

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
2月声明公演 「智積院の声明」 ※公演中止	本館 大劇場	2/5	実績						
			計画	1回	1日	1,110人	68.9%	1,610	
声明【合計】0公演 (計画:1公演)			実績						

	計画	1回	1日	1,110人	68.9%	1,610
--	----	----	----	--------	-------	-------

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・日本博主催・共催型プロジェクト
- ・beyond2020 プログラム認証事業

民俗芸能

《制作方針》

全国各地で行われている民俗芸能の中から、伝承が確かで、しかも舞台上での上演が可能な芸能を広く一般に紹介し、その理解を深める。

6月公演では、国指定無形民俗文化財の「花祭」を上演する。ほぼ一昼夜かけて行われる祭礼を一通りご覧いただけるような構成とする。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月民俗芸能公演 「花祭-奥三河の霜月神楽-」 ※公演中止	本館 小劇場	6/19	実績						
			計画						
民俗芸能【合計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			実績						

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
6月民俗芸能公演 「花祭-奥三河の霜月神楽-」 ※公演中止	本館 小劇場	6/19	実績						
			計画	2回	1日	640人	84.9%	754	
民俗芸能【合計】0公演 (計画:1公演)			実績						
			実績	2回	1日	640人	84.9%	754	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・日本博主催・共催型プロジェクト
- ・beyond2020 プログラム認証事業

特別企画

《制作方針》

本館においては、公演内容が複数のジャンルにまたがるもの、特定のジャンルに限定できないもの、また特に固有の芸能史的な価値に着目して企画する公演などを軸として、伝統芸能の魅力を幅広く楽しんでもらうことを目指す。

本館4月「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」は、気鋭の舞踊家・邦楽家を起用し、紹介することを目的としており、主役や難曲に挑むことで今後の飛躍を期待する構成とする。

本館5月「二つの小宇宙 一めぐりあう今」は、「出会い」をテーマに、一つは「歌舞伎」、「文楽」、「雅楽」、「生活文化」との他ジャンルの共演、またもう一つは「声明」、「コンテンポラリーダンス」の古典と現代の共演という組み合わせで、国立劇場でしか実現はできない好企画であった。

本館8月「日本の太鼓」は、太鼓の広がりを紹介する目的で、「入門的な解説」、「民俗芸能の太鼓」、「創作太鼓の演奏」という3つのパートに分けた構成とし、太鼓の広がりや演奏のさまざまを提示した。

文楽劇場5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、現在躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光をあてて舞踊・邦楽界の将来を展望する公演である。国内外を問わず積極的な舞台・演奏活動を展開する、おもに関西在住の新進・花形実演家を厳選し、様々なジャンルにわたる幅広い番組構成とする。新型コロナウイルス感染症のため公演中止となったが、無観客で収録した公演記録映像を無料配信し、4,000を超

える視聴数を得た。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/17	実績	1回	1日	306人	81.2%	377	95.6%
			計画	1回	1日	320人	84.9%	377	
5月特別企画公演 「二つの小宇宙ーめぐりあう今ー」	本館 大劇場	5/22	実績	1回	1日	492人	55.7%	884	63.9%
			計画	1回	1日	770人	87.1%	884	
7月特別企画公演 「Discover 邦楽」 ※邦楽公演に変更	本館 小劇場	7/24	実績						
			計画						
8月特別企画公演 「日本の太鼓」	本館 大劇場	8/7	実績	1回	1日	671人	42.6%	1,574	77.1%
			計画	1回	1日	870人	82.2%	1,058	
特別企画(本館)【小計】3公演 (計画:3公演)			実績	3回	3日	1,469人	51.8%	2,835	74.9%
			計画	3回	3日	1,960人	84.5%	2,319	
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」※公演中止	文楽 劇場	5/15	実績						
			計画						
2月特別企画公演	文楽 劇場	2/26	実績						
			計画						
特別企画(文楽劇場)【小計】0公演 (計画:0公演)			実績						
			計画						
特別企画【合計】3公演 (計画:3公演)			実績	3回	3日	1,469人	51.8%	2,835	74.9%
			計画	3回	3日	1,960人	84.5%	2,319	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月舞踊・邦楽公演 「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	本館 小劇場	4/17	実績	1回	1日	306人	81.2%	377	95.6%
			計画	1回	1日	320人	84.9%	377	
5月特別企画公演 「二つの小宇宙ーめぐりあう今ー」	本館 大劇場	5/22	実績	1回	1日	492人	55.7%	884	63.9%
			計画	1回	1日	770人	84.9%	907	
7月特別企画公演 「Discover 邦楽」 ※邦楽公演に変更	本館 小劇場	7/24	実績						
			計画						
8月特別企画公演 「日本の太鼓」	本館 大劇場	8/7	実績	1回	1日	671人	42.6%	1,574	77.1%
			計画	1回	1日	870人	82.2%	1,058	
特別企画(本館)【小計】3公演 (計画:4公演)			実績	3回	3日	1,469人	51.8%	2,835	74.9%
			計画	3回	3日	1,960人	83.7%	2,342	
5月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」※公演中止	文楽 劇場	5/15	実績						
			計画	1回	1日	230人	55.8%	412	
2月特別企画公演	文楽 劇場	2/26	実績						
			計画	2回	1日	1,100人	73.0%	1,506	
特別企画(文楽劇場)【小計】0公演 (計画:2公演)			実績						
			計画	3回	2日	1,330人	69.3%	1,918	
特別企画【合計】3公演 (計画:6公演)			実績	3回	3日	1,469人	51.8%	2,835	44.7%
			計画	6回	5日	3,290人	77.2%	4,260	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

《特記事項》

- ・日本博主催・共催型プロジェクト(本館：4月特別企画公演、5月特別企画公演、7月特別企画公演、8月

特別企画公演)

- 関西元気文化圏共催事業
- beyond2020 プログラム認証事業
- 字幕表示装置により、演奏に合わせて詞章を表示して鑑賞の助けとした(本館 3 公演)
- 文楽劇場 5 月特別企画公演は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び自治体の要請等を踏まえ、公演中止。無観客で収録した公演記録映像を 5/22 から 6/4 まで無料配信を実施。
- 東京 2020 大会が無観客で実施されたことに伴い、7 月特別企画公演及び 8 月特別企画公演は公演内容を見直して実施した。

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・講談・浪曲のほか、奇術・太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、従来からの寄席形式で構成する「定席公演」を中心に大衆芸能公演を実施する。「定席公演」では、公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会と協力し、様々な分野の大衆芸能を幅広く取り入れた公演を企画・立案し、その多彩な魅力を伝えながら、普及・振興を図る。また、「若手新人公演」では、若手演芸家の育成を目的に、年間で花形演芸大賞を競うことで技芸向上を目指す。出演する若手演芸家は、落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野から選定する。「新春国立名人会」では、落語をはじめ、大衆芸能各分野の重鎮、人気者が日替りで出演し、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。「国立名人会」は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくりと味わえる公演を実施する。「特別企画公演」では、現代落語の基礎を作った三遊亭圓朝作品に挑む会、新作・創作落語を演じる会、普段は個別に活動する落語団体から落語界を代表する実力者・人気者を選りすぐった公演等、公演ごとに主題を設け、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。浪曲公演においては、斯界を代表する実力者を揃えた「浪曲名人会」、若手中心で技芸の向上も狙いとする「浪曲錬声会」という2種の公演を定期的に開催することで、関西浪曲界の発展に貢献する。「上方演芸特選会」では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく(5月上方演芸特選会は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため公演中止)。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定席	22 公演(計画:22 公演)	実績	218 回	218 日	19,174 人	30.9%	62,116	66.8%
	演芸場	計画	218 回	218 日	28,722 人	53.6%	53,580	
花形演芸会	12 公演(計画:12 公演)	実績	12 回	12 日	2,852 人	84.2%	3,386	106.2%
	演芸場	計画	12 回	12 日	2,685 人	92.6%	2,901	
新春 国立名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	7 回	6 日	1,828 人	87.0%	2,100	90.7%
	演芸場	計画	7 回	6 日	2,016 人	96.0%	2,100	
国立名人会	10 公演(計画:10 公演)	実績	10 回	10 日	2,131 人	76.3%	2,794	95.7%
	演芸場	計画	10 回	10 日	2,227 人	92.6%	2,406	
特別企画	8 公演(計画:8 公演)	実績	13 回	13 日	2,420 人	63.6%	3,804	87.1%
	演芸場	計画	13 回	13 日	2,778 人	88.9%	3,125	
演芸場 合計	53 公演 (計画:53 公演)	実績	260 回	259 日	28,405 人	38.3%	74,200	73.9%
		計画	260 回	259 日	38,428 人	59.9%	64,112	
浪曲名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	1 回	1 日	510 人	70.7%	721	88.7%
	文楽劇場	計画	1 回	1 日	575 人	79.8%	721	
浪曲錬声会	1 公演(計画:1 公演)	実績	2 回	1 日	143 人	48.6%	294	89.4%
	文楽劇場小ホール	計画	2 回	1 日	160 人	81.6%	196	
上方 演芸特選会	5 公演(計画:5 公演)	実績	20 回	20 日	1,986 人	67.6%	2,940	96.1%
	文楽劇場小ホール	計画	20 回	20 日	2,066 人	81.1%	2,548	
文楽劇場 合計	7 公演 (計画:7 公演)	実績	23 回	22 日	2,639 人	66.7%	3,955	94.2%
		計画	23 回	22 日	2,801 人	80.8%	3,465	
合計	60 公演	実績	283 回	281 日	31,044 人	39.7%	78,155	75.3%

(計画:60公演)	計画	283回	281日	41,229人	61.0%	67,577
-----------	----	------	------	---------	-------	--------

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定席	22 公演(計画:22 公演)	実績	218回	218日	19,174人	30.9%	62,116	65.9%
	演芸場	計画	219回	219日	29,080人	53.6%	54,255	
花形演芸会	12 公演(計画:12 公演)	実績	12回	12日	2,852人	84.2%	3,386	103.8%
	演芸場	計画	12回	12日	2,748人	92.5%	2,970	
新春 国立名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	7回	6日	1,828人	87.0%	2,100	90.7%
	演芸場	計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
国立名人会	10 公演(計画:11 公演)	実績	10回	10日	2,131人	76.3%	2,794	86.6%
	演芸場	計画	11回	11日	2,460人	92.1%	2,670	
特別企画	8 公演(計画:8 公演)	実績	13回	13日	2,420人	63.6%	3,804	86.0%
	演芸場	計画	13回	13日	2,814人	88.9%	3,165	
演芸場 合計	53 公演 (計画:54 公演)	実績	260回	259日	28,405人	38.3%	74,200	72.6%
		計画	262回	261日	39,118人	60.0%	65,160	
浪曲名人会	1 公演(計画:1 公演)	実績	1回	1日	510人	70.7%	721	85.0%
	文楽劇場	計画	1回	1日	600人	79.7%	753	
浪曲錬声会	1 公演(計画:1 公演)	実績	2回	1日	143人	48.6%	294	89.4%
	文楽劇場小ホール	計画	2回	1日	160人	81.6%	196	
上方 演芸特選会	5 公演(計画:6 公演)	実績	20回	20日	1,986人	67.6%	2,940	78.8%
	文楽劇場小ホール	計画	24回	24日	2,520人	81.7%	3,084	
文楽劇場 合計	7 公演 (計画:8 公演)	実績	23回	22日	2,639人	66.7%	3,955	80.5%
		計画	27回	26日	3,280人	81.3%	4,033	
合計	60 公演 (計画:62 公演)	実績	283回	281日	31,044人	39.7%	78,155	73.2%
		計画	289回	287日	42,398人	61.3%	69,193	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・大衆芸能公演専門委員会について、第1回は書面開催とし、第2回は3/29に開催した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
9公演 9回	2,136人	1,254人	1,211人	1,178人	58.7%	97.3%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・演芸場では、7月には昨年度感染症の感染拡大の影響で実施できなかった「親子で楽しむ演芸会」を2年ぶりに開催した。前売り期間中に国等の要請により販売制限をしたが、総席数の89.7%の入場率を得て多くの親子に演芸の楽しみを届けることができた。
- ・9月の普段寄席では観られない様々な演芸を上演する特別企画公演の公演日程に合わせて、日本博事業として演芸をより身近に体験できる「演芸レクチャーデモンストレーション」を日本演芸家連合の協力を得て開催し、感染症対策に留意しつつ2日間8コースで106人の参加と96.9%の高い満足回答を得た。
- ・10月には特別企画公演「五代目圓楽十三回忌追善公演五代目圓楽一門会」を開催した。
- ・11月には文化庁芸術祭主催公演として「国立名人会～笑いを忘れない～」を開催し、コロナ禍において社会に笑いを届ける企画で好評を得た。
- ・「若手新人公演」では、年度計画どおり公演を企画して花形演芸大賞及び金賞の受賞資格を有する17組

のレギュラーを中心に公演を計画どおり実施し、花形演芸大賞・金賞・銀賞受賞者を選出することができた。

- ・「国立名人会」「新春名人会」「特別企画公演」を計画どおり実施し、国立演芸場ならではの企画として行っている、「正蔵 正蔵を語る」、新作落語の会、「圓朝に挑む！」では観客にたっぷり楽しんでいただくことができた。
- ・3月定席(中席)では、平成16年(2004)9月以来16年ぶりとなる講談をトリとした企画において、入場率97.2%となる多くの観客に公演を楽しんでいただく大きな成果をあげることができた。
- ・公演来場者へのサービスの充実として、新型コロナウイルス感染症対策により劇場ロビー及び客席での飲食が禁止されている中、食事を希望する団体に対して大・小劇場レストラン利用の取り次ぎを行い、団体の利用促進に繋げた。(利用団体：4件583人)
- ・文楽劇場では、5月の「浪曲錬声会」が前年度に続き緊急事態宣言下で公演中止となったが、関係者の協力により同内容の公演を9月に実施することができた。
- ・関西浪曲界の第一人者を揃えた令和4年2月の「浪曲名人会」では、平成29年以来休演が続いていた三原佐知子の待望の舞台復帰が実現し、観客アンケートは高い満足率となった。
- ・上方演芸特選会は、感染症対策を行いながら、落語、漫才、浪曲、マジックなど多彩なプログラムを実施し、令和3年度の文楽劇場公演の中では比較的安定した集客を実現できた。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(演芸場11月「国立名人会～笑いを忘れない～」)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(演芸場10月・11月の7公演、文楽劇場11月上方演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場全公演)
- ・beyond2020プログラム認証事業(全公演)
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため4月国立名人会は中止としたが、無観客で上演し記録収録を行った。
- ・5月定席(中席)は、4/25に発出された緊急事態宣言を受け、5/11の上演を中止とした。

定席公演(上席・中席)

《制作方針》

公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、浪曲、奇術、太神楽曲芸、漫才、コント、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

昨年度に引き続き感染症拡大防止のため、上演時間を短縮するなどの対応をして上演する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月上席	演芸場	4/1 ~4/10	実績	10 回	10 日	594 人	30.5%	1,950	86.1%
			計画	10 回	10 日	690 人	35.4%	1,950	
4 月中席	演芸場	4/11 ~4/20/	実績	10 回	10 日	648 人	33.2%	1,950	64.8%
			計画	10 回	10 日	1,000 人	51.3%	1,950	
5 月中席 ※一部公演中止	演芸場	5/11/ ~5/20	実績	9 回	9 日	1,188 人	45.2%	2,628	100.0%
			計画	9 回	9 日	1,188 人	67.7%	1,755	
6 月上席	演芸場	6/1/ ~6/10	実績	10 回	10 日	406 人	13.9%	2,920	49.5%
			計画	10 回	10 日	820 人	42.1%	1,950	
6 月中席	演芸場	6/11 ~6/20	実績	10 回	10 日	316 人	10.8%	2,920	45.8%
			計画	10 回	10 日	690 人	35.4%	1,950	
7 月上席	演芸場	7/2 ~7/10	実績	9 回	9 日	301 人	11.5%	2,628	26.2%
			計画	9 回	9 日	1,150 人	65.5%	1,755	
7 月中席	演芸場	7/11 ~7/20	実績	10 回	10 日	661 人	22.6%	2,920	78.7%
			計画	10 回	10 日	840 人	43.1%	1,950	
8 月上席	演芸場	8/1 ~8/10	実績	10 回	10 日	635 人	21.7%	2,920	59.3%
			計画	10 回	10 日	1,070 人	54.9%	1,950	
8 月中席	演芸場	8/11 ~8/20	実績	10 回	10 日	1,386 人	47.5%	2,920	82.0%
			計画	10 回	10 日	1,690 人	86.7%	1,950	
9 月上席	演芸場	9/1 ~9/10	実績	10 回	10 日	1,013 人	34.7%	2,920	131.6%
			計画	10 回	10 日	770 人	39.5%	1,950	
9 月中席	演芸場	9/11 ~9/20	実績	10 回	10 日	601 人	20.6%	2,920	71.5%
			計画	10 回	10 日	840 人	43.1%	1,950	
10 月上席	演芸場	10/1 ~10/10	実績	10 回	10 日	405 人	13.9%	2,920	37.8%
			計画	10 回	10 日	1,071 人	36.7%	2,920	
10 月中席	演芸場	10/11 ~10/20	実績	10 回	10 日	522 人	17.9%	2,920	41.3%
			計画	10 回	10 日	1,265 人	43.3%	2,920	
11 月上席	演芸場	11/1 ~11/10	実績	10 回	10 日	1,291 人	44.2%	2,920	69.8%
			計画	10 回	10 日	1,849 人	63.3%	2,920	
11 月中席	演芸場	11/11 ~11/20	実績	10 回	10 日	531 人	18.2%	2,920	39.0%
			計画	10 回	10 日	1,363 人	46.7%	2,920	
12 月上席	演芸場	12/1 ~12/10	実績	10 回	10 日	409 人	14.0%	2,920	30.0%
			計画	10 回	10 日	1,363 人	46.7%	2,920	
12 月中席	演芸場	12/11 ~12/20	実績	10 回	10 日	1,611 人	55.2%	2,920	118.2%
			計画	10 回	10 日	1,363 人	46.7%	2,920	
1 月中席	演芸場	1/11 ~1/20	実績	10 回	10 日	1,986 人	66.2%	3,000	82.8%
			計画	10 回	10 日	2,400 人	80.0%	3,000	
2 月上席	演芸場	2/1 ~2/10	実績	10 回	10 日	320 人	10.7%	3,000	16.8%
			計画	10 回	10 日	1,900 人	63.3%	3,000	
2 月中席	演芸場	2/11	実績	10 回	10 日	828 人	27.6%	3,000	29.6%

		~2/20	計画	10回	10日	2,800人	93.3%	3,000	
3月上旬席	演芸場	3/1	実績	10回	10日	605人	20.2%	3,000	43.2%
		~3/10	計画	10回	10日	1,400人	46.7%	3,000	
3月中席	演芸場	3/11	実績	10回	10日	2,917人	97.2%	3,000	243.1%
		~3/20	計画	10回	10日	1,200人	40.0%	3,000	
定席【合計】 22公演 (計画:22公演)			実績	218回	218日	19,174人	30.9%	62,116	66.8%
			計画	218回	218日	28,722人	53.6%	53,580	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4月上旬席	演芸場	4/1	実績	10回	10日	594人	30.5%	1,950	86.1%
		~4/10	計画	10回	10日	690人	35.4%	1,950	
4月中席	演芸場	4/11	実績	10回	10日	648人	33.2%	1,950	64.8%
		~4/20/	計画	10回	10日	1,000人	51.3%	1,950	
5月中席 ※一部公演中止	演芸場	5/11/	実績	9回	9日	1,188人	45.2%	2,628	90.0%
		~5/20	計画	10回	10日	1,320人	67.7%	1,950	
6月上旬席	演芸場	6/1/	実績	10回	10日	406人	13.9%	2,920	49.5%
		~6/10	計画	10回	10日	820人	42.1%	1,950	
6月中席	演芸場	6/11	実績	10回	10日	316人	10.8%	2,920	45.8%
		~6/20	計画	10回	10日	690人	35.4%	1,950	
7月上旬席	演芸場	7/2	実績	9回	9日	301人	11.5%	2,628	26.2%
		~7/10	計画	9回	9日	1,150人	65.5%	1,755	
7月中席	演芸場	7/11	実績	10回	10日	661人	22.6%	2,920	78.7%
		~7/20	計画	10回	10日	840人	43.1%	1,950	
8月上旬席	演芸場	8/1	実績	10回	10日	635人	21.7%	2,920	59.3%
		~8/10	計画	10回	10日	1,070人	54.9%	1,950	
8月中席	演芸場	8/11	実績	10回	10日	1,386人	47.5%	2,920	82.0%
		~8/20	計画	10回	10日	1,690人	86.7%	1,950	
9月上旬席	演芸場	9/1	実績	10回	10日	1,013人	34.7%	2,920	131.6%
		~9/10	計画	10回	10日	770人	39.5%	1,950	
9月中席	演芸場	9/11	実績	10回	10日	601人	20.6%	2,920	71.5%
		~9/20	計画	10回	10日	840人	43.1%	1,950	
10月上旬席	演芸場	10/1	実績	10回	10日	405人	13.9%	2,920	36.8%
		~10/10	計画	10回	10日	1,100人	36.7%	3,000	
10月中席	演芸場	10/11	実績	10回	10日	522人	17.9%	2,920	40.2%
		~10/20	計画	10回	10日	1,300人	43.3%	3,000	
11月上旬席	演芸場	11/1	実績	10回	10日	1,291人	44.2%	2,920	67.9%
		~11/10	計画	10回	10日	1,900人	63.3%	3,000	
11月中席	演芸場	11/11	実績	10回	10日	531人	18.2%	2,920	37.9%
		~11/20	計画	10回	10日	1,400人	46.7%	3,000	
12月上旬席	演芸場	12/1	実績	10回	10日	409人	14.0%	2,920	29.2%
		~12/10	計画	10回	10日	1,400人	46.7%	3,000	
12月中席	演芸場	12/11	実績	10回	10日	1,611人	55.2%	2,920	115.1%
		~12/20	計画	10回	10日	1,400人	46.7%	3,000	
1月中席	演芸場	1/11	実績	10回	10日	1,986人	66.2%	3,000	82.8%
		~1/20	計画	10回	10日	2,400人	80.0%	3,000	

2 月上旬	演芸場	2/1 ~2/10	実績	10 回	10 日	320 人	10.7%	3,000	16.8%
			計画	10 回	10 日	1,900 人	63.3%	3,000	
2 月中席	演芸場	2/11 ~2/20	実績	10 回	10 日	828 人	27.6%	3,000	29.6%
			計画	10 回	10 日	2,800 人	93.3%	3,000	
3 月上旬	演芸場	3/1 ~3/10	実績	10 回	10 日	605 人	20.2%	3,000	43.2%
			計画	10 回	10 日	1,400 人	46.7%	3,000	
3 月中席	演芸場	3/11 ~3/20	実績	10 回	10 日	2,917 人	97.2%	3,000	243.1%
			計画	10 回	10 日	1,200 人	40.0%	3,000	
定席【合計】 22 公演 (計画:22 公演)			実績	218 回	218 日	19,174 人	30.9%	62,116	65.9%
			計画	219 回	219 日	29,080 人	53.6%	54,255	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・ 5 月定席(中席)は、4/25 に発出された緊急事態宣言を受け、5/11 の上演を中止とした。
- ・ 令和 3 年度(第 76 回)文化庁芸術祭協賛公演(10 月・11 月定席)

若手新人公演(花形演芸会)

《制作方針》

各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

昨年度に引き続き感染症拡大防止のため、上演時間を短縮するなどの対応をして上演する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 505 回)	演芸場	4/24	実績	1 回	1 日	182 人	62.3%	292	107.1%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
5 月花形演芸会(第 506 回)	演芸場	5/22	実績	1 回	1 日	167 人	57.2%	292	98.2%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
6 月花形演芸会(第 507 回)	演芸場	6/26	実績	1 回	1 日	234 人	80.1%	292	137.6%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
7 月花形演芸会(第 508 回)	演芸場	7/25	実績	1 回	1 日	264 人	90.4%	292	155.3%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
8 月花形演芸会(第 509 回)	演芸場	8/21	実績	1 回	1 日	136 人	90.7%	150	103.8%
			計画	1 回	1 日	131 人	87.3%	150	
9 月花形演芸会(第 510 回)	演芸場	9/18	実績	1 回	1 日	229 人	78.4%	292	134.7%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
10 月花形演芸会(第 511 回)	演芸場	10/23	実績	1 回	1 日	276 人	94.5%	292	98.6%
			計画	1 回	1 日	280 人	95.9%	292	
11 月花形演芸会(第 512 回)	演芸場	11/27	実績	1 回	1 日	281 人	96.2%	292	100.4%
			計画	1 回	1 日	280 人	95.9%	292	
12 月花形演芸会(第 513 回)	演芸場	12/18	実績	1 回	1 日	281 人	96.2%	292	100.4%
			計画	1 回	1 日	280 人	95.9%	292	
1 月花形演芸会(第 514 回)	演芸場	1/15	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	101.4%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月花形演芸会(第 515 回)	演芸場	2/23	実績	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	100.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
3 月花形演芸会(第 516 回)	演芸場	3/5	実績	1 回	1 日	222 人	74.0%	300	77.1%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
花形演芸会【合計】 12 公演 (計画:12 公演)			実績	12 回	12 日	2,852 人	84.2%	3,386	106.2%
			計画	12 回	12 日	2,685 人	92.6%	2,901	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
4 月花形演芸会(第 505 回)	演芸場	4/24	実績	1 回	1 日	182 人	62.3%	292	107.1%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
5 月花形演芸会(第 506 回)	演芸場	5/22	実績	1 回	1 日	167 人	57.2%	292	98.2%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
6 月花形演芸会(第 507 回)	演芸場	6/26	実績	1 回	1 日	234 人	80.1%	292	137.6%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
7 月花形演芸会(第 508 回)	演芸場	7/25	実績	1 回	1 日	264 人	90.4%	292	155.3%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
8 月花形演芸会(第 509 回)	演芸場	8/21	実績	1 回	1 日	136 人	90.7%	150	80.0%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
9 月花形演芸会(第 510 回)	演芸場	9/18	実績	1 回	1 日	229 人	78.4%	292	134.7%
			計画	1 回	1 日	170 人	87.2%	195	
10 月花形演芸会(第 511 回)	演芸場	10/23	実績	1 回	1 日	276 人	94.5%	292	95.8%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
11 月花形演芸会(第 512 回)	演芸場	11/27	実績	1 回	1 日	281 人	96.2%	292	97.6%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
12 月花形演芸会(第 513 回)	演芸場	12/18	実績	1 回	1 日	281 人	96.2%	292	97.6%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
1 月花形演芸会(第 514 回)	演芸場	1/15	実績	1 回	1 日	292 人	97.3%	300	101.4%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
2 月花形演芸会(第 515 回)	演芸場	2/23	実績	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	100.0%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
3 月花形演芸会(第 516 回)	演芸場	3/5	実績	1 回	1 日	222 人	74.0%	300	77.1%
			計画	1 回	1 日	288 人	96.0%	300	
花形演芸会【合計】12 公演 (計画:12 公演)			実績	12 回	12 日	2,852 人	84.2%	3,386	103.8%
			計画	12 回	12 日	2,748 人	92.5%	2,970	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- 令和3年度レギュラー出演者(50音順)
入船亭小辰(落語)、鏡味仙成(曲芸)、桂小すみ(音曲)、桂雀太(上方落語)、桂福丸(上方落語)、桂宮治(落語)、神田伯山(講談)、古今亭志ん五(落語)、春風亭昇也(落語)、笑福亭喬介(上方落語)、笑福亭べ瓶(上方落語)、瀧川鯉八(落語)、母心(漫才)、まんじゅう大帝国(漫才)、鈴々舎馬るこ(落語)
- 令和3年度花形演芸大賞の審査を実施し、審査結果を公表した。
大賞：桂小すみ(音曲)
金賞：神田伯山(講談)、瀧川鯉八(落語)、古今亭志ん五(落語)、笑福亭べ瓶(上方落語)
銀賞：柳家わさび(落語)、柳家崑三郎(落語)、桂華紋(上方落語)、玉川大福(浪曲)

新春国立名人会／国立名人会

《制作方針》

新春国立名人会では、落語をはじめ、各演芸の重鎮や人気者が日替りで出演するなど、初春に相応しく豪華で華やかな公演を実施する。

国立名人会は、落語を中心に選りすぐりの出演者の十八番や普段の寄席ではなかなか演じられない珍しい演目を選定するとともに、高座時間を長めに設定するなど、大衆芸能の醍醐味をじっくり味わえる公演を実施する。

昨年度に引き続き感染症拡大防止のため、上演時間を短縮するなどの対応をして上演する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1/2 ~1/7	実績	7回	6日	1,828人	87.0%	2,100	90.7%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	7回	6日	1,828人	87.0%	2,100	90.7%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
4月国立名人会(第446回) ※公演中止	演芸場	4/25	実績						
			計画						
5月国立名人会(第447回)	演芸場	5/23	実績	1回	1日	201人	68.8%	292	118.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
6月国立名人会(第448回)	演芸場	6/27	実績	1回	1日	235人	80.5%	292	138.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
7月国立名人会(第449回)	演芸場	7/17	実績	1回	1日	164人	56.2%	292	96.5%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
8月国立名人会(第450回)	演芸場	8/22	実績	1回	1日	137人	91.3%	150	104.6%
			計画	1回	1日	131人	87.3%	150	
9月国立名人会(第451回)	演芸場	9/23	実績	1回	1日	269人	92.1%	292	158.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
10月国立名人会(第452回)	演芸場	10/24	実績	1回	1日	281人	96.2%	292	100.4%
			計画	1回	1日	280人	95.9%	292	
11月国立名人会(第453回)	演芸場	11/21	実績	1回	1日	219人	75.0%	292	78.2%
			計画	1回	1日	280人	95.9%	292	
12月国立名人会(第454回)	演芸場	12/4	実績	1回	1日	214人	73.3%	292	76.4%
			計画	1回	1日	280人	95.9%	292	
2月国立名人会(第455回)	演芸場	2/27	実績	1回	1日	225人	75.0%	300	78.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
3月国立名人会(第456回)	演芸場	3/21	実績	1回	1日	186人	62.0%	300	64.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
国立名人会【小計】10公演 (計画:10公演)			実績	10回	10日	2,131人	76.3%	2,794	95.7%
			計画	10回	10日	2,227人	92.6%	2,406	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
新春国立名人会	演芸場	1/2 ~1/7	実績	7回	6日	1,828人	87.0%	2,100	90.7%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	7回	6日	1,828人	87.0%	2,100	90.7%
			計画	7回	6日	2,016人	96.0%	2,100	
4月国立名人会(第446回) ※公演中止	演芸場	4/25	実績						
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
5月国立名人会(第447回)	演芸場	5/23	実績	1回	1日	201人	68.8%	292	118.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
6月国立名人会(第448回)	演芸場	6/27	実績	1回	1日	235人	80.5%	292	138.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
7月国立名人会(第449回)	演芸場	7/17	実績	1回	1日	164人	56.2%	292	96.5%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
8月国立名人会(第450回)	演芸場	8/22	実績	1回	1日	137人	91.3%	150	80.6%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	

9月国立名人会(第451回)	演芸場	9/23	実績	1回	1日	269人	92.1%	292	158.2%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
10月国立名人会(第452回)	演芸場	10/24	実績	1回	1日	281人	96.2%	292	97.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
11月国立名人会(第453回)	演芸場	11/21	実績	1回	1日	219人	75.0%	292	76.0%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月国立名人会(第454回)	演芸場	12/4	実績	1回	1日	214人	73.3%	292	74.3%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月国立名人会(第455回)	演芸場	2/27	実績	1回	1日	225人	75.0%	300	78.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
3月国立名人会(第456回)	演芸場	3/21	実績	1回	1日	186人	62.0%	300	64.6%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
国立名人会【小計】10公演 (計画:11公演)			実績	10回	10日	2,131人	76.3%	2,794	86.6%
			計画	11回	11日	2,460人	92.1%	2,670	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月国立名人会)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(11月国立名人会)
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため4月国立名人会は中止としたが、無観客で上演し記録収録を行った。

特別企画公演

《制作方針》

公演ごとに独自のテーマや分野を設定し、圓朝作品に挑む会や花形演芸大賞受賞者の会、立川流落語会、五代目圓楽一門会等、他の寄席では見られない企画性の高い公演を実施する。日本演芸家連合の制作協力により昨年に引き続いて開催する特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」では、公演に先だって同連合の実演家を講師とする関連企画「演芸レクチャーデモンストラーション楽しもう演芸の世界」を実施し、多くの方に様々な演芸に親しむ機会を提供する。夏休み期間中には親子向けに、寄席という場所及び寄席で上演される大衆芸能を楽しむための解説付き入門公演を実施する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月特別企画 立川流落語会 落語立川流 真打昇進披露公演	演芸場	5/28 ～5/30	実績	3回	3日	426人	48.6%	876	83.5%
			計画	3回	3日	510人	87.2%	585	
6月特別企画 花形演芸会スペシャル～受賞者の会～	演芸場	6/25	実績	1回	1日	285人	97.6%	292	167.6%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/24	実績	1回	1日	262人	89.7%	292	154.1%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
9月特別企画 「演芸大にぎわい～東から西から～」	演芸場	9/25 ～9/26	実績	2回	2日	236人	40.4%	584	69.4%
			計画	2回	2日	340人	87.2%	390	
10月特別企画 「五代目圓楽一門会」	演芸場	10/29 ～10/31	実績	3回	3日	498人	56.8%	876	67.3%
			計画	3回	3日	740人	84.5%	876	
11月特別企画 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11/23	実績	1回	1日	278人	95.2%	292	99.3%
			計画	1回	1日	280人	95.9%	292	
12月特別企画 「年の瀬に新作を聴く会」	演芸場	12/23	実績	1回	1日	282人	96.6%	292	100.7%
			計画	1回	1日	280人	95.9%	292	
2月特別企画 「圓朝に挑む！」	演芸場	2/26	実績	1回	1日	153人	51.0%	300	53.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
特別企画【合計】8公演 (計画:8公演)			実績	13回	13日	2,420人	63.6%	3,804	87.1%
			計画	13回	13日	2,778人	88.9%	3,125	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
5月特別企画 立川流落語会 落語立川流 真打昇進披露公演	演芸場	5/28 ~5/30	実績	3回	3日	426人	48.6%	876	83.5%
			計画	3回	3日	510人	87.2%	585	
6月特別企画 花形演芸会スペシャル~受賞者の会~	演芸場	6/25	実績	1回	1日	285人	97.6%	292	167.6%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
7月特別企画 親子で楽しむ演芸会	演芸場	7/24	実績	1回	1日	262人	89.7%	292	154.1%
			計画	1回	1日	170人	87.2%	195	
9月特別企画 「演芸大にぎわい~東から西から~」	演芸場	9/25 ~9/26	実績	2回	2日	236人	40.4%	584	69.4%
			計画	2回	2日	340人	87.2%	390	
10月特別企画 「五代目圓楽一門会」	演芸場	10/29 ~10/31	実績	3回	3日	498人	56.8%	876	65.5%
			計画	3回	3日	760人	84.4%	900	
11月特別企画 「正蔵 正蔵を語る」	演芸場	11/23	実績	1回	1日	278人	95.2%	292	96.5%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
12月特別企画 「年の瀬に新作を聴く会」	演芸場	12/23	実績	1回	1日	282人	96.6%	292	97.9%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
2月特別企画 「圓朝に挑む！」	演芸場	2/26	実績	1回	1日	153人	51.0%	300	53.1%
			計画	1回	1日	288人	96.0%	300	
特別企画【合計】 8公演(計画:8公演)			実績	13回	13日	2,420人	63.6%	3,804	86.0%
			計画	13回	13日	2,814人	88.9%	3,165	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月「五代目圓楽一門会」、11月「正蔵 正蔵を語る」)

浪曲名人会/浪曲錬声会/上方演芸特選会

《制作方針》

浪曲名人会は、関西を代表する浪曲師が顔を揃える恒例の公演。各出演者が十八番や名曲を披露し、浪曲の魅力を存分に堪能できる公演とする。

浪曲錬声会は、次代を担う若手浪曲師の「語りを向上させる」ことを目的に、4名の若手浪曲師が2曲ずつ口演する構成で、日頃の成果を披露し今後の飛躍に繋がる公演とする。

上方演芸特選会は、上方演芸4団体の総力を結集し、落語・漫才・浪曲・太神楽・講談等、多彩で昔懐かしい寄席の雰囲気を実現した温かみのある寄席づくりを目指す。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
浪曲名人会	文楽劇場	2/19	実績	1回	1日	510人	70.7%	721	88.7%
			計画	1回	1日	575人	79.8%	721	
【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	510人	70.7%	721	88.7%
			計画	1回	1日	575人	79.8%	721	
浪曲錬声会 ※実施時期変更	文楽劇場 小ホール	9/11	実績	2回	1日	143人	48.6%	294	89.4%
			計画	2回	1日	160人	81.6%	196	
【小計】 1公演 (計画1:公演)			実績	2回	1日	143人	48.6%	294	89.4%
			計画	2回	1日	160人	81.6%	196	
5月上旬方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/19 ~5/22	実績	/	/	/	/	/	/
			計画	/	/	/	/	/	/
7月上旬方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7/21 ~7/24	実績	4回	4日	365人	62.1%	588	107.4%
			計画	4回	4日	340人	86.7%	392	

9 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/15 ~9/18	実績	4 回	4 日	366 人	62.2%	588	107.6%
			計画	4 回	4 日	340 人	86.7%	392	
11 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/17 ~11/20	実績	4 回	4 日	446 人	75.9%	588	96.5%
			計画	4 回	4 日	462 人	78.6%	588	
1 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/19 ~1/22	実績	4 回	4 日	464 人	78.9%	588	100.4%
			計画	4 回	4 日	462 人	78.6%	588	
3 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/9 ~3/12	実績	4 回	4 日	345 人	58.7%	588	74.7%
			計画	4 回	4 日	462 人	78.6%	588	
【小 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	20 回	20 日	1,986 人	67.6%	2,940	96.1%
			計画	20 回	20 日	2,066 人	81.1%	2,548	
大衆芸能(文楽劇場) 【合計】 7 公演 (計画:7 公演)			実績	23 回	22 日	2,639 人	66.7%	3,955	94.2%
			計画	23 回	22 日	2,801 人	80.8%	3,465	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注 1) × 販売制限の補正率(注 2)

(注 1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注 2)販売制限の補正率 = 実際に販売した 1 回当たりの満席数 / 当初計画策定時の 1 回当たりの満席数

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
浪曲名人会	文楽劇場	2/19	実績	1 回	1 日	510 人	70.7%	721	85.0%
			計画	1 回	1 日	600 人	79.7%	753	
【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	1 回	1 日	510 人	70.7%	721	85.0%
			計画	1 回	1 日	600 人	79.7%	753	
浪曲錬声会 ※実施時期変更	文楽劇場 小ホール	9/11	実績	2 回	1 日	143 人	48.6%	294	89.4%
			計画	2 回	1 日	160 人	81.6%	196	
【小 計】 1 公演 (計画 1:公演)			実績	2 回	1 日	143 人	48.6%	294	89.4%
			計画	2 回	1 日	160 人	81.6%	196	
5 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	5/19 ~5/22	実績						
			計画	4 回	4 日	340 人	86.7%	392	
7 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	7/21 ~7/24	実績	4 回	4 日	365 人	62.1%	588	107.4%
			計画	4 回	4 日	340 人	86.7%	392	
9 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	9/15 ~9/18	実績	4 回	4 日	366 人	62.2%	588	107.6%
			計画	4 回	4 日	340 人	86.7%	392	
11 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	11/17 ~11/20	実績	4 回	4 日	446 人	75.9%	588	89.2%
			計画	4 回	4 日	500 人	78.6%	636	
1 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	1/19 ~1/22	実績	4 回	4 日	464 人	78.9%	588	92.8%
			計画	4 回	4 日	500 人	78.6%	636	
3 月上方演芸特選会	文楽劇場 小ホール	3/9 ~3/12	実績	4 回	4 日	345 人	58.7%	588	69.0%
			計画	4 回	4 日	500 人	78.6%	636	
【小 計】 5 公演 (計画:6 公演)			実績	20 回	20 日	1,986 人	67.6%	2,940	78.8%
			計画	24 回	24 日	2,520 人	81.7%	3,084	
大衆芸能(文楽劇場) 【合計】 7 公演 (計画:8 公演)			実績	23 回	22 日	2,639 人	66.7%	3,955	80.5%
			計画	27 回	26 日	3,280 人	81.3%	4,033	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和 3 年度(第 76 回)文化庁芸術祭協賛公演(11 月上方演芸特選会)
- ・関西元気文化圏共催事業(全公演)
- ・「浪曲名人会」では、動画ストーリーミングサービスを用い、インターネット上で公演記録映像の有料動画配信を行った。

⑤ 能 楽

《制作方針》

令和3年度は、令和2年2月から6月にかけてコロナウイルス感染症拡大に伴って中止を余儀なくされた公演の再演を織り込む形での番組制作となった。殊に4月から6月及び3月の番組編成に顕著となっている。

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」などを実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに年度末には、〈能・狂言を再発見する〉として、狂言「袴裂」・復曲能「岩船」の初演を行う。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和3年度は、狂言「寝音曲」、能「殺生石」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に解説を付ける。また前年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定例公演	22 公演 (計画:22 公演)	実績	22 回	22 日	11,733 人	87.0%	13,490	94.5%
		計画	22 回	22 日	12,410 人	92.5%	13,414	
普及公演	10 公演 (計画:10 公演)	実績	10 回	10 日	5,880 人	95.5%	6,156	98.8%
		計画	10 回	10 日	5,952 人	97.3%	6,118	
企画公演	15 公演 (計画:15 公演)	実績	17 回	16 日	9,217 人	89.0%	10,355	95.0%
		計画	17 回	16 日	9,706 人	94.1%	10,317	
鑑賞教室等	2 公演 (計画:2 公演)	実績	11 回	6 日	4,120 人	63.2%	6,517	65.8%
		計画	11 回	6 日	6,265 人	96.1%	6,517	
合計	49 公演 (計画:49 公演)	実績	60 回	54 日	30,950 人	84.8%	36,518	90.1%
		計画	60 回	54 日	34,333 人	94.4%	36,366	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※6月能楽鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,183 枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、鑑賞教室等 100.6%、合計 96.5%である。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

区分名	公演数 劇場	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
定例公演	22 公演 (計画:22 公演)	実績	22 回	22 日	11,733 人	87.0%	13,490	94.5%
		計画	22 回	22 日	12,410 人	92.5%	13,414	
普及公演	10 公演 (計画:11 公演)	実績	10 回	10 日	5,880 人	95.5%	6,156	90.1%
		計画	11 回	11 日	6,525 人	97.3%	6,707	
企画公演	15 公演 (計画:16 公演)	実績	17 回	16 日	9,217 人	89.0%	10,355	89.8%
		計画	18 回	17 日	10,260 人	94.1%	10,906	
鑑賞教室等	2 公演	実績	11 回	6 日	4,120 人	63.2%	6,517	65.8%

	(計画:2公演)	計画	11回	6日	6,265人	96.1%	6,517	
合計	49公演 (計画:51公演)	実績	60回	54日	30,950人	84.8%	36,518	87.3%
		計画	62回	56日	35,460人	94.4%	37,544	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6月能楽鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,183枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、鑑賞教室等100.6%、合計93.4%である。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催。(2月2日、2回目は書面審議)
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。
 - ◇国立能楽堂の企画として定着した感のある異ジャンルの共演は、能狂言を相対化し視点を広げるためにも、今後とも継続してほしい。
 - ◇「岩船」は脇能として見た時に、たいへん珍しく、また古演出の復活上演として意義があるものであった。国立能楽堂が新作・復曲、あるいは新演出に携わることは、能楽の活性化のために意義のあることで、(中略)これからも新しい企画を期待したい。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
7公演 7回	3,659人	1,475人	1,475人	1,430人	40.3%	96.9%

※うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・令和2年2月から6月にかけて新型コロナウイルス感染症拡大に伴って中止を余儀なくされた公演を再演することができた。
- ・4月企画公演〈日本人と自然〉では、復曲能「泰山木」観世宗家、金剛宗家の共演だけでなく、観世宗家が金剛家所蔵の面を、金剛宗家が観世家所蔵の面を用いるなど、大変貴重な上演機会となった。
- ・5月狂言企画公演では、国立能楽堂制作による新作「鮎」を含む、生き物をテーマとした曲種の異なる狂言3番が並び、月間特集「日本人と自然 草木成仏」の下、バラエティに富んだ内容となった。
- ・5月特別公演では能「半部」を初めて「立花」の小書で上演することができた。
- ・7月企画公演〈安倍晴明生誕1100年〉では能「鉄輪」とともに、説教節の上演を初めて行った。今なお人気の高い安倍晴明の姿を芸能の視点から多角的に捉えることのできる好機となった。
- ・11月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉ではほの暗い明かりの下、作品を楽しむ催し。通常とは異なる環境で能・狂言を味わう場を提供した。
- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を6月の能楽鑑賞教室から独立させ、10月に実施し、日本文化の発信に貢献した。
- ・12月企画公演〈狂言と落語・講談〉は、「特集・在原業平」として多様な芸能で業平ゆかりの作品をご覧いただくもの。在原業平の様々な描かれ方と、それぞれの芸能の特色を一度に味わえる、密度の濃い内容となった。
- ・3月特別企画公演〈能・狂言を再発見する〉は平成24年から取り組んできた「再発見する」シリーズの一環。前回までは能のみを扱ってきたが、今回はその枠を狂言にも押し広げ、大きな成果を挙げた。
- ・4・5・6月の〈月間特集・日本人と自然〉や2月の〈月間特集・絵画と能・狂言〉では、効果的に月間特集を組むことで公演に連続性や関連性を持たせ、観客の注目を集めることができた。
- ・能「半部 立花」(5月特別公演)・能「海人 変成男子」(12月定例公演)・能「当麻 二段返」(3月定例公演)等の稀な小書による上演、「泰山木」(4月企画公演)・「岩船」(3月特別企画公演)といった復曲能、新制作の狂言「袴裂」などを積極的に取り上げて、レパートリーの拡充を推進した。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(10月 Discover NOH & KYOGEN)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月実施の8公演)
- ・「日本博」参画プロジェクト(4・5・6月月間特集「日本人と自然」、7・8月企画公演、「Discover NOH & KYOGEN」、特別企画公演〈能・狂言を再発見する〉、受託事業「東日本大震災復興祈念事業復曲能「名取ノ老女」狂言「舟渡賀」」会場：名取市文化会館)
- ・4月29日企画公演及び5月8日普及公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、

感染症の拡大防止のため中止。無観客収録を行い、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した(日本語及び英語)。

- 4月22日企画公演、5月26日狂言企画公演は日本語及び英語、「Discover NOH & KYOGEN」は英語による、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した。
- 3月特別企画公演にあたっては、令和2年3月に無観客収録を行った映像をもとにプロモーション映像を作成、「日本博チャンネル」及び東京国立博物館で開催された特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」の能楽ブース内で公開した。
- 座席字幕表示装置を活用して、11月企画公演〈蝋燭の灯りによる〉及び中止公演を除く全公演で、日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- 「Discover NOH & KYOGEN」では日本語・英語に加え、中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語の字幕も提供し、多言語化に対応した。

定例公演

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスに配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。原則として月2回のペースで上演し、年間を通して能・狂言のもつ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

《公演実績》(年度当初の公演計画) ※新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限なし

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「土筆」、能「熊野 村雨留」	4/7	実績	1回	1日	521人	88.5%	589	95.6%
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 狂言「栗焼」、能「小督」	4/16	実績	1回	1日	405人	68.8%	589	74.3%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「孫聳」、能「六浦」	5/12	実績	1回	1日	393人	66.7%	589	72.1%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「蝸牛」、能「西行桜 素囃子」	5/21	実績	1回	1日	507人	86.1%	589	93.0%
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「花盗人」、能「吉野天人 天人揃」	6/2	実績	1回	1日	462人	78.4%	589	84.8%
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 狂言「箕被」、能「松風」	6/18	実績	1回	1日	448人	76.1%	589	82.2%
狂言「咲嘩」、能「東方朔」	7/7	実績	1回	1日	576人	97.8%	589	105.7%
狂言「隠笠」、能「玉葛」	7/14	実績	1回	1日	526人	89.3%	589	96.5%
狂言「因幡堂」、能「藤戸」	9/8	実績	1回	1日	594人	94.7%	627	109.0%
狂言「合柿」、能「絃上 クツロギ・舞返」	9/17	実績	1回	1日	530人	84.5%	627	97.2%
狂言「蟹山伏」、能「仏原」	10/6	実績	1回	1日	613人	97.8%	627	105.7%
狂言「小傘」、能「春栄」	10/15	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	107.6%
狂言「無布施経」、能「忠度」	11/10	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	106.9%
演出の様々な形 狂言「成上り」、能「海士 懐中之舞」	11/19	実績	1回	1日	592人	94.4%	627	102.1%
狂言「樽聳」、能「代主」	12/1	実績	1回	1日	603人	96.2%	627	104.0%
演出の様々な形 狂言「成上り」、能「海人 変成男子」	12/17	実績	1回	1日	531人	84.7%	627	91.6%
能「松尾」、狂言「筑紫奥」	1/5	実績	1回	1日	531人	84.7%	627	91.6%
狂言「文荷」、能「千手」	1/21	実績	1回	1日	549人	87.6%	627	94.7%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「簸屑」、能「室君」	2/2	実績	1回	1日	485人	77.4%	627	83.6%
月間特集 絵画と能・狂言 狂言「文山賊」、能「昭君」	2/18	実績	1回	1日	471人	75.1%	627	81.2%
狂言「牛馬」、能「朝長」	3/2	実績	1回	1日	532人	84.8%	627	91.7%
狂言「鬼瓦」、能「当麻 二段返」	3/18	実績	1回	1日	620人	98.9%	627	106.9%
定例公演【合計】 22公演 (計画:22公演)		実績	22回	22日	11,733人	87.0%	13,490	94.5%
		計画	22回	22日	12,410人	92.5%	13,414	

※目標入場者数:1回当たり545人(92.5%)。ただし、10月以降は580人(92.5%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(4・5・6月月間特集「日本人と自然」)
- ・座席字幕表示装置を活用して、全公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・主催公演で初めて能「代主」を上演した(12月1日)。

普及公演

《制作方針》

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで上演する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説・能楽あんない「闇のうつつ」、狂言「呂蓮」、能「夕顔」	4/10	実績	1回	1日	548人	93.0%	589	95.6%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説・能楽あんない「大伴家持の湖遊覧と藤の花」、狂言「茸」、能「藤」 ※公演中止	5/8	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説・能楽あんない「能・狂言の鳥」、狂言「千鳥」、能「善知鳥」	6/12	実績	1回	1日	467人	79.3%	589	81.5%
解説・能楽あんない「扇と恋とー「逢ふ儀」の理りー」、狂言「地蔵舞」、能「班女」	7/10	実績	1回	1日	577人	98.0%	589	100.7%
解説・能楽あんない「牛若の盗賊退治」、狂言「名取川」、能「熊坂 替之型」	9/11	実績	1回	1日	579人	92.3%	627	101.0%
解説・能楽あんない「貴種流離の王女と王子」、狂言「清水」、能「蟬丸 替之型」	10/9	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説・能楽あんない「『初雪』に見る金春禅鳳の作風」、狂言「寝音曲」、能「初雪古式」	11/13	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説・能楽あんない「熊野の神々と狂い」、狂言「伯母ヶ酒」、能「巻絹」	12/11	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説・能楽あんない「絵空事と能—龍虎図をめぐって」、解説、狂言「魚説法」、能「龍虎」	1/8	実績	1回	1日	615人	98.1%	627	100.8%
月間特集 近代絵画と能 解説・能楽あんない「近代画家の能楽への眼差し」、狂言「酢薑」、能「鉢木」	2/26	実績	1回	1日	609人	97.1%	627	99.8%
解説・能楽あんない「三つの世界を流れる生田川」、狂言「縄綱」、能「飯」	3/12	実績	1回	1日	616人	98.2%	627	101.0%
普及公演【合計】 10公演（計画：10公演）	実績		10回	10日	5,880人	95.5%	6,156	98.8%
	計画		10回	10日	5,952人	97.3%	6,118	

※目標入場者数：1回当たり573人(97.3%)。ただし、10月以降は610人(97.3%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 解説「闇のうつつ」、狂言「水掛簪」、能「夕顔」	4/10	実績	1回	1日	548人	93.0%	589	95.6%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 解説「大伴家持の湖遊覧と藤の花」、狂言「茸」、能「藤」※公演中止	5/9	実績						
月間特集 日本人と自然 花鳥風月 解説、狂言「千鳥」、能「善知鳥」	6/12	実績	1回	1日	467人	79.3%	589	81.5%
解説「能・狂言の東国—武蔵野と隅田川」、狂言「神鳴」、能「隅田川」	7/10	実績	1回	1日	577人	98.0%	589	100.7%
解説・能楽あんない「『花筐』における狂いの転換」、狂言「太刀奪」、能「花筐」	9/11	実績	1回	1日	579人	92.3%	627	101.0%
解説、狂言「二九十八」、能「阿漕」	10/9	実績	1回	1日	625人	99.7%	627	102.5%
解説、狂言「樋の酒」、能「俊寛」	11/13	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説・能楽あんない「熊野の神々と狂い」、狂言「伯母ヶ酒」、能「巻絹」	12/11	実績	1回	1日	622人	99.2%	627	102.0%
解説・能楽あんない「絵空事と能—龍虎図をめぐって」、狂言「魚説法」、能「龍虎」	1/8	実績	1回	1日	615人	98.1%	627	100.8%
月間特集 近代絵画と能 解説・能楽あんない「近代画家の能楽への眼差し」、狂言「酢薑」、能「鉢木」	2/26	実績	1回	1日	609人	97.1%	627	99.8%
解説・能楽あんない「三つの世界を流れる生田川」、狂言「縄綱」、能「飯」	3/12	実績	1回	1日	616人	98.2%	627	101.0%
普及公演【合計】 10公演（計画：11公演）	実績		10回	10日	5,880人	95.5%	6,156	90.1%
	計画		11回	11日	6,525人	97.3%	6,707	

※目標入場者数:1回当たり573人(97.3%)。ただし、10月以降は610人(97.3%)。
 ※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月、11月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(4・5・6月月間特集「日本人と自然」)
- ・5月8日普及公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止。無観客収録を行い、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した(日本語及び英語)。
- ・座席字幕表示装置を活用して、中止公演を除く公演で日本語(詞章)・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。

企画公演、鑑賞教室

《制作方針》

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。夏季には「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」などを実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら新たな観客層を開拓する。さらに年度末には、〈能・狂言を再発見する〉として、狂言「袴裂」・復曲能「岩船」の初演を行う。

鑑賞教室は、中・高校生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。令和3年度は、狂言「寝音曲」、能「殺生石」を上演し、学生が親しみを持てるよう、上演の前に解説を付ける。また前年度に引き続き、「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を通常の能楽鑑賞教室から独立させて実施する。

《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 日本人と自然 おはなし、狂言「木六 駄」、復曲能「泰山木」	4/22	実績	1回	1日	494人	83.9%	589	89.2%
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 女性楽師による おはなし、仕舞「忠 度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」 ※公演中止	4/29	実績	/	/	/	/	/	/
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「梟」、狂言「蟬」、新作狂言「鮎」	5/26	実績	2回	1日	911人	77.3%	1,178	82.2%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 能「半部 立花」、狂言「蚊相撲」、能 「鷺」	5/29	実績	1回	1日	537人	91.2%	589	96.9%
安倍晴明生誕千百年 講演 安倍晴明の虚実をめぐる、説経 節「葛の葉」、能「鉄輪」	7/24	実績	1回	1日	563人	95.6%	589	101.6%
夏スペシャル 働く貴方の能楽公演 狂言「真奪」、装束付け実演解説、能「是 界 白頭」	8/5	実績	1回	1日	424人	72.0%	589	76.5%
夏スペシャル 親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「仏師」、狂言「棒縛」	8/7	実績	1回	1日	505人	85.7%	589	91.2%
夏スペシャル 親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/28	実績	1回	1日	502人	85.2%	589	90.6%
家・世代を越えて 狂言「萩大名」、狂言「鏡男」、狂言「腰 折」	9/22	実績	1回	1日	538人	85.8%	627	97.1%
能「頼政」、狂言「飛越」、一調「遊行 柳」、能「三井寺」	10/30	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
蠟燭の灯りによる 狂言「空腕」、能「鶴 白頭」	11/26	実績	1回	1日	614人	97.9%	627	104.1%
狂言と落語・講談 特集・在原業平 講談「貧乏業平」、落語「千早振る」、狂 言「業平餅」	12/23	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
狂言「連歌毘沙門」、狂言「犬山伏」、狂 言「髭櫓」	1/14	実績	1回	1日	480人	76.6%	627	81.4%
仕舞「雲林院 クセ」、狂言「二千石」、能 「求塚」	1/26	実績	1回	1日	592人	94.4%	627	100.3%
働く貴方の能楽公演	2/23	実績	1回	1日	580人	92.5%	627	98.3%

おはなし、狂言「佐渡狐」、能「花月」									
能・狂言を再発見する おはなし、狂言「袴裂」、復曲能「岩船」	3/25・3/26	実績	2回	2日	1,230人	98.1%	1,254	104.2%	
企画公演【合計】	15公演 (計画:15公演)	実績	17回	16日	9,217人	89.0%	10,355	95.0%	
		計画	17回	16日	9,706人	94.1%	10,317		

※目標入場者数:1回当たり554人(94.1%)。ただし、10月以降は590人(94.1%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 日本人と自然 おはなし、狂言「木六 駄」、復曲能「泰山木」	4/22	実績	1回	1日	494人	83.9%	589	89.2%
月間特集 日本人と自然 春夏秋冬 女性能楽師による おはなし、仕舞「忠 度」「野宮」「山姥 クセ」、能「葛城」 ※公演中止	4/29	実績						
月間特集 日本人と自然 草木成仏 狂言「梟」、狂言「蟬」、新作狂言「鮎」	5/26	実績	2回	1日	911人	77.3%	1,178	82.2%
月間特集 日本人と自然 草木成仏 能「半部 立花」、狂言「蚊相撲」、能 「鷲」	5/29	実績	1回	1日	537人	91.2%	589	96.9%
安倍晴明生誕千百年 講演 安倍晴明の虚実をめぐる、説経 節「葛の葉」、能「鉄輪」	7/24	実績	1回	1日	563人	95.6%	589	101.6%
夏スペシャル 働く貴方の能楽公演 狂言「真奪」、装束付け実演解説、能「是 界 白頭」	8/5	実績	1回	1日	424人	72.0%	589	76.5%
夏スペシャル 親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「仏師」、狂言「棒縛」	8/7	実績	1回	1日	505人	85.7%	589	91.2%
夏スペシャル 親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/28	実績	1回	1日	502人	85.2%	589	90.6%
家・世代を越えて 狂言「萩大名」、狂言「鏡男」、狂言「腰 祈」	9/22	実績	1回	1日	538人	85.8%	627	97.1%
能「頼政」、狂言「飛越」、一調「遊行 柳」、能「三井寺」	10/30	実績	1回	1日	624人	99.5%	627	105.8%
蠟燭の灯りによる 狂言「空腕」、能「鶴 白頭」	11/26	実績	1回	1日	614人	97.9%	627	104.1%
狂言と落語・講談 特集・在原業平 講談「貧乏業平」、落語「千早振る」、狂 言「業平餅」	12/23	実績	1回	1日	623人	99.4%	627	105.6%
狂言「連歌毘沙門」、狂言「犬山伏」、狂 言「髭檜」	1/14	実績	1回	1日	480人	76.6%	627	81.4%
仕舞「雲林院 クセ」、狂言「二千石」、能 「求塚」	1/26	実績	1回	1日	592人	94.4%	627	100.3%
働く貴方の能楽公演 おはなし、狂言「佐渡狐」、能「花月」	2/23	実績	1回	1日	580人	92.5%	627	98.3%
能・狂言を再発見する おはなし、狂言「袴裂」、復曲能「岩船」	3/25・3/26	実績	2回	2日	1,230人	98.1%	1,254	104.2%
企画公演【合計】	15公演 (計画:16公演)	実績	17回	16日	9,217人	89.0%	10,355	89.8%
		計画	18回	17日	10,260人	94.1%	10,906	

※目標入場者数:1回当たり554人(94.1%)。ただし、10月以降は590人(94.1%)。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

《公演実績》(年度当初の公演計画) ※新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限なし

公演名	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」、狂言「寝音 曲」、能「殺生石」	6/21~6/25	実績	10回	5日	3,550人	60.3%	5,890	62.4%
		計画	10回	5日	5,685人	96.5%	5,890	
外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh&Kyogen 解説、狂言「口真似」、能「高砂」	10/21	実績	1回	1日	570人	90.9%	627	98.3%
		計画	1回	1日	580人	92.5%	627	

鑑賞教室【合計】	2公演 (計画:2公演)	実績	11回	6日	4,120人	63.2%	6,517	65.8%
		計画	11回	6日	6,265人	96.1%	6,517	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6月能楽鑑賞教室において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,183枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、6月能楽鑑賞教室 103.6%、鑑賞教室【合計】103.1%である。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(10/21)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月・11月)
- ・「日本博」参画プロジェクト(4・5・6月月間特集「日本人と自然」、7・8月企画公演、「Discover NOH & KYOGEN」、特別企画公演〈能・狂言を再発見する〉、受託事業「名取ノ老女」於名取市文化会館)
- ・4月29日企画公演は、新型コロナウイルス感染症対策に係わる政府の要請を受け、感染症の拡大防止のため中止。無観客収録を行い、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した(日本語及び英語)。
- ・4月22日企画公演、5月26日狂言企画公演は日本語及び英語、「Discover NOH & KYOGEN」は英語による、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した。
- ・3月特別企画公演にあたっては、令和2年3月に無観客収録を行った映像をもとにプロモーション映像を作成、「日本博チャンネル」及び東京国立博物館で開催された特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」の能楽ブース内で公開した。
- ・座席字幕表示装置を活用して、11月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉及び中止となった公演を除く公演で、日本語・英語の2チャンネル方式で字幕表示を実施した。また、「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式、10月に実施した「Discover NOH & KYOGEN」では、字幕表示を6チャンネル方式(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)により実施した。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽及び沖縄芝居の構成により上演する(民俗芸能は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度は計画しない)。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、「執心鐘入」、「二童敵討」など、長年のレパートリーとして親しまれてきた作品を中心に、上演機会の少ない仇討物の傑作「大川敵討」の最大の見どころと言われる「糺しの場」を取り上げる。

琉球舞踊公演では、定番となっている「男性舞踊家の会」、「琉球舞踊特選会」のほか、琉球舞踊界の次世代を担う中堅、若手の舞踊家に焦点をあて、それぞれが所属する流会派の持ち味をいかした演目で構成する「琉球舞踊鑑賞会」を上演し、琉球舞踊の魅力を発信する。

三線音楽公演では、琉球古典音楽に焦点を当てた「古典音楽の美」を上演する。

沖縄芝居公演では、当劇場の舞台機構を駆使し、沖縄芝居の魅力を堪能する公演制作に努め、親子の情愛を描いた名作歌劇「与那国シオンガネー・黒島王物語」を上演する。

民俗芸能公演は、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の芸能団体を招聘することができないため、令和3年度は計画しない。

企画公演では、首里城や組踊を題材とした作品を数多く残された作家大城立裕氏の作品「首里城物語」「真珠道」を上演する。このほか、アジア・太平洋地域の芸能として「インド・バリ・ポリネシアの芸能」、毎年秋の実施が定着している「国立劇場寄席」、ファン感謝デーとして琉球芸能の俳優祭「ゆらていく遊ば」を上演する。

研究公演では、継子いじめを背景に、親子の情愛を主題にした組踊「伊祖の子組」を上演する。「雪払い」と異名同作といわれ、台本が複数存在するなか、今回は八重山博物館所蔵本を取り上げ、舞台化する。

普及公演では、一般・団体向けの組踊鑑賞教室「銘苺子」のほか、親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」を上演し、組踊の理解を深める工夫を行う。小学生から高校生及び学生等を対象とした、組踊鑑賞教室「執心鐘入」では、解説を交えながら上演する。併せて、外国人向けの公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」を実施する。また、沖縄芝居鑑賞教室では、沖縄芝居の歴史や鑑賞のポイントを紹介し、新たな観客層の拡充に努める。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
三線音楽「古典音楽の美」	国立劇場 おきなわ 大劇場	4/24	実績	1回	1日	281人	91.5%	307	123.8%
			計画	1回	1日	227人	74.9%	303	
組踊「執心鐘入」		5/15	実績	1回	1日	282人	91.9%	307	129.4%
			計画	1回	1日	218人	71.9%	303	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止		6/19	実績						
			計画						
組踊「大川敵討」(糺しの場)		7/10	実績	1回	1日	272人	50.6%	538	124.8%
			計画	1回	1日	218人	71.9%	303	
琉球舞踊鑑賞会①		7/23	実績	1回	1日	237人	39.4%	601	97.9%
			計画	1回	1日	242人	79.9%	303	
琉球舞踊鑑賞会②		7/24	実績	1回	1日	236人	39.3%	601	97.5%
			計画	1回	1日	242人	79.9%	303	
沖縄芝居 「与那国シオンガネー」「黒島 王物語」※公演中止		9/18	実績						
			計画						
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	1/15~1/16	実績	2回	2日	319人	26.5%	1,202	37.9%	
		計画	2回	2日	842人	70.0%	1,202		
組踊「二童敵討」	2/12	実績	1回	1日	171人	31.6%	541	50.9%	
		計画	1回	1日	336人	62.1%	541		
定期公演【小 計】 7公演 (計画:7公演)		実績	8回	8日	1,798人	43.9%	4,097	77.3%	
		計画	8回	8日	2,325人	71.4%	3,258		

アジア・太平洋地域の芸能		10/31	実績	1回	1日	457人	76.0%	601	116.9%
			計画	1回	1日	391人	65.1%	601	
国立劇場寄席		11/13	実績	1回	1日	284人	47.3%	601	59.0%
			計画	1回	1日	481人	80.0%	601	
ゆらていく遊ば	国立劇場 おきなわ 大劇場	12/18～12/19	実績	2回	2日	546人	56.9%	960	81.4%
			計画	2回	2日	671人	69.9%	960	
歌舞劇「首里城物語」		2/26～2/27	実績	2回	2日	691人	63.2%	1,093	97.3%
			計画	2回	2日	710人	62.4%	1,137	
新作組踊「真珠道」		3/12	実績	1回	1日	345人	63.8%	541	98.0%
			計画	1回	1日	352人	65.1%	541	
企画公演【小計】 5公演 (計画:5公演)			実績	7回	7日	2,323人	61.2%	3,796	89.2%
			計画	7回	7日	2,605人	67.8%	3,840	
組踊「伊祖の子組」	国立劇場 おきなわ 大劇場	1/22	実績	1回	1日	151人	27.9%	541	42.9%
			計画	1回	1日	352人	65.1%	541	
研究公演【小計】 1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	151人	27.9%	541	42.9%
			計画	1回	1日	352人	65.1%	541	
親子のための組踊鑑賞教室 「万歳敵討」※公演中止		8/7～8/8	実績						
			計画						
沖縄芝居鑑賞教室 「黒島王物語」		9/16～9/17	実績	2回	2日	240人	25.3%	948	60.9%
			計画	2回	2日	394人	80.1%	492	
組踊鑑賞教室 「銘苺子」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/23	実績	2回	1日	622人	56.3%	1,104	161.1%
			計画	1回	1日	386人	69.9%	552	
組踊鑑賞教室 「執心鐘入」		11/24～11/26	実績	6回	3日	1,609人	49.0%	3,282	70.1%
			計画	6回	3日	2,296人	70.0%	3,282	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」		11/27	実績	1回	1日	264人	48.8%	541	69.7%
			計画	1回	1日	379人	70.1%	541	
普及公演【小計】 4公演 (計画:4公演)			実績	11回	7日	2,735人	46.6%	5,875	79.2%
			計画	10回	7日	3,455人	71.0%	4,867	
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】 17公演 (計画:17公演)			実績	27回	23日	7,007人	49.0%	14,309	80.2%
			計画	26回	23日	8,737人	69.9%	12,506	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(364枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」153.3%、普及公演【小計】89.7%、組踊等沖縄伝統芸能【合計】84.4%である。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
三線音楽「古典音楽の美」		4/24	実績	1回	1日	281人	91.5%	307	123.8%
			計画	1回	1日	227人	74.9%	303	
組踊「執心鐘入」		5/15	実績	1回	1日	282人	91.9%	307	129.4%
			計画	1回	1日	218人	71.9%	303	
琉球舞踊「男性舞踊家の会」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	6/19	実績						
			計画	2回	1日	493人	80.0%	616	
組踊「大川敵討」(糺しの場)		7/10	実績	1回	1日	272人	50.6%	538	124.8%
			計画	1回	1日	218人	71.9%	303	
琉球舞踊鑑賞会①		7/23	実績	1回	1日	237人	39.4%	601	97.9%
			計画	1回	1日	242人	79.9%	303	

琉球舞踊鑑賞会②		7/24	実績	1回	1日	236人	39.3%	601	97.5%
			計画	1回	1日	242人	79.9%	303	
沖縄芝居 「与那国シヨンガナー」「黒島 王物語」※公演中止		9/18	実績						
			計画	2回	1日	354人	75.0%	472	
琉球舞踊「琉球舞踊特選会」		1/15～1/16	実績	2回	2日	319人	26.5%	1202	37.0%
			計画	2回	2日	862人	70.1%	1,230	
組踊「二重敵討」		2/12	実績	1回	1日	171人	31.6%	541	49.1%
			計画	1回	1日	348人	62.0%	561	
定期公演【小計】7公演 (計画:9公演)			実績	8回	8日	1,798人	43.9%	4,097	56.1%
			計画	12回	10日	3,204人	72.9%	4,394	
アジア・太平洋地域の芸能		10/31	実績	1回	1日	457人	76.0%	601	114.3%
			計画	1回	1日	400人	65.0%	615	
国立劇場寄席		11/13	実績	1回	1日	284人	47.3%	601	57.4%
			計画	1回	1日	495人	80.0%	619	
ゆらていく遊ば	国立劇場 おきなわ 大劇場	12/18～12/19	実績	2回	2日	546人	56.9%	960	69.5%
			計画	2回	2日	786人	69.9%	1,124	
歌舞劇「首里城物語」		2/26～2/27	実績	2回	2日	691人	63.2%	1,093	93.5%
			計画	2回	2日	739人	65.0%	1,137	
新作組踊「真珠道」		3/12	実績	1回	1日	345人	63.8%	541	86.3%
			計画	1回	1日	400人	65.0%	615	
企画公演【小計】5公演 (計画:5公演)			実績	7回	7日	2,323人	61.2%	3,796	82.4%
			計画	7回	7日	2,820人	68.6%	4,110	
組踊「伊祖の子組」	国立劇場 おきなわ 大劇場	1/22	実績	1回	1日	151人	27.9%	541	41.4%
				計画	1回	1日	365人	65.1%	561
研究公演【小計】1公演 (計画:1公演)			実績	1回	1日	151人	27.9%	541	41.4%
			計画	1回	1日	365人	65.1%	561	
親子のための組踊鑑賞教室 「万歳敵討」※公演中止		8/7～8/8	実績						
			計画	2回	2日	452人	79.9%	566	
沖縄芝居鑑賞教室 「黒島王物語」		9/16～9/17	実績	2回	2日	240人	25.3%	948	60.9%
			計画	2回	2日	394人	80.1%	492	
組踊鑑賞教室 「銘苺子」	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/23	実績	2回	1日	622人	56.3%	1,104	141.0%
				計画	1回	1日	441人	70.0%	630
組踊鑑賞教室 「執心鐘入」		11/24～11/26	実績	6回	3日	1,609人	49.0%	3,282	66.5%
			計画	6回	3日	2,418人	70.0%	3,456	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」		11/27	実績	1回	1日	264人	48.8%	541	65.5%
			計画	1回	1日	403人	70.0%	576	
普及公演【小計】4公演 (計画:5公演)			実績	11回	7日	2,735人	46.6%	5,875	66.6%
			計画	12回	9日	4,108人	71.8%	5,720	
組踊等沖縄伝統芸能 【合計】17公演 (計画:20公演)			実績	27回	23日	7,007人	49.0%	14,309	66.8%
			計画	32回	27日	10,497人	71.0%	14,785	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。
 ※沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(364枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、沖縄芝居鑑賞教室「黒島王物語」153.3%、普及公演【小計】75.4%、組踊等沖縄伝統芸能【合計】70.2%である。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を8月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
------	-----	-----	-----	-----	------------------	--------------------

17公演 26回	4,007人	2,512人	2,258人	2,178人	62.7%	96.5%
-------------	--------	--------	--------	--------	-------	-------

※うち1回を「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～組踊「執心鐘入」」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・公演制作において新型コロナウイルスの影響を受け、中止となった公演もあったが、感染対策を徹底し、劇場公演継続の努力を図り、20公演計画したうち、17公演を上演することができた。
- ・研究公演「伊祖の子組」では、舞台化にあたって、台本考証から行った。台本に沿い、伝統的な様式・型を主に用いつつ出演者と試行錯誤し、作品の特色を活かせるよう演出を試みた。御冠船舞台を用いての上演、講座や展示、アフタートークもあわせ、様々な問題提起をすることによって、さらなる組踊の発展に寄与する研究公演として意義深い研究公演となった。
- ・企画公演では、10月「アジア・太平洋地域の芸能」は、海外から招聘できないため、国内で活躍している実演家で企画し、11月「国立劇場寄席」においても感染対策を工夫し実施した。
- ・さらに、11月「ゆらていく遊ば」は、映像を活用した演出を行った。さらに、2月、3月は、沖縄初の芥川賞作家、大城立裕作品の中から、歌舞劇「首里城物語」と新作組踊「真珠道」上演と併せて関連展示を行った。
- ・中止となった男性舞踊家の会(無観客)、与那国シヨングナー(無観客)及び公演を実施した組踊鑑賞教室「執心鐘入」(有観客)を収録し、有料配信を行った。
- ・日本博関連予算で、普及公演(2公演実施、1公演中止)、組踊公演(1公演実施)において、多言語オーディオガイド、タブレットの貸し出しを行った。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(10月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(10月普及公演「銘苺子」、11月企画公演「国立劇場寄席」、11月普及公演「執心鐘入」)
- ・日本博主催・共催型プロジェクト(7月定期公演 組踊「大川敵討」(糺しの場)、10月普及公演「組踊鑑賞教室 銘苺子」、11月普及公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」、1月琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」、1月研究公演「組踊 伊祖の子組」、2月定期公演 組踊「二童敵討」、2月企画公演 歌舞劇「首里城物語」、3月企画公演 新作組踊「真珠道」)
- ・beyond2020 プログラム認証事業(全公演)
- ・16公演に字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。(「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染防止対策により中止となった3公演を除く)
- ・英語字幕タブレットの無料貸出を実施し、外国人来場者の鑑賞の助けとした。(10月普及公演「銘苺子」、2月組踊公演「二童敵討」)
- ・多言語音声ガイド(2言語：英語・日本語)機器の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置) 10月普及公演 組踊鑑賞教室「銘苺子」
- ・多言語音声ガイド(4言語：英語・中国語・韓国語・日本語)機器、字幕タブレット(6言語：英語・中国語(簡体・繁体)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)の無料貸出(多言語での操作説明ができる人員も配置)や英語通訳のある外国人のための組踊ワークショップを実施した(参加者27名)。11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～「執心鐘入」

イ 演目の拡充

①歌舞伎

(a) 復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

- ・国立劇場で49年前に復活して以降しばらく上演が途絶えていた場面を、台本を補綴して上演。(11月歌舞伎公演「一谷嫩軍記」御影浜浜辺の場)
- ・国立劇場で過去に上演した作品の台本・演出を見直し、通し狂言のエッセンスを凝縮した娯楽性豊かな内容に補綴。(初春歌舞伎公演「南総里見八犬伝」)

(b) 新作歌舞伎脚本の募集・選考

- ・令和2年10月から令和3年3月末まで応募を受け付けた歌舞伎脚本募集(全95篇)の選考を行い、入選作品(佳作3篇、優秀賞1名)を決定・公表の上、表彰を行った。

②文案

(a) 新作の上演に向けた上演台本作成作業

- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演では、平成11年度台本作成事業により作られた昔ばなしを題材にした作品「舌切雀」を、平成14年の当劇場での初演、平成23年の再演に続き3回目の上演として取り上げ、配役も世代交代を図ってレパートリー化を進めた。

(b) 上演が途絶えていた場面の復活上演のための準備

- ・本館9月文楽公演『卅三間堂棟由来』平太郎住家より木遣音頭の段において、省略されることの多い和田四郎が登場する場面上演し、宮中の政争という、最近顧みられることの少ないこの物語の一側面を描出した。
- ・文楽劇場4月文楽公演第三部において「傾城阿波の鳴門」「十郎兵衛住家の段」を取り上げた。前半を「順礼歌の段」と称して入門公演ではしばしば上演されることはあるが、一段通しての上演は、昭和63年以来33年ぶりのことである。前後を通して親子の再会と理不尽な別れの悲劇が強調される、演目の全体像が観客に理解されやすい形での上演となった。また、浄瑠璃の前半を竹本千歳太夫・豊澤富助、後半を豊竹靖太夫・野澤錦糸、人形を桐竹勘十郎・桐竹勘次郎・吉田玉佳(吉田玉也の代役)の配役とすることで、技芸の伝承を図ることができた。

(c) 上演機会の少ない場面の上演等

- ・本館9月公演『卅三間堂棟由来』において東京では17年ぶりに和田四郎の件を復活させた。
- ・文楽劇場錦秋文楽公演「ひらかな盛衰記」(「笹引の段」:26年ぶりの上演、「神崎揚屋の段」:33年ぶりの上演)

③舞踊・邦楽等

(a) 新作委嘱作品の上演

- ・歌舞伎・文楽・雅楽と、生活文化(いけばな・書・香)がジャンルを越えて共演する「変化と人間と一羽衣伝説」、声明とコンテンポラリーダンスとのコラボレーションによる「Bridge」の2作品の初演を行った。(本館5月特別企画公演)
- ・篠笛や能管、尺八など様々な日本の管楽器と、声やオルガンを用いた委嘱作品「IN THE END WAS THE WORD」を上演した(本館10月邦楽公演)

④大衆芸能

(a) 上演機会の少ない優れた演目の上演

- ・2月特別企画公演「圓朝に挑む!」で、橘家圓太郎が、江戸落語を集大成し近代落語の祖とされる三遊亭圓朝作の長編『月謡荻江一節』を自ら咀嚼し、「一名荻江の伝」として上演した。

⑤能楽

(a) 復曲作品の初演

- ・3月特別企画公演「岩船」

(b) 国立能楽堂で制作初演された新作・復曲作品の再演

- ・5月狂言企画公演 新作狂言「鮎」

(c) 他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演

- ・4月企画公演 復曲能「泰山木」

(d) 新制作作品の初演

- ・3月特別企画公演「袴裂」

⑥組踊等沖縄伝統芸能

(a) 上演機会が少ない優れた演目、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演

《上演機会が少ない優れた演目の上演》

- ・ 7月組踊公演 大川敵討(～糺しの場～)
- ・ 9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室 沖縄芝居「黒島王物語」

《新作の上演・再演》

- ・ 12月企画公演 ゆらていく遊ば 喜劇「うるま西遊記」～沙悟浄、涙のつんだら節～

(b) 「新作組踊・戯曲大賞」の公募・選考・表彰

- ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄の伝統芸能の保存振興を図るため、新たな作品の創造を目指して「新作組踊戯曲」を7月から募集した。(応募期間：11/15～12/15)

大賞 「鶴亀の縁」 鈴木耕太
 奨励賞 「菊花の縁」 伊良波賢弥
 佳作 「清ら瘡の御神」 西岡敏
 佳作 「綾雲」 大城貴幸

(c) 効果的な映像活用・復帰 50周年と関連した県との連携(国民文化祭、世界のうちなーんちゅ大会)

- ・ より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像の動画配信を実施した。
- ・ その他、国立劇場おきなわの知名度向上のためのイメージ映像等を作成し、無料配信した。
 - ◇ Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa(4言語作成。英語 46,240回、中国語簡体字 3,491回、中国語繁体字 3,356回、韓国語 5,749回)
 - ◇ 国立劇場おきなわ×ミス沖縄▶組踊ワークショップ体験！(413回)
 - ◇ 【ゆんたく劇場】 ジョニー宜野湾さんインタビュー(223回)
 - ◇ 【ゆんたく劇場】 山城智二さんインタビュー(192回)
 - ◇ 【ゆんたく劇場】 照屋林賢インタビュー(210回)
 - ◇ 次期芸術監督 金城真次さんインタビュー(1,264回)
 - ◇ 沖縄のユネスコ無形文化遺産・組踊の世界(1,262回)
 - ◇ インドの無形文化遺産・クーリヤッタムの世界(297回)
 - ◇ インドネシアの無形文化遺産・ワヤン・ゴレックの世界(1,803回)
 - ◇ タイの無形文化遺産・コーンの世界(147回)
 - ◇ ベトナムの無形文化遺産・ニャーニャックの世界(245回)
 - ◇ ニャーニャック「フー・ルック・ディック」(105回)
 - ◇ マレーシアの無形文化遺産・マ・ヨンの世界(327回)

(2) 現代舞台芸術の公演	p.68
①オペラ	p.70
②バレエ	p.73
③現代舞踊	p.76
④演劇	p.77

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演、振興、普及

ア オペラ公演：名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、オペラの振興と普及

イ バレエ公演：スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演、それらをレパートリーとして蓄積し繰り返し上演、バレエの振興と普及

ウ 現代舞踊公演：特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品、国内外で高い評価を得ている作品等の上演、現代舞踊の振興と普及

エ 演劇公演：新作上演を企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流、現代演劇の振興と普及

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-1 各公演における入場者数 (達成目標は年度計画で公演毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-2 歌舞伎、文楽、オペラ等の分野毎の入場者数 (達成目標は年度計画で分野毎に設定する)	《公演実績》表 参照
2-3 現代舞台芸術の公演の公演数 (前中期目標期間実績の維持)	26 公演 (H25-29 実績平均：30.2 公演)
2-6 現代舞台芸術の公演について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
オペラ	12 公演(計画:12 公演)		実績	51 回	51 日	53,855 人	67.4%	79,916	91.4%
	オペラ劇場		計画	51 回	51 日	58,910 人	73.7%	79,916	
バレエ	5 公演(計画:5 公演)		実績	36 回	29 日	47,962 人	89.8%	53,413	126.5%
	オペラ劇場		計画	36 回	29 日	37,910 人	71.0%	53,413	
現代舞踊	3 公演(計画:3 公演)		実績	10 回	9 日	3,363 人	78.9%	4,264	112.1%
	中劇場、小劇場		計画	10 回	9 日	3,000 人	73.9%	4,060	
演劇	6 公演(計画:6 公演)		実績	113 回	92 日	19,837 人	65.2%	30,444	95.0%
	中劇場、小劇場		計画	113 回	92 日	20,878 人	68.1%	30,648	
総合計	26 公演 (計画:26 公演)		実績	210 回	181 日	125,017 人	74.4%	168,037	103.6%
			計画	210 回	181 日	120,698 人	71.8%	168,037	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部公演を中止し、又は、座席数を制限して販売した。そのため、公演中止や販売制限を勘案した公演計画によることとする。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,957枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、オペラ96.4%、総合計106.0%である。

《公演実績(現代舞台芸術分野総計)》(年度当初の公演計画)

分野名	公演数		区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	劇場								
オペラ	12 公演(計画:12 公演)		実績	51 回	51 日	53,855 人	67.4%	79,916	79.4%
	オペラ劇場		計画	54 回	54 日	67,800 人	74.2%	91,392	
バレエ	5 公演(計画:8 公演)		実績	36 回	29 日	47,962 人	89.8%	53,413	92.2%
	オペラ劇場		計画	46 回	39 日	52,000 人	68.6%	75,852	
現代舞踊	3 公演(計画:3 公演)		実績	10 回	9 日	3,363 人	78.9%	4,264	112.1%
	中劇場、小劇場		計画	10 回	9 日	3,000 人	73.9%	4,060	
演劇	6 公演(計画:7 公演)		実績	113 回	92 日	19,837 人	65.2%	30,444	57.8%
	中劇場、小劇場		計画	132 回	110 日	34,300 人	69.0%	49,746	
総合計	26 公演 (計画:30 公演)		実績	210 回	181 日	125,017 人	74.4%	168,037	79.6%
			計画	242 回	212 日	157,100 人	71.1%	221,050	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,957枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、オペラ83.8%、総合計81.5%である。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「夜鳴きうぐいす」「イオランタ」(新制作)	オペラ 劇場	4/4 ~4/11	実績	4回	4日	3,263人	48.3%	6,760	85.9%
			計画	4回	4日	3,800人	56.2%	6,760	
「ルチア」		4/18 ~4/25	実績	3回	3日	2,397人	47.3%	5,070	78.0%
			計画	3回	3日	3,075人	60.7%	5,070	
「ドン・カルロ」		5/20 ~5/29	実績	4回	4日	2,910人	78.7%	3,696	140.0%
			計画	4回	4日	2,078人	56.2%	3,696	
「カルメン」(新制作)		7/3 ~7/19	実績	6回	6日	6,322人	70.8%	8,926	88.7%
			計画	6回	6日	7,130人	79.9%	8,926	
「チェネントラ」(新制作)		10/1 ~10/13	実績	6回	6日	6,459人	62.4%	10,356	80.7%
			計画	6回	6日	8,000人	77.2%	10,356	
「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(新制作)		11/18 ~12/1	実績	5回	5日	7,377人	85.5%	8,630	102.5%
			計画	5回	5日	7,200人	83.4%	8,630	
「蝶々夫人」		12/5 ~12/12	実績	4回	4日	5,234人	75.8%	6,904	100.7%
			計画	4回	4日	5,200人	75.3%	6,904	
「さまよえるオランダ人」	1/26 ~2/6	実績	4回	4日	4,555人	66.0%	6,904	91.1%	
		計画	4回	4日	5,000人	72.4%	6,904		
「愛の妙薬」	2/7 ~2/13	実績	4回	4日	3,477人	50.4%	6,904	84.8%	
		計画	4回	4日	4,100人	59.4%	6,904		
「椿姫」	3/10 ~3/21	実績	5回	5日	6,225人	72.1%	8,630	90.2%	
		計画	5回	5日	6,900人	80.0%	8,630		
オペラ公演【小 計】 10公演 (計画:10公演)			実績	45回	45日	48,219人	66.3%	72,780	91.9%
			計画	45回	45日	52,483人	72.1%	72,780	
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」	オペラ 劇場	7/9 ~7/16	実績	4回	4日	3,875人	76.1%	5,094	78.2%
			計画	4回	4日	4,958人	97.3%	5,094	
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作)		8/21 ~8/22	実績	2回	2日	1,761人	86.2%	2,042	119.9%
			計画	2回	2日	1,469人	71.9%	2,042	
オペラ鑑賞教室【小 計】 2公演 (計画:2公演)			実績	6回	6日	5,636人	79.0%	7,136	87.7%
			計画	6回	6日	6,427人	90.1%	7,136	
オペラ【合計】 12公演 (計画:12公演)			実績	51回	51日	53,855人	67.4%	79,916	91.4%
			計画	51回	51日	58,910人	73.7%	79,916	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,957枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」102.7%、オペラ鑑賞教室【小計】106.7%、オペラ【合計】96.4%である。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
	オペラ	4/4	実績	4回	4日	3,263人	48.3%	6,760	85.9%

「夜鳴きうぐいす」「イオランタ」(新制作)	劇場	～4/11	計画	4回	4日	3,800人	56.2%	6,760	
「ルチア」		4/18 ～4/25	実績	3回	3日	2,397人	47.3%	5,070	58.5%
			計画	4回	4日	4,100人	60.7%	6,760	
「ドン・カルロ」		5/20 ～5/29	実績	4回	4日	2,910人	78.7%	3,696	76.6%
			計画	4回	4日	3,800人	56.2%	6,760	
「カルメン」(新制作)		7/3 ～7/19	実績	6回	6日	6,322人	70.8%	8,926	78.0%
			計画	6回	6日	8,100人	79.9%	10,140	
「チェネレントラ」(新制作)		10/1 ～10/13	実績	6回	6日	6,459人	62.4%	10,356	80.7%
			計画	6回	6日	8,000人	77.2%	10,356	
「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(新制作)		11/18 ～12/1	実績	5回	5日	7,377人	85.5%	8,630	102.5%
			計画	5回	5日	7,200人	83.4%	8,630	
「蝶々夫人」		12/5 ～12/12	実績	4回	4日	5,234人	75.8%	6,904	100.7%
			計画	4回	4日	5,200人	75.3%	6,904	
「さまよえるオランダ人」		1/26 ～2/6	実績	4回	4日	4,555人	66.0%	6,904	91.1%
	計画		4回	4日	5,000人	72.4%	6,904		
「愛の妙薬」	2/7 ～2/13	実績	4回	4日	3,477人	50.4%	6,904	84.8%	
		計画	4回	4日	4,100人	59.4%	6,904		
「椿姫」	3/10 ～3/21	実績	5回	5日	6,225人	72.1%	8,630	90.2%	
		計画	5回	5日	6,900人	80.0%	8,630		
オペラ公演【小計】 10公演 (計画:10公演)			実績	45回	45日	48,219人	66.3%	72,780	85.8%
			計画	46回	46日	56,200人	71.4%	78,748	
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」	オペラ劇場	7/9 ～7/16	実績	4回	4日	3,875人	76.1%	5,094	40.4%
			計画	6回	6日	9,600人	97.3%	9,864	
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」(新制作)		8/21 ～8/22	実績	2回	2日	1,761人	86.2%	2,042	88.1%
			計画	2回	2日	2,000人	71.9%	2,780	
オペラ鑑賞教室【小計】 2公演 (計画:2公演)			実績	6回	6日	5,636人	79.0%	7,136	48.6%
			計画	8回	8日	11,600人	91.7%	12,644	
オペラ【合計】 12公演 (計画:12公演)			実績	51回	51日	53,855人	67.4%	79,916	79.4%
			計画	54回	54日	67,800人	74.2%	91,392	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」において、4月に発出された緊急事態宣言の影響により、直前で学校等の団体からのキャンセルが発生した(2,957枚)。そのため、入場者数実績が大幅に減少した。仮に学校等の団体からのキャンセルがなかった場合の達成率は、高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」71.2%、オペラ鑑賞教室【小計】74.1%、オペラ【合計】83.8%である。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
12公演 51回	-	-	2,900人	2,407人	-	83.0%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」では鑑賞校にアンケートを配布し、後日回収した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった「ルチア」1公演、高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」2公演を除き、財団独自に策定したガイドラインに基づく感染症対策を徹底して12公演51回のオペラ公演を実施することができた。
- ・ 実施した公演ではいずれも新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら高い水準で上演することができた。
- ・ 19・20世紀のロシアオペラを二本立てで上演し、新国立劇場に不足していた分野の充実に努めたほか、

2018/2019 シーズン「トゥーランドット」で注目を集めた演出家による「カルメン」、ベルカントオペラの傑作「チェネレントラ」を新制作した。また、令和2年度に公演中止となった東京文化会館・ザルツブルク・イースター音楽祭・ザクセン州立歌劇場との共同新制作「ニュルンベルクのマイスタージンガー」を1年越しに上演することができた。

- ・日本博採択事業として子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」を新制作し、近未来の科学技術と人間の共生を描く新たなオペラの形を国内外に発信した。
- ・日本語字幕を表示に加え、令和元年度から実施している、全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の公演環境整備を更に推進した。
- ・新型コロナウイルス感染症による入国制限の緩和にいち早く対応し、政府の実施する水際対策を遵守しながら海外の芸術家の招聘を続けた。
- ・新型コロナウイルス感染症による入国制限が厳格化され、当初招聘を予定していたキャストの来日が一部困難になったため、日本人歌手の出演機会が大幅に増加し、国内の優れた芸術家の存在を発信する機会を得た。
- ・「蝶々夫人」「椿姫」で主役を演じた中村恵理、「Super Angels スーパーエンジェル」でアキラ役を演じた藤木大地をはじめとして、年度を通じてオペラ研修所修了生を起用し、その高い実力を示すことができた。
- ・「イオランタ」「ドン・カルロ」「カルメン」「さまよえるオランダ人」に出演した妻屋秀和が令和3年度(第72回)芸術選奨(文部科学大臣賞)を受賞した。

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(「チェネレントラ」)
- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(「ニュルンベルクのマイスタージンガー」)
- ・文化庁委託事業「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」(「ニュルンベルクのマイスタージンガー」)
- ・「日本博」令和3年度主催・共催型プロジェクト(「SuperAngels スーパーエンジェル」)
- ・コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(「ドン・カルロ」「蝶々夫人」)
- ・Arts for the future!(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)(「ルチア」)
- ・全公演において、字幕による歌詞の日本語訳及び英語訳を表示した。

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「コッペリア」 ※公演中止	オペラ 劇場	5/1 ～5/8	実績						
			計画						
「ライモンダ」		6/5 ～6/13	実績	5回	5日	6,004人	91.5%	6,563	142.8%
			計画	5回	5日	4,204人	64.1%	6,563	
「白鳥の湖」(新制作)		10/23 ～11/3	実績	8回	7日	12,623人	91.6%	13,776	122.6%
			計画	8回	7日	10,300人	74.8%	13,776	
「くるみ割り人形」		12/18 ～1/3	実績	12回	10日	19,668人	95.2%	20,664	125.3%
			計画	12回	10日	15,700人	76.0%	20,664	
ニューイヤー・バレエ		1/14 ～1/16	実績	3回	3日	3,898人	75.5%	5,166	105.4%
			計画	3回	3日	3,700人	71.6%	5,166	
吉田都セレクション ※公演中止		2/19 ～2/23	実績						
			計画						
エデュケーショナル・プログラム vol.1 ようこそ「シンデレラ」のお城へ！※公演中止		2/26 ～2/27	実績						
			計画						
バレエ公演【小 計】 4 公演 (計画:4 公演)			実績	28回	25日	42,193人	91.4%	46,169	124.5%
			計画	28回	25日	33,904人	73.4%	46,169	
こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう」 ～亀の姫と季(とき)の庭～	オペラ 劇場	7/24 ～7/27	実績	8回	4日	5,769人	79.6%	7,244	144.0%
			計画	8回	4日	4,006人	55.3%	7,244	
バレエ鑑賞教室【小 計】 1 公演 (計画:1 公演)			実績	8回	4日	5,769人	79.6%	7,244	144.0%
			計画	8回	4日	4,006人	55.3%	7,244	
バレエ【合 計】 5 公演 (計画:5 公演)			実績	36回	29日	47,962人	89.8%	53,413	126.5%
			計画	36回	29日	37,910人	71.0%	53,413	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
「コッペリア」 ※公演中止	オペラ 劇場	5/1 ～5/8	実績						
			計画	5回	5日	4,700人	55.8%	8,430	
「ライモンダ」		6/5 ～6/13	実績	5回	5日	6,004人	91.5%	6,563	111.2%
			計画	5回	5日	5,400人	64.1%	8,430	
「白鳥の湖」(新制作)		10/23 ～11/3	実績	8回	7日	12,623人	91.6%	13,776	122.6%
			計画	8回	7日	10,300人	74.8%	13,776	
「くるみ割り人形」		12/18 ～1/3	実績	12回	10日	19,668人	95.2%	20,664	125.3%
			計画	12回	10日	15,700人	76.0%	20,664	
ニューイヤー・バレエ		1/14 ～1/16	実績	3回	3日	3,898人	75.5%	5,166	105.4%
			計画	3回	3日	3,700人	71.6%	5,166	
吉田都セレクション ※公演中止		2/19 ～2/23	実績						
			計画	3回	3日	3,700人	71.6%	5,166	

エデュケーショナル・プログラム vol.1 ようこそ「シンデレラのお城へ! ※公演中止		2/26 ~2/27	実績						
			計画	2回	2日	1,900人	83.2%	2,284	
バレエ公演【小 計】		4公演 (計画:7公演)	実績	28回	25日	42,193人	91.4%	46,169	92.9%
			計画	38回	35日	45,400人	71.0%	63,916	
こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～		オペラ 劇場 7/24 ~7/27	実績	8回	4日	5,769人	79.6%	7,244	87.4%
			計画	8回	4日	6,600人	55.3%	11,936	
バレエ鑑賞教室【小 計】		1公演 (計画:1公演)	実績	8回	4日	5,769人	79.6%	7,244	87.4%
			計画	8回	4日	6,600人	55.3%	11,936	
バレエ【合 計】		5公演 (計画:8公演)	実績	36回	29日	47,962人	89.8%	53,413	92.2%
			計画	46回	39日	52,000人	68.6%	75,852	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
5公演 36回	-	-	665人	635人	-	95.5%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※全日程中止となり無料配信を実施した「コッペリア」でも、別途、配信アンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ 吉田都芸術監督の2期目のシーズンにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止や、演目の変更を余儀なくされたが、日々変化する国内外の状況に臨機応変に対応し、新制作「白鳥の湖」をはじめとする公演の成功に深く寄与し、バレエ団を力強く牽引した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止した「コッペリア」「吉田都セレクション」「エデュケーショナル・プログラム vol.1『ようこそ!シンデレラのお城へ』」を除き、5公演(本公演4公演、子どもバレエ1公演)を計画どおり実施した。
- ・ 緊急事態宣言の発出により公演中止を余儀なくされた「コッペリア」は5/2~8にかけて予定されていた全キャストでの無観客上演・ライブ配信を実施し、約16万件の同時視聴を得た。
- ・ 「コッペリア」の無観客上演・無料ライブ配信公演成果の発信・活用に努めた。
- ・ 令和2年度に上演が予定されていた古典バレエの傑作「白鳥の湖」を新制作し、高い評価を得た。また、「ライモンダ」「くるみ割り人形」に加えて、令和2年度に上演しレパートリーに加わった「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」を再演し、新国立劇場バレエ団ならではの幅広いレパートリーを示す多彩な公演を高い水準で上演した。
- ・ 例年年末に上演する「くるみ割り人形」を、今年度はお正月期間を含めて年末年始を通じて上演し、過去最高の動員数を達成した。
- ・ 新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまで遺憾無く実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、新国立劇場バレエ団の層の厚さをアピールすることができ、観客から高い支持を得た。また、外部専門家等からも評価を受けた。
- ・ 「吉田都セレクション」では、水際対策強化の影響により公演準備が困難となったため、予定されていた演目を変更した。この際、現代舞踊公演「DANCE to the Future:2021 Selection」で上演された演目を観客による投票でアンコール上演することを計画し、この企画は好評を得たが、新型コロナウイルス感染症の影響により直前で公演を中止した。
- ・ SNS(Twitter、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に動画・写真で掲載したり、動画広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- ・ 令和3年度(第72回)芸術選奨においてプリンシパルダンサー奥村康祐が文部科学大臣賞を、プリンシパルダンサー井澤駿が文部科学大臣新人賞をそれぞれ受賞した。
- ・ プリンシパルダンサー米沢唯が第35回服部智恵子賞を受賞した。

【特記事項】

- ・ 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(「白鳥の湖」)
- ・ コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(「ライモンダ」「コッペリア」「くるみ割り人形」)
- ・ 「白鳥の湖」がNHK BSプレミアムで放送された(1/23)

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 《公演実績》(年度当初の公演計画) ※新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限なし

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
Co.山田うん「オバケッタ」	小劇場	7/2 ~7/4	実績	3回	3日	846人	83.9%	1,008	120.9%
			計画	3回	3日	700人	72.5%	966	
新国立劇場バレエ団 「DANCE to the Future : 2021 Selection」	中劇場	11/27 ~11/28	実績	2回	2日	1,412人	89.6%	1,576	128.4%
			計画	2回	2日	1,100人	74.1%	1,484	
小野寺修ニカンパニーデラシネラ「ふしぎの国のアリス」	小劇場	3/18 ~3/21	実績	5回	4日	1,105人	65.8%	1,680	92.1%
			計画	5回	4日	1,200人	74.5%	1,610	
現代舞踊【合計】3公演 (計画:3公演)			実績	10回	9日	3,363人	78.9%	4,264	112.1%
			計画	10回	9日	3,000人	73.9%	4,060	

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
3公演 10回	-	-	153人	135人	-	88.2%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・ Co. 山田うん「オバケッタ」、新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future : 2021 Selection」、小野寺修ニカンパニーデラシネラ「ふしぎの国のアリス」を計画どおり実施した。
- ・ 新国立劇場バレエ団の「NBJ Choreographic Group」から生まれた作品を上演し、クラシックバレエとは異なる側面を観客に提示できたほか、国内の優れた創作グループの作品を広く紹介することができた。
- ・ Co. 山田うん「オバケッタ」、新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future : 2021 Selection」については入場率が80%を超えた。

【特記事項】

- ・ 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭協賛公演(新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future : 2021 Selection」)

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 《公演実績》(新型コロナウイルス感染症による公演中止や販売制限を勘案)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
人を思うちから 其の壱/フルオーデション3 「斬られの仙太」	小劇場	4/6 ~4/25	実績	17回	17日	2,714人	49.6%	5,474	89.8%	
			計画	17回	17日	3,022人	54.5%	5,542		
人を思うちから 其の弐 「東京ゴッドファーザーズ」		5/2 ~5/30	実績	23回	16日	4,037人	87.8%	4,597	101.8%	
			計画	23回	16日	3,967人	86.3%	4,597		
人を思うちから 其の参 「キネマの天地」		6/5 ~6/27	実績	23回	18日	5,632人	88.7%	6,350	103.9%	
			計画	23回	18日	5,420人	85.4%	6,350		
フルオーデション2 「反応工程」		7/12 ~7/25	実績	16回	12日	2,514人	81.8%	3,075	142.1%	
			計画	16回	12日	1,769人	57.5%	3,075		
海外招聘公演「ガラスの動物園」 ※公演中止		中劇場	9/3 ~9/12	実績						
				計画						
フルオーデション4 「イロアセル」	小劇場	11/7 ~11/28	実績	20回	17日	2,764人	42.9%	6,440	65.8%	
			計画	20回	17日	4,200人	64.4%	6,520		
「あーぶくたつた、にいたつた」		12/7 ~12/19	実績	14回	12日	2,176人	48.3%	4,508	87.0%	
			計画	14回	12日	2,500人	54.8%	4,564		
演劇【合計】6公演 (計画:6公演)			実績	113回	92日	19,837人	65.2%	30,444	95.0%	
			計画	113回	92日	20,878人	68.1%	30,648		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※公演中止(一部日程中止を含む)・販売制限を勘案した計画値の算出式

回数・日数 = 当初計画の回数・日数 - 中止した公演(一部日程中止を含む)の回数・日数

入場者数 = 当初計画の目標入場者数 × 公演回数の補正率(注1) × 販売制限の補正率(注2)

(注1)公演回数の補正率 = 実施した公演回数 / 当初計画時の公演回数

(注2)販売制限の補正率 = 実際に販売した1回当たりの満席数 / 当初計画策定時の1回当たりの満席数

(a) 公演実績(年度当初の公演計画)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
人を思うちから 其の壱/フルオーデション3 「斬られの仙太」	小劇場	4/6 ~4/25	実績	17回	17日	2,714人	49.6%	5,474	84.8%	
			計画	18回	18日	3,200人	54.5%	5,868		
人を思うちから 其の弐 「東京ゴッドファーザーズ」		5/2 ~5/30	実績	23回	16日	4,037人	87.8%	4,597	42.5%	
			計画	32回	24日	9,500人	86.3%	11,008		
人を思うちから 其の参 「キネマの天地」		6/5 ~6/27	実績	23回	18日	5,632人	88.7%	6,350	88.0%	
			計画	23回	18日	6,400人	85.4%	7,498		
フルオーデション2 「反応工程」		7/12 ~7/25	実績	16回	12日	2,514人	81.8%	3,075	83.8%	
			計画	16回	12日	3,000人	57.5%	5,216		
海外招聘公演「ガラスの動物園」 ※公演中止		中劇場	9/3 ~9/12	実績						
				計画	9回	9日	5,500人	60.6%	9,072	
フルオーデション4 「イロアセル」	小劇場	11/7 ~11/28	実績	20回	17日	2,764人	42.9%	6,440	65.8%	
			計画	20回	17日	4,200人	64.4%	6,520		
「あーぶくたつた、にいたつた」		12/7 ~12/19	実績	14回	12日	2,176人	48.3%	4,508	87.0%	
			計画	14回	12日	2,500人	54.8%	4,564		
演劇【合計】6公演 (計画:7公演)			実績	113回	92日	19,837人	65.2%	30,444	57.8%	
			計画	132回	110日	34,300人	69.0%	49,746		

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼

し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率 (回収数/配布数)	満足回答率 (満足数/回答数)
6公演 113回	-	-	301人	279人	-	92.7%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった海外招聘公演「ガラスの動物園」を除き、6公演を実施した。
- ・全キャストをオーディションで選考、上演するフルオーディション企画の第二弾「反応工程」は作品のみならずフルオーディションという企画自体が大きな注目を集め、令和2年度に予定されていたすべてのキャストが揃って上演することができた。
- ・フルオーディション企画の第三弾「斬られの仙太」は、作家の長大な分量の台本を咀嚼し、一人の役者が複数の役を演じ分け、堅実な舞台を構築した。
- ・フルオーディション企画の第四弾「イロアセル」は、2011年に上演された演目を作者の倉持裕自身が演出し、新たな舞台を作り出した。社会情勢の変化と、舞台装置に現れる技術の進化を経ても戯曲が持つ社会性、メッセージ性が現代にも通じることを浮き彫りにした。
- ・「あーぶくたった、にいたった」は時間をかけて稽古を積み重ねる「こつこつプロジェクト」(第一期)の作品として、主催公演での上演が実現した。2019年～2020年の試演を経た俳優と、新たに加わった俳優によって、別役実の不条理でありながら笑いと言物悲しさを併せ持つ演劇の魅力を伝えた。
- ・「反応工程」「イロアセル」各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート(文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」)を実施した。
- ・公演に付随して実施してきた企画「ギャラリープロジェクト」を、令和3年度においては全てオンライン配信にて実施し、来場者だけでなく劇場に足を運べない層にも訴求する企画を実施した。
- ・英国ロイヤルコート劇場と協力し、若手劇作家が参加して1年間・3段階にわたるワークショップを通じて新作戯曲を執筆・ブラッシュアップしていく「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」は、オンラインで両国の参加者がディスカッション等を継続した。この中で生まれた戯曲が令和4年度に上演される予定である。(令和4年11月公演「私の一ヶ月」)
- ・「反応工程」の美術を手掛けた伊藤雅子が第29回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞を受賞した。(「反応工程」ほかの美術に対して)

【特記事項】

- ・令和3年度(第76回)文化庁芸術祭主催公演(「イロアセル」)
- ・コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金(「東京ゴッドファーザーズ」「反応工程」)
- ・「斬られの仙太」が「プレミアムステージ」にて放送された(6/6)。
- ・「キネマの天地」が「プレミアムステージ」にて放送された(8/1)。

(3) 青少年等を対象とした公演

- (3) 青少年等を対象とした公演 ————— p.79
 - ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした
公演・入門企画(伝統芸能分野) ————— p.80
 - イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野) — p.83
 - ウ 外国人を対象とした公演・入門企画 ————— p.85

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の 実施に際しての留意事項等

- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等
 - 〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等 ————— p.88
 - 〈2〉 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等 ——— p.95

2 - (3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 2020年東京大会に向けた文化プログラム実施の中核的拠点として、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表4のとおり実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する
- ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表5のとおり実施

《中期目標の指標・関連指標》

<p>2-4 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数 (前中期目標期間実績の維持)</p>	<p>[伝統芸能分野] 青少年：66,727人 (H25-29実績平均：162,410.2人)</p> <p>社会人・親子等：24,214人 (H26-29実績平均：43,399.8人)</p> <p>[現代舞台芸術分野] 13,356人 (H25-29実績平均：25,986.8人)</p>
<p>2-5 外国人向け公演の入場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>[伝統芸能分野] 1,735人 (H28-29実績平均：3,397.7人)</p>

ア 青少年等、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は、三遊亭円朝が口演した人情噺を題材にした「人情噺文七元結」を、7月は、三大名作の一つとして知られる「義経千本桜」の中でも特に人気の高い「河連法眼館」を、親しみやすい内容の解説を付して上演することにより、歌舞伎の普及振興を図る。さらに3月は、「歌舞伎名作入門」と銘打ち、重厚な義太夫狂言の名作「近江源氏先陣館 - 盛綱陣屋 -」を解説付きの一般向け入門公演として実施する。また、文楽鑑賞教室では、「新版歌祭文」野崎村の段を上演し、実演を交えた解説を付け鑑賞の一助とする。なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を上演するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を上演する。さらに、より広い客層にアピールするため、伝統芸能に親しみを感じてもらうための入門公演として、実演を交えた解説を名作の上演と組み合わせた7月邦楽公演「日本音楽のススメ」、8月舞踊公演「日本舞踊のススメ」を上演する。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「寝音曲」、能の人気曲「殺生石」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。8月に「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。

文楽劇場では、青少年や観劇経験の少ない層に対して文楽鑑賞教室を実施する。「五条橋」を上演して文楽の舞台に触れた後、「文楽へようこそ」と題して太夫、三味線弾き、人形遣いの実演解説を行う。最後に名作鑑賞として「卅三間堂棟由来」平太郎住家より木遣り音頭の段を上演し、文楽の普及振興を図る。また、夏休み文楽特別公演では3部制の第1部を「親子劇場」と題し、より低年齢層とその保護者に文楽に親しめるように、動物が活躍する「うつぼ猿」、「ぶんらくってなあに」と題した三人遣いの人形の遣い方の解説を行う。そして現代語による文楽「舌切雀」を上演し、新たな観客層の開拓につとめる。

国立劇場おきなわでは、8月には親子、10月には一般対象に、11月には主に中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。第一部において、案内役による解説「組踊の楽しみ方」を上演することで、第二部の組踊の理解を深める工夫を行う。また、9月には「沖縄芝居鑑賞教室」に、引き続き取り組む。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名		劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「人情噺文七元結」	本館 大劇場	6/2 ~23	実績	40回	20日	21,686人	55.9%	38,800	62.2%
				計画	40回	20日	34,850人	90.0%	38,720	
	7月歌舞伎鑑賞教室 「義経千本桜」		7/3 ~27	実績	46回	23日	29,277人	65.6%	44,620	73.0%
				計画	46回	23日	40,080人	90.0%	44,528	
文楽	12月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」「新版歌祭文」	本館 小劇場	12/4 ~17	実績	25回	13日	8,139人	63.3%	12,850	71.5%
				計画	25回	13日	11,390人	82.4%	13,825	
文楽	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」、解説「文楽へようこそ」、 「卅三間堂棟由来」※一部公演中止	文楽劇場	6/3 ~17	実績	22回	11日	2,226人	22.6%	9,856	17.1%
				計画	28回	14日	13,000人	71.1%	18,284	
能楽	能楽鑑賞教室 解説「能楽のたのしみ」、狂言「寝音曲」、能「殺生石」	能楽堂	6/21 ~25	実績	10回	5日	3,550人	60.3%	5,890	62.4%
				計画	10回	5日	5,685人	96.5%	5,890	
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室 「黒島王物語」	国立劇場 おきなわ 大劇場	9/16 ~17	実績	2回	2日	240人	25.3%	948	60.9%
				計画	2回	2日	394人	80.1%	492	
	組踊鑑賞教室 「執心鐘入」		11/24 ~26	実績	6回	3日	1,609人	49.0%	3,282	66.5%
				計画	6回	3日	2,418人	70.0%	3,456	
伝統芸能【合計】		7公演 (計画:7公演)		実績	151回	77日	66,727人	57.4%	116,246	61.9%
				計画	157回	80日	107,817人	86.1%	125,195	

- ・公演中止や販売制限を勘案した入場者数達成率は66.1%。ただし、緊急事態宣言の発出による学校等団体の直前キャンセルによる影響を除くと達成率は93.2%。

(b) 社会人・親子等を対象とした公演・入門企画(再掲)

公演名		劇場	期間	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
社会人	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館 大劇場	6/11 6/18	2回	2日	793人	20.4%	3,880
	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」		7/9 7/20	2回	2日	916人	47.2%	1,940
親子	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」		7/20 ～26	13回	7日	11,813人	93.7%	12,610
歌舞伎【小計】		3公演 (計画:3公演)		17回	11日	13,522人	73.4%	18,430
社会人	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館 小劇場	12/6 12/7	2回	2日	459人	44.6%	1,028
	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門/Discover BUNRAKU」 ※公演中止		6/6	/	/	/	/	/
親子	夏休み文楽特別公演(第一部親子劇場)		7/16 ～8/3	18回	18日	5,681人	48.3%	11,754
文楽【小計】		2公演 (計画:3公演)		20回	20日	6,140人	48.0%	12,782
一般	8月舞踊公演 「日本舞踊のススメ」	本館 大劇場	8/1	1回	1日	729人	75.2%	970
	7月邦楽公演 「日本音楽のススメ」	本館 小劇場	7/24	1回	1日	257人	45.6%	564
	8月特別企画公演 「日本の太鼓」	本館 大劇場	8/7	1回	1日	671人	42.6%	1,574
舞踊・邦楽等【小計】		3公演 (計画:0公演)		3回	3日	1,657人	53.3%	3,108
親子	7月特別企画「親子で楽しむ演芸会」	演芸場	7/24	1回	1日	262人	89.7%	292
大衆芸能【小計】		1公演 (計画:1公演)		1回	1日	262人	89.7%	292
社会人	夏スペシャル 働く貴方の能楽公演 狂言「真奪」、装束付け実演解説、能「是界 白頭」	能楽堂	8/5	1回	1日	424人	72.0%	589
	親子		夏スペシャル 親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「仏師」、狂言「棒縛」 夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/7	1回	1日	505人	85.7%
8/28			1回	1日	502人	85.2%	589	
社会人	働く貴方の能楽公演 おはなし、狂言「佐渡狐」、能「花月」		2/23	1回	1日	580人	92.5%	627
能楽【小計】		4公演 (計画:4公演)		4回	4日	2,011人	84.0%	2,394
親子	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」 ※公演中止	国立劇場 おきなわ 大劇場	8/7 8/8	/	/	/	/	/
一般	組踊鑑賞教室「銘苅子」		10/23	2回	1日	622人	56.3%	1,104
組踊等【小計】		1公演 (計画:2公演)		2回	1日	622人	56.3%	1,104
主に社会人を対象とした公演・入門企画 【合計】		9公演 (計画:7公演)		13回	12日	5,451人	44.4%	12,276
主に親子を対象とした公演・入門企画 【合計】		5公演 (計画:6公演)		34回	28日	18,763人	72.6%	25,834
【合計】		14公演 (計画:13公演)		47回	40日	24,214人	63.5%	38,110

(c) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	会場	共催	期間	回数	入場者数	入場率
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立青少年センター	かながわ伝統芸能祭実行委員会	6/25 ～26	4回	685人	50.1%

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	6公演 120回	—	839人	802人	767人	—	95.6%
主に社会人を対象とした 公演・入門企画	7公演 10回	—	595人	523人	514人	—	98.3%

※本館は一部公演でインターネットによるアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

③優れた業績・評価すべき点

- ・歌舞伎では、6・7月に鑑賞教室を実施し、現代人にも聞き取りやすい台詞回しで演じられる世話物の「人情噺文七元結」（6月）と、動物が主人公となるメルヘンチックな内容で人気の高い「義経千本桜」河連法眼館（7月）を取り上げ、作品の内容に則した分かりやすい事前解説を施すことで、若年層が歌舞伎の魅力に初めて触れる貴重な機会を提供することができた。
- ・また、青少年対象公演の次のステップとして、日頃歌舞伎になじみの薄い一般の歌舞伎初心者に向けた入門公演「歌舞伎名作入門」を3月に実施し、名作として知られながらもやや難解と思われる「近江源氏先陣館一盛綱陣屋」を、作品内容に寄り添った平易な事前解説付きで上演し、好評を博した。
- ・本館小劇場の文楽鑑賞教室では、昼の時間帯では学生向け21回、夜の時間帯にも文楽に興味をもつ層に観劇機会を設けるために3回の公演、外国人向けの公演を1回実施した。また、上演の構成は「解説 文楽の魅力」「新版歌祭文」とした。初めて文楽に触れる青少年でも文楽特有の表現や演出を短い時間で楽しめる演目に解説を組み合わせることで、文楽の持つ魅力について広く提供できた。「新版歌祭文」は世話物を代表する名作であり、近世大坂近郊の生活様式を表現するものであることから、文楽の文学的興味だけではなくバックグラウンドである日の生活文化に至るまで関心を寄せる契機となったと考える。
- ・「日本音楽のススメ」では、若年層が日頃親しんでいる音楽の傾向を踏まえ J-ロックの要素とともに伝統音楽の魅力を紹介する公演を実施した。解説では箏曲や長唄で J-ロックの曲を演奏し、伝統音楽の表現力の可能性の広さを示した。
- ・「日本舞踊のススメ」では、親子を対象とした入門公演というよりは、他ジャンルのコンテンポラリーダンスとの共演・比較を通じて日本舞踊の特徴を提示することを試みた。
- ・演芸場で2年ぶりの上演となった「親子で楽しむ演芸会」では、林家彦いちの落語を中心に、寄席の解説、パントマイム、動物ものまね、曲独楽など、子どもにも分かりやすい盛りだくさんの番組で、コロナ下の入場制限のある中、多くの親子に演芸の多彩な魅力を存分に楽しんでもらうことができた。
- ・能楽鑑賞教室では、所作の多い、ポピュラーな作品を選曲することとし、今年度は「殺生石」と「寝音曲」を上演した。能・狂言の上演前には出演者による解説を設け、鑑賞の導きとした。
- ・「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では公演内容等の理解を促進するため、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評であった。
- ・社会人を主な対象とした「働く貴方の能楽公演」は今年度2回開催した。能・狂言は親しみやすい作品を選択し、その前に「おはなし」を設けることで催しにアクセントを付けることができた。8月はゲスト（落語家）を交えての装束付け実演解説、2月には人間国宝の芸談と、様々なアプローチで能楽に親しんでいただけるような環境を用意することができた。
- ・文楽劇場の文楽鑑賞教室では、中高生をはじめとする若年層及び観劇歴の浅い観客層に対して、芸員による実演を交えた解説と初めて鑑賞する方に相応しい名作を、鑑賞しやすい上演時間で構成する。
- ・文楽劇場の「夏休み文楽特別公演」では、第一部を親子劇場として子供にも分かりやすい「うつば猿」、解説「文楽ってなあに」、「舌切雀」を上演した。
- ・10月、11月の組踊鑑賞教室は、解説の際に客席より来場者を案内役が舞台上げて、即興で一緒に組踊を作っていく例年の形を計画していたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来場者との接触を避けるため、前年度から案内役2人での掛け合いや、ゆかりの地巡り映像、舞台衣装・小道具をスクリーンで解説するなど、初めて組踊を鑑賞する方でも、よりイメージしやすいように配慮して実施した。
- ・組踊鑑賞教室では、学校行事としての参加を促すため、公演の前年度から営業活動に取り組むとともに、県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体の誘客に努めた。

【特記事項】

- ・公演内容の理解を促進するため、「親子で楽しむ歌舞伎教室」では、イラスト入りのパンフレットを作成し、無料配布した。「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」では写真入りの初心者向けパンフレットを作成し、無料配布した。また字幕は横書き英文字幕とし、外国人の観客に対して理解の一助となる工夫を継続して行った。
- ・歌舞伎鑑賞教室の第100回公演を記念して、第1回公演（昭和42年7月）の団体観劇者3名と、初めて観劇する現役高校生4名を迎え、観劇後に感想や思い出を聞く取材会を行った（7/11）。取材内容はホームページで紹介した。
- ・文楽劇場は、国の緊急事態宣言及び自治体の要請等を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため公演期間中の土曜・日曜（6/5, 6, 12）の公演を中止したため、6/6に予定していた新たな観客層を開拓することを目的とした「大人のための文楽入門」「Discover BUNRAKU」の公演も実施できなかった。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

①公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数	達成率	
オペラ 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「カルメン」 ※一部公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	7/9 ～16	実績	4回	4日	3,875人	76.1%	5,094	40.4%	
			計画	6回	6日	9,600人	97.3%	9,864		
		8/21 ～22	実績	2回	2日	1,761人	86.2%	2,042	88.1%	
			計画	2回	2日	2,000人	71.9%	2,780		
バレエ こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～ エデュケーショナルプログラム vol.1 ようこそ「シンデレラ」のお城へ! ※公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	7/24 ～27	実績	8回	4日	5,769人	79.6%	7,244	87.4%	
			計画	8回	4日	6,600人	55.3%	11,936		
		2/26 ～27	実績							
			計画	2回	2日	1,900人	83.2%	2,284		
現代 舞踊 Co.山田うん「オバケッタ」 小野寺修ニカンパニーデラシネラ「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	7/2 ～4	実績	3回	3日	846人	83.9%	1,008	120.9%	
			計画	3回	3日	700人	72.5%	966		
		3/18 ～21	実績	5回	4日	1,105人	65.8%	1,680	92.1%	
			計画	5回	4日	1,200人	74.5%	1,610		
現代舞台芸術【小 計】	5公演 (計画:6公演)	実績	22回	17日	13,356人	78.3%	17,068	60.7%		
		計画	26回	21日	22,000人	74.7%	29,440			

・公演中止や販売制限を勘案した入場者数達成率は108.3%。ただし、緊急事態宣言の発出による学校等団体の直前キャンセルによる影響を除くと達成率は132.3%。

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「ドン・パスクワレ」	ロームシアター京都 メインホール	京都市、ロームシアター 京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)	10/26 ～27	2回	1,772人	59.4%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～	フェスティバルホール	公益財団法人朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール	9/23	1回	1,732人	66.4%
現代舞踊	受託	「オバケッタ」	まつもと市民芸術館	一般財団法人松本市芸術文化振興財団	10/13	1回	150人	52.1%
現代舞踊	受託	小野寺修ニカンパニーデラシネラ「ふしぎの国のアリス」	富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール) 舞台上特設シアター	公益財団法人富山市民文化事業団/富山市	3/26 ～27	3回	486人	82.7%

《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	期間	回数
令和3年度 文化芸術による子供育成総合事業	北海道・青森・秋田・岩手・宮城・静岡 岡各道県の小・中学校体育館	主催:文化庁	9月 ～2月	1回

※当初予定していた10校のうち9校での実施が中止となり、北海道北斗市立大野中学校のみ実施した(11/2)。

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
主に青少年を対象とした公演	5公演 22回	—	—	2,623人	2,181人	—	83.1%

※ウェブアンケートを実施。

③優れた業績・評価すべき点

・「高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021『カルメン』」を実施した。7月15日・16日の公演は公演関係者

に発熱が見られたため中止となった。当該日に来場予定であった高等学校に対しては後日公演ダイジェスト映像の配信及びDVDの配布を実施した。

- こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」は2020年に初演された森山開次のバレエ作品であり、新たなキャストも加えて上演した。前年度に続いてこどもだけでなく、大人の観客からも高い評価を得た。また、再演に当たっては、竜宮伝説の残る京都府北部地域の市町と連携して、観光促進等・地域紹介の展示を行った。
- 子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度の公演が中止となったが、当年度での上演が実現した。新国立劇場開場以来のオペラ・バレエ・演劇3ジャンルのコラボレーションが実現し、近未来の科学技術と人間の共生を描いた作品として、様々なメディアに取り上げられるなど大きな話題を呼んだ。
- Co. 山田うん「オバケッタ」は大人も子どもも楽しめる作品として上演され、絵本の中の世界のような外観を持ちながら、生と死について考えさせる深い内容を持った上演となった。
- こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」は大阪府大阪市、現代舞踊 Co. 山田うん「オバケッタ」は長野県松本市で公演を実施した。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

東京2020大会開催に伴う文化プログラムの一環として、引き続き「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、能楽、組踊で、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

本館文楽においては、日本語を母国語としない外国人にも理解しやすく鑑賞できる機会を作り、観劇人口の増加を図る。解説には、英語のネイティブスピーカー(米国人)で日本食文化研究家である案内役が自身の異文化に傾倒した体験を生かし、在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に日本の伝統芸能・文楽を分かりやすく紹介する。

文楽劇場文楽においては、観客との橋渡し役として進行役に帰国子女のフリーアナウンサーを起用し、英語字幕、タブレット端末を用意し、希望者に配布し、文楽の理解を深める一助とする。

国立劇場おきなわにおいては、多言語対応として、英語・中国語・韓国語・日本語による音声ガイドと英語字幕タブレットを無料提供し、鑑賞の手助けとする。

①公演実績

分野	公演名	劇場	期間	区分	回数	日数	入場者数	入場率	総席数
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	7/27	実績	2回	1日	610人	31.4%	1,940
文楽	12月文楽特別公演 「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	12/14	実績	1回	1日	291人	56.6%	514
	6月文楽鑑賞教室 「社会人・外国人のための文楽鑑賞教室」 ※公演中止	文楽劇場	6/6	実績					
舞踊	8月舞踊公演 ※内容変更	本館大劇場	8/1	実績					
特別企画	Discover 舞踊・邦楽(仮) ※内容変更	本館小劇場	7/24	実績					
	日本の太鼓 Japanese Drum Performance(仮)※内容変更	本館大劇場	8/7	実績					
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 「Discover NOH & KYOGEN」 解説、狂言「口真似」、能「高砂」	能楽堂	10/21	実績	1回	1日	570人	90.9%	627
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ大劇場	11/27	実績	1回	1日	264人	48.8%	541
伝統芸能【合計】		4公演 (計画:8公演)		実績	5回	4日	1,735人	47.9%	3,622

②アンケート調査

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
外国人を対象とした公演	4公演 5回	1,442人	718人	628人	615人	49.8%	97.9%

③優れた業績・評価すべき点

- 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」、「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」は、英語通訳のナビゲーターを交えた解説や、英語の字幕の表示を工夫するとともに、英語と日本語の音声同時通訳解説を無料で提供した。
- 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」は6月の能楽鑑賞教室から独立させて10月に実施し、充実した番組によって外国人観客に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は従来の4言語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語)にフランス語とスペイン語を加え6言語での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語(日本語・英語・中国語(簡)・韓国語・フランス語・スペイン語)として、理解促進に大いに役立った。
- 「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシの作成、県内のインターナショナルスクールや外国人関係団体への公演案内を送付する等の誘客活動を実施した。

【特記事項】

- 日本人観客向けに制作した事前解説を、英語話者ナビゲーターと歌舞伎俳優の掛け合いによる特別バージョンにアレンジして提供した。また、舞台上部に英語字幕を掲出し、2言語(英語・日本語)の音声同

時解説と7言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)表記のパンフレットを無料で提供し、外国人観客の理解促進を図った。(7月 Discover KABUKI)

- ・「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、各国駐日大使を招待し、公演観劇前に、理事長挨拶、文楽の紹介、文化庁長官挨拶を行った。15の国と地域28名が参加。(大使(同伴者含む):7か国13名、公使等(同伴者含む):3つの国と地域5名、大使館関係者:5か国10名)
- ・また、公演を鑑賞し国内外へ向け発信してもらおうべく、SNSで活動する外国人インフルエンサーを招待した。1名が参加。(台湾)
- ・「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」では、横書き字幕を使用し、「新版歌祭文」では詞章の日本語ではなく、英文を表示し、外国人観客への理解を助ける工夫を行った。
- ・また、解説では、敢えて「新版歌祭文」の舞台装置を使用し、本編上演前に作品の世界観を理解するための解説を行った。
- ・「Discover NOH & KYOGEN」は英語による、ダイジェスト映像を「国立オンライン劇場」で後日無料配信した。
- ・文楽劇場での「Discover BUNRAKU」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び自治体の要請等踏まえ公演中止とした。
- ・「はじめての組踊〜Discover KUMIODORI〜」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、多言語音声ガイド(4言語:英語・中国語・韓国語・日本語)、字幕タブレット(6言語:英語・中国語(簡体・繁体)・韓国語・スペイン語・ポルトガル語)を導入した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語サイトや、英語版のチケット販売ウェブサイト(Confetti)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数の目標設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①共催、受託などによる公演等を別表 6 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 7 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 8 のとおり実施
 - ④伝統芸能の振興等のため、青少年、外国人等を対象としたワークショップを各分野で開催
 - ⑤インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等の実施

《中期目標の指標・関連指標》

2-A 全国各地の文化施設等における公演数(共催・受託公演や地方自治体等の協賛公演等の公演数)	[伝統芸能分野] 3 公演
	[現代舞台芸術分野] 9 公演

〈1〉 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

②アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	6 公演	182 回	-	650 人	650 人	628 人	-	96.6%
文楽	10 公演	140 回	-	1,218 人	1,202 人	1,145 人	-	95.3%
舞踊・邦楽等	12 公演	17 回	-	670 人	602 人	584 人	-	97.0%
大衆芸能	9 公演	9 回	2,136 人	1,254 人	1,211 人	1,178 人	58.7%	97.3%
能楽	7 公演	7 回	3,659 人	1,475 人	1,475 人	1,430 人	40.3%	96.9%
組踊等沖縄伝統芸能	17 公演	26 回	4,007 人	2,512 人	2,258 人	2,178 人	62.7%	96.5%
合計	62 公演	381 回	-	7,779 人	7,398 人	7,143 人	-	96.6%

※本館は全公演で毎回ウェブアンケートを実施。能楽堂は座席背面字幕ディスプレイによる選択式で実施。

イ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
特別企画	共催	5月特別企画公演 「二つの小宇宙ーめぐりあう今ー」	本館大劇場	公益財団法人東京都 歴史文化財団(アーツカ ウンシル東京)	5/22	1 回	492 人	55.7%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 安次嶺利美琉舞研究所	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	9/24	1 回	134 人	92.4%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 NPO 法人尋藝能塾	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	10/1	1 回	67 人	26.3%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 糸満市南山組踊保存会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	10/15	1 回	189 人	75.6%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 男性舞踊家 飛輪の会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	10/29	1 回	111 人	87.4%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 大伸座	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	11/5	1 回	220 人	86.3%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球舞踊真流	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	11/12	1 回	221 人	92.9%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 渡嘉敷流二代目渡嘉敷守良道場	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	11/26	1 回	200 人	78.4%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球歌劇保存会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	12/3	1 回	138 人	54.1%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 浦添市文化協会古典芸能琉球舞踊 協会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	12/10	1 回	180 人	90.0%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 玉城流金城清一組踊会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	12/17	1 回	154 人	60.4%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 親泊流輝てい會	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	1/7	1 回	95 人	38.0%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球古典音楽野村流保存会中部北 支部	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖 縄県文化振興会 後援:沖縄県	1/22	1 回	139 人	63.2%

組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 真境名本流英美の会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖縄 文化振興会 後援:沖縄県	2/11	1回	92人	67.2%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 琉球器楽の会	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖縄 文化振興会 後援:沖縄県	2/25	1回	195人	76.5%
組踊等	共催	沖縄県伝統芸能公演 かりゆし芸能公演 宮城本流鳳乃會	国立劇場おきなわ 小劇場	主催:公益財団法人沖縄 文化振興会 後援:沖縄県	3/4	1回	193人	91.9%
組踊等	共催	新春組踊大公演 ※中止	国立劇場おきなわ 大劇場	一般社団法人伝統組 踊保存会	1月			
組踊等	共催	国立劇場おきなわ県外公演 富山特別公演「琉球舞踊と組踊」	富山県教育文化 会館	公益財団法人富山県 文化振興財団富山県 教育文化会館	3/20	1回	293人	94.5%

(b) 年度計画外の公演、地方自治体等との後援・協力等

i. 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭

主催公演	本館大劇場:10月歌舞伎公演 演芸場:11月企画公演(国立名人会) 能楽堂:10月外国人のための能楽鑑賞教室 文楽劇場:錦秋文楽公演、10月舞踊公演 国立劇場おきなわ:10月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)
協賛公演	本館大劇場:11月歌舞伎公演 本館小劇場:10月邦楽公演(素浄瑠璃)、11月雅楽公演、11月舞踊公演 演芸場:10月・11月定席公演(4公演)、10月国立名人会、10月・11月特別企画公演(2公演) 能楽堂:10月・11月定例公演(4公演)、10月・11月普及公演、10月特別公演、11月企画公演 文楽劇場:11月上方演芸特選会 国立劇場おきなわ:10月普及公演、11月企画公演(国立劇場寄席)、11月普及公演

ii. 地方自治体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力

館名	公演名	区分	連携協力先
本館	歌舞伎鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	親子で楽しむ歌舞伎教室 (7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
		後援	文化庁、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
	社会人のための 歌舞伎鑑賞教室	後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所
	文楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	5月特別企画	主催 助成 協力	文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京) 東京都
	4月特別企画(舞踊・邦楽)、6月民俗芸能(公演中止)、7月特別企画(7月邦楽に変更)、8月舞踊、8月特別企画、9月雅楽、11月舞踊、11月雅楽、1月邦楽(三曲・長唄)、3月舞踊	主催	文化庁
	10月邦楽(日本音楽の流れ)	主催 協力	文化庁 浜松市楽器博物館
2月声明(公演中止)	主催 協力	文化庁 東京西部教区 満願寺	
演芸場	9月特別企画公演 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	制作 協力	一般社団法人日本演芸家連合
能楽堂	能楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
文楽劇場	全公演	共催	関西元氣文化圏共催事業
	6月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局
		協力	公益財団法人文楽協会

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	会場	主催等	期間
受託	子供たちのための「人形浄瑠璃文楽体験教室」(文化庁・子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業)	国立文楽劇場	公益財団法人文楽協会	8/17 ～18
制作 協力	狂言劇場 その九(新作狂言「鮎」)	世田谷パブリックシアター	公益財団法人せたがや文化財団	6/19・ 25・26

制作協力	新春檜舞台(新作狂言「鮎」)	石川県立音楽堂	公益財団法人石川県音楽文化振興事業団	1/23
協賛	2021年度小学生のための歌舞伎体験教室	本館小劇場 他	文化庁	8/5 ～10
協賛	第32回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	本館大劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/28 ～29
協賛	2021年度キッズ伝統芸能体験	本館大劇場 他	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/25 ～3/30
協賛	2021年度キッズ伝統芸能体験開講式	国立能楽堂	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/25
協賛	第62回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/20
協力	「道成寺釣鐘お里がえり」奉納公演組踊「執心鐘入」	道成寺(和歌山県)	文化庁、厚生労働省、和歌山県、和歌山県教育委員会、日高川町、日高川町教育委員会、紀の国わかやま文化祭2021日高川町実行委員会ほか	11/3

② 全国各地の文化施設等における公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	共催	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立青少年センター	かながわ伝統芸能祭実行委員会	6/25 ～26	4回	685人	50.1%
組踊等	共催	国立劇場おきなわ県外公演	富山県教育文化会館	公益財団法人富山県文化振興財団富山県教育文化会館	3/20	1回	293人	94.5%
能楽	受託	東日本大震災復興祈念事業 復曲能「名取ノ老女」狂言「舟渡聲」	名取市文化会館 大ホール	名取市、公益財団法人名取市文化振興財団	10/3	1回	629人	54.0%

③ 国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	本館大劇場	7/27	2回	610人	31.4%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	本館小劇場	12/14	1回	291人	56.6%
特別企画	5月特別企画公演「二つの小宇宙ーめぐりあう今ー」	本館大劇場	5/22	1回	492人	55.7%
舞踊	8月舞踊公演 ※内容変更	本館大劇場	8/1			
特別企画	Discover 舞踊・邦楽(仮) ※内容変更	本館小劇場	7/24			
特別企画	日本の太鼓 Japanese Drum Performance(仮) ※内容変更	本館大劇場	8/7			
文楽	6月文楽鑑賞教室「社会人・外国人のための文楽鑑賞教室」 ※公演中止	文楽劇場	6/6			
能楽	外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh&Kyogen 解説、狂言「口真似」、能「高砂」	能楽堂	10/21	1回	570人	90.9%
組踊等	アジア・太平洋地域の芸能	国立劇場おきなわ大劇場	10/31	1回	457人	76.0%
組踊等	はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「執心鐘入」	国立劇場おきなわ大劇場	11/27	1回	264人	48.8%

《アンケート結果》

分野	実施回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
国際文化交流公演等	4公演 5回	1,442人	718人	628人	615人	49.8%	97.9%

(b) 在日各国大使等の公演招待

- ・12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」において、大使館招待を実施した。15か国28名の大使館関係者が参加(うち大使は7か国)。

④ 青少年、外国人等を対象とするワークショップ

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
12月DiscoverBUNRAKUにおける各国駐日大使等招待	12/14	国立劇場 セッション・懇談:大劇場 観劇:小劇場	無料	各国駐日大使等、 12月DiscoverBUNRAKU出演者、 文化庁長官夫妻、文化庁職員、 振興会役員	40人	-
おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説(能楽)	10/16	オンライン	無料	氷川まりこ	12人	-

おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説(歌舞伎舞踊)	11/20	オンライン	無料	阿部さとみ	8人	-
おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説(組踊)	2/12	オンライン	無料	嘉数道彦	4人	-
千代田区後援事業 千代田区在住・在勤者限定 「はじめての歌舞伎講座」(全3回)	2/26・ 3/12・ 3/26	伝統芸場情報館レクチャー室及び歌舞伎の演目に所縁の区内史跡	有料	—	46人	-
演芸レクチャーデモンストラーション 「楽しもう演芸の世界」	9/25 ~26	伝統芸場情報館レクチャー室	無料	金原亭馬生、東家孝太郎、ケン正木、青空キュートほか	106人	196人
能楽体験教室「能楽のセカイ」 ※インターネット配信による開催	5/29 ~	山梨県甲府市武田神社	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、永島充(シテ方観世流)、野口能弘(ワキ方宝生流)、野口琢弘(ワキ方宝生流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5期・第6期・第9期研修修了者	882回	-
楽しもう！体験教室 ※実施時期変更	9/13	名取市文化会館	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方和泉流)、野口隆行(狂言方和泉流)	-	-
届けます。体験教室(シテ方・狂言方体験) ※中止	9/14 ~15	名取市立高館小学校・名取市立関上小中学校・名取市立増田小学校	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方和泉流)、野口隆行(狂言方和泉流)	-	-
楽しもう！体験教室(シテ方・狂言方体験)	1/12	名取市文化会館	無料	坂真太郎(シテ方観世流)、松山隆之(シテ方観世流)、奥津健太郎(狂言方和泉流)、野口隆行(狂言方和泉流)	21人	-
届けます。体験教室(シテ方・囃子方体験)	2/16	都立小金井北高等学校	無料	佐久間二郎(シテ方観世流)、鈴木啓吾(シテ方観世流)、永島充(シテ方観世流)、野口能弘(ワキ方宝生流)、野口琢弘(ワキ方宝生流)、大藏教義(狂言方大藏流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5・6・9期研修修了者	240人	-
楽しもう！能と狂言(シテ方・囃子方体験)	3/26	西東京市保谷こもれびホール	無料	山井綱雄(シテ方金春流)、村岡聖美(シテ方金春流)、柏崎真由子(シテ方金春流)、小野寺竜一(笛方一噌流)、柿原孝則(大鼓方高安流)、第8・9期研修修了者	12人	15人
楽しもう！能の世界	3/30	研修能舞台	無料	高村裕(笛方一噌流)、大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、第6・9期研修修了者	19人	19人
国立文楽劇場 バックステージツアー	2/12 ~13	国立文楽劇場 2階文楽劇場舞台、客席等	1,000円		193人	712人
組踊ワークショップ	7/10	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	上原崇弘、高井賢太郎、新垣勝裕	11人	11人
劇場バックステージツアー※中止	7/31、 8/1	国立劇場おきなわ大劇場	無料	伊藝武士、比嘉大志、山城峻称、仲嶺良盛、金城亮太	-	100人
おでかけワークショップ in 浦添小学校	10/27	浦添市立浦添小学校体育館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	107人	-
おでかけワークショップ in 前田小学校	11/16	浦添市立前田小学校体育館	無料	上原崇弘、比嘉大志、新垣勝裕(子の会)	102人	-
外国人のための組踊ワークショップ	11/27	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	山城峻称、高井賢太郎、佐久田朝太	27人	27人
おでかけワークショップ in 沢岷小学校	12/13	浦添市立沢岷小学校体育館	無料	嘉数道彦、仲嶺良盛、玉城匠	123人	-
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「伊祖の子組」と琉球の歴史文化を学ぶ旅※中止	1/22	伊祖グスク(浦添市内)、国立劇場おきなわ	10,500円(鑑賞券付)、7,000円(鑑賞券なし)	嘉数仁然	-	20人
組踊ワークショップ※中止	1/22	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	玉城匠、知花令磨、棚原健太	-	20人
無形文化遺産でつながるアジアの芸能 座談会	2/9	国立劇場おきなわ大稽古室	無料	嘉数道彦、金城真次、福岡正太、Gopal Venu、Kapila Venu、Endo Suanda、Suksanti Wangwan、Hoang Trong Cuong、Eddin Khoo	会場9人	-
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「二童敵討」と琉球の歴史文化を学ぶ旅※中止	2/12	勝連城跡あまわりパーク、国立劇場おきなわ	12,000円(鑑賞券付)、8,500円(鑑賞券なし)	嘉数仁然	-	20人

組踊ワークショップ ※中止	2/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	無料	上原崇弘、玉城慶、仲嶺良盛	-	20人
県外組踊ワークショップ富山	3/4	富山県 高志の国文学館	無料	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	28人	34人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「届けます。体験教室(シテ方・狂言方体験)」は中止。

※能楽体験教室「能楽のセカイ」の参加者数は3/31時点の視聴回数。

⑤舞台映像の動画配信等

- ・より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像の動画配信を実施した。
- ・動画作成に当たっては、コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金(J-LODlive)やARTS for the future!(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業・AFF)など外部資金も積極的に活用した。

動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	売上件数 再生回数	備考
国立劇場令和3年11月歌舞伎公演「一谷嫩軍記」	令和3年11月 国立劇場	1/31-R5/2/28	1,612	J-LODlive
国立劇場令和4年初春歌舞伎公演「南総里見八犬伝」	令和4年1月 国立劇場	2/21-R5/2/28	2,550	J-LODlive
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」		3/25-R4/4/7	10	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「京鹿子娘道成寺」を語る		3/25-R4/4/7	35	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】 「京鹿子娘道成寺」		3/25-R4/4/7	196	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「新歌舞伎十八番の内 春興鏡獅子」		3/25-R4/4/7	12	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門「春興鏡獅子を語る」		3/25-R4/4/7	54	有料
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編+舞踊本編セット】 「春興鏡獅子」		3/25-R4/4/7	159	有料
国立劇場令和3年9月文楽公演第1部「双蝶々曲輪日記」	令和3年9月 国立劇場	11/30- R4/11/30	714	J-LODlive
国立劇場令和3年9月文楽公演第2部「卅三間堂棟由来」	令和3年9月 国立劇場	11/30- R4/11/30	726	J-LODlive
国立劇場令和3年9月文楽公演第3部「伊賀越道中双六」	令和3年9月 国立劇場	11/30- R4/11/30	775	J-LODlive
国立劇場令和3年12月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」	令和3年12月 国立劇場	2/8-R5/2/28	536	J-LODlive
国立劇場令和3年12月文楽鑑賞教室「新版歌祭文」	令和3年12月 国立劇場	2/8-R5/2/28	521	J-LODlive
国立劇場令和3年8月舞踊公演「日本舞踊のススメ」	令和3年8月 国立劇場	2/18-R5/3/31	1,072	J-LODlive
国立劇場令和3年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より 『八島』	令和3年11月 国立劇場	3/24~ R5/3/31	587	日本博
国立劇場令和3年7月邦楽公演「日本音楽のススメ」	令和3年7月 国立劇場	3/9- R5/3/31	1,039	J-LODlive
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(1)—箏—」		3/29~	184	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(2)—三味線—」		3/29~	316	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(3)—太鼓—」		3/29~	180	日本博
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(4)—笛—」		3/29~	307	
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(5)—尺八—」		3/29~	136	
国立劇場令和3年5月特別企画公演「二つの小宇宙—めぐりあう 今—」	令和3年5月 国立劇場	12/24- R6/12/23	923	
Two Microcosms —A Moment of Encounter—	令和3年5月 国立劇場	12/24- R6/12/23	910	J-LODlive
国立劇場令和3年8月特別企画公演「日本の太鼓」	令和3年8月 国立劇場	2/25-R5/3/31	1,046	J-LODlive
国立能楽堂企画公演「日本人と自然 春夏秋冬」復曲能「泰山木」	令和3年4月 国立能楽堂	6/1-	4,049	
National Noh Theatre Special Programme Noh (Revival) Taisanmoku	令和3年4月 国立能楽堂	6/16-	744	
国立能楽堂企画公演【女性能楽師による】	令和3年4月 国立能楽堂 (無観客収録)	6/16-	7,187	
National Noh Theatre, Special Programme “Performed by Noh Actresses”	令和3年5月 国立能楽堂	8/17-	566	
国立能楽堂5月普及公演	令和3年5月 国立能楽堂	7/2-	4,200	

National Noh Theatre, Dissemination Performance in May	令和3年5月 国立能楽堂	8/17-	654	
国立能楽堂狂言企画公演〈日本人と自然 草木成仏〉「梟」「蟬」「鮎」	令和3年5月 国立能楽堂	7/16-	3,833	
National Noh Theatre, Special Programme of Kyogen 〈Humanity and Nature in Japan〉	令和3年5月 国立能楽堂	8/17-	457	
令和3年10月外国人のための能楽鑑賞教室《Discover NOH& KYOGEN》	令和3年10月 国立能楽堂	12/24- R4/12/23	858	
国立文楽劇場 令和3年4月文楽公演 第1部「花競四季寿・恋女房染分手綱」	令和3年4月 国立文楽劇場	4/26-5/16	121	有料
国立文楽劇場 令和3年4月文楽公演 第2部「国性爺合戦」	令和3年4月 国立文楽劇場	4/26-5/16	297	有料
国立文楽劇場 令和3年4月文楽公演 第3部「傾城阿波の鳴門・小鍛冶」	令和3年4月 国立文楽劇場	4/26-5/16	416	有料
国立文楽劇場 令和3年夏休み文楽特別公演 第1部「うつぼ猿・解説・舌切雀」	令和3年7・8月 国立文楽劇場	8/4-8/24	76	有料
国立文楽劇場 令和3年夏休み文楽特別公演 第2部「生写朝顔話」	令和3年7・8月 国立文楽劇場	8/4-8/24	67	有料
国立文楽劇場 令和3年夏休み文楽特別公演 第3部「夏祭浪花鑑」	令和3年7・8月 国立文楽劇場	8/4-8/24	106	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第1部「蘆屋道満大内鑑 保名物狂の段」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	95	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第1部「蘆屋道満大内鑑 葛の葉子別れの段・蘭菊の乱れ」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	80	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第2部「ひらかな盛衰記 大津宿屋の段・笹引の段」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	43	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第2部「ひらかな盛衰記 松右衛門内の段・逆櫓の段」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	41	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第3部「団子売」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	33	有料
国立文楽劇場 錦秋文楽公演 第3部「ひらかな盛衰記 辻法印の段・神崎揚屋の段」	令和3年10・11月 国立文楽劇場	11/22-2/12	41	有料
国立文楽劇場 初春文楽公演 第1部「寿式三番叟」	令和4年1月 国立文楽劇場	1/27-2/16	62	有料
国立文楽劇場 初春文楽公演 第1部「菅原伝授手習鑑 寺入りの段・寺子屋の段」	令和4年1月 国立文楽劇場	1/27-2/16	62	有料
国立文楽劇場 初春文楽公演 第2部「絵本太功記 二条城配膳の段・夕顔棚の段・尼ヶ崎の段」	令和4年1月 国立文楽劇場	1/27-2/16	73	有料
国立文楽劇場 初春文楽公演 第3部「染模様妹背門松 生玉の段・質店の段・蔵前の段」	令和4年1月 国立文楽劇場	1/27-2/16	49	有料
国立文楽劇場 初春文楽公演 第3部「辰鴛色相肩 廓嘶の段」	令和4年1月 国立文楽劇場	1/27-2/16	42	有料
国立文楽劇場 8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	令和3年8月 国立文楽劇場	8/28-9/10	68	有料
国立文楽劇場 5月新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会	令和3年5月 国立文楽劇場 (無観客収録)	5/22-6/4	4,047	J-LODlive
国立文楽劇場 浪曲名人会	令和4年2月 国立文楽劇場	2/26-3/18	15	有料
April Bunraku Performance Part 1 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	7/16-R4/8/31	2,934	J-LODlive
April Bunraku Performance Part 2 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	7/16-R4/8/31	4,067	J-LODlive
April Bunraku Performance Part 3 National Bunraku Theatre	令和3年4月 国立文楽劇場	7/16-R4/8/31	3,200	J-LODlive
A Gathering in Appreciation of Dance and Music National Bunraku Theatre	令和3年5月 国立文楽劇場	7/16-R4/8/31	698	J-LODlive
琉球舞踊公演「男性舞踊家の会」	令和3年6月 国立劇場おきなわ	1/21-1/27	34	有料
組踊「執心鐘入」(日本語字幕版)	令和3年11月 国立劇場おきなわ	2/18-2/24	15	有料
組踊「執心鐘入」(英語字幕版)	令和3年11月 国立劇場おきなわ	2/18-3/21	1	有料
沖縄芝居「与那国シヨンガネー」(無観客公演)	令和3年9月 国立劇場おきなわ	3/4-3/10	15	有料
国立劇場おきなわ令和3年7月組踊公演「大川敵討」～糺しの場～(稽古風景や出演者へのインタビュー動画)	令和3年7月 国立劇場おきなわ	6/15-	1,034	日本博
組踊ゆかりの地巡り～「万歳敵討」編～	令和3年8月 国立劇場おきなわ	7/29-	1,296	日本博
組踊ゆかりの地巡り～銘苺子編～	令和3年10月 国立劇場おきなわ	10/4-	1,011	日本博

組踊ゆかりの地巡り～執心鐘入編～×リュウカツチュウ【コラボ企画】	令和3年11月 国立劇場おきなわ	10/25-	1,034	日本博
沖縄芝居公演「与那国シヨンガネー」の一部映像をご紹介します	令和3年9月 国立劇場おきなわ	11/29-	1,404	AFF
組踊「二童敵討」指導者インタビュー	令和4年2月 国立劇場おきなわ	1/26-	483	日本博
【潜入】組踊？琉球舞踊？歌舞劇「首里城物語」の舞台裏をのぞき見【リュウカツチュウコラボ】	令和4年2月 国立劇場おきなわ	3/7～	1,760	日本博
合計			68件	61,968

⑥ その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

- ・令和3年度独立行政法人日本芸術文化振興会主催公演・展示等事業
- ・令和3年度国立劇場おきなわ自主公演等24件(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団より申請)

(b) その他の連携協力

- ・国立劇場・国立演芸場近隣の店舗で両館のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられるキャンペーン「国立劇場 Goto 半蔵門」を、「国立劇場ようこそ半蔵門」と改称し、前年度に引き続き実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。
- ・一般社団法人千代田区観光協会との協力により、国立劇場の歌舞伎及び文楽公演につき、同協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)に公演情報を掲出し、公演周知を図った。
- ・本館の地元地域である東京都千代田区との連携を強化するため、同区在住・在勤者向けの限定企画として、チケット割引キャンペーン「千代田区特別感謝デー」(10月、11月歌舞伎、7月歌舞伎教室)や、体験付きレクチャーや史跡巡りと歌舞伎鑑賞を組み合わせた同区の後援事業「はじめての歌舞伎講座」(3月歌舞伎)を実施した。
- ・韓国の国立国楽院と連携し、開院70周年記念国際セミナー「アジア宮中音楽と舞踊の伝承」を実施した(11/26 オンライン開催)。参加国は日本・韓国・ブルネイ・カンボジア・タイ・ベトナムで、各国の実演家や研究者が一堂に会し議論を交わした。日本からは、国立劇場と国立劇場おきなわの担当者が数名参加し、本土の雅楽や沖縄の宮廷音楽の抱える現状と今後の展望について課題を提示した。同セミナーは国際的にも評価され、アジア圏内における国楽の実演・研究の促進につながった。
- ・国立劇場・国立演芸場にて、前年度に引き続き、地域連携及び学校教育活動への協力の一環として、千代田区立麴町中学校が11月に実施した「ミライ探求フィールドワーク」の中学生訪問を受け入れ、国立劇場・国立演芸場の施設見学等を実施(11/19)。
- ・文楽劇場では、大阪府市はもとより、Osaka Metro、JR西日本、大阪市立中央図書館といった多様な連携先との協力により広報活動を充実させた。
- ・国立劇場おきなわでは、沖縄県の補助事業を活用して貸切バス費用助成事業を行った。

〈2〉現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

①外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。

また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

②アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	回数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	12 公演	51 回	-	-	2,900 人	2,407 人	-	83.0%
バレエ	5 公演	36 回	-	-	665 人	635 人	-	95.5%
現代舞踊	3 公演	10 回	-	-	153 人	135 人	-	88.2%
演劇	6 公演	113 回	-	-	301 人	279 人	-	92.7%
合計	26 公演	210 回	-	-	4,019 人	3,456 人	-	86.0%

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からチラシ等の手渡し配布を取りやめているため、劇場内にウェブアンケート回答用ページにアクセスできるQRコードを掲示した他、希望者に同様のQRコードを印字した用紙をお渡しした。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室2021「カルメン」に関しては、事前配布したアンケート用紙を後日学校単位で回収しているため対象となった3,556人から2,475件の回答があった(回収率69.6%)。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲出した。

イ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

①共催、受託などによる公演等

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	共催	「清教徒」	新国立劇場 オペラ劇場	公益財団法人日本オペラ振興会、公益財団法人東京二期会	9/10 ~12	3回	2,255人	44.1%
オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室2021「ドン・パスクワール」	ロームシアター京都 メインホール	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場	10/26 ~27	2回	1,772人	59.4%
オペラ	提携	「カルメン」	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール	滋賀県、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/31 ~8/1	2回	2,230人	67.7%
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	東京文化会館 大ホール	ザルツブルグ・イースター音楽祭、公益財団法人東京都歴史文化財団	8/4 ~7	-	-	-

(b) 年度計画外の公演等

i. 令和3年度(第76回)文化庁芸術祭

主催公演	オペラ「チエネレントラ」 バレエ「白鳥の湖」 演劇「イロアセル」
協賛公演	オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 現代舞踊「DANCE to the Future: 2021 Selection」

ii. 大学との連携協力

- ・11大学と連携・協力に関する協定を締結している。(東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学)
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、大学からのインターンシップ生の受け入れを実施。

②全国各地の文化施設等における公演

(a) 年度計画公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	提携	「カルメン」	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール	滋賀県、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	7/31 ~8/1	2回	2,230人	67.7%
オペラ	提携	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 ※公演中止	東京文化会館 大ホール	ザルツブルグ・イースター音楽祭、公益財団法人東京都歴史文化財団	8/4 ~7	-	-	-

オペラ	共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021「ドン・パスクワレ」	ロームシアター京都メインホール	主催:京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場	10/26~27	2回	1,772人	59.4%
バレエ	受託	「白鳥の湖」	やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)大ホール	主催:山形県総合文化芸術館オープニング事業等実行委員会	4/10	1回	1,514人	82.5%
演劇	受託	「東京ゴッドファーザーズ」	穂の国とよはし芸術劇場PLAT主ホール	主催:豊橋市/公益財団法人豊橋文化振興財団	6/4~6	3回	1,223人	57.0%
演劇	受託	「東京ゴッドファーザーズ」	兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール	主催:兵庫県/兵庫県立芸術文化センター	6/11~12	3回	1,048人	47.7%
演劇	受託	「東京ゴッドファーザーズ」	高崎芸術劇場スタジオシアター	主催:公益財団法人高崎財団	6/17~18	2回	550人	73.3%
バレエ	受託	こどものためのバレエ劇場2021 バレエ「竜宮 りゅうぐう」～亀の姫と季(とき)の庭～	フェスティバルホール	公益財団法人朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、フェスティバルホール	9/23	1回	1,732人	66.4%
バレエ	受託	バレエ「白鳥の湖」	上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ)	主催:上田市(上田市交流文化芸術センター)/上田市教育委員会	11/7	1回	680人	98.3%
バレエ	受託	新国立劇場バレエ団クラシックバレエハイライト2022※公演中止	枚方市総合文化芸術センター 関西医大 大ホール	主催:枚方市総合文化芸術センター指定管理者アートシティひらかた共同事業体	1/29	-	-	-
現代舞踊	受託	小野寺修二カンパニーデラシネラ「ふしぎの国のアリス」	富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)舞台上特設シアター	主催:公益財団法人富山市民文化事業団/富山市	3/26~27	3回	486人	82.7%

(b) 年度計画外の公演等

i. 年度計画外の公演

分野	区分	公演名	劇場	連携協力先	期間	回数	入場者数	入場率
現代舞踊	受託	現代舞踊「オバケッタ」	まつもと市民芸術館	主催:一般財団法人松本市芸術文化振興財団	10/13	1回	150人	52.1%

ii. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	期間	回数
東京都交響楽団定期演奏会 フォーレ:「レクイエム」	サントリーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	6/1	1回
オペラ『Only the Sound Remains -余韻-』	東京文化会館大ホール	主催:(公財)東京都歴史文化財団 東京文化会館	6/6	1回
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2021 ※ (ワークショップ4回、コンサート1回)	東京芸術劇場 ギャラリー1(ワークショップ) 東京芸術劇場コンサートホール(メインコンサート) 池袋西口公園野外劇場グローバルリング(ミニコンサート)	主催:東京都/(公財)東京都交響楽団	8/12~13	5回
令和3年度文化芸術による子供育成総合事業 ※予定されていた10校のうち1校のみ実施	北海道・青森・秋田・岩手・宮城・静岡各道県の小・中学校内体育館	主催:文化庁	9月~2月	1回
ベッリーニ:オペラ「清教徒」	新国立劇場オペラパレス	主催:(公財)日本オペラ振興会	9/10~12	3回
東京都交響楽団特別公演 Fate/Grand Order Orchestra Concert	東京芸術劇場コンサートホール	主催:東京都交響楽団	9/20	1回
サントリーホール 35周年記念ガラ・コンサート 2021～夢を奏でる場所～	サントリーホール	主催:サントリーホール	10/2	1回
東京交響楽団 ホール・オペラ ヴェルディ:「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」	サントリーホール	主催:サントリーホール	10/7・9	2回
桐邦学園オーケストラ 若き音楽家たちによるフレッシュ・オペラ ヴェルディ:「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」	サントリーホール	主催:サントリーホール	10/8	1回
東京交響楽団定期演奏会 モーツァルト:「レクイエム K.626」	東京オペラシティコンサートホール(22日) ミュゼ川崎シンフォニーホール(24日)	主催:(公財)東京交響楽団/ミュゼ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(24日のみ)	10/22・24	2回
東京交響楽団定期演奏会 オルフ:「カルミナ・ブラーナ」	サントリーホール(13日) ミュゼ川崎シンフォニーホール(14日)	主催:(公財)東京交響楽団	11/13~14	2回
読売日本交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京芸術劇場(18・19・20日) サントリーホール(22・23日)	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/読売テレビ/(公財)	12/18~24	6回

	フェスティバルホール(24日)	読売日本交響楽団		
東京交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	ミュージア川崎シンフォニーホール(18日) 東京オペラシティコンサートホール(21日) サントリーホール(28・29日)	主催:(公財)東京交響楽団/ ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(18日のみ)	12/18 ~29	4回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京オペラシティコンサートホール(23日) サントリーホール(25日) Bunkamura オーチャードホール(26日)	主催:(公財)東京フィルハーモニー交響楽団	12/23 ~26	3回
第65回NHKニューイヤーオペラコンサート特別編 それでも、人は歌い続ける!	東京芸術劇場コンサートホール	主催:NHK	1/3	1回
クラシック倶楽部(番組収録)	めぐろパーシモンホール	主催:NHK	1/15	1回
読売日本交響楽団定期演奏会 R・シュトラウス:「エレクトラ」※	サントリーホール	主催:文化庁(13日のみ)/読売新聞社/日本テレビ放送網/読売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	2/10~ 13	2回
東京都交響楽団定期演奏会 ブリテン:「春の交響曲」※	サントリーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	2/18	1回

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一部又は全部を公演中止

iii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- 前年度までに連携・協力に関する協定を締結した札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)、ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場に加えて、新たに、上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)と連携・協力に関する協定を締結(12/21)し、全国公演等を実施している。
- 全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者の実習受け入れ若しくは地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。

③国際文化交流公演等

(a) 年度計画公演

分野	公演名	劇場	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	「ルチア」 ※一部日程公演中止	新国立劇場 オペラ劇場	4/18 ~25	3回	2,397人	47.3%
オペラ	「ニュルンベルクのマイスタージンガー」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	11/18 ~12/1	5回	7,377人	85.5%
演劇	海外招聘公演「ガラスの動物園」 ※公演中止	新国立劇場 中劇場	9/3 ~12	-	-	-

- モンテカルロ歌劇場との共同制作公演オペラ「ルチア」を再演した。
- 令和2年度に公演中止となった東京文化会館・ザルツブルク・イースター音楽祭・ザクセン州立歌劇場との共同新制作「ニュルンベルクのマイスタージンガー」を1年越しに上演することができた。
- 海外バレエ団に所属していた日本人ダンサーが「バレエ・アステラス2021」を実施。同作品に出演予定だった新国立劇場バレエ研修所の研修生1名が発熱したため、8月28日は研修生全員の出演を急遽見送り、29日公演のみ予定どおり出演した。
- フランスの国立オデオン劇場で上演され、新国立劇場で海外招聘公演として9月に上演予定であった演劇「ガラスの動物園」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公演中止となった。令和4年度での実施を予定している。
- 「ロイヤルコート劇場×新国立劇場 劇作家ワークショップ」を実施し、その成果についてホームページ等で公開した。また、本取組によって生まれた戯曲の公演を令和4年度に上演予定(令和4年11月演劇公演「私の一ヶ月」)。

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

分野	公演等名	開催場所	期間
イベント参加	「ヨーロッパデー」を祝うイベントにオンライン参加	在日EU大使館(EU)	5/12
イベント参加	「フランス建国記念日」を祝うイベントにオンライン参加	在日フランス大使館(フランス)	7/14
イベント参加	「日独交流160周年」に「マイスタージンガー」オペラトーク	ゲーテ・インスティトゥート東京(ドイツ)	11/22

海外配信	オペラ・ビジョンで、オペラ「カルメン」オンライン配信	オペラ・ヨーロッパ(ベルギー)	10/18 ~1/18
海外配信	「World Opera Day」に新国立劇場バレエ団「白鳥の湖」紹介映像オンライン参加	オーストラリア・バレエ団(オーストラリア)	10/19
海外配信	「ワールド・バレエ・デー」にオペラ・ビジョンで、新国立劇場オペラ研修所紹介映像をオンラインで世界配信	オペラ・ヨーロッパ(ベルギー)	10/25 ~4./25
海外配信	「日本文化週間」にバレエ「竜宮」紹介動画オンライン参加	在コスタリカ日本大使館(コスタリカ)	2/28
上映会	中国国家大劇院 オペラ・フィルム・エグジビジョン オペラ「トゥーランドット」(2019年7月初演)上映	中国国家大劇院(中国)	10/10
上映会	台中国立歌劇院 春節舞台映像上映会 オペラ「Super Angels スーパーエンジェル」上映	台中国家歌劇院小劇場(台湾)	2/2
国際会議	アジア太平洋舞台芸術文化施設協会(AAPPAC)年次総会にオンライン参加	エスプラナーダ劇場(シンガポール)	10/28 ~29
国際会議	大邱ユネスコ・オペラ・フォーラムにオンライン参加(スピーチ)	大邱オペラハウス(韓国)	11/1
国際会議	北京舞台芸術フォーラム(BFPA)にオンライン参加	中国国家大劇院(中国)	11/29 ~30

- ・ヨーロッパ最大級のオペラ映像配信プラットフォームである OperaVision にて、7月に新制作したオペラ「カルメン」を10/18から無料配信した。
- ・オーストラリア・バレエ団の招待で、「ワールド・バレエ・デー」に新国立劇場バレエ団によるバレエ「白鳥の湖」のリハーサル風景をFacebook及びYouTubeでライブ配信した。
- ・国際会議へオンライン参加し、海外の劇場関係者との連携を強化した。
- ・英国、南アフリカ、アメリカ、カナダ、上海などの選ばれた制作劇場が参加する、世界の書き下ろし戯曲をいち早く掲載する「劇作家ラボラトリー」メンバーとして加入した。

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う感染症予防対策の一貫として、海外からの入国制限並びに公演時以外の劇場への入館者制限が実施されたため、当年度は海外の芸能関係者の見学は中止した。

iii. 在日各国大使館との連携協力

- ・在日各国大使鑑賞プログラム

- ◇ オペラ「椿姫」において、16か国27名の大使及び外国文化機関代表の臨席のもと実施した(3/10)。なお、休憩時間の懇親会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施を見送った。
- ◇ バレエ「白鳥の湖」において、実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施を見送った。

- ・プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。
- ・在日各国大使館との連携を活発に行い、各国の新型コロナウイルス感染状況や劇場界の動向に関する情報を収集した。
- ・「日独交流160周年」に該当する当年度は、在日ドイツ大使館との交流を活発にし、ドイツに関連する主催公演のオペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」「さまよえるオランダ人」に対して後援名義を取得し、大使館ホームページやSNSで公演の周知等の広報協力を得た。
- ・オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」上演にちなみ、ゲーテ・インスティトゥート東京主催で、大野芸術監督が参加する「マイスタージンガー」に関するトークセッションが開催され、ライブ配信も実施された(11/22)。

④ 舞台映像の動画配信等

- ・より多くの人に鑑賞の機会を提供するため、舞台映像の動画配信を実施した。
- ・11月に「新国デジタルシアター」を開設し、公演等の映像配信情報を一箇所に集約することにより、配信映像へ容易にアクセスできるようにした。
- ・「新国デジタルシアター」は英語版を同時開設し、オペラ公演の配信においては英語字幕の表示も選択可能とした。

動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	売上件数 再生回数	備考
オペラ「カルメン」	令和3年7月 新国立劇場	10/18~1/18	39,905	
オペラ「アルマゲドンの夢」	令和3年10月 新国立劇場	1/28~2/28	3,477	
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」	令和3年8月 新国立劇場	11/26~1/31	5,133	

バレエ公演「 Coppélia 」(無観客ライブ配信)	令和3年5月 新国立劇場	5/2~8	167,203	(最大同時 視聴者数)
合計		4件	215,718	

⑤その他の留意事項

(a) 「beyond2020 プログラム」への参加

新国立劇場 2021/2022 シーズン公演等 21 件(公益財団法人新国立劇場運営財団より申請・新型コロナウイルス感染症拡大による中止公演を含む)

(b) 舞台芸術グローバル拠点事業

国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。

- ・海外劇場等との共同制作に着手した。
- ・アーティストの活動環境の整備等に着手した。
- ・海外劇場等との交流や公演記録映像の活用による海外広報戦略などを通じて、国際的な情報発信の取組を推進した。

(5) 快適な観劇環境の形成

- (5) 快適な観劇環境の形成 ————— p.100
 - ア 快適で安全な観劇環境の提供、
高年齢者・障害者・外国人等への配慮、
サービスの充実 ————— p.101
 - イ 多様な購入方法の提供 ————— p.105
 - ウ 公演内容等の理解促進のための取組 ————— p.106
 - エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用 — p.109

(6) 広報・営業活動の充実

- (6) 広報・営業活動の充実 ————— p.111
 - ア 効果的な広報・営業活動の展開 ————— p.112
 - イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実 — p.123

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ————— p.126
 - ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与 ————— p.127
 - イ 各施設の利用促進を図るための取組 ————— p.127
 - ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力 — p.128

2 - (5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等及び高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
東京 2020 大会の期間中は、外国人利用者への対応の充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
鑑賞団体等に対する公演内容の事前説明会等
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ等で寄せられる意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供、高齢者・障害者・外国人等への配慮、サービスの充実

①観客の要望等を踏まえたサービスの充実

- ・引続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を継続。
- ・各館の初春公演では、ロビー・玄関の正月飾り等を実施。本館では大凧や積み樽を飾り、能楽堂では 1/10 まで能舞台に注連を張り、文楽劇場ではにらみ鯛を舞台上部に吊り上げ来場者に正月の雰囲気をお楽しみいただいた。

(a) 本館

- ・大劇場壁面に季節ごとの造花等の装飾を実施し、季節を感じる雰囲気づくりを行った(6 月「若葉」、7 月「笹・七夕飾り」、10 月「銀杏」、11 月「紅葉」、1 月「正月飾り」、3 月「桜」)。
- ・耳をふさがずに頭の骨の振動で音を伝える「骨伝導イヤホン」の利用によって、舞台音やセリフは生の音で楽しみながら、同時にイヤホンから流れる解説を聞くことができる「骨伝導 DAY」を歌舞伎・文楽公演中、同時解説業者と協力して実施した。
- ・千代田保健所による、新型コロナウイルス感染症対策として非常に重要とされる空気環境(二酸化炭素濃度等)の測定を開演中の客席で実施し、外気と大差ない良好な空気環境との報告を受けた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、劇場ロビーの正面ガラス扉等を開け、外気を取り込み感染リスクを下げた。また、夏場の 7~9 月の公演期間中は冷風機を設置し、暑い外気を直接取り込まないよう、工夫をした。
- ・臨時無料休憩所を大劇場は 3 か所、小劇場は 2 か所増設し、食事場所を拡大した。
- ・無料休憩所以外での食事は不可であることを案内アナウンス及びプラカード等で周知した。
- ・子供用座席クッションについて、抗菌・抗ウイルスコーティングの施工が完了したため、貸出を再開した。

■6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室

- ・新型コロナウイルス感染症対策の一環として、学校団体の入場による混雑回避のため、開場時間を 15 分早め、開演 45 分前とした。
- ・日本博事業を紹介するデジタルサイネージを大劇場 1 階 2 階ロビーに設置し、美しい映像により日本博の総合テーマである「日本人と自然」を PR するとともに、梅・桜・紅葉を表現した歌舞伎の大道具をフォトスポットとして 3 か所設営した。
- ・「国立劇場七夕 WEEK」として、笹飾りを設置し、来場者が短冊の記入・飾りをできるようにした(7/3~7)。

■10 月歌舞伎

- ・大劇場ロビーに特設売店を設置し、演目に所縁の地域である三重県伊勢市の物産展を行った。
- ・日本の伝統文化の普及を歌舞伎鑑賞と併せて図る提携企画として、株式会社山田松香木店の協力により「歌舞伎×香」ワークショップを初めて実施した(初春、3 月歌舞伎でも実施)。

■11 月歌舞伎

- ・大劇場ロビーに特設売店を設置し、演目に所縁の地域である埼玉県熊谷市の物産展を行った。
- ・埼玉県熊谷市のマスコットキャラクター「ニャオざね」によるお客様のお出迎えを行った(11/5)。
- ・11/5・12・19 の 17:00 開演の部限定で、序幕終了後の休憩中、演目にちなむ「宝引」体験を実施し、一般社団法人熊谷市観光協会及び五家宝たねへの協力により提供された銘菓「五家宝」や国立劇場・日本博関連グッズを来場者に進呈した(当日先着 50 名)。
- ・開場 55 周年記念の一環として、国立劇場収蔵資料の活用を図り、所蔵錦絵を使用したカラークリアファイル「一谷嫩軍記」を作成し、販売を開始した。

■初春歌舞伎

- ・演目に所縁の地域である鳥取県倉吉市に関連し、一般社団法人倉吉観光 MICE 協会により、オリジナルキャラクター「倉吉八犬伝」の PR をショーケースに掲出したほか、同様に所縁の地域である千葉県館山市、鳥取県及び倉吉市の物産を販売する特設売店を設置した。また、倉吉観光 MICE 協会の協力、「倉吉八犬伝」の声優 3 名の観劇が実現し、うち 2 名から SNS(Twitter)での発信があったため、リツイートで交流・情報拡散を図った。
- ・劇場正面軒下の丸柱に紅白の柱巻装飾を施すとともに、2 階第一食堂内には大凧を飾って、正月らしい華やかな雰囲気を演出した。
- ・江戸時代の芝居小屋の宣伝方法に由来する「口上看板」を大劇場ロビーに設置し、演目や出演者を紹介して、観客に初芝居観劇の華やかさを提供した。
- ・演目に因んだ意匠を用いて、大劇場ロビー天井に大凧を、2 階壁面に懸垂幕を飾り、華やかな雰囲気を演出した。

- ・1/3～7の開演前に、松の内の獅子舞実演を行った。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ロビーや階段を使用せず、舞台上から花道までを使用して実施した(鏡味仙志郎社中)。
- ・初春公演恒例の手拭い撒きは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出演俳優が舞台上から撒く演出は断念し、国立劇場売店(株式会社文化堂)の協力を得て、売店で販売する公演プログラムの一部に当たり券を挟み込む形で配布した。

■3月歌舞伎

- ・演目に所縁の地域である長野県上田市に関連し、一般社団法人信州上田観光協会の協力により、演目の主人公のモデルとなった真田氏を紹介するミニ展示を行った。
- ・国立劇場基金「くろごちゃんファンド」の寄附キャンペーンを大劇場ロビーで実施した際、3/3・7・11(11:00開演の部)・12・20・24の開演前に、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、国立劇場のマスコットキャラクター「くろごちゃん」を来場者の出迎えに登場させ、キャンペーンの強化を図った。
- ・3/11・18の17:00開演の部限定で、特製リーフレットを無料配布するとともに、尾上菊之助サイン入りブロマイドが当たるくじ引き抽選会を実施した(3/11:参加者360人、当選者93人、3/18:参加者415人、当選者105人)。

(b) 演芸場

- ・ロビー壁面及び劇場正面デジタルサイネージに季節の草花を装飾し、季節を感じさせる雰囲気づくりを行った(4・5月「若葉・あやめ」、6・7・8月「笹・朝顔・江戸風鈴」、9月「若紅葉・なでしこ・桔梗」、10月「秋草」、11月「紅葉」、12月「椿」、1月「正月飾り」、2月「梅・菜の花」、3月「桜・桃」)。
- ・演芸場正面入口外に暑気対策のミストファンを設置した。(7/1～9/26)
- ・幟を更新した。
- ・7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」において、ロビーを風船で装飾し、子供たちが演芸に親しめる雰囲気づくりを行った。
- ・10月特別企画公演「五代目圓楽一門会」において、五代目圓楽を偲び、開演前にロビーで五代目の落語の口演音声を放送した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により劇場ロビー及び客席での飲食を禁止している中、食事を希望する団体に対し、大・小劇場レストラン「十八番」利用の取り次ぎをした。(4件583人利用)

(c) 能楽堂

- ・観客の利便性向上のため、プログラム売場にキャッシュレス決済端末を導入した。
- ・8月企画公演《国立能楽堂夏スペシャル》「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」において、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語と英語のチャンネルに加え、子供用の現代語訳チャンネルを導入し、3チャンネルで実施した。また、子供向けイラスト入りパンフレットを配布した。なお、楽器等の体験コーナーは実施を見合わせた。
- ・観客の利便性向上のため、カレンダーを能楽書林、檜書店、小林能装束、文化堂でも取り扱うこととし、月刊国立能楽堂は能楽書林、檜書店、文化堂でも販売することとした(文化堂はネット販売も実施)。

(d) 文楽劇場

- ・観劇の雰囲気盛り上げ、公演演目の周知を図るため、正面玄関の柱に、公演に登場する文楽人形等の写真ポスターを巻きつけた装飾を施し、2階ロビーへの大階段の周辺にも大型懸垂幕ポスターを掲出した。
- ・上演演目に因んだ観劇記念スタンプを作成した。

■夏休み文楽特別公演

- ・夏休み文楽特別公演の親子劇場「舌切雀」上演にちなみ、不易糊工業株式会社(フエキのり)と文楽のオリジナルコラボグッズ(スティックのり)を作成し、「親子劇場」にご来場のお子様全員にプレゼントした。

■初春文楽公演

- ・初春文楽公演での手拭い撒きは、新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため中止し、抽選で初春文楽公演オリジナル干支手ぬぐいプレゼントを実施した。また、同デザインの手拭いをお客様へ販売するなど、売店に文楽上演演目に因んだグッズ類を充実させ、観劇の雰囲気盛り上げるように努めた。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・所作や表情、美しい衣装をより近く感じてもらうなど、公演の楽しみ方を広げるためオペラグラスの

貸出を開始した。

- ・1月定期公演「琉球舞踊特選会」では、来場者に劇場オリジナルグッズが当たる「お年玉抽選会」を実施し、初春公演の雰囲気盛り上げた。

(f) 新国立劇場

- ・主催公演のプログラム販売においてクレジットカード、交通系電子マネー等の利用に対応した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため閉鎖していたビュッフェに代わり、ホワイエ内でのペットボトルの販売を実施した。また、11月からはオペラパレス1階のテラスにおいて飲食物の試行販売を開始し、新型コロナウイルス感染症対策とお客サービスとの両立を図った。
- ・オペラパレス公演日にメインエントランスにある売店で劇場関連グッズ等を販売した。

②観劇時のマナーに関する取組

- ・視覚的なサインを用いたプラカードにより観劇マナーの注意喚起を行った。

(a) 本館

- ・開演前、休憩時のロビー等においては、場内案内係によりプラカードによる観劇マナーの注意喚起を行うとともに、コロナ感染拡大防止対応員によるプラカードによる会話の抑制、整列退場等の周知・広報・実施に努めた。

(b) 能楽堂

- ・上記の他、座席字幕表示装置も併用して観劇マナーの注意喚起を行った。

(c) 文楽劇場

- ・劇場内に観劇マナーに関する日本語と英語によるチラシを配架、日本語によるポスターを掲出。

(d) 国立劇場おきなわ

- ・字幕表示板を利用し、観劇マナーの注意喚起を行った。

(e) 新国立劇場

- ・保護者・子供向けのマナーちらしをホワイエ各所に設置し、必要に応じて場内案内係の口頭及び視覚的なサインを用いたボード(日・英)による観劇マナーに関する注意喚起を実施した。

③高齢者・障害者等多様な観客への配慮、サービスの充実

- ・前年度に引き続き、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ・新国立劇場の各公演において障害者割引を行った。
- ・障害者割引利用におけるチケット引取り時の確認について、障害者手帳以外に障害者手帳アプリ「ミライロ ID」の提示でも可能とした。

(a) 本館

- ・6月歌舞伎鑑賞教室で、聴覚障害者の観劇機会拡大のため、6/13・20の各ステージにおいて、無線ポータブル字幕機に上演台本を表示する観劇支援を、有料・各ステージ80台限定で実施した。振興会ホームページ・Twitter、チラシの掲出、プレスリリースサービスにより周知した。(利用実績：76名)
- ・歌舞伎・文楽公演において、人数制限を行い託児サービスを実施、観客の利便を図った。
- ・耳をふさがずに頭の骨の振動で音を伝える「骨伝導イヤホン」の利用によって、舞台音やセリフは生で楽しみながら、同時にイヤホンから流れる解説を聞くことができる「骨伝導 DAY」を、歌舞伎・文楽公演中に同時解説業者と協力して実施した。

(b) 演芸場

- ・車椅子を1階及び2階ロビーに常備。

(c) 能楽堂

- ・座席字幕表示装置を活用して、能楽堂主催の全公演(無観客収録となった公演・蠟燭能を除く)で字幕(日本語・英語)等表示を実施した。

(d) 文楽劇場

- ・1階ロビーチケット売場及び楽屋・事務所入口受付に、筆談等及び補助犬入場に対応可である標示を継続して掲出。
- ・車椅子を2階救護室及び3階小ホール控室に常備。
- ・全ての文楽公演及び8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」において、詞章の字幕表示を実施。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・チケット売場に、筆談等対応可である標示を継続して掲出。
- ・劇場ホームページにバリアフリー情報を継続して掲載、観劇する方が事前に劇場内情報を手に入れやすいようにした。
- ・組踊鑑賞教室「執心鐘入」において、盲学校生徒に多言語音声ガイドを無料で貸し出した。

(f) 新国立劇場

- ・文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」として視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートを実施した。
- 【サポート内容】
 - ◇ 視覚障害者向け：公演前の舞台説明会実施、リアルタイム音声ガイド放送、音声プログラム提供等
 - ◇ 聴覚障害者向け：ポータブル字幕機の貸出等
- 【対象公演】
 - ◇ 「東京ゴッドファーザーズ」(聴覚障害者向け：5/22、視覚障害者向け：5/23・24。合計41名参加)
 - ◇ 「反応工程」(聴覚障害者向け：7/18、視覚障害者向け：7/21・22。合計24名参加)
 - ◇ 「イロアセル」(聴覚障害者向け：11/23、視覚障害者向け：11/21・27。合計43名参加)
- ・令和元年度から実施している観劇サポートについて、これまでの取組の総括をホームページに公開した。
- ・障害者割引適用時、障害者手帳の提示に代えて「ミライロ ID」の提示も可とするよう運用を変更した。
- ・引き続き、高齢者割引を行い、Webボックスオフィス購入においても高齢者割引を利用できるよう対応を行った。車椅子での来場にも対応した。

④外国人利用者への配慮、サービスの充実

(a) 本館

- ・歌舞伎・文楽公演の解説書(有料)及び5月特別企画公演・7月邦楽公演・8月舞踊公演の解説書(無料)に英文あらすじ等を掲載し、舞踊・邦楽等の短期公演では英文リーフレット(無料)を配布した。

■「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」

- ・多くの外国人観客に対応するため、特別な体制を整えた。
- ・英語による場内アナウンスを実施、英語対応スタッフを配置した。また、劇場入口において、多言語メガホンを使用し、英語による新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のメッセージを流した。
- ・7言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)の歌舞伎又は文楽の概要説明・演目解説・あらすじを一冊にまとめたリーフレットを作成して無料で配布した。
- ・外国人観客に対応するため、英語及び日本語による進行に応じた字幕表示・音声同時解説を行った。
- ・日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・スペイン語・フランス語の7言語による分かりやすい解説書を無料配布し、理解促進に大いに役立った。

(b) 演芸場

- ・英語版の寄席紹介パンフレットを場内に配置し、外国人の演芸についての理解促進を図った。

(c) 能楽堂

- ・日本語・英語併記版「主催公演予定表」(冊子)、演目を解説した英文リーフレット、英語による場内アナウンス・案内表示等により、外国人の観劇環境を充実した。
- ・日本語・英語併記の施設紹介パンフレットの配布等のサービスを提供した。
- ・能楽堂主催の全公演(無観客収録となった公演・蠟燭能を除く)で座席字幕表示装置(日本語・英語等)を活用した。

■「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH&KYOGEN」

- ・6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)のあらすじと解説を広間に設置・配布した。
- ・座席字幕表示を6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・スペイン語・フランス語)とした。

(d) 文楽劇場

- ・英語によるあらすじパンフレットを作成し、劇場内に配架した(4月文楽公演、夏休み文楽特別公演、錦秋文楽公演、初春文楽公演、6月文楽鑑賞教室、8月邦楽公演、10月舞踊公演、8月上方歌舞伎会)。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・国立劇場おきなわウェブチケット販売サービスに英語版サイトを活用し、外国人のお客様の利便性向上を図った。
- ・外国人観客の案内や問合せに対応するため、多言語対応のタブレットによるオンライン通訳サービスを実施した。
- ・組踊鑑賞教室「銘苺子」において、多言語音声ガイド(2言語:日本語、英語)及び字幕タブレット(英語)を無料で貸し出した。

- ・組踊鑑賞教室「二童敵討」において、字幕タブレット(英語)を無料で貸し出した。

■「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」

- ・外国人観客からの問合せにスムーズに対応できるようロビーに英語通訳を1名配置したほか、公演前には英語通訳付きの組踊ワークショップ(チケット購入者限定)を実施した。
- ・多言語音声ガイド(4言語:日本語、英語、中国語、韓国語)及び字幕タブレット(6言語:英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、スペイン語、ポルトガル語)を無料で貸し出した。

(f) 新国立劇場

- ・2019/2020 シーズンより実施している、全オペラ公演での英語の字幕表示を引き続き実施した。
- ・オペラ研修所修了公演「ドン・ジョヴァンニ」において、日本語字幕に加えて英語の字幕表示を実施した。
- ・プログラムを増頁して英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した(青少年等を対象とした公演を除く)。
- ・英語での対応ができる劇場案内スタッフを配置した。
- ・オペラパレスにおける開演前、休憩後の英語アナウンスを更新し、新型コロナウイルス感染症対策の呼びかけ、ジェンダーニュートラルに配慮した呼びかけに変更した。
- ・全ての主催公演・研修所公演で、海外からチケットを購入できる英語版 Web ボックスオフィスのサービス等を引き続き提供した(なお、オペラパレス公演は、購入時に座席選択が可能となっている)。
- ・日本政府観光局(JNTO)が開催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート 2021」にオンライン参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(3/1～3)

《Discover 公演 多言語化対応状況》

区分	解説書等	字幕	音声同時解説	アナウンス・案内業務
歌舞伎	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・仏)	1言語 (英)	2言語 (日・英)	2言語 (日・英)
文楽 (本館)	7言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓・西・仏)	1言語 (英)	2言語 (日・英)	2言語 (日・英)
文楽 (文楽劇場)	公演中止			
能楽	6言語 (日・英・中(簡)・韓・西・仏)	パーソナル字幕 6言語 (日・英・中(簡)・韓・西・仏)	—	2言語 (日・英)
組踊	チラシのみ 5言語 (日・英・中(簡)・中(繁)・韓)	タブレット 6言語 (英・中(簡)・中(繁)・韓・西・葡)	4言語 (日・英・中・韓)	4言語 (日・英・中・韓)

⑤災害等への対応

(a) 能楽堂

- ・自衛消防訓練を2回(9月・2月)実施し、職員、委託業者等、全職域が参加した。避難誘導等の実地訓練及び模擬消火器による消火訓練を行った。
- ・2月には自衛消防訓練に引き続き舞台安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して、原宿警察署署員指導のもと、担架等によるけが人の搬送を想定した体験訓練を実施した。

(b) 文楽劇場

- ・文楽劇場にて、職員及び委託業者社員が消防署提供のビデオを視聴し消防活動について学んだあと、避難経路の説明、非常用備蓄品の保管場所、屋内消火栓の確認、消火器、AEDの操作に関する訓練を実施し、最後に客席からの避難誘導訓練を行った(10/18)。
- ・文楽劇場にて、職員及び委託業者社員が消防署等のビデオを視聴し、地震及び消防活動について学んだ後、非常用備蓄品・避難経路についての確認を行った(3/8)。
- ・職員及び委託業者社員により、舞台安全対策会議及び現場でのシミュレーションを含む舞台安全講習会を実施した(3/8)。

(c) 国立劇場おきなわ

- ・警備、中央監視員による通報訓練を実施(6/14)。
- ・職員や委託業者等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施(12/13)。
- ・津波避難訓練を実施(11/9)。

(e) 新国立劇場

- ・職員を対象とした避難訓練を実施し、災害時の初動対応を確認した。
- ・各公演前に、劇場案内スタッフを主体とした避難訓練を実施した。

イ 多様な購入方法の提供

i. 伝統芸能分野

- ・チケットセンターホームページ内に親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。
 - ・親子を対象とする公演のインターネット販売では、文楽を除く各公演は、会員及び一般発売に先行して発売した。
 - ・文楽劇場の各文楽公演では新型コロナウイルス感染症拡大のリスク低減のため幕見席の販売を中止した。
 - ・国立劇場おきなわでは、セット券や通し券をウェブチケット販売サービスでも購入できるようにした。
- 《親子を対象とする公演の販売に関するデータ》

公演名	公演期間	購入方法	先行発売日	販売枚数	総入場者数
親子で楽しむ歌舞伎教室	7/20～26	インターネット	6/1	11,321 枚	11,813 人
		電話	6/2	931 枚	
文楽親子劇場	7/16～8/3	インターネット	6/9	1,121 枚	5,681 人
		電話	6/9	2,256 枚	
親子で楽しむ演芸会	7/24	インターネット	6/3	250 枚	262 人
		電話	6/4	20 枚	
夏休み親子のための能の会	8/28	インターネット	6/3	382 枚	502 人
		電話	6/4	83 枚	
夏休み親子のための狂言の会	8/7	インターネット	6/3	468 枚	505 人
		電話	6/4	65 枚	
親子のための組踊鑑賞教室 ※公演中止	8/7～8	親子先行なし	7/1	116 枚	-

※親子のための組踊鑑賞教室の販売枚数は、公演中止決定時の実績

ii. 現代舞台芸術分野

- ・演劇公演において、劇団研究生向けの特別優待割引販売(ユース・アクターズ・プラン)を実施した。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

①解説書等の作成

(a) 本館

- ・国立劇場大劇場及び小劇場において実施したすべての公演（養成研修発表会を除く。）において公演解説書を作成した。うち、初心者を対象にした公演などである、4月舞踊・邦楽公演、5月特別企画公演、6月文楽若手会、7月邦楽公演、8月舞踊公演、8月音の会は、無料配布とした。
- ・6・7月歌舞伎鑑賞教室及び12月文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本（初心者向けガイドブック）を無料配布した。
- ・6・7月「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」において、社会人を主とする来場者が演目の内容を一層理解できるよう、ミニ台本を無料配布した。
- ・3月歌舞伎公演では、午後5時開演の部に限り、みどころ・あらすじ・出演者インタビューを掲載した限定特製リーフレットを無料配布した。
- ・歌舞伎公演解説書では、巻頭の演目概要解説やゆかりの地紀行など、写真や図版を多用したカラーページを設けて、視覚的にも理解促進が図れる記事を掲載した。

(b) 演芸場

- ・出演者の顔写真や略歴を掲載した公演ガイドを毎月作成し無料配布。
- ・11月特別企画「正蔵 正蔵を語る」及び文化庁芸術祭主催「11月国立名人会」において別途解説パンフレットを作成し、いずれも無料配布した。

(c) 能楽堂

- ・公演内容に応じて特集を組み、カラー写真や図版を挿入するなど、工夫を凝らした解説書を毎月作成した。

(d) 文楽劇場

- ・各公演において解説書を作成（新型コロナウイルス感染症拡大リスクを低減するため中止した「2月特別企画公演」及び「上方演芸特選会」を除く）。うち、2月浪曲名人会は無料配布とし、広く公演内容を周知した。
- ・夏休み文楽特別公演、錦秋文楽公演、初春文楽公演で解説書の一部をカラー化し、写真や図版を多用し

て、視覚的に分かりやすい特集記事を掲載した。

- ・夏休み文楽特別公演の解説書では、4月に引退した吉田襄助の特集ページを掲載した。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演解説書ステージガイド(月刊)を作成。

(f) 新国立劇場

- ・すべての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成した。うちバレエ・現代舞踊公演は無料配布とした。
- ・公演プログラムに公演クレジットと英文によるあらすじ解説を掲載した。オペラ公演では 2019/2020 シーズンより継続して増頁にて全てのプログラムに英語による作品解説・出演者プロフィールを掲載した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により令和 2 年度においては 2020/2021 シーズンガイドの作成を見送っていたが、令和 3 年度は 2021/2022 シーズンガイドを作成した。
- ・プログラム販売時のクレジットカード・交通系電子マネー等による支払いを引き続き実施した。観客の利便性向上に寄与するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として接触機会の低減に繋げることができた。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を別途作成、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

②音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

- ・歌舞伎の全公演で、日本語による音声同時解説サービスを実施(英語については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が激減しているため一時休止)。7月の Discover KABUKI では 2 言語(日本語・英語)解説を実施。
- ・文楽の全公演で、日本語による音声同時解説サービスを実施(英語については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が激減しているため一時休止)。12月の Discover BUNRAKU では 2 言語(日本語・英語)解説を実施。
- ・文楽劇場では文楽の全公演で、音声同時解説サービスを実施した(英語については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が激減しているため一時休止)。また、夏休み文楽特別公演文楽親子劇場では、18歳未満の子供について音声同時開設サービスの無料貸出を実施した。
- ・10月普及公演 組踊鑑賞教室「銘苺子」では、2言語(英語・日本語)による音声ガイドを提供した。
- ・11月普及公演 はじめての組踊～Discover KUMIODORI～では、4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)による音声ガイドを提供した。
- ・新国立劇場では、令和 3 年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇 3 演目(「東京ゴッドファーザーズ」「反応工程」「イロアセル」)の一部の公演で、視覚に障害がある方向けにリアルタイム音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

ジャンル	実施公演数	内 訳
歌舞伎公演(鑑賞教室含む)	1 公演	7月鑑賞教室
文楽公演(鑑賞教室含む)	10 公演	全公演
舞踊・邦楽・雅楽・特別企画公演	13 公演	本館:8月舞踊公演、11月舞踊公演、3月舞踊公演
		本館:7月邦楽公演、10月邦楽公演(日本音楽の流れ)、10月邦楽公演(素浄瑠璃)、1月邦楽公演(三曲)、1月邦楽公演(長唄)
		文楽劇場:8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」
		9月雅楽公演、11月雅楽公演
4月特別企画公演(舞踊・邦楽)、5月特別企画公演		
能楽公演(鑑賞教室含む)	48 公演	中止となった公演及び蠟燭能を除く全公演
組踊等沖縄伝統芸能公演(鑑賞教室含む)	16 公演	16 公演(「国立劇場寄席」及び新型コロナウイルス感染防止対策により中止となった 3 公演を除く)
オペラ公演	11 公演	全公演
演劇公演	3 公演	令和 3 年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇 3 演目(「東京ゴッドファーザーズ」「反応工程」「イロアセル」)の各 1 公演で、聴覚に障害がある方向けにポータブル字幕機を提供した。
研修公演	2 公演	オペラ・バレエガラ、オペラ研修所修了公演「ドン・ジョヴァンニ」

- ・7月「Discover KABUKI」、12月「Discover BUNRAKU」で英語字幕を実施した。

- ・オペラ公演、オペラ研修所修了公演で英語字幕を実施した。

③公演内容の事前説明会等の実施

(a) 公演説明会等の実施

区分	公演説明会		施設見学		バックステージツアー	
	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
本館	39件	1,266人	2件	22人	0件	0人
演芸場	0件	0人	1件	3人	0件	0人
能楽堂	6件	235人	1件	12人	3件	81人
文楽劇場	28件	616人	0件	0人	1件	193人
国立劇場おきなわ	2件	37人	2件	22人	0件	0人
新国立劇場	7件	1,750人	0件	0人	0件	0人
合計	82件	3,904人	6件	59人	4件	274人

(本館)

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策として、出演者と観客との区分けに伴い、出演者による観劇団体向けの解説を、ウェブ会議システムの利用により、出演者が別室から解説するリモート方式に変更し、従来と同等のサービスを提供した。
- ・3月歌舞伎公演が「歌舞伎名作入門」と題した企画であることに鑑み、東京都千代田区の後援事業として、参加対象を同区在住・在勤者に限定した全3回の連続講座「はじめての歌舞伎講座」を主催し、その一環で、歌舞伎を初めて鑑賞する参加者に向けたレクチャーを実施した。

(演芸場)

- ・出演者による観劇団体向けの解説を実施した。

(能楽堂)

- ・観劇団体への公演説明会、バックステージツアーを実施した。

(国立文楽劇場)

- ・出演者による観劇団体向けの解説を実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・チケット購入者限定で組踊公演前に組踊ワークショップを開催。
- ・7月組踊「大川敵討(糺しの場)」において、旅行会社と連携して組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施(参加者：11人)。

(新国立劇場)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、バックステージツアー及び劇場施設内での公演説明会は見送り、オンラインでの取組を推進した。
- ・新制作オペラの作品理解を深めるため、カバー歌手の歌唱を交えた音楽解説、演出家等のスタッフによるオペラトークを開催した。
- ・演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介し、舞台への興味関心を喚起するため、演劇公演でシアタートークを開催した。

《オペラトーク・シアタートーク開催実績》

公演	内容	会場	日程	参加人数
カルメン	オペラトーク特別配信版「カルメン」 ※ライブ配信・アーカイブ配信	YouTube	6/24～	609人
チェネレントラ	オペラトーク特別配信版「チェネレントラ」 ※ライブ配信・アーカイブ配信	YouTube	9/13～	201人
斬られの仙太	シアタートーク	新国立劇場小劇場	4/14	170人
キネマの天地	シアタートーク	新国立劇場小劇場	6/16	240人
反応工程	シアタートーク	新国立劇場小劇場	7/14	150人
イロアセル	シアタートーク	新国立劇場小劇場	11/24	180人
あーぶくたった、にいたった	シアタートーク	新国立劇場小劇場	12/14	200人
合計			7回	1,750人

- ・オペラ「カルメン」指揮の大野和士、演出のアレックス・オリエをゲストにYouTubeライブ配信でのオペラトークを開催。斬新な演出のコンセプトについて対談形式で解説し、カバー歌手による歌唱も交えて充実した内容で新制作オペラへの期待感醸成を図った。また、後日アーカイブ映像を公開した。
- ・演劇公演で実施されてきた、各公演の制作担当プロデューサーが公演中の劇場にて舞台美術の説明や

開幕に至るまでの足跡等を解説する公演ガイドツアーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から動画での発信に切り替え、従来抽選で一部の観客に公開していたものを幅広い層にリーチすることができた。(6 演目、総再生数 7,816 回)

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

i. 伝統芸能分野

- 本館では初の試みとなるオンラインによる企画講座として、国立劇場キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を参加対象とした「おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説」を実施し、日本の芸能に大きな影響を与えた「道成寺伝説」という共通のテーマを通じて、ユネスコ無形文化遺産に登録されている伝統芸能の魅力を全 3 回に分けて紹介した (10/16 能楽 12 人、11/30 歌舞伎 (舞踊) 8 人、2/5 組踊 4 人)。
- 本館及び演芸場の所在地である東京都千代田区との連携を深めるため、参加対象を同区内在住者・在勤者に限定した全 3 回の連続講座「はじめての歌舞伎講座」を、同区の後援で主催した。3 月歌舞伎公演の鑑賞に絡めて、伝統芸能情報館レクチャー室での体験付きのレクチャーや、皇居外苑・東御苑をはじめとする歌舞伎の演目に所縁の区内の史跡巡り等を、振興会では初の試みとして実施し、歌舞伎の啓蒙普及と同区の魅力の再発見を図った (2/26・3/12・3/26 実施、参加者：46 名)。
- 株式会社エイチ・アイ・エスと提携し、令和 4 年 5 月文楽公演の演目に所縁の地域である京都をめぐるオンラインツアー (ライブ配信) を、振興会で初めて実施した。国立文楽劇場からの中継で文楽芸員によるレクチャーも実施し、文楽の魅力を紹介した (3/30、14 人)。
- 国立劇場おきなわでは、県内の小学校において、伝統芸能の魅力を親しみやすく感じていただけるよう、入門編のワークショップを実施した。(3 回 参加者人数 318 人)
- 3/20「二童敵討」富山公演にむけて、事前のワークショップを 3/4 に実施した。(開催地：富山県 高志の国文学館 参加人数：28 名)

ii. 現代舞台芸術分野

- チケット購入団体に対して職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した。令和 3 年度においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインでの実施となった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で一部公演中止となった「高校生のためのオペラ鑑賞教室 2021『カルメン』」の代替企画として当該日に来場予定であった学校、及び事前にキャンセルの申込があった学校に対しては後日公演全編収録映像及びダイジェスト映像の配信・DVD の配布を実施した。

エ 意見・要望等の把握とサービス向上への活用

①意見・要望等への対応体制

(a) 振興会

- 各館に寄せられた観客の意見・感想・要望については、より迅速な対応を図るとともに、対応状況の把握と、職員や案内業務委託業者への周知のほか、各館で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。ただし、劇場ロビーに設置していたご意見箱は新型コロナウイルス感染症拡大リスク低減のため一部撤去し、要望を受けた場合に筆記具を渡す等の対応をした。

(b) 国立劇場おきなわ

- 観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

(c) 新国立劇場

- アンケート結果については、関係部署間で共有した。また、来場者アンケートに記載された観客の声のうち、掲載を許可されたコメントについて、ホームページに掲載した。
- アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。
- インターネット上でのご意見収集について、従来は専用フォームのみによる受付であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための公演中止、払い戻しなどに関する問合せニーズの増加に対応するため、新たなご意見受付チャンネルとして、ご意見受付用のメールアドレスを公開した。
- 意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- 主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

②意見・要望等への対応

区分	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数

本館	0件	0件		
演芸場	3件	1件	163件	109件
能楽堂	2件	1件		
文楽劇場	0件	0件		
国立劇場おきなわ	1件	0件	0件	0件
新国立劇場			347件	153件
合計	6件	2件	510件	262件

《主な対応・改善例》

- ・ 新国立劇場では、いただいた意見・要望について下記のような対応を行った。
 - ◇ 新型コロナウイルスによる公演中止関連等の意見・要望(払戻方法、払戻状況の確認、払戻の寄附への振替、公演の実施予定、キャスト変更、感染拡大予防施策等)に対する適宜回答
 - ◇ 頻繁に問われる情報について、ウェブサイトやSNSでの情報配信
 - ◇ 公演で案内係の声が聞こえにくいという意見を受け、案内係が手に持つピクトグラムを数種類作成した。
 - ◇ 英語での合唱団、バレエ団、研修所などのオーディションに関する問合せに対する適宜回答
 - ◇ 英語での「チケットを贈り物として使いたい」というご要望について、適宜案内を行った。

2 - (6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動、

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用し、広報活動を効果的に実施

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の随時提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNS やメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を効果的に実施、より効果的な情報発信を検討

(d)国内外に向け振興会各種事業の情報発信及び周知を実施

③振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行

・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行)

・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行)

・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

④シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

⑤団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑥若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営、サービスの提供、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

⑦全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的にも実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

①あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年4回程度)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)

・会員向けイベント(年2回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)

・会員向けイベント(年3回程度)

④クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年12回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①多様な媒体を活用した効果的な広報活動

- ・新型コロナウイルス感染症拡大にともない、中止となった公演、イベント等について告知。
- ・ポスター、チラシ、ホームページ、メール、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、YouTube)、インターネット広告、会報誌・広報誌での広報、新聞・雑誌等への公演情報掲載等で公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。
- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)、舞台稽古の取材等を実施。
- ・文化庁ホームページ内の令和3年度(第76回)文化庁芸術祭専用ページに6劇場全ての文化庁芸術祭主催公演、協賛公演の公演情報を掲載した。

(a) 本館

- ・今年度からPRTIMESを積極的に活用することで、歌舞伎公演や文楽公演のチケット販売促進を目的としたキャンペーンやイベントに関する広報にも重点を置いた。
- ・一般社団法人VR革新機構の「ボランティア撮影公益事業プログラム制度」に参加し、国立劇場(大・小劇場)の3Dビュー+VR映像を撮影した。普段は関係者以外の立入りができない舞台の裏側や花道下、楽屋等の映像を、振興会ホームページで公開し、施設利用者や観客に向けて、国立劇場の周知を図った。
- ・国立劇場さくらまつり(国立劇場前庭)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催見送り。振興会ホームページにて国立劇場さくら情報を公開した。
- ・5月、9月、12月、2月文楽公演の特設ウェブサイトを作成し、公演記録映像を活用した演目の紹介動画を掲載して訴求を図った。また、当該サイトに誘引するウェブ広告(DSP広告)を展開した。
- ・一般社団法人千代田区観光協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)における公演情報の掲載により、歌舞伎・文楽の公演周知を図った。
- ・地域との連携を深めるために前年度に開始し、国立劇場近隣の店舗で国立劇場・国立演芸場のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられる「国立劇場Goto半蔵門キャンペーン」につき、企画の名称を「国立劇場ようこそ半蔵門キャンペーン」に変更して引き続き実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。

■10月歌舞伎

- ・中村梅玉、中村時蔵、中村又五郎による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等16社が参加した(9/14)。
- ・本公演について13件の新聞記事掲載があった。

■11月歌舞伎

- ・中村鴈治郎、中村芝翫による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等17社が参加した(9/17)。
- ・中村芝翫の囲み取材を、演目にちなみ埼玉県熊谷市のマスコットキャラクター「ニャオざね」とともに行った。スポーツ紙、テレビ局等12社が参加した(11/5)。
- ・本公演について18件の新聞記事掲載があった。
- ・人気の若手俳優の魅力や素顔を伝えて公演を宣伝するため、YouTube国立劇場チャンネル掲載用に若手出演者(市村竹松、中村児太郎、中村橋之助、市川男寅、中村玉太郎)の座談会を11/7に収録し、11/11に前編、11/12に後編を公開した。また、同内容でInstagramに公開した。前編、後編合わせた視聴回数は5,105回だった(千種楽11/25時点)。

■初春歌舞伎

- ・尾上菊五郎、中村時蔵、尾上松緑、尾上菊之助による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等24社が参加した(12/9)。
- ・本公演について16件の新聞記事掲載があった。

■3月歌舞伎

- ・尾上菊之助、中村梅枝、尾上丑之助、小川大晴による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等22社が参加した(2/11)。
- ・本公演について13件の新聞記事掲載があった。

■6月歌舞伎鑑賞教室

- ・中村扇雀、尾上松緑による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等13社が参加した(5/24)。
- ・本公演について8件の新聞記事掲載があった。

■7月歌舞伎鑑賞教室

- ・中村又五郎、市川高麗蔵による取材会(記者会見)を行った(ホテルグランドアーク半蔵門)。新聞社等 16 社が参加した(6/16)。
- ・本公演について 13 件の新聞記事掲載があった。
- ・雑誌「InTouch」(東京アメリカンクラブ会員誌)に広告を掲出し、在日外国人のコミュニティへの展開を図った(「Discover KABUKI」)。

(b) 演芸場

- ・演芸場 2 階ロビーに「令和 2 年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知した。
- ・チラシ・ポスター作成・配布、東京メトロ銀座線新橋駅・丸ノ内線池袋駅／東京駅／新宿三丁目駅／新宿駅・有楽町線池袋駅・半蔵門線三越前駅／永田町駅／半蔵門駅へのポスター掲出、雑誌等への公演情報掲載、取材対応等の通常広報に加え、振興会ホームページにトピックス情報を随時掲載。
- ・「東京かわら版」へ広告掲載。
- ・5 月中席・11 月上席は真打昇進披露公演のため、落語協会と連携し他の 4 席亭での披露興行との共同チラシ・ポスターを作成した。
- ・9 月上席は真打昇進披露公演のため、落語芸術協会と連携し他の 5 席亭での披露興行との共同チラシ・ポスターを作成した。
- ・チラシ裏に新型コロナウイルス感染症対策に伴う「お客様へのお願い」と「国立演芸場の取り組み」を記載し、お客様が安心してご来場いただけるよう努めた。

(c) 能楽堂

- ・1 月狂言の会終演後、国立能楽堂の近隣に所在する日本将棋連盟と連携し、棋士(青野照市九段、香川愛生女流四段)と当日の公演出演者(狂言方大蔵流茂山宗彦師)によるアフタートーク(全来場者対象)を行うことをとくにアピールして営業・宣伝活動を行った。その際、国立能楽堂特別割引を実施、上記のアフタートークをアピールして、国立能楽堂の近隣に所在する千駄ヶ谷大通り商店街、津田塾大学、國學院大學や、営業系の関連先である港区スポーツ文化ふれあい健康財団、さいたま市文化振興事業団、千葉県文化振興財団に対して営業・宣伝活動を行った。
- ・小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)への委託販売を行った。委託販売にあたり、小田急電鉄の延べ 3,000 両に 8 月企画公演の中吊り広告を無料掲出した。
- ・芸名が狂言のアドに由来する歌手 Ado のファーストアルバム発売の販売キャンペーンに協力し付属ブックレットのイラストの背景に国立能楽堂を掲載した。また、発売記念 Youtube 生配信にて公演記録映像を紹介頂き、国立能楽堂の公報・周知に努めた。
- ・チラシ・ポスターの作成・配布、東京メトロ北参道駅へのポスター掲出、新聞・雑誌等への公演情報掲載、取材対応等の通常の広報に加え、振興会ホームページにトピックス情報を随時掲載。
- ・主催公演開催時に見所内座席字幕表示装置に公演情報等を掲出した。
- ・自主公演チケット販売スケジュールの変更及び公演詳細の決定を反映して「国立能楽堂主催公演予定表(令和 3 年 10 月～令和 4 年 3 月)」(日本語・英語表記)を作成・配布し、周知に努めた。
- ・さいたま市文化振興事業団(10/10)及び千葉県文化振興財団(12/19)が主催する能楽関係公演の会場ロビーにてパネルを展示し、国立能楽堂主催公演のチラシを配布するなどの営業活動を行った。
- ・「国立能楽堂ポストカードカレンダー」を作成し、12 月主催公演の来場者にプレゼントする旨をホームページで告知し、集客に努めた。
- ・公演内容に応じて、特別チラシ・ポスターを作成・配布した。
 - ◇ 6 月「能楽鑑賞教室」(特別チラシ 7,800 枚、渋谷区民向け訴求チラシ 1,000 枚)
 - ◇ 8 月親子で楽しむ狂言の会、能の会(特別チラシ 8,000 枚)
 - ◇ 10 月外国人のための能楽鑑賞教室(外国語版チラシ(英語・中国語(簡)、韓国語、スペイン語、フランス語)3,000 部)
 - ◇ 11 月・12 月演出の様々な形(特別ポスター 10 枚、特別チラシ 5,000 枚)
 - ◇ 12 月狂言と落語・講談(特別チラシ 5,000 枚)
 - ◇ 3 月特別企画公演「袴裂」「岩船」(特別ポスター 10 枚、特別チラシ 15,000 枚)

(d) 文楽劇場

- ・公益財団法人文楽協会や Osaka Metro、JR 西日本、在阪私鉄各社の協力を得て、タイアップポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を利用して、一般の集客に努めた。
- ・公演情報等を「公演関係トピックス」として振興会ホームページで公開し、公演を PR。
- ・JR みどりの窓口で文楽公演の入場券を販売し、車内中吊り広告の優遇掲出を行った。

- ・ラジオ CM を実施するとともに、在阪ラジオ局への働きかけにより、番組への芸芸員の出演等で公演 PR に努め、情報の周知を図った。
- ・振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載。
- ・公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を振興会ホームページに掲載、メールや SNS での情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。
- ・劇場利用客への効果的な広報、宣伝を実施するために、1 階エントランスロビーの大画面テレビモニター及び 2 階ロビーの観客用舞台モニターで新型コロナウイルス対策映像、公演の出演者インタビュー動画などの宣伝映像を上映した。

■4 月文楽公演

- ・株式会社ニトロプラスの協力のもと、同社の育成シミュレーションゲーム「刀剣乱舞」に登場するキャラクター「刀剣男士小狐丸」と第三部「小鍛冶」のコラボレーションを実施。特製ポスターと、文楽人形による刀剣男士小狐丸を作成。小狐丸の人形を公演期間中ロビーに展示。SNS などネットを中心に話題となり、文楽未体験の若年女性層などを観劇に誘い込むことに繋がった。
- ・文楽劇場がゲーム「刀剣乱舞」のファンでにぎわう様子を、新聞社 5 社が取材。
- ・ラジオ大阪「Hit&Hit!」に小鍛冶で稲荷明神を遣う玉助がゲスト出演。

■夏休み文楽特別公演

- ・桐竹勘十郎の人間国宝認定の答申を受けて、取材会を実施。その様子を「公演関連トピックス」として振興会ホームページで公開し、公演周知に努めた。
- ・公益財団法人文楽協会の協力により、近鉄難波駅に特大壁面広告を掲出。
- ・第 3 部「夏祭浪花鑑」の舞台が大阪市内であることに因み、大川で運行されている大阪水上バスに全面広告等を、大阪湾を運行するサンタマリア号にポスター等を掲出し公演周知に努めた。
- ・大阪市と連携し大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。
- ・ラジオ大阪「Hit&Hit!」の文楽に関する定期的な企画に協力、公演及び文楽に関する周知に努めた。
- ・大阪市内 24 図書館に「親子劇場」のチラシ・ポスターを配布した。

■錦秋文楽

- ・公演記録映像を活用して、「蘆屋道満大内鑑」及び「ひらかな盛衰記」の公演内容を紹介するダイジェスト動画を作成し、ホームページ及び劇場内の案内ディスプレイで公開した。
- ・桐竹勘十郎、吉田玉男による公演案内動画をホームページ及び劇場内の案内ディスプレイで公開した。
- ・公益財団法人文楽協会の協力を得て、近鉄難波駅に特大壁面広告を掲出した。
- ・大阪市とのタイアップにより、「ムムム!! 文楽シリーズ」中之島文楽公演でチラシを配布し公演 PR を行い、パンフレットに特別割引券を掲載した。

■初春文楽

- ・初春公演の「にらみ鯛」吊り上げの公開取材などをセッティングし、マスコミに積極的に働きかけることで、マスコミ各社を通じて広く情報の提供を図った。
- ・NHK ラジオ「関西ラジオワイド」に鶴澤燕三がゲスト出演し、公演及び文楽の PR に努めた。
- ・NHK テレビ「ニュースほっと関西」に桐竹勘十郎が出演し、公演及び文楽の PR に努めた。
- ・吉田玉也による公演案内動画をホームページで公開し、公演 PR に努めた。
- ・文楽の人間国宝(豊竹咲太夫、鶴澤清治、吉田和生、桐竹勘十郎)の新年挨拶や公演内容のメッセージ動画をホームページで公開し、公演 PR に努めた。また、劇場内のディスプレイで上映した。
- ・上演演目「菅原伝授手習鑑」ゆかりの地である関西各地の天満宮にポスターを掲出、チラシ配架。また、「絵本太功記」ゆかりの地である尼崎のロータリークラブ等にポスター・チラシの配布を依頼。
- ・文楽座命名 150 年にちなみ、150 周年を迎える関西の企業・団体に対し公演の周知を図った。

(e) 国立劇場おきなわ

- ・公演案内の送付
 - ◇ 県内の全自治会(647 か所)へ公演案内を送付
 - ◇ 沖縄県職員専用サイトに公演情報を掲載(7 月琉球舞踊鑑賞会)
 - ◇ 県内 8 か所の観光施設へ当劇場専用ラック設置し公演チラシを配布。
 - ◇ 県内自治会、児童館へ公演案内を送付(8 月親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」、9 月沖縄芝居公演「与那国シヨングナー」「黒島王物語」)
 - ◇ 県内小中高校・大学・専門学校への一斉募集を 3 回実施(9 月沖縄芝居鑑賞教室、11 月組踊鑑賞教室)

- ◇ 県内大学や外国人関係団体に案内を送付(「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」)
- ・ イベントとの連携等
 - ◇ 沖縄県教育委員会主催「おきなわ県民カレッジ第2回美ら島沖縄学講座」を共催(7月「大川敵討(糺しの場)」)。
 - ◇ チケット購入者限定の公演前の組踊ワークショップ(2回実施)を開催。
 - ◇ 一般社団法人りっか浦添が主催する浦添市への誘客イベント「りっか!浦添」に参加し、11月公演「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～『執心鐘入』」のPRを行った。
- ・ TV・ラジオ等による広報
 - ◇ 2/22・3/24 ラジオ沖縄。
 - ◇ 「モモト」 4月号及び7月号に公演の案内。
- ・ 外国関係団体、近隣ホテル、芸能団体、三線販売店、児童館等、公演演目によりのある地域の公民館や関係団体、自治会、老人会等に対し、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開した。
- ・ 県外公演、県外ワークショップにおいて劇場や公演情報の周知を図った。

(f) 新国立劇場

- ・ SNS(Facebook、Twitter、Instagram)を効果的に活用し、稽古場風景や出演者のインタビュー等を動画で積極的に発信したり、公演直前や当日の残席状況を細やかに発信したりすることで、公演への期待感醸成とチケットの販売促進を図った。
- ・ また、公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社のSNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。
 - ◇ オペラ「夜鳴きうぐいす/イオランタ」：指揮者・演出家・芸術監督が出演するオペラトーク(ライブ・アーカイブ配信)
 - ◇ オペラ「ルチア」：海外招聘指揮者、出演者の水際対策に係る待機期間中のオンライン懇談
 - ◇ オペラ「カルメン」：指揮者・演出家・カヴァー歌手が出演するオペラトーク(ライブ・アーカイブ配信)
 - ◇ 子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」：指揮者、台本作家、作曲家、出演歌手による対談
 - ◇ オペラ「チェネレントラ」：演出家・美術家出演するオペラトーク(ライブ・アーカイブ配信)
 - ◇ バレエ「ライモンダ」：主役を踊るダンサーへのインタビュー動画(前後編)
- ・ World Ballet Day 2021に新国立劇場が参加し、Facebook及びYouTubeにて「白鳥の湖」舞台稽古ライブ配信を行った(10/19)。
- ・ 毎年10/25に開催されている世界的オペライベントであるWorld Opera Dayにおいて、2021年のテーマが「将来のオペラ界を担う才能の発掘」であることにちなみ、世界7か所のオペラスタジオとともに、新国立劇場オペラ研修所の活動紹介映像及び2021年3月の修了公演「悩める劇場支配人」のハイライト映像の配信が行われた。映像は2022年4月まで視聴可能。
- ・ 演目別の広報については、プレスリリース、個別インタビュー、稽古場取材の実施等、きめ細かいマスコミ対応により、記事掲載の促進を図った。
- ・ オペラ、舞踊、演劇の各芸術監督による2021/2022シーズンラインアップ記者発表を行った(3/1)。
- ・ 2021/2022シーズンのオペラ公演について、大野芸術監督による解説動画を公開した(6/18～)。
- ・ バレエ「白鳥の湖」について、吉田都芸術監督、主要ダンサーによる制作発表を行い、公演の企画意図、作品概要の周知に努めた。31社37名の報道関係者が出席した(9/28)。
- ・ 演劇公演「イロアセル」と「あーぶくたった、にいたった」について、チケット販売前から報道各社を招いての2作品合同取材会を行い、8社13名が出席。フルオーディション企画やこつこつプロジェクトの企画意図も含め、早い段階から作品周知に努めた。
- ・ 子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」、バレエ「竜宮りゅうぐう～亀の姫と季(とき)の庭～」、現代舞踊Co.山田うん「オバケッタ」では、渋谷区教育委員会、東京私立初等学校協会及び東京都公立小学校長会の後援名義を取得し、対象となる小学校へのチラシ配布を行った。
- ・ 首都圏を中心とする約40か所の劇場、観光施設などへ、月1～2回公演チラシを配布し掲示を依頼した。
- ・ 公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行ったほか、レポートリー公演のダイジェスト映像やスタッフ・キャストのインタビュー映像を上映し、観客の興味を喚起した。
- ・ 上演演目に合わせて京王線初台駅の列車接近メロディを変更した。また、駅ホームで接近メロディ動

画を撮影し、SNS で配信した。

◇ オペラ「カルメン」：「闘牛士の歌」（6/14 始発～7/31 終電）

◇ バレエ「くるみ割り人形」：「こんぺいとうの精」

(g) 動画配信

- 令和2年度に個人向けに有料で配信した歌舞伎入門動画『松本幸四郎の歌舞伎を知ろう』について、学校・教育機関向け団体販売の方法を整え、販路の拡大を図った。
- 振興会ホームページ(国立オンライン劇場含む)、お知らせメール、振興会ニュース、簡易ちらし・ポスター(劇場ロビーへのポスター掲出、演目ゆかりの地の施設へのちらし送付等)により配信情報の周知を行った。
- 公演の動画配信、放送についての情報をまとめた「新国デジタルシアター」を開設し、配信中の公演や今後の配信予定について広く周知した。(2021年11月)

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等の活用

(a) ホームページ

《アクセス件数》

区分	件数	前年度実績
振興会 HP	2,929,699 件	2,556,336 件
おきなわ HP	606,515 件	509,736 件
新国立劇場 HP	7,393,467 件	6,807,383 件

i. 日本芸術文化振興会ホームページ

- 国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場の親子企画をまとめた「2021年夏休み親子企画」ホームページを公開した。(4/28)
- ホームページへの公演情報、出演者のインタビュー動画、公演記録映像を活用した演目を紹介するダイジェスト動画を掲載、公演関係トピックスの更新、メールやSNSでの情報発信を行いウェブサイト上での情報提供に努めた。
- 文楽公演(5月、9月、12月、2月)について、特設ウェブサイトを作成し、インターネット上での訴求を図った。また、当該サイトに誘引するウェブ広告(DSP広告)を展開した。
- 7月歌舞伎鑑賞教室 Discover KABUKI、12月文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU では、振興会ホームページ内に英語による特設ページを作成し、外国人向けの情報発信を行った。
- 演芸場定席公演初日の前日に、ホームページの公演情報で全ステージの休演・代演情報を提供。
- 能楽堂では、令和3年1月に令和3年度の全主催公演のラインナップをホームページに掲載した。
- 文楽劇場では、振興会ホームページの「文楽かんげき日誌」に著名人の観劇日誌を掲載した。
- 振興会ホームページの英語版ページについて、各劇場のトップページを新たに作成、不足情報を追加する等の改修を行い、ユーザビリティの強化を図った。

ii. 国立劇場おきなわホームページ

- 各種事業に関する広報の充実に努め、各種情報の早期掲載及び内容の充実を図り、随時最新の情報を提供した。
- 国立劇場おきなわ公式 Facebook、Twitter、Instagram、LINE を活用して、公演案内をはじめとする沖縄伝統芸能等に関する情報を提供し、ファンとのコミュニケーションを図った。
- ホームページを訪れた方に、SNSでも情報発信していることを知ってもらうため、ページ上部にSNSのアイコンとリンクを設置し、SNSへの誘導を図った。
- 各公演情報のページにチケット購入ボタンや関連ページへのリンクを表示できる項目を追加し、チケット購入への誘導を図った。
- 友の会を紹介するページを視覚的に見やすく、友の会のメリットが分かりやすく伝わる形にした。
- 沖縄と東南アジア諸国の芸能の交流を行うことを目的に、「無形文化遺産でつながるアジアの芸能」特設サイトを設置。国立劇場おきなわを拠点としたアジア・太平洋地域の新たなネットワーク構築を目指す。

iii. 新国立劇場ホームページ

- 演目発表後、早い段階から舞台写真や動画等を掲載し、公演開始後は速やかに初日の舞台映像を掲出するなどして観劇意欲の促進を図った。令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により、各公演について実施の可否や内容の変更について告知する必要が生じたため、各公演実施決定後、最新情報を逐次ウェブサイト上で発信するよう努めた。
- 新型コロナウイルスの影響による公演中止、変更、公演実施、感染予防対策などを逐次ウェブサイト

発信した。

(b) SNS やメールマガジンによる情報の随時発信

SNS/メールマガジン	更新頻度等
国立劇場、国立文楽劇場 SNS (Twitter, Instagram, YouTube)	随時情報を配信。
インターネット発売情報メール	毎月 3 日に定期的に発信しているメールのほか、販売促進のための臨時メールを配信。
国立劇場おきなわ SNS (Facebook, Instagram, YouTube, Twitter, LINE)	随時公演やイベント情報を配信。
国立劇場おきなわメールマガジン	毎月 1 回、主催公演や貸劇場公演に関する情報を配信。新発売のグッズや映像配信、展示内容やワークショップについても情報を発信した。
新国立劇場、研修所 SNS (Twitter, Facebook(日英), Instagram(日英), Tumblr, YouTube)	情報発信を継続実施。公演ごとに画像、動画、文章を用いて、過去の公演、リハーサル風景、出演者のインタビューを随時発信。公演前には過去の公演・リハーサル風景・出演者のインタビューを、公演開始後には舞台写真・動画、当日の残席状況等を掲載し、興味を喚起した。反応の状況を逐一精査することで観客の嗜好を把握し、ジャンルによって SNS の使い分けも考慮しつつニュース内容を組み立て、発信した。
新国メンバーズ	販売促進のためのメール配信媒体を統合し、お客様の属性に合わせた情報発信を行っている。(2021 年 7 月～)
新国立劇場公式 LINE	特に U25/U39 に特化した情報を発信する公式 LINE アカウント。

- ・人気の若手俳優の魅力や素顔を伝えて公演を宣伝するため、YouTube 国立劇場チャンネル掲載用に若手出演者(市村竹松、中村兎太郎、中村橋之助、市川男寅、中村玉太郎)の座談会を 11/7 に収録し、11/11 に前編、11/12 に後編を公開した。また、同内容で Instagram に公開した。前編、後編合わせた視聴回数は 5, 105 回であった(千種楽 11/25 時点)。

(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討

i. 伝統芸能分野

- ・長期的に外国人の観劇の増加を図るため、英文の公演スケジュールチラシを、国立劇場、羽田空港・成田空港・東京シティアターミナル・東京都庁各観光案内所(東京観光財団運営)、有楽町 TIC(日本政府観光局運営)、東京駅前 TIC TOKYO(森ビル運営)、東京駅前 KITTE 内観光案内所(日本郵便・JTB 運営)、東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA、都内主要ホテルに配布した。
- ・英文の歌舞伎イメージポスターを、成田空港内観光案内所、東京駅前 TIC TOKYO、東京駅前 KITTE 内観光案内所及び東急渋谷駅構内観光案内所 WANDER COMPASS SHIBUYA において掲示した。
- ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版(英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語)を増刷し、国立劇場チケット売場に専用ラックを設置したほか、観光案内所等に配布した。
- ・東京都及び東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会主催の東京オリンピック・パラリンピック海外メディア向け特別企画に協力した。本館では舞台上で歌舞伎俳優による歌舞伎の解説を行い、能楽堂では能「羽衣」を上演した(参加した海外メディア：本館 9 名、能楽堂 12 名)。
- ・文楽劇場では、劇場近隣ホテルへ公演の案内を行った。
- ・国立劇場おきなわでは、沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JAT プログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及び CIR(国際交流員)に対する公演の周知・誘客を図った。
- ・千代田区観光協会へのチラシ掲出と同協会ホームページ(日本語・英語・中国語・韓国語対応)における公演情報の掲載により、歌舞伎・文楽の公演周知を図った。
- ・独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)等外部機関との連携
 - ◇ JASSO が運営する東京国際交流館居住の外国人留学生・研究者に対して、チラシの掲出と案内メールにより、3 月歌舞伎公演《歌舞伎名作入門》の公演周知を積極的に行った。

■ Discover 公演の情報発信

- ・大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等の外国人関係団体・ホテル・観光案内所に DM を送付した。
- ・1 都 3 県にある大学の留学センター・日本語学校(143 件)へ最新の公演情報に関する DM を送付し、観客の勧誘を行った。
- ・文楽劇場での「Discover BUNRAKU」の開催にあたって、英文ニュースサイトに広告を掲出したが、国の緊急事態宣言及び自治体からの要請等を踏まえ、公演中止を決定した時点で取り下げた。
- ・公演を紹介する英文サイトを作成し、動画、あらすじ掲載等で演目の内容を紹介。

- ・沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JATプログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及びCIR(国際交流員)に対する公演及び組踊ワークショップを周知。(Discover KUMIODORI)
- ・国立劇場おきなわホームページにおいて、公演情報を英語で紹介するページを新設し、あらすじ等を掲載し演目の内容を紹介した。

ii. 現代舞台芸術分野

- ・オペラ・ヨーロッパとパートナーシップ協定を締結し、OperaVisionのプロジェクトパートナーとなった。
- ・オペラ・ヨーロッパが運営する世界最大級のオペラ映像配信プラットフォーム OperaVisionにて、オペラ「カルメン」の映像配信を行った(10/18から3か月間)。全視聴回数は43,801回、国内視聴回数が20,653回、国外視聴回数が20,148回であった。
- ・Google Arts & Culture(世界各地の美術館や博物館等が所蔵する作品や文化遺産をオンラインで鑑賞できるGoogleの非営利サービス)に参画し、初台アート・ロフトで展示した舞台衣裳、小道具の写真や新国立劇場の歴史資料をオンライン公開した。
- ・日本政府観光局(JNTO)が開催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート 2021」にオンライン参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(3/1~3)
- ・ホームページ・SNS(Facebook、Instagram)の英語版にて、稽古風景の紹介や出演者インタビュー等について、投稿頻度を増やすなど英語でのきめ細やかな発信を行った。
- ・英語版のプレスリリースを作成し、世界各国のマスコミへの周知に努めた。
- ・海外の舞台芸術専門雑誌に寄稿している国内在住の記者を公演に招待し、海外雑誌での記事掲載を得た。
- ・大使鑑賞プログラムを3月オペラ公演「椿姫」で実施したほか、主催公演で大使等を招待した。また、大使館のホームページやSNSでも周知するなど広報協力を得た。
- ・ウクライナの平和を祈念して、声明文をホームページに掲出、合唱団有志によるウクライナ国歌の演奏動画、バレエ団有志による動画「A Prayer for PEACE」を公開し、日本赤十字社の「ウクライナ人道危機救援金」への寄附を呼び掛けた。また、3/10のオペラ「椿姫」初日公演から、劇場内に募金箱を設置し、ウクライナの人々を支援する寄附金を募集している。

③振興会各種事業に関する広報誌の発行

年度計画に従い、以下の広報誌を作成・発行した。

- ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行)
- ・国立劇場おきなわ情報誌「ステージガイド」(毎月発行)
- ・新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行)

その他、下記の刊行物を作成・発行した。

- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要(日英併記)」(9月発行)
- ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧 令和3年度」(10月発行)
- ・「国立演芸場公演ガイド」(月刊)
- ・「新国立劇場 令和2年度年報」(9月発行、2言語(日本語・英語)表記)

④シーズンシートやセット券、各種キャンペーン等

i. 伝統芸能分野

- ・1/7~3/13に東京国立博物館表慶館で開催された特別展「体感!日本の伝統芸能」と連携して、国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場主催の歌舞伎・文楽・能楽各公演のチケットが割引料金で購入できる「割引パスポートチラシ」を作成し、相互の事業を盛り上げるとともに、日本の伝統芸能の啓蒙普及に努めた(本館:初春歌舞伎5枚・2月文楽26枚・3月歌舞伎9枚、能楽堂:1/21定例1枚・2/2定例1枚・3/2定例1枚・3/12普及:1枚・2/23企画:1枚・3/26特別企画:6枚、全館計51枚)。

(本館)

- ・7月歌舞伎鑑賞教室では、緊急事態宣言の発出及びまん延防止等重点措置の延長に伴い、新型コロナウイルスの感染防止を目的とする鑑賞申込み団体のキャンセルが57件8,739枚あった。販売促進のキャンペーンを次のとおり実施し、振興会ホームページ・Twitterに加え、日本博のSNSや外部リリースサービス等で広く周知することによって集客に努めた。
- ◇「国立劇場納涼うちわDAY」として、チケット購入者に国立劇場オリジナルうちわをプレゼントした(7/6午前の部170名、7/9午後の部269名)。

- ◇ 「国立劇場七夕 WEEK」として、笹飾りを設置し、来場者が短冊の記入・飾りをできるようにした(7/3～7)。また、七夕当日の7/7 午前の部は、チケット購入者先着 100 名に出演俳優のサイン入りブロマイド及び七夕にちなむ京飴をプレゼントした。
- ◇ 歌舞伎鑑賞教室が第 100 回を迎えた御礼企画として、国立劇場の所在地である東京都千代田区との提携により、同区内在住・在勤・在学者が限定ステージのチケットを割引料金で購入できる「千代田区特別感謝デー」を本館では初めて実施し、区内の学校等にチラシを掲出するなどして、周知を図った(販売実績：90 枚)。
- 10 月歌舞伎公演では、演目の重要な小道具である刀剣に関連した展覧会を同公演期間中に主催した公益財団法人サントリー美術財団(サントリー美術館)と公益財団法人日本美術刀剣保存協会(刀剣博物館)との連携により、各展覧会の入場券と公演のチケットとの相互割引を実施した(販売実績:3 枚)。
- 10 月及び 11 月歌舞伎公演では、割引キャンペーンを次のとおり実施した。
 - ◇ 7 月歌舞伎鑑賞教室で実施した「千代田区特別感謝デー」を、国立劇場開場 55 周年の御礼企画として実施(10 月 9 枚、11 月 13 枚)。
 - ◇ 開場 55 周年にちなむ「秋の午後(55)割」という企画名称で、休憩後に上演されるクライマックスの場面のみを割引料金で鑑賞できる特別当日券を販売(販売実績：10 月 12 枚、11 月 10 枚)
- 1/13 に初春歌舞伎公演を鑑賞予定だった国士館大学文学部 429 名につき、新型コロナウイルスの感染防止を目的とした鑑賞中止の申入れがあった。まん延防止等重点措置の適用期間外のため、払戻しは実施しなかったが、長年の利用団体で国立劇場キャンパスメンバーズ会員校であることに鑑み、公演鑑賞の代替として、国立劇場歌舞伎入門動画『松本幸四郎の歌舞伎を知ろう』を無償提供し、視聴者である学生の好評を得た。
- 1 月邦楽公演「三曲の会」「長唄の会」の各々が二部制で実施されたことに伴い、割引セット券を企画した(三曲:24 枚、長唄：50 枚)

(演芸場)

- 9 月特別企画公演「演芸大にぎわい」関連企画として実施した演芸レクチャーデモンストレーション「楽しもう！演芸の世界」の応募者(196 名)に対し、上記公演チケット購入で粗品をプレゼントする販売促進キャンペーンを実施。販売実績：27 枚。
- 定席公演を対象としたスタンプラリーを今年度も実施し、リピーターによる継続的な鑑賞が行われるよう努めた(定席公演 1 回の鑑賞でスタンプを 1 回押し、スタンプ 5 回で粗品進呈)。
- 新春国立名人会のチケット購入者を対象として、1 月中席・2 月上席のいずれかのチケットの購入で「スタンプラリー」のスタンプを 2 つ捺印する「ダブルスタンプキャンペーン」を実施し、販売促進に繋がった。(参加実績：1 月中席 73 人、2 月上席 30 人)

(能楽堂)

- 6 月能楽鑑賞教室では新型コロナウイルス感染症を理由とするキャンセルが 14 団体 2,636 名あった。特にキャンセルが重なった 22 日午後、23 日午前・午後において、渋谷区在住・在勤・在学者限定の割引「渋谷区割引能楽普及 DAY」を実施。地元渋谷区に特化した公報・営業活動を行った(販売実績：239 枚)。

(文楽劇場)

- 6 月文楽鑑賞教室では新型コロナウイルス感染症を理由とするキャンセルが 70 団体 8,229 名あった。全予約数の約 8 割がキャンセルとなったため、近隣店舗との連携による公演周知や職員の知人等コミュニティーを活用したおすすめキャンペーン等を実施し、広報・営業活動を行った(おすすめキャンペーン販売実績：35 枚)。
- 錦秋文楽公演において、「ひらかな盛衰記」を上演する第 2 部・第 3 部で 1 等席の割引セット券を企画した(販売実績:552 枚)。

(おきなわ)

- 7 月「琉球舞踊鑑賞会」において、2 日通し券を販売した(販売実績：72 枚)。
- 1 月の琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」において、2 日通し券を販売。(購入実績：32 枚)
- 2 月の企画公演 歌舞劇「首里城物語」と 3 月の企画公演 新作組踊「真珠道」において、大城立裕作品特別セット券を販売。(販売実績：214 枚)

ii. 現代舞台芸術分野

- 新国立劇場オペラ公演について、2021/2022 シーズンセット券の販売を開始した。従来の販売方法を更新し、「フルシリーズ」「前期/後期セット」を選択可能とし、多種多様な購買層にアピールした。
- すべての配役をオーディションで決定する「フルオーディション企画」の 1 つである演劇公演「イロアセル」と、1 年を通して作品を育てていく「こつこつプロジェクト」の 1 つである演劇公演

「あーぶくたった、にいたった」の2作品の通し券である「時間をかける、ということ」を販売した（販売実績：400枚）。

- ・バレエ「くるみ割り人形」について、初の試みとなる年末年始連続上演を行うにあたり、1/1～1/3の公演を対象にジ・アトレクラブ会員、個人賛助会員向けに当該期間の3公演をセットで購入した場合割引価格でご提供するお正月通し券を販売した。（販売実績：102枚）

⑤ 団体観劇促進のための営業活動、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 団体観劇の促進

i. 伝統芸能分野

- ・学校等の大規模団体が来場する各館の鑑賞教室の実施を前に、新型コロナウイルス感染症の感染防止を目的とする鑑賞申込み団体からの中止の申し入れへの対応につき、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場との間で共通の基準を明確に定めた。
- ・令和4年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室（本館・文楽劇場）、能楽鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を開始した。

■ 本館

- ・受注見込団体へのメール等による勧誘と、演目に由縁の深い自治体等でのチラシ・ポスターによる周知を通じて、観劇の勧誘を行った。
- ・過去10年間の本公演利用実績団体や新規見込み団体に対し、最新の公演情報DMを定期的に送付した（7回、のべ29,187通）。
- ・関東地方の人形劇団（21件）に対して、公演情報DMを送付した。
- ・学校向けに鑑賞教室の団体利用案内等のDMを送付した。
 - ◇ 関東甲信越・東海・南東北各地方の中学校・高等学校、中国・四国地方の高等学校、首都圏の専門学校・公民館等（10/8：約13,125件）
- ・学校向け修学旅行情報誌（月刊「教育旅行10月号」、季刊「パピルス2020年第3号」）に団体鑑賞の案内を掲載した。
- ・歌舞伎・文楽鑑賞教室の団体予約開始日に合わせて、団体鑑賞の申込方法をホームページ及びTwitterに掲載するとともに、PRTIMESでもプレスリリースを行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、出演者と観客を区分けしたことに伴い、出演者による観劇団体向けの解説を、WEB会議システムの利用により、出演者が別室から解説するリモート方式に変更し、従来と同等のサービスを提供することで、団体観劇の促進を図った。
- ・「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」、「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」の集客のため、大学留学生センター・留学生支援団体・日本語学校・国際交流協会等1都3県にある旅行代理店・学校団体・呉服店など、団体観劇の見込みが高い業種に向けて、最新の公演情報等のDMを送付。（7回、のべ6,755通）
- ・4年度歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室（本館）の団体鑑賞申込み受付を11月から開始。
- ・法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供。福利厚生メニューの充実と福利厚生業務担当者の事務軽減を図ることができる「法人利用サービス企業様向け」と、ホテル宿泊客等へのコンシェルジュサービスをサポートする「法人利用サービスホテル・観光案内所様向け」の2種類のプランを設定し、既存団体及び新規見込み団体への営業活動を行った。（加入実績：31団体）
- ・3月歌舞伎公演の企画内容が「歌舞伎名作入門」と題した入門公演であることに鑑み、主に歌舞伎を初めて鑑賞する来場者を意識したプランを次のとおり実施した。
 - ◇ イヤホンガイド付き団体観劇プランを発売し、専用チラシ・ホームページ・Twitter等で周知を行った（販売実績：4件54枚）。
 - ◇ 国立劇場キャンパスメンバーズ会員の学生・教職員向けの鑑賞キャンペーンとして、上演台本及び脚注を掲載した小冊子を作成し、くろごちゃんトート（非売品）とともに進呈した（実績：8人）。

■ 演芸場

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で団体鑑賞の受注が大きく減少する中、演芸場の感染症対策について丁寧に説明し、対策をしながら先方の要望に応えるよう努めた。結果、計7日間の貸切公演受注に繋がった。（8月上旬：1日、1月中旬：5日、3月中旬：1日）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により訪問営業が制限された状況であったが、DM送付による営業や問い合わせがあった団体への電話による丁寧なフォローを行い、新規団体から7件579枚の受注を得た。

- ・ 演芸場の公演周知と団体鑑賞の集客のため、関東 1 都 3 県の私立高等学校・中学校及び東京都 23 区の公立中学校に向けて、最新の公演情報と「寄席・演芸のご案内」リーフレットを送付（7/26：703 通。11/4：372 通）。新規団体 3 件 491 枚の受注に繋がった。
- ・ 演芸場の公演周知と団体鑑賞の集客のため、過去 5 年間に鑑賞歴のある団体及び関東 1 都 3 県の大手旅行代理店、呉服店、信用金庫等新規見込み団体に、最新の公演情報と団体鑑賞案内のチラシを送付した。（計 6 回・延べ 2,217 通）
- ・ 10 月特別企画公演の鑑賞団体に対して出演者による事前レクチャーを実施（10/30）。参加者数を増やすとともに、演芸への理解を深めることで顧客の定着を図った。
- ・ 9 月上旬公演より定席公演を法人利用システムの対象公演に追加し、ホテル等でのチケット販売を促進した。

■ 能楽堂

- ・ 8 月企画公演「親子で楽しむ能の会」では、近隣の保育園と連携して能舞台体験付きの観能会を実施した。販売実績：17 枚。
- ・ 9 月企画公演「狂言の会 家・世代を越えて」では、近隣の大学・神社・店舗等に特別割引チラシ「ご近所割引チラシ」を設置・配布し集客に努めた。販売実績：78 枚。
- ・ 小田急まなたび(小田急ポイントカード会員組織)へのチケット委託販売を行い、小田急電鉄の各駅にポスター100 枚及び小田急新宿駅ワイドボード(10 連貼り)に無料掲出し集客に努めた(12 月企画公演)。
- ・ 令和 4 年度の能楽鑑賞教室公演のチラシを、過去 3 年間に観劇履歴のある学校・一般団体及び新規見込み団体に送付した。
- ・ 団体向け鑑賞プランとして能楽師等が開演前に演目の解説等行う「能楽鑑賞レクチャー」を実施した（12/11、1/5、1/8、2/26）。
- ・ 1 月狂言の会終演後、国立能楽堂の近隣に所在する日本将棋連盟と連携し、棋士（青野照市九段、香川愛生女流四段）と当日の公演出演者（狂言方大蔵流茂山宗彦師）によるアフタートーク（全来場者対象）を行うことをとくにアピールして営業・宣伝活動を行った。その際、国立能楽堂特別割引を実施、上記のアフタートークをアピールして、国立能楽堂の近隣に所在する千駄ヶ谷大通り商店街、津田塾大学、國學院大學や、営業係の関連先である港区スポーツ文化ふれあい健康財団、さいたま市文化振興事業団、千葉県文化振興財団に対して営業・宣伝活動を行った。販売実績 93 枚。
- ・ 2/2 国立能楽堂國學院大學特別割引を実施。能「室君」にてシテを勤めた櫻間金記師が同大学 OB であり、師の学生に向けたメッセージをチラシに掲載し、同大学広報課の協力を得て営業・宣伝活動を行った。販売実績 26 枚。
- ・ 2/18 開演前プレトーク開催。「中国から日本へ、転変する王昭君の物語」橋本麻里（ライター・公益財団法人永青文庫副館長）を行うことをとくにアピールして営業・宣伝活動を行った。

■ 文楽劇場

- ・ 既存団体及び演目にゆかりのある地域等に対する DM(727 件)、既存団体及び新規開拓のため自治労、協同組合やロータリークラブ等の関連団体への訪問(474 件)による案内等、誘客活動に努めた。
- ・ 関西経済同友会・大阪商工会議所等の協力を得て、加盟企業に対し特別割引チラシ配布及び同友会会員や大阪商工会議所の大阪検定メールマガジン登録者に対し公演案内を行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により観劇事業を休止している団体に対し、個人単位で割引料金にて観劇できる特別割引を周知した。
- ・ 6 月文楽鑑賞教室について、近畿 2 府 4 県の大学、短期大学、高校、専門学校、中学校へ DM を発送し、先行予約を実施。
- ・ 大阪市経済戦略局が鑑賞費用を負担する「青少年のための文楽鑑賞教室」について、大阪市立小中学校(416 件)に対し事業を周知した。
- ・ 4 年度文楽鑑賞教室の周知と集客のため、学校団体等に案内を送付した(2,784 件)。

■ 国立劇場おきなわ

- ・ 沖縄県の助成による 30 名以上の団体客に対する貸切バス費用助成事業を実施した。
- ・ 団体誘客を目的に作成したリーフレット「団体観劇のご案内」を県内市町村役場や自治会、老人会等に送付した。
- ・ 8 月親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」及び 9 月沖縄芝居公演「与那国シヨンガネー」「黒島王物語」において、県内自治会、児童館等に公演案内と合わせて団体鑑賞の案内を送付。
- ・ 9 月沖縄芝居鑑賞教室、11 月組踊鑑賞教室「執心鐘入」において、県内小中高校・大学・専門学校

への一斉募集を3回実施した。

ii. 現代舞台芸術分野

- 団体鑑賞の取引実績のある団体取引先へ、ラインアップ発表後に演目の資料をDM送付し、団体営業活動の促進に資した(3/8 発送、877件)。
- 関東圏の各高等学校へ、2022年度高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」の募集案内のDMを発送し、広く参加を募った(7/2 発送、1,698件)。
- 首都圏大学宛てに新国メンバーズ入会(U25)を促進するために入会案内チラシのDMを発送し、各大学での配布協力を依頼した(3/10 発送、466件)。
- チケット購入団体により、コロナ感染対策を十分に行った上で新国立劇場館内スペースを利用して、オペラ「ドン・カルロ」「チェンレントラ」「マイスタージンガー」の事前レクチャーを実施した。また、高校生のためのオペラ鑑賞教室2021「カルメン」では、学校向けの事前レクチャーを職員が作成し、動画教材(オンライン・DVD)を提供した。

(b) 旅行代理店・ホテル等との連携強化

i. 伝統芸能分野

- (本館)首都圏・南東北・甲信越・東海3県の旅行代理店に鑑賞教室の団体利用案内等のDMを送付(2/10:322件、4/26:322件)。
- (本館)鑑賞教室利用促進のため、首都圏のホテル・旅行代理店向けの「特別見学会」を実施(5/14:400件に案内を送付。参加実績:22件40名)。
- (本館)主要なホテル、旅行代理店、観光案内所等に向けて、定期的に最新の公演情報や団体観劇プランのご案内等の内容のDMを送付。(のべ1,301通)
- (本館)株式会社読売旅行と提携し、初春・3月歌舞伎公演において、レクチャー付き幕見プラン(販売実績1/17:8枚、1/24:6枚)、劇場グッズ詰合せ進呈及び昼食等の特典付き全幕鑑賞プラン(販売実績1/17:26枚、1/24:11枚)、参加者が和装に着替えて花見と歌舞伎鑑賞を楽しむ初の企画「着物de歌舞伎」(3/27、販売実績:13枚)を実施し、新聞やインターネットによる周知を図り、新規顧客の獲得に努めた。
- (本館)新型コロナウイルスの感染拡大に伴って生み出された新規の旅行ビジネス・オンラインツアーを数多く主催する株式会社エイチ・アイ・エスとの初めての提携により、公演関連オンラインツアーを企画し、観劇をセットにして販売した(3/30、件数:14件)。
- (本館)株式会社リクルートの運営する旅行サイト「じゃらん」の「遊び・体験」に観劇予約ページを作成し、旅行手配を行う個人客向けの観劇受付を可能にした。
- (本館・演芸場)前年度に開始し、国立劇場近隣の店舗で国立劇場・国立演芸場のチケット半券を提示すると割引等のサービスが受けられる「国立劇場Goto半蔵門キャンペーン」につき、企画名称を「国立劇場ようこそ半蔵門キャンペーン」と改めて引き続き実施し、参加店舗(ホテルグランドアーク半蔵門内のレストランなど34店舗)に国立劇場・国立演芸場のチラシを掲出した。
- (演芸場)公演周知と団体観劇の集客のため、関東1都3県の大手旅行代理店に向けて、最新の公演情報と「寄席・演芸のご案内」リーフレットを送付。7/27:116件。
- (文楽劇場)ホテル・観光案内所(39件)へ公演情報を提供し、旅行者への公演周知を図った。
- (文楽劇場)文楽劇場友の会会報誌218号に東横イン大阪日本橋文楽劇場前店の広告を掲載し、文楽劇場友の会会員向けの割引プランを案内。
- (おきなわ)9月沖縄芝居鑑賞教室及び11月組踊鑑賞教室において、学校関係者及び旅行社・ホテル等向けに「お試し鑑賞教室」(資料の配付・観劇)を実施。今年度観劇申込みのない小中学校(那覇市・浦添市)及び旅行社やホテル等154件に案内。参加実績:11団体18名
- (おきなわ)旅行会社と連携して、公演鑑賞と合わせて開演前に組踊ワークショップを体験できる組踊鑑賞ツアーを実施。(参加者:7月組踊公演「大川敵討(糺しの場)」11名)
- (おきなわ)沖縄修学旅行誘致を目的とした「令和3年度 沖縄修学旅行説明会 in 東海地方、東京」(1/27,28 オンライン開催、主催:沖縄県・(一財)沖縄観光コンベンションビューロー)において、旅行代理店等に国立劇場おきなわの修学旅行向けコンテンツを紹介。

ii. 現代舞台芸術分野

- 日本政府観光局(JNTO)が開催する国際商談会「VISIT JAPAN トラベルマート2021」にオンライン参加し、ウィズ・コロナの状況下における消費者動向やプロモーション等を学ぶことで、今後のインバウンドプロモーションの参考とした。(3/1~3)
- ホテルニュー・オータニと連携し「観劇宿泊プラン」を実施。「くるみ割り人形」(12/26公演)に16名のご来場があった。

- ・団体鑑賞のお問い合わせや取引実績がある旅行代理店を含め、全国旅行代理店へのDMを、2021/2022シーズン開幕前と2022/2023シーズンラインアップ発表後に送付し団体観劇の促進を図った（9月末発送1,004件、3/8発送、978件）。

⑥「国立劇場キャンパスメンバーズ」等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

会員数：31校

(2年度より継続加入：28校)

青山学院大学、大妻女子大学、お茶の水女子大学、学習院女子大学、鎌倉女子大学・鎌倉女子大学短期大学部、共立女子大学、国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校、学校法人国際共立学園、国土館大学、学校法人上智学院、昭和女子大学、女子美術大学、白百合女子大学、清泉女子大学、国立大学法人総合研究大学院大学、中央大学、津田塾大学、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京学芸大学、東京藝術大学、東京工芸大学、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本外国語専門学校、日本大学、フェリス女学院大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、了徳寺大学

(3年度より新規加入：3校)

青山学院大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、玉川大学

利用枚数：2,353枚

イベント：4回実施(参加者数：32名)

おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説(全3回)

3月歌舞伎公演鑑賞キャンペーン

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

協定締結校：11校

東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学

⑦おすすめキャンペーン

- ・職員のコミュニティー等を活用した「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施(479枚)。

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

①あぜくら会(会員数:17,205人/対前年度+873人)

(a) 会報誌(計画:毎月発行)

「あぜくら」を毎月2日に発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント(計画:年4回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
特別インタビュー「林英哲と日本の太鼓」	—	会報あぜくら7月号	—	林英哲	—	—
特別インタビュー「国立劇場草創期①」開場の頃と「舞の会」	—	会報あぜくら10月号	—	山田庄一	—	—
特別インタビュー「国立劇場草創期②」文楽	—	会報あぜくら12月号	—	山田庄一	—	—
特別インタビュー「国立劇場草創期③」文楽	—	会報あぜくら1月号	—	山田庄一	—	—
特別インタビュー「国立劇場草創期④」歌舞伎	—	会報あぜくら2月号	—	織田紘二	—	—
特別インタビュー「国立劇場草創期⑤」歌舞伎	—	会報あぜくら3月号	—	織田紘二	—	—

(c) 会員向けサービスの充実

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、従来実施していたイベントの代替として、出演者等による対談を会報に掲載した。

②国立文楽劇場友の会(会員数:7,867人/対前年度+228人)

(a) 会報誌(計画:年6回発行)

文楽本公演に合わせて「友の会会報」を年6回発行した。

(b) 会員向けイベント(計画:年2回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
国立文楽劇場観劇ラリー	4月~3月	—	—	—	602人	—
国立文楽劇場友の会入会キャンペーン	1月~3月	—	—	—	89人	—

第126回「文楽のつどい」 映像上映「孤高勇士嬢景清-日向嶋-」	3/20	文楽劇場	無料	(解説)高橋ひさし	125人	166人
-------------------------------------	------	------	----	-----------	------	------

(c) 会員向けサービスの充実

- ・一定数以上の公演のチケットを購入した会員へ記念品を贈呈する「文楽公演観劇ラリー」を実施。
- ・振興会ホームページ内に会員専用ページを作成し、各種情報や会報を掲載した。
- ・国立文楽劇場友の会入会時のサービスとして、新規入会者に公演プログラム引換券(1冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼントした。
- ・1/3から3/12まで国立文楽劇場友の会新規入会キャンペーンを実施し、上記サービスに加えオリジナルグッズとして夏休み文楽特別公演での上演演目「夏祭浪花鑑」の衣裳をモチーフとしたトートバッグをプレゼントした。新規取組として、新規入会者を紹介した会員についてもトートバッグのプレゼント対象とした。

③国立劇場おきなわ友の会 (会員数:1,345人/対前年度+79人)

(a) 会報誌 (計画:年4回発行)

「国立劇場おきなわ友の会会報」を6、9、12、3月に発行した(計4回)。

(b) 会員向けイベント (計画:年3回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
国立劇場おきなわ友の会入会金0円キャンペーン	7月～11月	-	-	-	37人	-
国立劇場おきなわ友の会ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン	1月～3月	-	-	-	165人	-
国立劇場おきなわ友の会「実演家ザ談会 vol.2」	2/27	国立劇場おきなわ小劇場	無料	(出演)高宮城実人、佐辺良和、仲村逸夫、玉城和樹(聞き手)嘉数道彦	62人	66人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、7月から11月までに上演される対象公演のチケット購入者に限り、公演当日までの入会で入会金が0円になる「友の会入会金0円キャンペーン」を実施した。
- ・国立劇場おきなわ友の会新規会員の入会を促すことを目的として、令和4年1月から3月まで「友の会ご家族・ご友人ご紹介キャンペーン」を実施している。会員からの紹介は入会金が0円、紹介者会員には割引券(50%OFF)1枚進呈。
- ・実演家ザ談会の様子を撮影し、後日会員限定で動画配信を行った。(3月下旬から配信)
- ・会員カードをリニューアルし、デザインは紅型幕を使った国立劇場おきなわらしい魅力あるものにし、サイズも持ち歩きやすいサイズへと変更した。
- ・沖縄県ものづくり振興課と連携し、伝統工芸(染織)の職人と伝統芸能の実演家を取り上げたフリーペーパー「沖縄手しごと通信」を作成、友の会会員に無料送付した。(一般にも配布)

(d) アンケート調査等

- ・国立劇場おきなわでは、実演家ザ談会で実施。

④新国立劇場クラブ・ジ・アトレ (会員数:11,563人/対前年度+333人)

(a) 会報誌 (計画:毎月発行)

「ジ・アトレ」を毎月発行した(計12回)。

(b) 会員向けイベント (計画:年12回程度)

イベント名	期間	会場	料金	出演者等	参加者数	応募者数
オペラ「夜鳴きうぐいす/イオランタ」ゲネプロ見学会	4/2	新国立劇場オペラ劇場	無料	高関 健(指揮)、ヤニス・コックス(演出)(リモート)、歌手等	11人	11人
バレエ「コッペリア」総舞台稽古見学会 ※中止	4/30	新国立劇場オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	-	14人
バレエ「ライモンダ」総舞台稽古見学会	6/4	新国立劇場オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	8人	10人
オペラ「カルメン」ゲネプロ見学会	7/1	新国立劇場オペラ劇場	無料	大野和士(芸術監督)、アレックス・オリエ(演出)、歌手等	13人	15人
オペラ「チェネントラ」ゲネプロ見学会	9/29	新国立劇場オペラ劇場	無料	城谷正博(指揮)、粟國淳(演出)、歌手等	16人	57人
バレエ「白鳥の湖」総舞台稽古見学会	10/22	新国立劇場オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	29人	97人
オペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」ゲネプロ見学会	11/15	新国立劇場オペラ劇場	無料	大野和士(指揮)、他歌手等	25人	166人
バレエ「ニューイヤー・バレエ」	1/13	新国立劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	-	69人

総舞台稽古見学会 ※中止		オペラ劇場				
バレエ「吉田都セレクション」 総舞台稽古見学会 ※中止	2/18	新国立劇場 オペラ劇場	無料	新国立劇場バレエ団等	-	95人
こつこつプロジェクト「7ストーリーズ」	2/15	新国立劇場小劇場	無料	真矢ミキ、石田佳央、他	29人	48人
こつこつプロジェクト「7ストーリーズ」	2/18	新国立劇場小劇場	無料	真矢ミキ、石田佳央、他	29人	50人
こつこつプロジェクト「7ストーリーズ」	2/19	新国立劇場小劇場	無料	真矢ミキ、石田佳央、他	29人	50人
こつこつプロジェクト「テーバイ」	2/16	新国立劇場小劇場	無料	植本純米、加藤理恵、他	30人	38人
こつこつプロジェクト「テーバイ」	2/18	新国立劇場小劇場	無料	植本純米、加藤理恵、他	29人	35人
こつこつプロジェクト「テーバイ」	2/20	新国立劇場小劇場	無料	植本純米、加藤理恵、他	29人	44人
こつこつプロジェクト「夜の道づれ」	2/17	新国立劇場小劇場	無料	石橋徹郎、日高啓介、他	29人	33人
こつこつプロジェクト「夜の道づれ」	2/19	新国立劇場小劇場	無料	石橋徹郎、日高啓介、他	31人	50人
こつこつプロジェクト「夜の道づれ」	2/20	新国立劇場小劇場	無料	石橋徹郎、日高啓介、他	30人	35人

(c) 会員向けサービスの充実

- ・会員への個札チケット販売について、会員先行販売期間まで10%割引としていたところ、2020/2021シーズンからは公演最終日まで適用とし、2021/2022シーズンでも継続している。先行販売より更に受付期間の早い会員抽選受付(郵送、インターネット)については、2020/2021シーズンは、コロナ禍による不測の事態に備えチケット販売期間が短縮されたため実施を見送り、取り消しとなった2020/2021シーズンセット券の申込者等に対象を絞り郵送での優先申込受付を行った。2021/2022シーズンは、コロナ禍前から一部条件変更した上で、全会員に対し会員抽選受付を再開した。
- ・シーズンセット券については、2021/2022シーズンは例年より2か月遅れて2021年3月よりオペラセット券のみを、10～18%の割引価格にて優先的に販売した。また、アトレ会員限定のサービスとして、購入時に一部演目の日程変更が可能な「日程セレクトサービス」を実施した。2022/2023シーズンについては、昨シーズンと同様3月よりオペラセット券のみ販売しているが、昨シーズン販売した前期セット、後期セットに代わり、3日程以上の組み合わせが可能な「ヴァリエーション」を再開した。また、「日程セレクトサービス」も取りやめ、前々シーズンまでのフルシリーズ購入会員向け「エクステンジサービス」を復活させた。
- ・バレエ・ダンスセット券については、2021/2022シーズンに引き続き2022/2023シーズンも実施を見送ったが、代替サービスとして開始した、前シーズンの購入実績に応じて郵送申込時に優先的に単券を購入できる「バレエ・ダンス郵送申込シード権」を継続している。
- ・購入金額に応じて加算されるポイント数に応じて、夏のポイントアップサービスを実施した。獲得ポイントにかかわらず応募自由な抽選アイテムについては、バックステージツアーやバレエリハーサル見学などの実施を見送り、ゲネプロ見学や公演への招待のみとした。なお、「ニューイヤー・バレエ」及び「吉田都セレクション」舞台稽古見学会が、公演関係者の感染により開催中止となったため、代替イベントとして次年度に「シンデレラ」で舞台稽古見学会を実施することとした。
- ・公演中止、関連イベント中止により会員サービスが十分に行えない現状を鑑み、公演チケット購入によって獲得したポイントを公演中止に伴い払戻となっても有効としたほか、各種クーポンの有効期限を1年延長するなどの救済措置を施した。
- ・前年度に引き続き、会員サイト上で、会報誌を講読できるサービスを提供している。
- ・7月の新国メンバーズ(メルマガ)募集開始に合わせキャンペーンを実施し、重要な通知を郵送に代わりメールで迅速に伝達可能な会員の増加を図った。
- ・キャスト変更などの重要な情報決定が会報での告知タイミングと合わない場合は、全会員に対し、別途ハガキやDM等で告知を行った。
- ・公演中止及び開演時間変更となった公演のチケットを購入した会員全員に払戻申込書を送付し、払戻手続方法を丁寧に説明した。
- ・三井住友カードの協力を得て、バレエ「くるみ割り人形」公演開始からオペラセット券優先販売期間中にあたる12月～3月にかけて入会キャンペーンを実施し、会員募集に努めると同時に、カード利用促進キャンペーンを行った。前年度に引き続き三井住友VISAカード及びゴールドカードのみならずクレジット機能のないハウスカードもキャンペーン対象としている。

(d) アンケート調査等

- ・今後の運営に活用するため、夏のポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2 - (7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
国民の鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
 - ⑤他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
- ウ 振興会が有する6劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演等使用日 養成研修使用日	貸劇場使用日 (左記使用日との重複除く)	使用可能日	劇場稼働率	前年度 劇場稼働率
本館大劇場	185日	48日	254日	91.7%	87.8%
本館小劇場	110日	90日	262日	76.3%	78.3%
演芸場	279日	16日	311日	94.9%	90.4%
能楽堂	123日	136日	296日	87.5%	88.6%
文楽劇場	175日	58日	269日	86.6%	74.5%
文楽劇場小ホール	103日	72日	236日	74.2%	52.4%
国立劇場おきなわ大劇場	124日	25日	241日	61.8%	55.3%
国立劇場おきなわ小劇場	9日	76日	218日	39.0%	21.8%
伝統芸能分野 合計	1,108日	521日	2,087日	78.1%	68.3%
新国立劇場オペラ劇場	258日	15日	273日	100.0%	100.0%
新国立劇場中劇場	43日	239日	295日	95.6%	100.0%
新国立劇場小劇場	201日	105日	306日	100.0%	100.0%
現代舞台芸術分野 合計	502日	359日	874日	98.5%	100.0%
総合計	1,610日	880日	2,961日	84.1%	77.1%

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日（主催公演・養成事業等使用日との重複除く）

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：365日－（休演日＋保守日＋調整日）

※新型コロナウイルス感染症の影響による利用中止

国立劇場 大劇場：34件 69日 小劇場：54件 69日

国立演芸場：36件 45日

国立能楽堂：19件 15日

国立文楽劇場 文楽劇場：28件 30日 小ホール：29件 33日

国立劇場おきなわ 大劇場：12件 16日 小劇場：23件 37日

新国立劇場 中劇場：1件 4日 小劇場：1件 4日

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において貸劇場使用日は0日として計上されるため、重複日分については、実際に貸与した日数が増加した場合でも劇場稼働率は上昇しない。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止による公演中止日は調整日とした。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

①ホームページへの掲載

- ・ホームページに利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。新国立劇場では、募集期間中はホームページのトップ画面にニュースを掲載し情報発信した。

②パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・劇場内（ロビー・楽屋等）、執務室等に施設利用に関する案内を設置した。過去の劇場利用者へ利用案内を予約申込書とともにDMで送付した（国立劇場：409件、国立演芸場：65件、能楽堂：78件、文楽劇場：226件、国立劇場おきなわ：949件）。
- ・（本館・演芸場）実演家団体の会報誌や専門誌に貸劇場利用に関する情報を掲載した。
- ・（能楽堂）新型コロナウイルス感染症拡大により公演を中止した主催者に空き日情報を提供し、公演延期として数か月先の予約申込を受けるよう努めた。
- ・（おきなわ）次年度の一斉募集案内を過去の劇場利用者へ送付するとともに、式典・研修会など新たなニーズの掘り起こしを図るべく商工会議所や企業に劇場利用に関するチラシを配布した。また、劇場会報誌へ施設利用案内を掲載した。

③利用希望者に対する説明・見学等

- ・利用希望者には随時、申込手続きの説明や施設・設備の見学を行い、劇場利用者の増加に努めた。
- ・（本館・演芸場）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、ガイドラインに基づき、利用者に予め文書等で協力を要請した。また、公演前の主催者との打合せにて開催内容に即した措置を講ずるための協議を行う対応をした。
- ・（おきなわ）劇場利用に関する新型コロナウイルス感染症対策について、内諾通知時に感染対策に関する案内を送付するとともに、ホームページの「よくある質問」にも掲載した。

④利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・各種事業の日程をより効率的に設定するなど、劇場使用効率の向上を図った。
- ・(本館・演芸場) 施設利用者にアンケート用紙を渡し、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。
- ・(文楽劇場) 貸与希望者の希望に沿うよう設備整備及び保守点検の設定を関係部署と調整を行った。
- ・(新国立劇場) 施設利用者にアンケート用紙又はヒアリングによるアンケート調査によって、意見を集めた。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。

《アンケート結果》

劇場	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
本館・演芸場	130 件	24 件	24 件	21 件	18.5%	87.5%
能楽堂	58 件	17 件	17 件	17 件	29.3%	100.0%
文楽劇場	76 件	38 件	38 件	37 件	50.0%	97.4%
国立劇場おきなわ	50 件	19 件	19 件	19 件	38.0%	100.0%

ウ 6劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・2年ぶりの正月行事として、初春歌舞伎公演の開演前に獅子舞の実演を行うにあたり、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮した実施方法を、出演者と国立劇場及び国立演芸場とで協議・共有して滞りなく実施した。各回で来場者から喝采を受けた(1/3～7)。
- ・1/7～3/13 に東京国立博物館表慶館で開催された特別展「体感！日本の伝統芸能」と連携して、国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場主催の歌舞伎・文楽・能楽各公演のチケットが割引料金で購入できる「割引パスポートチラシ」を作成し、相互の事業を盛り上げるとともに、日本の伝統芸能の啓蒙普及に努めた。
- ・国立劇場キャンパスメンバーズのオンラインイベント「おうちでレクチャー 伝統芸能に観る道成寺伝説(全3回)」を、国立能楽堂、国立劇場おきなわの協力を得て本館で実施した。
- ・株式会社エイチ・アイ・エスとの提携により、国立劇場令和4年5月文楽公演の演目に所縁の地域である京都をめぐるオンラインツアー(ライブ配信)を実施するにあたり、国立文楽劇場の協力を得て、芸員レクチャーと国立文楽劇場4月及び国立劇場5月文楽公演の広報を行った。

(8) 日本博の運営・実施

(8) 日本博の運営・実施 ————— p.129

2 - (8) 日本博の運営・実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

日本の文化芸術の魅力を国内外に発信する「日本博」について、縄文から現代までの美術・文化財の展覧会、伝統芸能、現代舞台等の舞台芸術公演、文化芸術祭等に関する企画・実施等とコロナ禍による新たな環境を見据え、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れた国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指し、戦略的なプロモーションに関する企画・実施等における、中心的な役割を担う事務局を運営

ア 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下で主催・共催事業を体系的に実施

- ① 「日本博」の中核となる主催・共催型プロジェクトについて、企画原案の提案を受け付ける。受け付けた企画原案については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の評価、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。(別表 9※令和 3 年度実施分)
- ② 主催・共催型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等との契約・支払等に関する業務を行う。併せて、団体等との連絡・調整に関する業務も行う。
- ③ 主催・共催型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

イ 「日本博」の総合テーマ及びコンセプトの下でイノベーション型プロジェクトを実施

- ① 「日本博」プロジェクトとして企画・実施する新規制・創造性が高い文化芸術プロジェクト等について補助事業の公募を受け付ける。受け付けた事業については、日本芸術文化振興会審査・評価委員会の審査、及び文化庁企画委員会の助言等を得て採択する。
- ② イノベーション型プロジェクトの実施に当たって、採択された団体等への補助金交付に関する業務を行う。
- ③ イノベーション型プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

ウ 各地域や団体の特色ある企画について参画プロジェクトとして認証

- ① 認証申請に関する相談への対応、申請者との調整を行う。参画プロジェクトへの認証申請は随時受け付ける。
- ② 参画プロジェクトの認証手続きを随時実施する。
- ③ 認証した参画プロジェクトの終了後、団体等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

エ 「日本博」のプロジェクト全体について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施

- ① 「日本博」の戦略的なプロモーションに関する方針を検討し、策定する。
- ② 「日本博」のプロジェクト全体について、多様な媒体を活用し、映像コンテンツ等の発信を含め、国内外に向けた情報発信を効果的に行う。
- ③ プロモーション業務の終了後、事業者等から提出される報告書等の取りまとめを行う。

オ 「日本博」の開催に際し実施される、文化芸術活動及びそれらのプロモーション活動を通じた国家ブランディング・インバウンド拡充等、文化的・社会的・経済的効果等を効果検証の基本方針や指標等に沿って、定量的・定性的に測定、その結果を検証

ア 主催・共催型プロジェクトの実施

- 主催・共催型プロジェクトの提案受付・採択状況

企画提案件数	採択内定件数	採択内定事業の実施状況	
71 件	44 件	実施	44 件
		中止・辞退	0 件

《振興会から提案した事業》

プロジェクト名	開催時期
伝統芸能にみる「日本人と自然」ー伝統芸能の重層性と日本人の美意識と自然観を体感するー	4 月～3 月
伝統芸能発見！ーDiscover 伝統芸能ー	6 月～12 月
ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能ー歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界ー」	1 月～3 月
琉球王朝の美～沖縄伝統芸能、その継承と発信～	7 月～3 月
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels スーパーエンジェル」	8 月

イ イノベーション型プロジェクトの実施

- イノベーション型プロジェクトの応募受付・採択状況

応募件数	採択内定件数	採択内定事業の実施状況	
59 件	41 件	予定どおり実施	38 件
		中止・辞退	3 件

ウ 参画プロジェクトの認証

- 今年度の認証件数：129 件

《振興会の認証事業令和3年度実施分》

- 国立劇場 国立劇場 5 月文楽公演
- 国立劇場 令和3年6月文楽既成者研修発表会
- 新国立劇場 こどものためのバレエ劇場 2021「竜宮 りゅうぐう ～亀の姫と季(とき)の庭～」
- 国立文楽劇場 第38回文楽鑑賞教室 「五条橋」「解説 文楽へようこそ」「卅三間堂棟由来」
- 国立能楽堂 国立能楽堂 7 月・8 月企画公演
- 国立文楽劇場 第163回文楽公演 夏休み文楽特別公演
- 国立文楽劇場 第164回文楽公演 錦秋文楽公演
- 新国立劇場 新国立劇場ダンス 2020/2021 シーズン Co. 山田うん 「オバケッタ」
- 国立文楽劇場 第24回文楽素浄瑠璃の会
- 国立文楽劇場 常設展示「文楽入門 ～文楽へようこそ～」
- 国立能楽堂 東日本大震災復興記念事業 復曲能「名取ノ老女」 狂言「舟渡賀」
- 第27回稚魚の会・歌舞伎会合同公演
- 第23回音の会
- 国立演芸場 演芸資料展「江戸の名どころ嘶めぐり」(仮称)
- 企画展示「舞台の花鳥風月ー装いの美ー」
- 国立能楽堂 3 月特別企画公演 能・狂言を再発見する
- 国立劇場 令和3年10月歌舞伎公演「通し狂言 伊勢音頭恋寝刃」
- 国立劇場 令和3年10月 第198回 邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」
- 国立劇場 令和3年11月 歌舞伎公演「一谷嫩軍記」
- 国立劇場 令和3年12月 文楽公演「仮名手本忠臣蔵」
- 国立劇場 令和3年12月 文楽鑑賞教室 解説 文楽の魅力・「新版歌祭文」
- 国立劇場 令和4年初春歌舞伎公演「通し狂言 南総里見八犬伝」
- 文楽劇場 第165回文楽公演 文楽座命名一五〇年 初春文楽公演
- 国立文楽劇場 第196回大衆芸能公演 浪曲名人会
- 国立劇場 令和4年2月文楽公演
- 国立劇場 令和4年3月歌舞伎公演

エ 日本博全体の戦略的プロモーションの実施

■ 日本博ホームページ

- 閲覧数(年間累計PV数):2,655,849 件
- 掲載事業
 - (日本語):659 件 (英語):546 件 (簡体字中国語):215 件 (繁体字中国語):214 件
 - (韓国語):214 件 (仏語):215 件
- デジタルギャラリー
 - 掲載動画・VR数 398 本

- ・ Living History [参画型]
（日本語）：20 件 （英語）：15 件
- ・ YouTube 日本博チャンネル
配信動画数 224 本(重複除く本数)
↳ チャンネル内再生リスト別動画本数
（日本語）：146 本 （英語）：95 本 （中国語）：22 本 （韓国語）：20 本 （仏語）：21 本
（インタビュー）：8 本

■バーチャル日本博

- ・ 新しい文化芸術の鑑賞方法として、3DCG のバーチャル空間におけるデジタルコンテンツにより国内外から多様な「日本の美」を体験できる「バーチャル日本博」を開設した(8/17)。
掲載事業数 77 事業(日本語・英語)
- ・ バーチャル日本博公開に合わせて、都倉文化庁長官、河村振興会理事長出席のもと、海外プレス向け記者発表会を実施した(8/17)。
場所：伝統芸能情報館レクチャー室(オンライン配信)
参加者数：38 名(オンライン 24 名、会場 14 名)
露出件数：161 件
- ・ バーチャル日本博リニューアル
「バーチャル日本博」を今話題の「メタバース」として大幅にリニューアルし、アバター機能の搭載で日本文化体験を没入感のあるものにし、複数のアバターでの回遊、アバター同士のシンプルコミュニケーションが可能となった。
空間内に「水のミュージアム」に加え、新たに「メインスクエア」「森のビレッジ」「木の芸術劇場」の3つのエリアを新設。(2/24)
- ・ 訪問者数
旧バージョン(8/17～2/24)：19,114 人(延べ)
新バージョン(2/24～3/31)：25,729 人(延べ)

■日本博広報番組

- ・ 和の學校～日本人と自然～(BS-TBS)
◇ 放映時期：5分番組は8/23～11/15の毎週月曜日(13回)、60分番組は1/15(1回)
◇ ナビゲーター：高島礼子(「日本遺産」ナレーター)
◇ 各回放送後、YouTubeで動画配信(BS-TBS公式チャンネル、和の學校～日本人と自然～チャンネル)。
◇ 60分番組は民放テレビポータルサイト「TVer」でも配信。
◇ TBSラジオ「アシタノカレッジ」で「ラジオで学ぶ、和の學校」を放送(9月・全4回)。
- ・ 「日本の美と心ー日本博が伝えるもの」「The Heart of Beauty: Message from the Japan Cultural Expo」(NHK WORLD-JAPAN /jibtv)
◇ 放送日：1/7(前編)、1/14(後編)

■プレス対応

- ・ プレスリリースの配信(2件)
 - ・ 令和3年度「日本博」採択事業決定(日本語、4/27)
 - ・ 2021年の事業ご案内(英語、5/25)
 - ・ バーチャル日本博リニューアルオープン(2/24)
 - ・ バーチャル日本博コンテンツ拡充(3/15)
- ・ 日本博のプロモーション事業の一環としてプレスツアーを実施し、主催・共催型プロジェクトである「限研吾展新しい公共性をつくるためのネコの5原則」(東京国立近代美術館)と「Discover KABUKI」(国立劇場)を鑑賞(7/27)。
参加メディア数：12 媒体 12 名
露出件数：14 媒体(新聞、WEB)

■新聞広告

- ・ 産経新聞朝刊(12/31 カラー15段)
地域：東京23区版、多摩武蔵野版、大阪市内版(347,000部)
- ・ 産経新聞朝刊(カラー)
地域：東京本社版(3/4 テレビ面全3段)、大阪本社版(2/24, 3/4, 3/9 テレビ面ウインドウ広告)

■メディアタイアップ

- ・10 国籍以上の在日外国人プロフェッショナルが、外国人目線で日本の魅力や様々なトラベル情報を世界に向けて提供している「Japan Travel」に、振興会とのタイアップ特集を掲載(2/24)。
- ・インフルエンサーが日本博事業を鑑賞し、国内外へ向け発信した。

■日本博公式 SNS

- ・日本博公式 SNS として、Facebook、Instagram、Twitter(日・英)を通じて随時情報発信を行った。

■その他

- ・日本博チラシを作成し、関係各所へ配布した。
- ・国立劇場大劇場における広報活動
 - ＜実施内容＞ デジタルサイネージ広告及びフォトスポットの設置
サイネージ広告の上映内容：日本博関連映像 4 本ループ再生(1 回転：5 分弱)
※7/27 の Discover KABUKI では同映像の英語字幕版を上映
 - ＜設置期間＞ 6/2-7/27(6 月・7 月歌舞伎鑑賞教室期間中)
 - ＜設置場所＞ 大劇場ロビー 1 階(1 か所)・2 階(2 か所)

《日本博 振興会関連の動画配信》

動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	再生回数
日本の伝統芸能の殿堂・国立劇場が贈る”歌舞伎”の魅力		5/24～	10,763
The Spirit of Kabuki Dance: Kyoganoko Musume Dojoji 歌舞伎舞踊の心「京鹿子娘道成寺」		5/24～	6,398
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門 「京鹿子娘道成寺」		3/25～4/7	10
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門 「京鹿子娘道成寺」を語る		3/25～4/7	35
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編＋舞踊本編セット】「京鹿子娘道成寺」		3/25～4/7	196
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門 「新歌舞伎十八番の内 春興鏡獅子」		3/25～4/7	12
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門 「春興鏡獅子を語る」		3/25～4/7	54
尾上菊之助の歌舞伎舞踊入門【お得な解説編＋舞踊本編セット】「春興鏡獅子」		3/25～4/7	159
令和 2 年 9 月文楽公演 第四部(Discover BUNRAKU)	令和 2 年 9 月国立劇場	4/20～ R4/5/31	1,356
令和 2 年 12 月文楽公演(Discover BUNRAKU)	令和 2 年 12 月国立劇場	4/20～ R4/5/31	1,795
国立劇場令和 3 年 11 月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より『八島』	令和 3 年 11 月国立劇場	3/24～ R5/3/31	587
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(1)—箏—」		3/29～	184
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(2)—三味線—」		3/29～	316
「音楽」教科書向け邦楽演奏動画「和楽器の魅力(3)—太鼓—」		3/29～	180
11 月雅楽公演【管絃 王朝の遊び】ダイジェスト版	令和 2 年 11 月国立劇場	5/24～	1,363
国立劇場令和 3 年 2 月特別企画公演「月・雪・花 —四季折々のこころ—」	令和 3 年 2 月国立劇場	9/1～10/31	5,132
Moon, Snow and Flowers - Performing Arts Celebrating the Natural Beauty of Japan	令和 3 年 2 月国立劇場	9/1～	243
「日本博寄席 2020」関連映像コンテンツ「寄席へようこそ—太神楽編／落語編—」		R2/12/23～	2,339
Welcome to Yose -Daikagura/Rakugo-		R2/11/25～	531
国立能楽堂企画公演〈日本人と自然 春夏秋冬〉復曲能「泰山木」	令和 3 年 4 月国立能楽堂	6/1～	4,049
National Noh Theatre Special Programme Noh (Revival) Taisanmoku	令和 3 年 4 月国立能楽堂	6/16～	744
国立能楽堂企画公演【女性能楽師による】(無観客収録)	令和 3 年 5 月国立能楽堂	6/16～	7,187
National Noh Theatre, Special Programme “Performed by Noh Actresses”	令和 3 年 5 月国立能楽堂	8/17～	566
国立能楽堂 5 月普及公演	令和 3 年 5 月国立能楽堂	7/2～	4,200
National Noh Theatre, Dissemination Performance in May	令和 3 年 5 月国立能楽堂	8/17～	654
国立能楽堂狂言企画公演〈日本人と自然 草木成仏〉「梟」「蟬」「鮎」	令和 3 年 5 月国立能楽堂	7/16～	3,833
National Noh Theatre, Special Programme of Kyogen 〈Humanity and Nature in Japan〉	令和 3 年 5 月国立能楽堂	8/17～	457
国立能楽堂外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN	令和 3 年 10 月国立能楽堂	12/24～	858
国立能楽堂特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」	令和 3 年国立能楽堂	8/17～	734
National Noh Theatre Special Exhibition 2021, Japanese People and Nature: Noh and Japanese Art	令和 3 年国立能楽堂	9/1～	623
国立劇場おきなわ令和 3 年 7 月組踊公演「大川敵討」～糺しの場～ (稽古風景や出演者へのインタビュー動画)	令和 3 年 7 月 国立劇場おきなわ	6/15～	1,034

組踊ゆかりの地巡り～「万歳敵討」編～	令和3年8月 国立劇場おきなわ	7/29～	1,296
組踊ゆかりの地巡り～銘苺子編～	令和3年10月 国立劇場おきなわ	10/4～	1,011
組踊ゆかりの地巡り～執心鐘入編～×リュウカツチュウ【コラボ企画】	令和3年11月 国立劇場おきなわ	10/25～	1,034
組踊「二童敵討」指導者インタビュー	令和4年2月 国立劇場おきなわ	1/26～	483
【潜入】組踊？琉球舞踊？歌舞劇「首里城物語」の舞台裏をのぞき見【リュウカツチュウコラボ】	令和4年2月 国立劇場おきなわ	3/7～	1,760
【English Version】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	国立劇場おきなわ	7/27～	46,240
【简体中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	国立劇場おきなわ	7/27～	3,491
【繁体中文字幕版】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	国立劇場おきなわ	7/27～	3,356
【한국어 자막 버전】Traditional Okinawan Performing Arts from National Theatre Okinawa	国立劇場おきなわ	7/27～	5,749
日本博特別公演「日本の音と声と舞」ダイジェスト映像 Long ver.		R2/7/3～	1,627
Japan Cultural Expo Special Performance “Japanese Music, Song and Dance”		R2/10/21～	1,008
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の音		R2/11/24～	532
Traditional Japanese Music		R2/11/24～	203
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の声		R2/12/1～	273
Traditional Japanese Song		R2/12/1～	512
日本博特別公演「日本の音と声と舞」日本の舞		R2/12/8～	1,042
Traditional Japanese Performance		R2/12/8～	95,389
日本博皇居外苑特別公演 ～祈りのかたち～ ダイジェスト映像 令和3年3月12日 皇居外苑 皇居前広場	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	2,294
“Representation of Prayer” March 12, 2021	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	299
日本博皇居外苑特別公演 ～祈りのかたち～ ダイジェスト映像 令和3年3月14日 皇居外苑 皇居前広場	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	3,927
“Representation of Prayer” March 14, 2021	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	236
日本博皇居外苑特別公演 ～祈りのかたち～ 浦浜念仏剣舞 特別映像	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	570
“Representation of Prayer” Urahama Nenbutsu Kenbai	令和3年3月 皇居外苑特設舞台	9/1～	91
「日本の伝統芸能」short ver.		R3/3/25～	548
Traditional Japanese Performing Arts_short ver.		4/19～	350
「日本の伝統芸能」long ver.		R3/3/25～	6,490
Traditional Japanese Performing Arts_long ver.		4/19～	734
おうちで「体感！日本の伝統芸能」歌舞伎篇		R2/8/17～	15,841
おうちで「体感！日本の伝統芸能」文楽篇		4/26～	4,281
おうちで「体感！日本の伝統芸能」雅楽篇		R3/2/12～	5,423
おうちで「体感！日本の伝統芸能」能楽篇		4/26～	4,892
おうちで「体感！日本の伝統芸能」組踊篇		R3/2/12～	2,497
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”歌舞伎編		2/16～	2,558
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”文楽編		2/16～	1,272
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”雅楽編		2/16～	572
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”能楽編		2/16～	741
特別展「体感！日本の伝統芸能」“伝統芸能を支える人と技”組踊編		2/16～	428
※一部、公演事業及び調査研究事業との重複あり	合計	68件	275,642

オ 日本博の文化的・社会的・経済的効果等の検証

- ・委託業者と契約を締結し、前年度策定した検証方針や設定指標を基に引き続き検証を行った。
- ・検証のための調査手法を確定し、アンケート調査・ヒアリング調査等の各種調査を実施した。
- ・有識者から調査結果などを基にした分析へ意見をいただくため、有識者会議を行った。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

- (1) 伝統芸能の伝承者の養成 ————— p.138
 - ア 養成の計画的な実施 ————— p.141
 - イ 既成者研修の実施 ————— p.145
 - ウ 実施に当たっての留意事項 ————— p.146

- (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 ————— p.151
 - ア 安定的、継続的な実演家の育成 ————— p.153
 - イ 実施に当たっての留意事項 ————— p.156

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、計画どおり研修を実施した。 ・研修発表会・既成者研修発表会について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除き、概ね計画どおり実施できた。 ・文楽研修において、年度計画では研修生の募集を予定していなかったが、近年の応募者数減少、文楽技芸員の人数不足、公益財団法人文楽協会からの要望等を踏まえ、第31期文楽研修生を募集。通常より短い募集期間ながら積極的に広報を行い、3名が合格し、令和4年度に開講できることとなった。 ・伝統芸能分野では、研修生の募集広報を政府広報、SNS(Twitter、Instagram、TikTok)、就職サイト等を活用して若者への周知を強化した。 ・現代舞台芸術分野では、全日本空輸株式会社の協賛による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・養成研修事業について、ホームページ、SNS、オンライン動画配信を活用して継続的に情報を発信し、事業周知や研修生獲得に努めた。 ・オープンスクールや説明会を対面又はオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで研修生獲得に努めた。 ・「国立劇場の舞台技術」について、舞台の安全に関する内容を含めて改訂の準備を行った。 ・舞台技術者等の研修については、全国公立文化施設協会との連携による地方の劇場への技術指導や連携大学からのインターンシップ受入れなど新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 研修発表会の実施状況：7公演/8公演 (87.5%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%) 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演 (100.0%)</p> <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 研修発表会の実施状況：9公演/9公演 (100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能分野では、近年応募者が減少傾向にある中、伝承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに、研修生の精神的なケアや経済的支援について、引き続き必要な措置を講じる。 ・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら、宣伝活動を強化し、令和3年度の事業を進めた。 ・ 養成研修及び既成者研修等について、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で概ね計画どおり実施することができた。 ・ 既成者研修発表会及び研修発表会時にロビーでの研修紹介映像の活用、外部団体等と連携した研修紹介チラシの配布など、幅広い層に対し事業を周知することができた。 <p>《歌舞伎俳優・音楽、大衆芸能》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第25期歌舞伎俳優研修生1名、第24期歌舞伎音楽(竹本)研修生1名、歌舞伎音楽(長唄)研修生1名が研修を修了し、それぞれの入門先又は就業先が決定。 ・ 第16期大衆芸能(寄席囃子)研修生4名については、研修期間中辞退者もなく研修を修了し、それぞれの所属先が決定した。 ・ 「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「音の会」は、舞台成果において高い評価を得た。 <p>《文楽》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度計画では研修生の募集を予定していなかったが、近年の応募者数減少、文楽技芸員の人数不足、公益財団法人文楽協会からの要望等を踏まえ、第31期文楽研修生を募集。通常より短い募集期間ながら積極的に広報を行い、3名が合格し、令和4年度に開講できることとなった。 ・ 1年目の研修生2名は、適性審査までは文楽三業の基本についての研修を、適性審査後は各専攻に特化した研修を順調に実施。 ・ 約半年の研修を経て、適性審査により太夫専攻に1名、三味線専攻に1名が合格となったことは大きな意義があった。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が発出され、東京での研修の休講を余儀なくされる時期があったが、講師の協力により一部の研修をリモートで行うなど工夫し、平常時に劣らない講義時間を確保し研修を実施。 <p>《能楽》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第10期の5年目、第11期の2年目の研修を計画どおり実施。 ・ 「第51回東西合同研究発表会」は出演者に新型コロナウイルス感染症陽性者が出たため、公演を中止したが、その他の研修発表会は計画どおり実施。 <p>《組踊》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第6期2年目研修を計画どおり実施。 <p>《舞台技術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立劇場の舞台技術」について、舞台の安全に関する内容を含めて改訂の準備を行った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>研修発表会の実施状況：7公演/8公演 (87.5%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた達成率100.0%) 既成者研修発表会の実施状況：11公演/11公演 (100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>ア 養成の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、計画どおり研修を実施。 <p>イ 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既成者研修発表会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため定員を50%以下に制限するなどして計画どおり実施。 ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者43名、実施回数315回)。 ・ (文楽劇場)文楽既成者研修発表会のうち「文楽若手会」は、国の緊急事態宣言延長及び大阪府の要請等を踏まえ、日程を変更して実施。 <p>ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページ、政府広報、SNS、就職サイト等を活用し、また、研修事業紹介動画に太神楽研修を追加するな

	<p>ど、オンラインでの事業周知・情報発信を強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の施設及び公演・イベント会場、各種媒体等で養成研修事業を周知。 ・能楽研修修了者を中心とした若手能楽師の巡回ワークショップ等を4件実施。 ・組踊研修修了者を中心とした若手組踊傳承者の巡回ワークショップ等を9件実施。 ・五館合同特別講義は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したが、代替措置として、東京国立博物館表慶館において開催された特別展「体感！日本の伝統芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」の観覧券を各館の研修生に配布して観覧を呼びかけ、伝統芸能について学ぶ機会とした。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年応募者が減少傾向にある中、傳承者を安定的に確保するために、募集広報を強化するとともに研修生の精神的なケアや経済的支援について必要な措置を講じてきたが、特に経済的な支援については引き続き拡充していく。 ・能楽研修は来年度行う募集に先駆けて先行チラシ・ポスターを作成し、今年度末から広報活動を開始する。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で計画どおり研修及び研修公演を実施。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・研修事業について、ホームページやSNS(Facebook, Twitter, tumblr)を活用して継続的に情報を発信した。併せて国内外での修了生の活躍を積極的に発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く周知できた。 ・オープンスクールや説明会をオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。 ・舞台技術者等の研修については、全国公立文化施設協会との連携による地方の劇場への技術指導や連携大学からのインターンシップ受入れなど新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	研修発表会の実施状況：9公演/9公演(100.0%)
主要な業務実績	<p>ア 安定的、継続的な実演家の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で研修を実施し、オペラ研修生5名、バレエ研修生5名、演劇研修生9名が修了した。 ・研修公演を計画どおり実施した。 ・オペラ及びバレエ研修所における、全日本空輸株式会社の協賛による「ANA スカラシップ」での海外研修については新型コロナウイルス感染症拡大のため実施を見送った。 ・演劇研修所において、全日本空輸株式会社の協賛による「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」を実施。航空券のサポートを受け国内研修を行った。 ・研修事業委員会を開催、前年度の成果検証に基づき今後の方向性を検討した。 <p>イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNSを活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信した。 ・事業周知と将来の研修生確保のため、オープンスクールや説明会をオンラインで開催した。 ・全国公立文化施設協会や提携大学と連携して、舞台技術者等の研修やインターンシップの受入れを行うなど新国立劇場の人材及び施設を活用した。
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していきたい。

3 - (1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、長期的な視点に立ち効果的かつ効率的に以下の養成・研修を実施

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を次のとおり実施

ア 民間での養成が難しいため振興会として実施すべき分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施

実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、次の養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間 2 年間又は 3 年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程 3 年間、専門研修課程 3 年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間 2 年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間 3 年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1 年間)

(2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 各分野の充足状況及び年齢構成等を把握、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了者の動向把握等により成果の検証を行い、次年度以降に対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽
(歌舞伎俳優)

- (a) 第25期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (b) 第26期生(研修期間2年、5名)の1年目の養成研修
- (歌舞伎音楽)
- (c) 竹本第24期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (d) 鳴物第17期生(研修期間2年、1名)の2年目の養成研修(修了)
 - (e) 長唄第8期生(研修期間3年、1名)の3年目の養成研修(修了)
- ② 大衆芸能
- (a) 寄席囃子第16期生(研修期間2年、4名)の2年目の養成研修(修了)
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
- (a) 第10期生(2名)の5年目の養成研修
 - (b) 第11期生(3名)の2年目の養成研修
- ④ 文楽(太夫、三味線、人形:研修期間2年)
- (a) 第30期生(2名)の1年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
- (a) 第6期生(10名)の2年目の養成研修
- ⑥ 研修生の技芸の習得及び向上の成果を測るため、研修発表会を別表10のとおり実施
- ⑦ 下記の研修生について、次年度の養成研修を実施する場合、募集人員及び応募資格等について検討・募集
- (a) 第27期歌舞伎俳優
 - (b) 第25期歌舞伎音楽(竹本)
 - (c) 第18期歌舞伎音楽(鳴物)
 - (d) 第9期歌舞伎音楽(長唄)
 - (e) 第8期大衆芸能(太神楽)
- イ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施
- ① 既成者研修発表会を別表10のとおり実施する。
 - ② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進
- ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項
- ① 養成事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める
 - ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実を図るため、研修修了者等によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施
 - ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、パンフレットや研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
 - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
 - ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、国立劇場等の人材や施設を活用し、舞台技術者等に対する各種研修の実施や、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	7 公演 (H25-29 実績平均：8.0 公演)
3-2 既成者研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	11 公演 (H25-29 実績平均：10.8 公演)

<p>3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)</p>	<p>P. 146～150 に掲載</p>
<p>3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	<p></p>
<p>3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)</p>	<p>P. 150 に掲載</p>

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、大衆芸能(寄席囃子)研修においては、1年目に基礎研修、2年目には、専門研修と並行して、実践の場において役立つ実技研修を実施する。歌舞伎音楽(長唄)においては、1年目に基礎研修、2年目に専門研修を行い、3年目に実践の場において役立つ実技研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎研修課程3年、専門研修課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

①養成研修実績

区分		研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者	
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	25期(2年次)	2年	1名	1名	
		26期(1年次)	2年	5名	1名	
	竹本 鳴物 長唄	24期(2年次)	2年	1名	1名	1名
		17期(2年次)	2年	1名	0名	
		8期(3年次)	3年	1名	1名	1名
大衆芸能	太神楽	休止中				
	寄席囃子	16期(2年次)	2年	4名	4名	4名
能楽		10期(5年次)	専門研修課程3年	2名	2名	
		11期(2年次)	基礎研修課程3年	3名	3名	
文楽		30期(1年次)	2年	2名	2名	
組踊		6期(2年次)	3年	10名	9名	

- ・健康上の理由により令和2年12月から令和3年3月まで研修を休止していた第24期歌舞伎俳優研修生1名が令和3年4月から第25期歌舞伎俳優研修生として研修に復帰した。
- ・第26期歌舞伎俳優研修生が5月・6月・9月(適性審査前)・11月に計4名が研修を辞退した。
- ・第17期歌舞伎音楽(鳴物)研修生1名が1月に研修を辞退した。
- ・第6期組踊研修生1名を12月付けで除籍した。

②主な授業等の概要

区分		回数	授業内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優(25期) 計513回	実技	432回 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、黒御簾音楽、箏曲
		その他	81回 講義、体操、公演・稽古見学、舞台実習、発表会、あげざらいほか
	俳優(26期) 計555回	実技	468回 歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物
		その他	87回 作法・講義、体操、公演・稽古見学、部外研修、着付
	竹本 計396回	実技	302回 義太夫、狂言
		その他	94回 講義、習字、体操、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
	鳴物 計285回	実技	215回 鳴物、長唄、能楽
		その他	70回 講義、習字、体操、公演・稽古見学、黒御簾音楽・楽屋実習ほか
	長唄 計447回	実技	351回 長唄、五線譜、鳴物、謡曲
		その他	96回 講義、習字、体操、公演・稽古見学、発表会、あげざらいほか
大衆芸能	寄席囃子 計498回	実技	350回 寄席囃子、長唄、清元、端唄、囃子、住吉踊り
		その他	148回 講義、体操、公演・稽古見学、楽屋実習、部外研修、発表会ほか
能楽 計1,504回		実技	1,270回 ワキ、シテ謡、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
		その他	234回 講義、和裁、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
文楽 計653回		実技	406回 義太夫、三味線、人形実技
		その他	247回 箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、体操、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか

組踊 計 452 回	実技	414 回	組踊実技、副実技(琉球舞踊・太鼓等)、基礎実技
	その他	38 回	講義、鑑賞・見学研修等、発表会ほか

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ガイドライン等に従うほか、通勤時の混雑を避けるための時差出勤、研修時間の短縮、月 1 回の PCR 検査、インターネットを利用したリモート授業などを行い、計画どおりの研修を行った。
- ・各分野とも、振興会主催公演をはじめとする公演見学等を積極的に行い、研鑽を深めた。
- ・歌舞伎俳優研修生は、コロナ禍により以前の期より機会は減ったが、「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」にて舞台実習を実施し、修了後の職場環境や舞台・楽屋における作法等を学ぶことができ、貴重な経験となった。
- ・大衆芸能(寄席囃子)研修では、国立演芸場、鈴本演芸場、新宿末廣亭、浅草演芸ホール の 4 席亭で実習を行った。寄席の職場環境や定席における寄席囃子の仕事を実地に経験でき、修了後に向けての貴重な機会となった。
- ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)、歌舞伎音楽(長唄)及び大衆芸能(寄席囃子)研修では、11/30 に上野・谷中界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。事前に上野・歴史文化に関する講義を受けた後、講師の案内により実際に史跡を訪れることで、現代の東京に残る江戸の面影を肌で感じ、歌舞伎や落語作品の理解を深めることができた。
- ・能楽(三役)研修生の第 10 期生は、国立能楽堂及び外部の能楽堂での楽屋実習・舞台実習を年間で笛方 16 回・小鼓方 24 回行い、着実に経験を積んでいる。
- ・文楽研修では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、5 月、9 月及び 2 月に予定していた東京研修を中止し、感染症対策を徹底した上で地元大阪での研修を実施した。
- ・文楽研修では、「仮名手本忠臣蔵」ゆかりの地をたずねて、12/9 に高輪界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。泉岳寺など、作品の元となった事件の現場を実際に訪れることにより、文楽を代表する演目の理解を深めた。
- ・文楽研修では、「摂州合邦辻」ゆかりの地をたずねて、2/24 に四天王寺界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。
- ・文楽研修では、3/9 に近松門左衛門の墓を中心に、尼崎界隈の史跡を巡る部外研修を実施した。
- ・組踊研修においては、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出(5/24)に伴い、研修の時間短縮や休講などを行った。休講した研修では、自宅での課題を与え自己鍛錬した。
- ・組踊研修生は、五館合同特別講義が 2 年連続で中止になったため、単独で公演鑑賞等の東京研修を行った。歌舞伎、文楽、オペラや演芸の鑑賞、歌舞伎音楽の研修風景の見学、能楽堂見学や能の研修生や担当職員とのワークショップ、歌舞伎と文楽との同演目の比較検討講座等、様々な芸能に触れることにより、舞台人として貴重な機会となった。
- ・伝統芸能伝承者の安定的確保、広報の拡充等の養成研修事業の機能強化のため、養成所設置を含めた伝統芸能伝承者養成組織の在り方について検討を行った。

《外部専門家等の意見》

- ・養成事業委員会を開催(第 2 回 : 3 館リモート開催)。主な意見は以下のとおり。
 - ◇ 新型コロナ感染症対策を徹底し、研修事業を実施継続していることが評価される。
 - ◇ 研修途中で辞退してしまう研修生が多いことが心配である。コロナ禍の影響で研修生同士の交流が極めて少なくなっていることが、精神面で研修生の負担になっていると思われる。
 - ◇ 体験型のプレ・コースを実施し、事前に各コースについてより深く知る機会を設けることは、応募者の増加や志望動機をより強固にするなどの効果が期待できる。古典芸能の魅力を広く周知する環境を作り上げてゆくことが必要であろう。
 - ◇ 「養成所」と命名する事に賛成。マスコミによる広報活動を効果的に行うためにも、養成所の広報専門担当者を設置し、戦略的に伝統芸能の魅力を発信できるとよい。
- ・国立劇場おきなわにおいて、養成事業委員会を開催。講義の内容や発表会について意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。
 - ◇ コロナ禍で人を集めるのが難しくなっているので、座学などはリモートに代えても良いと思う。
 - ◇ 研修修了生で構成された任意団体の「子の会」が、「古典の日文化基金賞」の「伝統芸能・音楽分野」で第 1 回の受賞をしたことは凄い。頼もしい。
 - ◇ この 4 月からの新しい芸術監督が研修修了 1 期生である。修了生が芸術監督になるくらいの力をもっており、研修制度がいかにか若い人たちに力を付けているかの表れである。
 - ◇ 通常通りの研修時間に戻しても、研修生が濃厚接触者になり研修を受けられないなど、稽古不足

になることもあった。

◇ 研修の様子を発信するなどすると次年度募集で研修を受けたいと思う人が増えて、より高いレベルの人が集まると思う。

《適性審査の実施等》

区分	試験日	受験者数	合格者数	備考
歌舞伎俳優	9/22	2名	2名	
文案	10/25	2名	2名	

③ 研修発表会の実施

(a) 発表会

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽 大衆芸能	第25期歌舞伎俳優・ 第24期歌舞伎音楽 (竹本)・第8期歌舞伎 音楽(長唄)・第16期 大衆芸能(寄席囃子) 研修発表会、第 26期歌舞伎俳優研 修発表会(合同)	本館 小劇場	3/9	1回	186人	36.4%	無料	歌舞伎俳優研修生:日本舞踊「白酒 売」、立廻り「歌舞伎の立廻り」 竹本研修生:義太夫「京鹿子娘道成 寺」道行、義太夫「歌舞伎義太夫の役 割」「本朝廿四孝」十種香の場より 長唄研修生:長唄「吉原雀」 寄席囃子研修生:長唄「元禄花見 踊」、端唄「香に迷う、深川節、びんの ほつれ、茄子とかぼちゃ、二上り相撲 甚句」、落語「七度狐」、住吉踊り 「かつぼれ」
能楽	第25回青翔会	能楽堂	6/15	1回	364人	65.8%	正面 1,500円 脇正面 1,000円 中正面 700円	舞囃子「忠度」(金春流)、舞囃子「湯 谷」(喜多流)、舞囃子「枕慈童」(宝生 流)、狂言「宗八」(和泉流)、能「巻絹」 (観世流) 指導者:観世清和・観世鏡之丞・金春 安明・友枝昭世ほか 出演者:第10期研修生、第8・9期修 了者、令和3年度研究生、研修講師 ほか
能楽	第26回青翔会	能楽堂	10/19	1回	491人	83.1%	正面 1,500円 脇正面 1,000円 中正面 700円	舞囃子「八島」(喜多流)、舞囃子「班 女」(金春流)、舞囃子「紅葉狩」(観世 流)、狂言「昆布売」(和泉流)、能「融」 (宝生流) 指導者:観世清和・金春安明・友枝昭 世・野村万作ほか 出演者:第10期研修生、第8・9期 修了者、令和3年度研究生、研修講 師ほか
能楽	第27回青翔会	能楽堂	3/15	1回	487人	82.4%	正面 1,500円 脇正面 1,000円 中正面 700円	舞囃子「桜川」(喜多流)、舞囃子「小 督」(宝生流)、舞囃子「羽衣」(金春 流)、狂言「宝の槌」(和泉流)、能「高 砂」(観世流) 指導者:観世清和・金春安明・友枝昭 世ほか 出演者:第10期研修生・第8・9期修 了者、令和3年度研究生、研修講師 ほか
能楽	第51回 東西合同研究発表会 ※公演中止	京都観世 会館	8/31	—	—	—	無料	【第一部】舞囃子「弓八幡」(金剛流)、 舞囃子「胡蝶」(観世流)、舞囃子「女 郎花」(金剛流)、独吟「猩々」(下宝生 流)、語「七騎落」(下宝生流)、狂言「口 真似」(大蔵流)、小舞「吉の葉」(大蔵 流)、能「鶴」(観世流) 【第二部】舞囃子「春日龍神」(金春 流)、舞囃子「天鼓」(喜多流)、独調「吉 野天人」(観世流)、小舞「土車」(大蔵 流)、能「西王母」(観世流)
文案	第30期文案研修発 表会	文案劇場 小ホール	1/28	1回	102人	69.4%	無料	「二人三番叟」、素浄瑠璃「菅原伝授 手習鑑」寺入りの段、素浄瑠璃「仮名 手本忠臣蔵」裏門の段
組踊	第6期組踊研修生 第3回研修発表会	国立劇場 おきなわ 大劇場	10/7	1回	180人	60.8%	無料	琉球舞踊「上り口説」「浜千鳥」 組踊「孝行の巻」
組踊	第6期組踊研修生 第4回研修発表会	国立劇場 おきなわ 大劇場	3/3	1回	175人	59.1%	無料	琉球古典音楽独唱「二揚下出し仲風 節」「二揚下出し述懐節」「二揚仲風 節」「二揚述懐節」 組踊「女物狂」

※第 51 回東西合同研究発表会は、出演者に新型コロナウイルスの陽性反応が確認されたため中止。

- ・「第 25 期歌舞伎俳優・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)・第 8 期歌舞伎音楽(長唄)・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修修了発表会/第 26 期歌舞伎俳優研修発表会」は、第 26 期歌舞伎俳優研修生の体調不良により、歌舞伎実技「鳴神」と日本舞踊「越後獅子」は中止となった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、客席は 522 席を 511 席に減らし、昨年に引き続き、指定席に変更して開催した。さらに、今後の研修生募集につながるよう、松竹こども歌舞伎スクール寺子屋の修了生及び父兄、関係者を招待した。
- ・第 25 期歌舞伎俳優研修生は、発表会直前に歌舞伎実技「鳴神」を中止することとなったが、立廻りと日本舞踊「白酒売」を堂々と披露し、研修の成果を十分に示すことができた。
- ・第 24 期歌舞伎音楽(竹本)研修生は、「十種香の場」に挑み、俳優の演技に合わせて、八重垣姫など登場人物の心情をしっかりと表現し、高く評価された。
- ・第 8 期歌舞伎音楽(長唄)研修生は、長唄「吉原雀」で三味線の演奏を披露し、3 年間の研修の成果を十分に示すことができた。
- ・第 16 期大衆芸能(寄席囃子)研修生は、落語のお囃子、端唄 5 曲、長唄「元禄花見踊」を披露し、2 年間の研修の成果を十分に示すことができた。
- ・能楽(三役)研修生の第 11 期生は、今年度から稽古会に出演した。
- ・文楽研修では、研修発表会において日頃の研修の成果を披露した。また、発表会という大きな目標に向かって集中的に課題曲に取り組むことにより、成長の跡がうかがえた。
- ・組踊研修は、10 月及び 3 月の発表会において新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般客の入場は取りやめ、講師や研修生親族などの関係者のみを招待して開催した。コロナ禍で緊急事態宣言を受け、研修が何度か休講となったため、通常より短い研修数ではあったが、研修の成果を十分に発揮することができ、今後の成長を期待させた。

(b) その他の発表会等

区分	公演名	会場	期間	内容
歌舞伎	第 25 期歌舞伎俳優研修生 あげざらい	国立劇場 大稽古場	11/19	○歌舞伎「三人吉三巴白浪」大川端庚申塚の場 指導者:中村時蔵・市川團蔵、出演者:第 25 期歌舞伎俳優研修生、 助演者:市川荒五郎、中村好蝶 ○日本舞踊「廓八景」 指導者:花柳寿楽、花柳錦吾、出演者:第 25 期歌舞伎俳優研修生
長唄 寄席囃子	第 8 期長唄研修生 第 16 期寄席囃子研修生 あげざらい	第 1 演芸 研修室	8/4	○研修生の編曲による合奏 「ヴィジュアルディ 春」「Somebody Stole My Gal 吉本新喜劇 のテーマ」「パイレーツオブカリビアン」「パブリカ」「UFO」 ○研修生全員による合奏 五線譜三味線曲集 三粹集より「風雅」「佃」 指導者:杵屋巳織 演奏者:第 8 期長唄研修生、第 16 期寄席囃子研修生
長唄 寄席囃子	第 8 期長唄研修生 第 16 期寄席囃子研修生 あげざらい	中稽古場	1/28	○研修生の編曲による合奏 「浪漫飛行」「Get Wild」「Sing Sing Sing」「鉄腕アトム」「ルパン三世」 ○研修生全員による合奏 杵屋正邦作曲より「太鼓の曲」 指導者:杵屋巳織 演奏者:第 8 期長唄研修生、第 16 期寄席囃子研修生
能楽	令和 3 年度 第 1 回稽古会	国立 能楽堂	4/26	素謡「経正」(観世流)、狂言「佐渡狐」(和泉流)、舞囃子「竹生島」(金 春流)、舞囃子「安宅」(観世流)、袴能「巴」(宝生流)、舞囃子「海人」 (喜多流) 指導者:観世鍊之丞・金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第 10・11 期研修生、第 8・9 期修了者、令和 3 年度研究 生、研修講師ほか
能楽	令和 3 年度 第 2 回稽古会	国立 能楽堂	7/8	素謡「鶴亀」(観世流)、素囃子「中ノ舞」、狂言小舞「雪山」(大蔵流)、 舞囃子「高砂」(観世流)、舞囃子「源氏供養」(喜多流)、舞囃子「花 月」(宝生流)、狂言「柑子」(大蔵流)、袴能「葵上」(金春流) 指導者:金春安明・中村邦生 ほか 出演者:第 10・11 期研修生、第 1・3・6・8・9 期修了者、令和 3 年度 研究生、研修講師ほか
能楽	令和 3 年度 第 3 回稽古会	国立 能楽堂	1/24	舞囃子「船弁慶 前」(観世流)、狂言「酔薑」(和泉流)、舞囃子「放下 僧」(金春流)、舞囃子「松風」(宝生流)、舞囃子「熊坂」(喜多流)、袴 能「高砂」(観世流) 指導者:金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第 10・11 期研修生、第 5・8・9 期修了者、令和 3 年度研究 生、研修講師ほか

④次年度の検討、募集

(a) 第 27 期歌舞伎俳優

- (b) 第 25 期歌舞伎音楽(竹本)
- (c) 第 18 期歌舞伎音楽(鳴物)
- (d) 第 9 期歌舞伎音楽(長唄)
- (e) 第 8 期大衆芸能(太神楽)
- (f) 第 31 期文楽

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
第 27 期歌舞伎俳優	2/21	4 名	4 名	3 名	3 月に 1 名辞退し、2 名
第 25 期歌舞伎音楽(竹本)	2/24	4 名	3 名	3 名	
第 18 期歌舞伎音楽(鳴物)	-	0 名	-	-	
第 9 期歌舞伎音楽(長唄)	2/21	3 名	3 名	2 名	
第 8 期大衆芸能(太神楽)	2/22	4 名	3 名	3 名	
第 31 期文楽	3/2	6 名	5 名	3 名	年度計画外の募集

- ・歌舞伎俳優研修については、海外から 1 名の応募があり、新型コロナウイルス感染症対策のため入国が不可能であったため、リモートによる受験となった。
- ・歌舞伎音楽(鳴物)研修については、期間を延長して、引き続き令和 4 年度に募集を行うこととした。
- ・今年度計画では文楽研修生の募集を予定していなかったが、近年の応募者数減少、文楽技芸員の人数不足、文楽協会からの要望等を踏まえ、第 31 期文楽研修を令和 4 年度から開講することとした。

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

①既成者研修発表会の実施

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率	入場料	内容
歌舞伎俳優	第 27 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演	本館小劇場	8/18～22	5 回	1,381 人	60.4%	4,200 円	「対面花春駒」、「釣女」、「新皿屋舗月雨暈」片門前魚屋宗五郎内の場・磯部邸玄関先の場・同庭先の場
歌舞伎俳優	第 31 回上方歌舞伎会	文楽劇場	8/26～27	4 回	1,270 人	53.1%	4,200 円	「双蝶々曲輪日記」引窓、「慣彩舞七以呂波」
歌舞伎音楽	第 23 回音の会	本館小劇場	8/13～14	2 回	510 人	55.8%	2,700 円	鳴物・長唄「四季の山姥」、長唄「楠公」、長唄「新柱建」、歌舞伎「桂川連理柵」帯屋の場
能楽	能楽若手研究会京都公演 —第 30 回記念京都若手能—	京都観世会館	6/26	1 回	281 人	93.7%	4,000 円	舞囃子「歌占」(観世流)、能「乱」(金剛流)、仕舞「芭蕉」(観世流)、舞囃子「松風」(観世流)、舞囃子「邯鄲」(金剛流)、狂言「蚊相撲」(大蔵流)、仕舞「笠之段」(金剛流)、能「望月」(観世流) 指導者:片山九郎右衛門・金剛永謹・杉市和・河村大ほか 出演者:山田伊純、豊嶋晃嗣、浦部幸裕、加藤洋輝(第 6 期修了者)ほか
能楽	能楽若手研究会大阪公演 —第 30 回記念大阪若手能—	大槻能楽堂	1/30	1 回	366 人	81.7%	A 席 8,000 円 B 席 7,000 円 C 席 5,000 円	舞囃子「高砂」(喜多流)、仕舞「敦盛」(観世流)、仕舞「井筒」(宝生流)、舞囃子「舟弁慶」(金春流)、能「道成寺」(観世流) 指導者:福王茂十郎 出演者:吉井基晴、喜多雅人(第 7 期修了者)、矢野昌平(第 8 期修了者)ほか
能楽	能楽若手研究会東京公演 —第 30 回記念東京若手能—	国立能楽堂	2/5	1 回	482 人	76.9%	正面 3,700 円 脇正面 3,000 円 中正面 2,500 円	能「熊野」(宝生流)、狂言「節分」(大蔵流)、能「小鍛冶 黒頭」(観世流) 指導者:宝生欣哉 出演者:小倉伸二郎、川口晃平、則久英志(第 3 期修了者)、竹市学(第 3 期修了者)、田中達(第 4 期修了者)、御厨誠吾(第 5 期修了者)、八反田智子(第 5 期修了者)、鳥山直也(第 5 期修了者)、森貴史(第 6 期修了者)、矢野昌平(第 8 期修了者)ほか
文楽	第 21 回文楽若手会 ※中止・日程変更	文楽劇場	6/19～20					

文楽	第21回文楽若手会 ※日程変更	文楽劇場	6/21	1回	285人	43.6%	1,800円	「菅原伝授手習鑑」茶筌酒の段、喧嘩の段、訴訟の段、桜丸切腹の段、「生写朝顔話」宿屋の段、大井川の段、「万才・鷺娘」
文楽	第9回文楽若手会	本館 小劇場	6/24 ～25	2回	859人	83.6%	3,000円	出演：豊竹芳穂太夫、鶴澤清道、桐竹紋臣ほか
文楽	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	11/26	1回	130人	88.4%	1,000円	「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段、「源平布引滝」九郎助住家の段
文楽	若手素浄瑠璃の会	文楽劇場 小ホール	3/4	1回	128人	87.1%	1,000円	「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段、「壺坂観音霊験記」沢市内より山の段
組踊	第11回若手伝承者 公演	国立劇場 おきなわ 大劇場	12/4	1回	323人	55.9%	2,000円	琉球舞踊「作田」「浜千鳥」「久志の若按司道行口説」、組踊「奇縁の巻」

- ・「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、客席の定員を50%以下に制限した。若い出演者による「対面花春駒」、狂言舞踊の「釣女」、世話物「新血屋舗月雨暈」の宗五郎を名題下俳優が挑戦する等、観客に若い世代の日頃の修練の成果を十分に示すことができた。
- ・「上方歌舞伎会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために例年よりも上演時間を短くしつつ、なおかつ出演者全員がそれぞれ十分に活躍できるよう番組を工夫した。
- ・「音の会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、客席の定員を50%以下に制限した。長唄の曲目が江戸のもの、明治のもの、演奏会用、舞台上演用と、バラエティに富み、いずれも好評だった。また歌舞伎「桂川連理柵」は太夫、三味線ともに上方作品に真摯に取り組み、人物の心情を丁寧に表現でき、観客に若い世代の日頃の修練の成果を十分に示すことができた。
- ・能楽若手研究会は京都・大阪・東京とも第30回を迎え、記念公演を行った。通常公演よりも重い曲を上演し、若手能楽師にとって貴重な経験となった。
- ・国の緊急事態宣言及び自治体の要請等を踏まえ中止とした文楽劇場の文楽若手会について、日程を変更して開催した。
- ・文楽既成者研修発表会「若手素浄瑠璃の会」では、いずれも若手技芸員が今後勤めるであろう大曲に挑戦することで、技芸向上に貢献するだけでなく、伝統芸能伝承者としての自覚を促す有意義な機会となった。
- ・組踊既成者発表会は、自主公演でも希な演目を選び、配役に関しても通常とは違う配役にあえて挑戦することによって演者自身への大きな成果となる公演となった。

②能楽研究課程の開講

- ・能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生43名が受講した(実施回数：315回)。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科(シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓)を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

③その他の既成者研修の取組

- ・大衆芸能(太神楽)について、歌舞伎の基本動作や笛の実習等、研修修了者の技芸向上を図るための研修を実施(実施回数41回、受講者延べ103名)。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

①修了者の活動状況等、養成事業の周知

(a) 各分野共通

- ・振興会ニュースに「研修便り」として養成事業の活動状況等を掲載した。
- ・ホームページ、SNS等による事業周知を行った。
 - ◇ 振興会ホームページ、SNS(Twitter、Instagram、Tiktok)に養成事業の情報や研修事業紹介動画を掲載
 - ◇ 政府インターネットテレビ(10/29～)
 - ◇ 政府広報オンラインへ(12/27～)
- ・新聞雑誌への記事掲載、テレビ・ラジオでの放送による事業周知を行った。
 - ◇ 政府広報テレビ番組(BS朝日「宇賀なつみのそこ教えて！」11/19放送、12/10再放送)・ラジオ番組(東京FM「青木源太・足立梨花 Sunday Collection」11/7放送)
 - ◇ 「二十歳の挑戦」(テレビ朝日12/26放送)
 - ◇ 大田区文化芸術情報紙(ART bee HIVE、1/5)
 - ◇ 大田区文化芸術情報紙連動企画TV番組(iTSCOMチャンネル・ART bee HIVE TV、1/8ほか放送)
 - ◇ 公益社団法人全日本郷土芸能協会会報誌(養成事業の紹介及び研修生募集)
- ・チラシ・ポスター等の掲出による事業周知を行った。

- ◇ 文楽研修事業を紹介するポスター・チラシ・パンフレットを劇場内に掲出・配架。
- ◇ 文楽劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
- ◇ 錦秋文楽公演、初春文楽公演、文楽既成者研修発表会の際に劇場ロビーで、文楽研修紹介映像の上映。

- ・ 自民党文部科学部会・文化立国調査会主催文化講座にて、第 15 期歌舞伎俳優研修修了者の中村橋吾が講演し、養成事業について紹介した(12/15)。

(b) 歌舞伎俳優・音楽

- ・ 歌舞伎研修風景動画を配信 (R2/5/28～、累計再生回数 31,304 回)。
- ・ 山梨日日新聞に記事記載あり (8/2 歌舞伎音楽(長唄)研修生インタビュー)

■歌舞伎音楽既成者研修発表会「第 23 回音の会」、歌舞伎俳優既成者研修発表会「第 27 回稚魚の会・歌舞伎会合同公演」の周知

- ・ あぜくら会会報 7 月号及び日本芸術文化振興会ニュース 8 月号に出演者メッセージを掲載した。
- ・ 「演劇界」8 月号に公演情報を掲載した。
- ・ 日本俳優協会・伝統歌舞伎保存会公式 YouTube チャンネル「歌舞伎ましよう」における公演紹介動画に関し、撮影・素材提供等で協力した(配信動画:「竹本拓太夫と鶴澤繁二が〈第 23 回音の会〉をご紹介」)。
- ・ 読売新聞に記事が掲載された(7/28 尾上音蔵インタビュー)。

(c) 文楽

- ・ 公益財団法人文楽協会によるミニ公演他外部の文楽公演において協力を依頼し、養成事業周知のチラシを配架した。

(d) 能楽

- ・ 振興会ホームページに岡本はる奈(第 8 期修了者)のインタビューを掲載した(4 月前編、5 月後編)。
- ・ 11/12 朝日小学生新聞及び 11/14 朝日中高生新聞に田邊恭資(第 7 期修了者)のインタビュー記事が掲載された。

■能楽若手研究会の周知

- ・ 振興会ホームページにトピックスを掲載した。

〈大阪公演〉

- ・ 大阪イベント情報サイト「大阪スケジュール」に公演情報を掲載した。
- ・ 大阪市中央区のイベント情報サイト「大阪中心」に公演情報を掲載した。
- ・ 12/10 に記者会見を行い、日経新聞(WEB 版のみ)、毎日新聞大阪版に記事が掲載された。
- ・ 雑誌「観世」1・2 月号に公演情報を掲載した。
- ・ 大阪メトロ構内掲示板にポスターを掲示した(大阪メトロ 8 路線各駅市政掲示板 126 基 1/12～25)。
- ・ 大阪市内公共施設にチラシを配架した。
- ・ 大槻能楽堂会報誌に同封して公演チラシを大槻能楽堂会員に送付した。

〈東京公演〉

- ・ 振興会ホームページに「第 30 回記念特別対談」を掲載した(1/18 ワキ方編前編、1/19 ワキ方編後編、1/25 シテ方編前編、1/27 シテ方編後編)。
- ・ 振興会ホームページの情報が檜書店・能楽タイムズの Twitter でツイートされた。
- ・ 雑誌「観世」1・2 月号に公演情報を掲載した。

(e) 組踊

- ・ 国立劇場おきなわホームページ、Facebook に、研修生発表会、既成者研修発表会や稽古の様態等を掲載して広く活動を周知した。
- ・ 「第 11 回若手伝承者公演」の公演案内が新聞記事(琉球新報)に掲載された。
- ・ 「第 6 期組踊研修生第 3 回研修発表会『孝行の巻』」の開催に関する新聞記事(沖縄タイムス、琉球新報)に掲載された。

②全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者によるワークショップ等

区分	イベント名	期間	会場	出演者等	参加者数
能楽	能楽体験教室「能楽のセカイ」 ※インターネット配信による開催	5/29～	山梨県甲府市 武田神社	佐久間二郎(シテ方観世流)、永島充(シテ方観世流)、野口能弘(ワキ方宝生流)、野口琢弘(ワキ方宝生流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第 5 期・第 6 期・第 9 期研修修了者	882 人
能楽	届けます。体験教室(シテ方・囃子方体験)	2/16	都立小金井北 高等学校	佐久間二郎(シテ方観世流)、鈴木啓吾(シテ方観世流)、永島充(シテ方観世)	240 人

				流)、野口能弘(ワキ方宝生流)、野口琢弘(ワキ方宝生流)、大藏教義(狂言方大藏流)、佃良太郎(大鼓方高安流)、第5・6・9期研修修了者	
能楽	楽しもう！能と狂言(シテ方・囃子方体験)	3/26	西東京市 保谷こもれびホール	山井綱雄(シテ方金春流)、村岡聖美(シテ方金春流)、柏崎真由子(シテ方金春流)、小野寺竜一(笛方一噌流)、柿原孝則(大鼓方高安流)、第8・9期研修修了者	12人
能楽	楽しもう！能の世界	3/30	国立能楽堂 研修能舞台	高村裕(笛方一噌流)、大倉栄太郎(大鼓方大倉流)、第6・9期研修修了者	19人
組踊	組踊ワークショップ	7/10	国立劇場おきなわ 大稽古室	上原崇弘、高井賢太郎、新垣勝裕	11人
組踊	劇場バックステージツアー ※緊急事態宣言のため中止	7/31 ～8/1	国立劇場おきなわ 大稽古室	伊藝武士、比嘉大志、山城峻称、仲嶺良盛	—
組踊	スクリーン上映会 「男性舞踊家の会」	9/25	国立劇場おきなわ 大劇場	金城真次(ゲストトーク参加)	122人
組踊	おでかけワークショップ in 浦添小学校	10/27	浦添市立浦添小学校 体育館	仲村逸夫、玉城匠	107人
組踊	おでかけワークショップ in 前田小学校	11/16	浦添市立前田小学校 体育館	上原崇弘、比嘉大志、新垣勝裕	102人
組踊	外国人のための組踊ワークショップ	11/27	国立劇場おきなわ 大稽古室	山城峻称、高井賢太郎、佐久田朝太	27人
組踊	おでかけワークショップ in 沢岬小学校	12/13	浦添市立沢岬小学校 体育館	仲嶺良盛、玉城匠	123人
組踊	無形文化遺産でつながるアジアの芸能 座談会	2/9	国立劇場おきなわ 大稽古室	金城真次	9人
組踊	国立劇場おきなわ友の会「実演家ザ 談会 vol.2」	2/27	国立劇場おきなわ 小劇場	佐辺良和、仲村逸夫、玉城和樹	62人
組踊	県外組踊ワークショップ富山	3/4	富山県 高志の国文学館	仲村逸夫、玉城匠	28人

※「無形文化遺産でつながるアジアの芸能 座談会」はYouTube ライブ配信も実施(視聴者数常時約60人)

- ・ 国立劇場おきなわでは、研修修了者を中心に起用して組踊ワークショップを県内で5回、県外で1回実施した。

③応募者の確保

- ・ 養成事業の説明と実際の研修状況を見学してもらう研修見学会や個別相談を実施した。

区分	イベント名	日程	会場	内容	参加者数
歌舞伎	令和3年度第1回 歌舞伎俳優・音楽研修見学会	12/12	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	15人
大衆芸能	令和3年度第1回 大衆芸能(太神楽)研修見学会	12/12	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	8人
大衆芸能	令和3年度第2回 歌舞伎俳優・音楽研修見学会	1/13	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	12人
歌舞伎	令和3年度第2回 大衆芸能(太神楽)研修見学会	1/13	国立劇場 大稽古場	研修風景見学、研修制度についての説明、質疑応答	3人
文楽	大阪府立東住吉高等学校 特別授業	6/30	大阪府立 東住吉高等学校	独立行政法人日本芸術文化振興会の業務と意義	39人
文楽	第31期文楽研修生募集 個別相談	通年	国立文楽劇場 研修室・会議室	研修風景見学・体験、研修制度についての説明、質疑応答	8人
文楽	第31期文楽研修生募集説明会	11/13	国立文楽劇場 研修室	人形研修体験、質疑応答	2人
文楽	第31期文楽研修生募集見学会	1/10	国立文楽劇場 会議室・研修室	三味線研修見学、研修制度についての説明、質疑応答	4人

■歌舞伎俳優(第27期)、歌舞伎音楽(第25期竹本・第18期鳴物・第9期長唄)、大衆芸能(第8期太神楽)、第31期文楽研修生募集

- ・ ホームページ、SNS、メール等による募集の周知を行った。
 - ◇ 養成事業ホームページ：令和4年度開講コースの募集情報を掲載。
 - ◇ 養成事業ホームページにリンクしたバナー広告を掲出。
 - 振興会ホームページ：歌舞伎研修生・太神楽研修生募集
 - 国立劇場ホームページ：歌舞伎研修生募集
 - 国立演芸場ホームページ：太神楽研修生募集
 - 文部科学省・文化庁ホームページ：国立劇場研修生募集
 - ◇ 養成課 Twitter、Instagram 及び TikTok を開設し、研修生募集情報を掲載。

- ◇ 振興会ホームページに講師及び修了者インタビューを追加。
 - ◇ 国立オンライン劇場 (YouTube 国立劇場チャンネル) に、歌舞伎研修紹介動画、太神楽研修紹介動画を掲載。
 - ◇ SNS (Twitter、Instagram、Tiktok) に自習風景動画等を配信。
 - ◇ NTJ メンバー、あぜくら会会員、国立文楽劇場友の会会員向け「お知らせメール」による募集告知。
 - ◇ 関係団体等のホームページに募集情報を掲載(「歌舞伎美人」「歌舞伎 on the Web」、太神楽曲芸協会、文楽協会等)。
 - ◇ 政府インターネットテレビに情報掲載(10/29～)。
 - ◇ 政府広報オンラインに情報掲載(12/27～)。
 - ◇ 文部科学省、文化庁の広報部門と連携し、文化庁のメールマガジン「マナビィ・メールマガジン」等で募集告知。
 - ◇ マイナビ進学に養成事業及び研修生募集情報を掲載、ターゲティングメールを配信。
 - ◇ インターネット広告(Google、Yahoo)・YouTube 広告・SNS 広告(Twitter、Tiktok)。
 - ・ 新聞・雑誌への募集案内掲載、テレビ・ラジオでの放送による周知を行った。
 - ◇ 政府広報テレビ番組 (BS 朝日・宇賀なつみのそこ教えて!、11/19 放送、12/10 再放送)・ラジオ番組 (東京 FM・青木源太・足立梨花 Sunday Collection、11/7 放送)
 - ◇ 二十歳の挑戦 (テレビ朝日、12/26)
 - ◇ 大田区文化芸術情報紙 (ART bee HIVE、1/5)
 - ◇ 大田区文化芸術情報紙連動企画 TV 番組 (iTSCOM チャンネル・ART bee HIVE TV、1/8 ほか放送)
 - ◇ 週末ハッピーライフ! お江戸に恋して (東京 MX テレビ、2/19 放送)
 - ◇ まどかのコケッココー! (ラジオ川越、2/7 放送)
 - ◇ 文部科学広報 10 月号
 - ◇ 新聞・雑誌等への広告掲載 (歌舞伎座 12 月公演・1 月公演プログラム、「演劇界」、伝統芸能情報誌「KENSYO」123 号、寄席演芸専門情報誌「東京かわら版」11~1 月号)
 - ◇ 文楽研修生募集記事掲載 毎日新聞 (1/21 大阪市内版、1/27 和歌山県版、2/9 兵庫県版、2/13 奈良県版)、京都新聞 (2/2)
 - ・ 研修生募集のポスター・チラシによる募集の周知を行った。
 - ◇ 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽及び大衆芸能 (太神楽) 研修生募集ポスターとチラシを作成。
 - ◇ 振興会各施設へ研修生募集ポスター・チラシを掲出。
 - ◇ 劇場外での各種公演やイベント等でポスター・チラシ・パンフレット等を配布。
 - ◇ 歌舞伎座、京都南座等のほか、地歌舞伎勢揃い公演 (11/13) において歌舞伎研修生募集チラシを設置。
 - ◇ 各寄席、なんばグランド花月等において太神楽研修生募集チラシを設置。
 - ◇ 文化芸術関係者向け新型コロナワクチンの接種会場となった国立新美術館において、歌舞伎研修生募集チラシを掲出。
 - ◇ 駅貼りポスター広告掲出。
 - ◇ DM 発送
 - (本館) 高等学校、芸術系大学、公共ホール、図書館、各高校文化連盟、楽器店、カルチャーセンター、報道機関等約 2,000 件
 - (本館) 体操部。演劇部・和太鼓部のある高等学校、全国地芝居団体、日本太鼓財団等約 650 件
 - (本館) 和太鼓部・郷土芸能部のある高等学校、全国地芝居団体、日本太鼓財団、楽器店等約 350 件
 - (文楽劇場) 芸術系の学校、関係団体、劇場等 671 件
 - ◇ 上記 DM とは別に、体操部のある高等学校へ DM を先行発送 (8 月)。
 - ◇ 全日本郷土芸能協会会報誌 (10 月発送分) にチラシ同封。全国地歌舞伎関係先 (52 件)、山・鉾・屋台行事等保存会関係先 (35 件) にチラシ送付。
 - ◇ 令和 3 年度第 1 回都道府県私立学校主管部課長会議の配布資料に募集チラシを同封
 - ◇ 民俗芸能団体 (人形劇関係) へのチラシ送付
 - ・ 研修発表会の公演チラシに募集案内を掲載した。
 - ・ 自主公演の公演プログラムに募集案内を掲載した。
 - ・ 公演期間中に劇場ロビーで研修紹介動画を上映した。
- 《養成事業の周知・研修生募集等に関する動画配信》

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数
----------	------	------

歌舞伎研修風景動画	R2/5/28～	31,923
歌舞伎研修風景動画	11/1～	1,820
【研修生募集】文楽研修ご案内！	R2/12/17～	4,181
大衆芸能(太神楽)研修を覗いてみませんか？	10/6～	157,938
	合計	4件
		195,862

④伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・令和3年度の「五館合同特別講義」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止した。
- ・代替の措置として、東京国立博物館表慶館において開催された特別展「体感！日本の伝統芸能－歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界－」（会期1/7-3/13、主催：文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社）の観覧券を各館の研修生に配布して観覧を呼びかけ、ユネスコ無形文化遺産に登録されている5つの伝統芸能について学ぶ機会とした。

⑤公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力等

- ・国立劇場本館において継承されてきた、伝統芸能の上演に係る舞台技術を紹介するための小冊子「国立劇場の舞台技術－伝統芸能の上演のために－」について、第三者機関による劇場施設の安全診断結果を踏まえ、全国の会館等で伝統芸能の上演を安全に実施する際の手引きとして改訂の準備を行った。

3 - (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより、次の研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のための、研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなどの広報活動の充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用や、研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かした、合同研修の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流の実施

オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第22期生(5名)の3年目の研修(修了)

(b) 第23期生(4名)の2年目の研修

(c) 第24期生(5名)の1年目の研修

(d) 第25期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表10のとおり実施

(f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月～10月と3月に海外研修を行う

② バレエ研修(研修期間2年)

(a) 第17期生(6名)の2年目の研修(修了)

(b) 第18期生(6名)の1年目の研修

(c) 第19期生(6名程度)の募集

- (d) パレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
 - ・ 第12期生(5名)の2年目の研修
 - ・ 第13期生(3名)の1年目の研修
 - ・ 第14期生(若干名)の募集
- (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
- (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、海外研修を行う

③ 演劇研修(研修期間3年)

- (a) 第15期生(9名)の3年目の研修(修了)
- (b) 第16期生(10名)の2年目の研修
- (c) 第17期生(14名)の1年目の研修
- (d) 第18期生(16名程度)の募集
- (e) 研修発表会等を別表10のとおり実施
- (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、国内研修を行う

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

- ① 研修事業についての国民の関心を喚起し、理解の促進を図るため、ホームページ等で事業の周知に努める
- ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る
- ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや、外部研修への協力等に努める

《中期目標の指標・関連指標》

3-1 研修発表会の開催回数 (前中期目標期間実績の維持)	9公演 (H25-29 実績平均：9.8公演)
3-3 事業の周知、研修志望者の研修内容への理解や応募者の増加に関する取組の実施状況(研修見学会や広報活動の内容等)	P. 156 に掲載
3-4 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修について、目標に従い業務を実施しているか(評議員会の評価を踏まえ判断)	
3-A 公演制作及び舞台技術等に関する人材養成の取組状況(公演制作者や舞台技術者等の実地研修の受入れ状況等)	P. 156 に掲載

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、修了公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す者のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、2年制の研修を行う。また、予科生を募集し、資質や将来性ある若年層に、心身の柔軟な時期に古典バレエの基礎的技術を徹底して習得する機会を提供する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を中心とする講師陣によるシーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

①研修実績

区分		研修期間	年度計画	研修実績	うち修了及び受講終了者
オペラ	22期(3年次)	3年	5名	5名	5名
	23期(2年次)		4名	4名	-
	24期(1年次)		5名	5名	-
バレエ	17期(2年次)	2年	6名	6名	5名
	18期(1年次)		6名	5名	-
バレエ予科	12期(2年次)	2年	5名	5名	5名
	13期(1年次)		3名	3名	-
演劇	15期(3年次)	3年	9名	9名	9名
	16期(2年次)		10名	10名	-
	17期(1年次)		14名	12名	-

- ・第18期バレエ研修生が6月付けで1名除籍となった。
- ・第17期演劇研修生が4月・5月付けで計2名退所した。

②主な授業等の概要

区分	授業内容			
オペラ	実技	第22期 第23期 第24期	448回 445回 448回	オペラ実習、身体表現
	座学	第22期 第23期 第24期	148回 145回 153回	特別講義(サロン)、語学(英語、イタリア語、ドイツ語)
	その他	第22期 第23期 第24期	31回 31回 31回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ	実技	第17期 第18期	416回 411回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第17期 第18期	51回 61回	講義、特別講義(サロン)、語学(英語)
	その他	第17期 第18期	29回 17回	舞台実習、舞台鑑賞、見学
バレエ予科	実技	第12期 第13期	388回 388回	クラシック・バレエ、身体表現ほか
	座学	第12期 第13期	45回 45回	講義、語学(英語)ほか
	その他	第12期 第13期	17回 12回	舞台実習、舞台鑑賞
演劇	実技	第15期 第16期 第17期	161回 325回 302回	演劇実習、演技/シーンスタディ、歌唱、ダンス、声とことば、所作、トレーニング、日本舞踊、三味線、狂言ほか
	座学	第15期 第16期 第17期	5回 1回 50回	講義、特別講義(サロン)、戯曲をよむ、戯曲研究ほか

	その他	第15期 第16期 第17期	63回 103回 88回	国内研修、観劇、美術、見学、公演スタッフ研修ほか
--	-----	----------------------	--------------------	--------------------------

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・全日本空輸株式会社の協賛による以下の支援事業の認定を受け、「ANA スカラシップ」については4/16に新国立劇場リハーサル室にて認定証授与式を実施した。
 - ◇ANA スカラシップ(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)
 - ◇新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所研修生のために国内研修に関わる航空券のサポート)
- ・令和3年度研修所入所式、修了式については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、登壇者、参加者の人数を限定し、来賓や関係者には、式の様子をインターネット配信する形で開催した。

《オペラ研修》

- ・秋以降はレパトリーレッスンを取り入れ、その成果は11月の「LE PROMESSE 2021～アリアコンサート～」でシーン・リサイタルという形で披露した。
- ・2月の修了公演「ドン・ジョヴァンニ」についても、感染症対策に取り組みながらほぼ通常どおりのレッスン、リハーサルを行い、公演を実施した。

《バレエ研修》

- ・感染症対策としての三密回避を重視し、昨年に引き続き、花伝舎のスタジオに加えて新宿村スタジオを可能な限り借用し、男性クラス・予科生クラスを分けるなど、二手に分かれて少人数のクラスレッスンを行った。
- ・演劇基礎研修にて、昨年に引き続き演劇研修生との合同授業を実施した。表現方法の異なる研修生同士が共同で一つの小作品を作る過程で、表現力の向上につながる強い刺激やヒントを感受する姿が見られた。
- ・10/20に、2001年4月から研修所長を務められた牧阿佐美氏が逝去され、小倉佐知子主任講師が所長代行を務めることになった。

《演劇研修》

- ・令和元年度から開始された「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」にて、演劇研修所第15期生が「少年口伝隊一九四五」上演に際して国内研修を実施した。(広島県、6/28～7/1)
- ・平和祈念展示資料館でのリーディング公演は、オンラインでの朗読動画を配信する形式で実施し、修了生が出演した。

《海外研修》

- ・「ANA スカラシップ」制度により実施される予定であった海外研修については、新型コロナウイルス感染症拡大による出入国制限、対象国の感染状況を鑑み、実施を見送った。
 - ◇オペラ研修所第23期生(ミラノ・スカラ座アカデミー)
 - ◇オペラ研修所第22期生(ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場附属オペラ研修所)
 - ◇バレエ研修所第17期生(A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー)

《国際交流》

- ・前年度実施を見送った「バレエ・アステラス」は、当年度においては「バレエ・アステラス 2021～海外で活躍する日本人バレエダンサーを迎えて～」として実施した。海外で活躍中及び日本に帰国して3年以内の若手日本人バレエダンサーを迎え、研修所研修生、新国立劇場バレエ団ダンサーも参加した。

《受賞等》

- ・国際コンクール Premio Fausto Ricci 審査員特別賞(オペラ研修所第18期生砂田愛梨)
- ・第90回日本音楽コンクール・声楽部門第2位(オペラ研修所第21期生和田悠花)

③研修発表会等の実施

(a) 研修公演

区分	公演名	会場	期間	回数	入場者数	入場率
オペラ	試演会「ジャンニ・スキッキ」	新国立劇場 小劇場	7/31～8/1	2回	481人	92.5%
オペラ	LE PROMESSE 2021～アリアコンサート～	新国立劇場 中劇場	11/21	1回	486人	61.7%
オペラ	修了公演「ドン・ジョヴァンニ」	新国立劇場	2/23～25	3回	1,489人	57.2%

		中劇場				
バレエ	バレエ・アステラス 2021	新国立劇場 オペラ劇場	8/28～29	2回	1,485人	81.9%
バレエ	バレエ・オータムコンサート 2021	新国立劇場 中劇場	10/16～17	2回	1,145人	63.1%
バレエ	「エトワールへの道程 2022-新国立劇場バレエ研修所の成果-」	新国立劇場 中劇場	3/5～6	2回	1,614人	93.0%
演劇	朗読劇「少年口伝隊一九四五」	新国立劇場 小劇場	8/5～8	4回	924人	87.5%
演劇	試演会「七本の色鉛筆」	新国立劇場 小劇場	10/19～24	6回	1,232人	80.2%
演劇	修了公演「理想の夫」	新国立劇場 小劇場	2/1～6	6回	1,201人	77.9%

- ・オペラ研修所第22期生修了公演「ドン・ジョヴァンニ」では主任講師栗國淳演出の舞台でそれぞれ日頃の研修成果を大いに発揮してレベルの高い公演ができた。
- ・「バレエ・アステラス 2021」1日目の公演において、研修生1名に発熱が確認されたため予定されていた出演を見送ったが、2日目の公演については予定どおり研修生出演演目に出演した。
- ・バレエ研修公演「エトワールへの道程 2022」においては、古典バレエの他、新国立劇場バレエ団貝川鐵夫振付のコンテンポラリー作品も取り上げ、基本を忠実にかつ研修生がそれぞれの持ち味を活かした役を演じ、日々の研修の成果を発揮することができた。
- ・演劇研修所第15期生では、夏に「少年口伝隊一九四五」を上演。試演会「七本の色鉛筆」、修了公演「理想の夫」とも多くの観客に研修の成果を披露することができた。各公演の成果はマネジメント事務所からも高い評価を得て、修了後の進路選定に奏功した。

(b) その他出演

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う水際対策により、招聘歌手の来日が困難になったため、日本人歌手の起用が進んだが、オペラ研修所修了生も多数出演した。
 - ◇4月「夜鳴きうぐいす/イオランタ」村上公太(第6期修了)、伊藤達人(第14期修了)、濱松孝行(第20期修了)、井上大聞(第21期修了)
 - ◇7月「カルメン」町英和(第6期修了)、糸賀修平(第10期修了)、村上公太(第6期修了)
 - ◇8月「Super Angels スーパーエンジェル」藤木大地(第5期修了)、成田博之(第10期修了)
 - ◇11月「ニュルンベルクのマイスタージンガー」村上公太(第6期修了)、与那城 敬(第5期修了)、青山 貴(第4期修了)、菅野 敦(15期修了)、伊藤達人(第14期修了)
 - ◇12月「蝶々夫人」中村恵理(第5期修了)、村上公太(第6期修了)、糸賀修平(第10期修了)
 - ◇1月「さまよえるオランダ人」城 宏憲(第10期修了)
 - ◇2月「愛の妙薬」九嶋 香奈枝(第4期修了)
 - ◇3月「椿姫」中村恵理(第5期修了)、与那城 敬(第5期修了)
- ・バレエ研修所における舞台実習として、研修生が主催公演「ライモンダ」「くるみ割り人形」に出演した。
- ・演劇公演フルオーディション企画4月「斬られの仙太」に 浅野令子(第1期修了)が初めて修了生として出演した。他に5月公演「東京ゴッドファーザーズ」に阿岐之将一(第10期修了)、玲央バルトナー(第11期修了)が出演。12月公演「あーぶくたった、にいたった」には浅野令子(第1期生)が再度出演した。

④次年度の検討、募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数	備考
オペラ	11/8～11/17	54名	54名	5名	願書受付 9/13～10/4
バレエ	11/29～12/11	55名	55名	6名	願書受付 9/27～10/15
バレエ予科	12/5～12/11	22名	20名	3名	願書受付 9/27～10/15
演劇	12/15～12/19	43名	37名	12名	願書受付 11/1～11/18

⑤外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、前年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った(9/13)。外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認し、研修所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。

- ・各研修所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・バレエ研修生の選考に当たっては、外部の審査員(2名)を加えて実施した。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

①ホームページ等での事業の周知

- ・ホームページと各研修所の SNS (Facebook, Twitter, tumblr 等) を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、公演の様子等をきめ細やかに発信した。
- ・オペラ研修所の修了生について、新国立劇場内外での出演情報や受賞情報をホームページに掲載することにより、研修所修了後の活躍についても幅広い広報を行った。
- ・バレエ研修所・演劇研修所においても修了生の活動状況を定期的に把握し、その成果をホームページに掲載するとともに、研修公演会場におけるパネル展示等で紹介した。
- ・毎年 10/25 に開催されている世界的オペライベントである World Opera Day において、2021 年のテーマが「将来のオペラ界を担う才能の発掘」であることにちなみ、世界 7 か所のオペラスタジオとともに、新国立劇場オペラ研修所の活動紹介映像及び 2021 年 3 月の修了公演「悩める劇場支配人」のハイライト映像の配信が行われた。映像は 2022 年 4 月まで視聴可能。
- ・「ANA スカラシップ」の一環として、以下の広報活動を行った。
 - ◇ ANA 国内線機内にてオペラ研修所・バレエ研修所と ANA スカラシップを紹介する映像を放映(オペラ 1 月、バレエ 6 月・10 月)
 - ◇ ANA グループ機内誌「翼の王国」に各研修所の紹介広告を掲載(オペラ 11 月号、バレエ 9 月号、演劇 2 月号)

②学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

区分	イベント名	期間	会場	料金	出演者・内容・備考等
演劇	平和祈念展示資料館朗読劇「大地の花」(オンライン)	3/30~	平和祈念展示資料館公式 YouTube チャンネル	無料	脚本 中西良介(第 10 期修了) 演出 宮田慶子 出演 八幡みゆき(第 9 期修了)、高倉直人(第 10 期修了)、小比類巻諒介(第 11 期修了)、大久保真希(第 13 期修了)、宮崎隼人(第 13 期修了)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン配信のみの開催

③応募者の確保

区分	イベント名	日程	会場	料金	内容	参加者数
演劇	演劇研修所オープンスクール	8/28 8/29 9/4	オンライン	1,000 円	クラスへの体験参加、研修所や選考試験についての説明、研修生との質疑応答	52 人
演劇	演劇研修所「オンライン説明会」	10/31	オンライン	無料	演劇研修所の概要(カリキュラム・研修内容)、選考試験の説明や研修生による質疑応答	42 人
演劇	演劇研修所「オンライン説明会」	12/5	オンライン	無料	研修所及び入試についての説明、研修生との質疑応答	57 人

④伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・令和 3 年度の「五館合同特別講義」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止した。

⑤公演制作者・舞台技術者等に対する研修の受入れ、外部研修への協力

- ・中劇場にて全国公立文化施設協会主催の「全国劇場・音楽堂等職員 舞台技術研修会」を開催した。うちいくつかの講義では技術部職員が登壇者として参加した。
- ・国立音楽大学との協定に基づき、12/2 からの 4 日間、同大学から 4 名のインターンシップを受け入れた。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用 ————— p.161

- └ (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施
 並びに資料の収集及び活用 ————— p.163
- └ (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、
 普及活動の実施 ————— p.169

現代舞台芸術に関する調査研究の実施

並びに資料の収集及び活用 ————— p.175

- └ (3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施
 並びに資料の収集及び活用 ————— p.177
- └ (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、
 普及活動の実施 ————— p.178

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評価	A
<p>自己評価の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、また、公開講座を実施した。 ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来館者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・公演記録映像等の有料動画配信の拡充、伝統芸能講座の有料化、資料利用料の改定等により、財源の確保・充実にも努めた。 ・より幅広い層への伝統芸能の普及を図るため、年度計画で定めた振興会内展示施設での展示公開に加えて、東京国立博物館表慶館において「体感！日本の伝統芸能」展を文化庁、東京国立博物館、読売新聞社と共催で実施した。 ・伝統芸能に関する調査研究について、成果物のWEB公開の拡充や展示図録等が研究者等の外部専門家から高い評価を得た。 ・新たに、国立劇場・国立文楽劇場の公演記録映像の有料動画配信を開始。舞台の公演記録映像だけでなく、伝統芸能講座の有料配信も行い、コンテンツの充実を図った。 ・新国立劇場では、新たに「新国デジタルシアター」を開設し、公演記録映像のインターネット配信を行った。 ・現代舞台芸術では、海外の劇場等で新国立劇場の公演記録映像を上映・配信することで、海外広報戦略の強化を図った。 ・公演記録映像等の動画配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 文化デジタルライブラリーアクセス件数：1,433,602件/530,000件（270.5%） 展示公開の実施回数：19回/19回（100.0%） 展示公開の来場者数 81,185人/48,609人（167.0%） 講座等の実施回数：26回/27回（96.3%）（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%）</p> <p>〈2〉 現代舞台芸術分野 展示公開の来場者数： 2,653人/1,500人（176.9%） 講座等の実施回数：13回/39回（33.3%）（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>〈1〉 伝統芸能分野 〈2〉 現代舞台芸術分野 各表参照</p>
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文楽劇場での公演記録映像視聴のために構築した部内（VTR室）限定の視聴システムは本年度も継続して実施。貸出時の感染リスクを低減させるだけでなく、複数端末による同時視聴を可能とする本方式は、公演準備に関わる職員及び公演関係者の利便性を高めている。 ・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。 ・現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、コロナ禍の期間に実施した配信企画の実績を踏まえ、「新国デジタルシアター」通じた公演映像の配信を基軸に、権利処理や活用の方法について更なる検討を続けたい。

〈1〉 伝統芸能分野

自己評定	A
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、また、公開講座を実施した。 ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数及び展示公開の来館者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・公演記録映像等の有料動画配信の拡充、伝統芸能講座の有料化、資料利用料の改定等により、財源の確保・充実にも努めた。 ・より幅広い層への伝統芸能の普及を図るため、年度計画で定めた振興会内展示施設での展示公開に加えて、東京国立博物館表慶館において「体感！日本の伝統芸能」展を文化庁、東京国立博物館、読売新聞社と共催で実施した。 ・上演資料集について、歌舞伎に加えて文楽もWEB版として振興会ホームページにおいて公開したことにより、伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献していると外部専門家から高い評価を受けた。 ・文化デジタルライブラリーにおいて公開した「絵入根本」は、江戸後期の上方面における演劇資料としての価値も高く、これまであまり研究されていなかった絵入根本の研究が進むことが期待されると外部専門家から高い評価を受けた。 ・国立能楽堂特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」図録のカラー図版には、能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)を比較掲示するとともに、初公開となる資料を多数掲載し、研究者や美術史界の注目を集め、高い評価を得た。 ・国立能楽堂企画展「小道具から見る能」で展示した観世・金春・宝生の各宗家から出品された小道具は、未調査の資料が多く、そのいくつかは重要な歴史的価値も認められた。 ・国立能楽堂企画展「小道具から見る能」図録は、能の小道具について、その歴史や意義を体系的に示した。小道具に関する著作は少ないため、今後、小道具に関する貴重な論考になると考えられる。カラー図版には初公開となる観世・金春・宝生の各宗家所蔵資料や文献・絵画を多数掲載し、研究者や能楽界から高い評価を得た。 ・国立文楽劇場「文楽入門」(企画コーナー「文楽の歴史 I」)の稀観資料の公開により近代浄瑠璃史の研究に寄与した。 ・新たに、国立劇場・国立文楽劇場の公演記録映像の有料動画配信を開始した。 ・雅楽、声明、民俗芸能など歌舞伎、文楽以外の公演記録映像も配信し、公演記録映像等の動画配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。 ・舞台の公演記録映像だけでなく、伝統芸能講座の有料配信も行い、コンテンツの充実を図った。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)</p>	<p>文化デジタルライブラリーアクセス件数：1,433,602件/530,000件 (270.5%) 展示公開の実施回数：19回/19回 (100.0%) 展示公開の来場者数 81,185人/48,609人 (167.0%) 講座等の実施回数：26回/27回 (96.3%) (新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%)</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究を計画どおり実施し、近代歌舞伎年表、展示図録、義太夫年表、演芸資料選書、正本写合巻集を刊行し、上演資料集と「絵入根本」は文化デジタルライブラリーから公開した。 ・「義太夫年表 昭和篇」第六巻のアンケート調査では満足回答率100%だった。 ・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。 ・芝居版画等図録第18巻、プロマイドほか496点の資料について、文化デジタルライブラリーへ登録し公開した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートが終了したAdobe Flash Playerを使用しているコンテンツを改修し、3コンテンツを再公開した。また、新たな舞台芸術教材として「民俗芸能篇」を制作した。 ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館の資料展示室・閲覧室を開室し、計画どおり展示公開や閲覧業務等を実施した。 ・普段国立劇場へ足を運ばない人など幅広い層への伝統芸能の普及を図るため、年度計画で定めた振興会内展示施設での展示公開に加えて、東京国立博物館表慶館において「体感！日本の伝統芸能」展を文化庁、東京国立博物館、読売新聞社と共催で実施し、ユネスコ無形文化遺産に登録された、歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊の5つの芸能の魅力について、再現舞台や、衣裳、小道具、楽器を、芸能を支える「わざ」とともに紹介した。 ・国立能楽堂ではすべての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を、日本語・英語・中国語(簡)・韓国語の多言語表記とした。 <p>(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館で主催公演について、映像・写真等による記録を作成。 ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。 ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各館において、年度計画どおり公開講座を実施した。 ・文楽劇場では、従来の無料講座(伝統芸能講座)を終了し、新たに有料講座「文楽特別講座」を開催した。鑑賞前講座として錦秋文楽公演及び令和4年4月文楽公演に関連した内容を文楽技芸員が講師として解説した。 ・令和2年度まで無料で開催していた「公演記録鑑賞会」を中止し、劇場に来場されたお客様だけでなく、より多くの方々が鑑賞できるよう、また過去の国立劇場・国立文楽劇場の公演記録映像を広く活用するため、「国立劇場くろごちゃんねる」「文楽プレミアムシアター」として有料配信を開始した。 ・雅楽、声明、民俗芸能など歌舞伎、文楽以外の公演記録映像も配信し、公演記録映像等の動画配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。 ・舞台の公演記録映像だけでなく、伝統芸能講座の有料配信も行い、コンテンツの充実を図った。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文楽劇場での公演記録映像視聴のために構築した部内(VTR 室)限定の視聴システムは本年度も継続して実施。貸出時の感染リスクを低減させるだけでなく、複数端末による同時視聴を可能とする本方式は、公演準備に関わる職員及び公演関係者の利便性を高めている。

〈2〉 現代舞台芸術分野

自己評定	B
<p>自己評定の根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で情報センターを開室した。 ・展示公開の来館者数について、目標値を大きく上回る実績を達成した。 ・講座等の実施回数について、新型コロナウイルス感染症の影響により現代舞台芸術講座の一部と情報センター上映会を実施できなかったが、それを除いた場合の達成率は100.0%である。 ・新たに「新国デジタルシアター」を開設し、インターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。 ・海外の劇場等で公演記録映像を上映・配信することで、海外広報戦略の強化を図った。 ・調査研究を計画どおり実施し、その成果については、講座・プログラムへの掲載など活用を図った。 ・新国立劇場内や外部施設において展示公開を実施した。
<p>数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）</p>	<p>展示公開の来場者数： 2,653人/1,500人（176.9%）</p> <p>講座等の実施回数：13回/39回（33.3%）（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除いた場合の達成率は100.0%）</p>
<p>主要な業務実績</p>	<p>(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催。 ・海外の演劇都市及び国内劇場の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムに掲載。 ・情報センターの利用促進のため各劇場及び公開空地と連動した展示・イベントを実施。 ・劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施。 ・都内観光施設を活用したアウトリーチによる展示イベントを引き続き開催。 <p>(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施。 ・新たに「新国デジタルシアター」を開設し、公演記録映像等をインターネット配信した。 ・海外の劇場等での公演映像上映会にて、新国立劇場の公演記録映像が上映された。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台美術センター資料館については、施設の有効利用の観点から各フロアの機能の見直しに着手したところであり、今後、その在り方について引き続き検討を行い、現中期計画期間内に結論を出すこととしたい。 ・現代舞台芸術の公演記録映像を一層活用し、国内外への発信、若年層への普及を図るために、コロナ禍の期間に実施した配信企画の実績を踏まえ、「新国デジタルシアター」通じた公演映像の配信を基軸に、権利処理や活用の方法について更なる検討を続けたい。

4 - (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施
- ④ 作成する刊行物の提供方法等については引き続き検討し、一層の効果的な活用を図る

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開

収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開

公開に際しては、関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化に努める

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用を努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、演技・演出の参考及び上演内容の理解促進等に活用
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について調査研究
その成果については次のとおり刊行等を実施
研究者及び研究機関等に広く頒布して、伝統芸能の保存及び振興のため活用
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十六巻
 - (b) 特別展「日本人と自然」図録(能楽堂)
 - (c) 「義太夫年表」昭和篇第六巻の刊行及び第七巻(令和5年度刊行予定)の刊行準備
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を実施
その成果については次のとおり刊行等を行い、研究者及び研究機関等に広く頒布
 - (a) 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」別冊
 - (b) 正本写合巻集29・30
- ④ 調査研究の成果について、データによる提供や文化デジタルライブラリー等による公開を含め、効果的

な活用方法を検討

(a) 歌舞伎・文楽公演の上演資料集をweb版として文化デジタルライブラリーで公開

(b) 「絵入根本集1」をweb版として文化デジタルライブラリーで公開する

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施

① 各館で公開する分野に関する図書・資料を中心に収集及び分類整理

公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施

図書については開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

博物資料等については適切な保存管理に努めるとともに、関係機関等との連携等により、一層の活用に努める

② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開を次のとおり実施

(a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑)のデータベース化

i. 芝居版画等図録第18巻の発行(web図録 第6巻)

(b) デジタルコンテンツの充実

i. Adobe Flashのサポート終了に伴う文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの非フラッシュ化

ii. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツのリニューアル版の製作

iii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数:530,000件

(c) 収集した資料等の展示公開(別表11)

実施に当たっては、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化を図る

(d) 展示図録の刊行

i. 特別展「日本人と自然」図録(能楽堂・再掲)

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演並びに伝統芸能の研究等に活用

イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

① 伝統芸能に関する公開講座等を別表12のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実に努める

《中期目標の指標・関連指標》

4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)	81,185人 (H25-29実績平均:220,130.0人)
4-2 文化デジタルライブラリーアクセス件数 (前中期目標期間実績以上)	1,433,602件 (H25-29実績平均:820,713.0件)
4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)	
4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)	P.169に掲載

ア 伝統芸能に関する調査研究

①上演資料集

区分	演目名	刊行数
歌舞伎	国立劇場上演資料集<659>第 99 回歌舞伎鑑賞教室公演「人情噺文七元結」 国立劇場上演資料集<660>第 100 回歌舞伎鑑賞教室公演「義経千本桜」 国立劇場上演資料集<662>第 324 回歌舞伎公演「伊勢音頭恋寝刃」 国立劇場上演資料集<663>第 325 回歌舞伎公演「一谷嫩軍記」 国立劇場上演資料集<666>第 326 回歌舞伎公演「南総里見八犬伝」 国立劇場上演資料集<668>第 327 回歌舞伎公演「近江源氏先陣館」	6 冊
文楽	国立劇場上演資料集<658>第 216 回文楽公演「心中宵庚申」「生写朝顔話」「摂州合邦辻」「契情倭荘子」 国立劇場上演資料集<661>第 217 回文楽公演「寿式三番叟」「双蝶々曲輪日記」「三十三間堂棟由来」「日高川入相花王」「伊賀越道中双六」 国立劇場上演資料集<664>第 53 回文楽鑑賞教室公演「新版歌祭文」 国立劇場上演資料集<665>第 218 回文楽公演「仮名手本忠臣蔵」 国立劇場上演資料集<667>第 219 回文楽公演「二人禿」「御所桜堀川夜討」「艶容女舞衣」「加賀見山旧錦絵」「平家女護島」「釣女」	5 冊
組踊	国立劇場おきなわ上演資料集<No.48>「伊祖の子組」	1 冊
合計		12 冊

- ・ 上演資料集(上演年表等)は、WEB 版として文化デジタルライブラリーにおいて公開した。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・ 上演資料集の WEB 版での公開については、年表だけでなく参考資料もあわせて公開することにより、利用価値が高まった。伝統芸能の理解促進や研究活動に大きく貢献している。

②興行、上演に関する記録の調査研究、刊行

■刊行実績

- ・ 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十六巻
- ・ 特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」図録
- ・ 企画展「小道具から見る能」図録
- ・ 「義太夫年表 昭和篇」第六巻の刊行(令和 3 年 11 月)及び第七巻の刊行準備
- ・ 芸能資料集「躍衣裳の研究 1」

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十六巻	101	36	32	31	35.6%	96.9%
「義太夫年表 昭和篇」第六巻	74	50	50	45	67.6%	100.0%
国立劇場おきなわ上演資料集<No.48>「伊祖の子組」	84	34	34	26	40.5%	76.5%
芸能資料集「躍衣裳の研究 1」	79	35	24	24	44.3%	100.0%

※満足回答率は無回答を除く回答総数

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・ 「義太夫年表 昭和篇」は本公演、地方公演のみならず、放送についても網羅的に情報が収集されている点が実に有難い。

③古文献等の調査研究、刊行

■刊行実績

- ・ 演芸資料選書・12「御屋舗番組控」別冊
- ・ 正本写合巻集 29「加賀見山後日之岩藤」・30「英咬うとふ一諷」
- ・ 絵入根本「文月恨切子」
絵入根本は電子図書として文化デジタルライブラリーにおいて公開した。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・ 演劇研究において基礎資料となる近代歌舞伎年表や正本写合巻集の刊行は重要である。
- ・ 絵入根本の公開については、インターネット上で影印と翻刻が閲覧できることにより、これまであまり研究されていなかった絵入根本の研究が進むことが期待される。演劇資料としての価値も高く、振興会所蔵資料の公開という意味でも有意義な事業であり、継続してほしい。

④ 調査研究の成果の活用

- 研究成果の幅広い活用を図るため、上演資料集(上演年表等)のWEB版として、初演から現在に至る上演記録や参考資料等の情報を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。また、新たに作品解説や鑑賞の手引きを掲載するとともに、ホームページの各公演情報からリンクすることで、一層の利用の促進を図った。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では、主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

① 図書・資料の収集整理、公開、活用

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開				
	図書	資料	閲覧室利用者数※	開室日	写真複製使用	博物資料閲覧	視聴利用
伝統芸能情報館	2,468冊	3,793点	1,751人	242日	372件	11件	512件
能楽堂	754冊	1,016点	2,543人	239日	93件	5件	1,639件
文楽劇場	312冊	219点	625人	240日	42件	0件	753件
国立劇場おきなわ	464冊	165点	1,642人	242日	20件	0件	967件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び自治体の要請等を踏まえ、各館で閲覧室・展示室を休業した。
 - ◇ 伝統芸能情報館図書閲覧室：4/25～5/11
 - ◇ 国立能楽堂図書閲覧室：4/25～5/11
 - ◇ 国立文楽劇場資料展示室：4/25～5/23、6/5、6/6、6/12、6/13、6/19、6/20
 - ◇ 国立劇場おきなわ資料展示室：6/12、13、19、20、8～9月の週末・祝祭日
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、入室者数を制限し、開室時間も通常より短縮した。
- 国立能楽堂図書閲覧室では、毎月の公演・展示等に関するコーナー「〇月のこの1冊」を5月まで中止していたが、6月以降再開して関連文献を展示配架した。

《アンケート結果》

冊子名	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
伝統芸能情報館図書閲覧室(2/5～3/30)	91人	40人	40人	38人	44.0%	95.0%
能楽堂図書閲覧室(12/1～3/30)	81人	69人	67人	67人	85.2%	100.0%
国立劇場おきなわレファレンス室(4/1～3/31)	10人	10人	10人	10人	100.0%	100.0%

(b) 伝統芸能に関する図書・資料等の博物館施設等への貸与等

分野	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
伝統芸能情報館	「相撲の錦絵と江戸文化」	江戸東京博物館	東京都江戸東京博物館	錦絵貸出	7/17～9/5
能楽堂	企画展示「ひらかな盛衰記」	国立文楽劇場	日本芸術文化振興会	絵画貸出	10/9～11/28
	企画展「雪ものがたり」	国立劇場おきなわ	国立劇場おきなわ運営財団	能面・能装束。小道具貸出	1/8～3/21
文楽劇場	「生誕120年高橋周桑-モダンとロマン-」展	浜松市秋野不矩美術館 田辺市美術館	浜松市秋野不矩美術館 田辺市美術館	絵画貸出	5/21～9/15

国立劇場 おきなわ	県外公演「琉球舞踊と 組踊 富山特別公演」 関連展示	富山県教育文化会館	富山県文化振興財団、 国立劇場おきなわ運営 財団	紅型衣裳 2 点、緋 1 点、芭蕉布 1 点、小道 具 7 点	3/20
--------------	----------------------------------	-----------	--------------------------------	---------------------------------------	------

②資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	2,000 件	「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、国立劇場収蔵の演芸関係番組を中心に図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。
資料	496 点	錦絵 150 点、プロマイド 334 点、上演資料集 WEB 版 11 点、電子図書 1 点。 新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)150 点、プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優)334 点を文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 WEB 版及び電子図書を公開。
上演情報	158 公演	歌舞伎 10 公演、文楽 9 公演、舞踊・邦楽 7 公演、雅楽・声明 2 公演、民俗芸能 3 公演、特別企画 5 公演、大衆芸能 45 公演、能・狂言 77 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	32,265 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で撮影した各ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。
扮装図鑑	0 公演	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、扮装写真撮影休止中。

(b) デジタルコンテンツの充実

《文化デジタルライブラリーアクセス件数》

実績	年度計画	達成率
1,433,602 件	530,000 件	270.5%

- ・サポートが終了した Adobe Flash Player を使用しているコンテンツの改修を行い、3 コンテンツを再公開した。
- ・文化デジタルライブラリー舞台芸術教材「民俗芸能編」を制作した。
- ・芝居版画等図録第 18 巻(web 図録第 6 巻)を公開した

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・日本全国の大学の講義で、文化デジタルライブラリーのコンテンツが活用されている。多くの学生が興味を持ってコンテンツを視聴し、古典芸能への知識を身につけてくれた。
- ・Flash を使用して見ることができなかったコンテンツが改修されたためスマホやタブレットでも閲覧可能となり、オンライン講義で舞台芸術教材を活用しやすくなった。
- ・文化デジタルライブラリーへのアクセス数増加については、これまで古典芸能に無縁だった層にアプローチできた結果と思われる。デジタルコンテンツの充実は必要な事業であり、今後も期待したい。

(c) 資料の展示公開

《展示公開実績》

会場	展示名称	期間	日数 (日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
伝統芸能情報館 資料展示室	企画展示「見世物の精華」	4/1～5/26	39	1,031	1,400	73.6%
	企画展示「躍動する歌舞伎—歌舞伎役者はアスリート!？」	6/2～9/21	111	4,533	2,775	163.4%
	企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—」	10/2～1/27	113	4,484	2,825	158.7%
	「新収蔵資料展」	2/5～3/31	55	2,273	1,375	165.3%
	小 計	4 回	318	12,321	8,375	147.1%
演芸場 資料展示室	「新収蔵資料展」	4/1～7/25	86	4,243	3,589	118.2%
	演芸資料展「江戸の名どころ啾めぐり」	8/1～11/23	95	6,307	3,552	177.6%
	演芸資料展「講談展 —国立劇場所蔵資料にみる」	12/1～3/21	82	6,315	3,034	208.1%
	小 計	3 回	263	16,865	10,175	165.7%
能楽堂 資料展示室	特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」	4/7～6/27	58	4,785	3,096	154.6%
	入門展「能楽入門」	7/7～10/30	88	5,003	3,784	132.2%
	企画展「小道具から見る能」	11/10～12/23	36	3,552	1,548	229.5%
	収蔵資料展「能面・能装束展」	1/5～3/26	61	4,476	2,623	170.6%

小 計		4 回	243	17,816	11,051	161.2%
文楽劇場 資料展示室	企画展示「文楽の景色」	4/3～5/23	22	5,464	2,193	249.2%
	常設展示「文楽入門」	6/3～9/20	92	9,426	4,214	223.7%
	企画展示「ひらかな盛衰記」	10/9～11/28	51	6,149	2,193	280.4%
	常設展示「文楽入門」	1/3～2/27	56	6,578	2,408	273.2%
	小 計	4 回	221	27,617	11,008	250.9%
国立劇場 おきなわ 資料展示室	企画展「舞のこころ—近現代の女流舞踊家」	4/10～6/20	68	1,080	2,043	52.9%
	企画展「こどもと芸能」	7/3～9/20	64	1,117	2,043	54.7%
	企画展「御冠船躍の彩々」	10/2～12/5	65	2,589	2,043	126.7%
	企画展「雪ものがたり」	1/15～3/21	73	1,780	1,871	95.1%
	小 計	4 回	270	6,566	8,000	82.1%
伝統芸能分野 合計		19 回	1,315	81,185	48,609	167.0%

《年度計画外の展示公開》

会場	展示名称	期間	来場者数(人)
東京国立博物館 表慶館	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能 歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界」	1/7～3/13	15,405

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び自治体の要請等を踏まえ、各館で展示室を休業した。

◇ 伝統芸能情報館図書閲覧室：4/25～5/11

◇ 国立能楽堂資料展示室：4/25～5/11

◇ 国立文楽劇場資料展示室：4/25～5/23、6/5、6/6、6/12、6/13、6/19、6/20

◇ 国立劇場おきなわ資料展示室：6/12、13、19、20、8～9月の週末・祝祭日

i. 伝統芸能情報館・演芸場

- ・ 伝統芸能企画展示「見世物の精華」は、「国立劇場所蔵 見世物資料図録」刊行に因んで、国立劇場が所蔵する見世物資料の中から、江戸時代、娯楽の代表として人気を博した、奇術、軽業、曲芸などの資料を中心に見世物の魅力を紹介した。
- ・ 伝統芸能情報館企画展示「躍動する歌舞伎—歌舞伎役者はアスリート！？」は、東京2020大会開催にちなみ、歌舞伎の中で「跳ぶ・飛ばす・走る・泳ぐ」など、舞台上で高い運動能力が求められる動きに着目し、スポーツの視点から捉えた歌舞伎の魅力を紹介した。
- ・ 伝統芸能情報館企画展示「舞台の花鳥風月—装いの美—」は、日本博主催・共催型プロジェクトの関連企画として、歌舞伎や新派の伝統芸能の「装い」に焦点をあて、衣裳や鬘、装身具(櫛、かんざし、筥)、小道具などに描かれている日本の自然美、それらの造りの細やかさ、美しさを、展示資料を通して紹介した。
- ・ 伝統芸能情報館「新収蔵資料展」は近年国立劇場が収集した資料の中から、13代目片岡仁左衛門旧蔵(書拔帳)、清元栄寿郎旧蔵手書き譜、守屋多々志画道具帳、芝居版画等図録第18巻(web図録第6巻)収録錦絵など歌舞伎、新派、文楽、邦楽関係の新資料を紹介した。
- ・ 演芸資料展「江戸の名どころ嘶めぐり」は、日本博主催・共催型プロジェクトの関連企画として、名所・旧跡が登場する落語を中心に、江戸時代の日本各地の風景や江戸の庶民の生活が描かれた落語を紹介した。
- ・ 演芸資料展「講談展—国立劇場所蔵資料にみる」は、明治・大正の速記本、戦前のSPレコード、台本類をはじめとした四代目小金井芦州、五代目宝井馬琴ら往年の講釈師の旧蔵資料、昭和の講談界を支えた本牧亭ゆかりの講釈師関連の資料など、数多くの講談関係資料を通して、講談の流れと広がり、時代を追いながら体系的に紹介することにより、国立劇場所蔵資料の特色を活かした展示とした。

ii. 能楽堂

- ・ 全ての展示で目標来場者数を達成した。特に企画展「小道具から見る能」は229.5%と多くの来場者が観覧した。
- ・ 全ての展示で看板・バナー・キャプション・無料配布の出品目録を日本語・英語・中国語・韓国語の多言語表記とした。

- ・特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」は、日本博参画プロジェクトとして、内容を日本博の総合テーマ「日本人と自然」にあわせるとともに、国立能楽堂公演の月間特集(4月「春夏秋冬」、5月「草木成仏」、6月「花鳥風月」)や上演曲目と連携した企画。能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)とを比較展示することで、能楽への理解を深める展示となった。美術史から見た能楽という、これまでの国立能楽堂の展示にはなかった新たな視点を示すことができた。また、特別展図録を刊行し、監修者の河野元昭氏(静嘉堂文庫美術館館長)による基調論文「能謡曲と日本の絵」を掲載した。
- ・特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」が読売新聞社の取材を受け、5月25日に『美術展ナビ』に【レビュー】能を通して日本の自然と美術を知る 特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」との記事が、また6月6日の『読売新聞』に「能楽と美術 影響たどる 国立能楽堂」として展示紹介記事が掲載された。
- ・入門展「能楽入門」は、東京2020大会開催期間にあわせた長期間の展示であり、主催公演「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」「外国人のための能楽鑑賞教室」の来場者など、初めて能楽に接する方を対象として開催した。能楽への理解を深めてもらうため、能のいでたち(扮装)をテーマに、能の五番立に従って面、装束、小道具等を展示した。また、日本博参画プロジェクトとして、日本博の総合テーマ「日本人と自然」にあわせ、展示する能・狂言装束や扇は自然の意匠の資料を多く選んだ。さらに「能楽入門 鑑賞の手引き」を日本語・英語・中国語・韓国語の4言語で用意し、無料配布した。
- ・企画展「小道具から見る能」は、展示用の小道具だけでなく、国立能楽堂内にある、公演や養成研修で実際に使用している小道具も集め、展示した。観世・金春・宝生の各宗家所蔵資料や文献・絵画も併せて展示し、能の小道具の全体像を描き出した。各宗家から出品された小道具は、舞台上において現役で使われながら、これまで研究者にもその存在や由来すら知られぬ未調査の資料が多く、そのいくつかは重要な歴史的価値も認められた。想定していた以上に貴重な資料が出品されたため、記録のために図録を刊行し、監修者の小田幸子氏(能狂言研究家)による基調論文を掲載した。
- ・収蔵資料展「能面・能装束展」は、能面・能装束及び当時の着装の様子を描いた絵画資料の優品を展示しながら、継続的な調査・研究により判明した新たな事実を、パネルを併用するなどして分かりやすく紹介した。
- ・収蔵資料展「能面・能装束展」が読売新聞社の取材を受け、3月24日に『美術展ナビ』に『桃山時代のダヴィンチコード? 「北野演能図屏風」(国立能楽堂蔵)を読み解く』との記事が掲載された。

iii. 文楽劇場

- ・企画展示「文楽の景色」では、文楽の世界に表現された美しい景色や風物を取り上げ、自然の風景が描かれた舞台背景画(道具帳)、大道具の一部や舞台模型、衣裳・小道具等を用いて自然の美しさを紹介した。
- ・常設展示「文楽入門」では、文楽鑑賞教室や夏休み文楽特別公演「親子劇場」観劇のために来場する観客層(生徒、学生、親子)を対象として、文楽の歴史や文楽を構成する三業(太夫・三味線・人形)の基本的内容を分かりやすく紹介した。前期(6/3~7/4)は文楽鑑賞教室で上演する「五条橋」「卅三間堂棟由来」、後期(7/16~9/20)は夏休み文楽特別公演で上演する「うつぼ猿」「舌切雀」「生写朝顔話」「夏祭浪花鑑」に関連した資料を展示した。
- ・企画展示「ひらかな盛衰記」では、錦秋文楽公演で上演する「ひらかな盛衰記」にちなんで、『平家物語』の挿絵や『源平盛衰記図会』の書籍をはじめ源平の世界を題材にした能・文楽・歌舞伎に関連する絵画などを紹介し、「ひらかな盛衰記」の魅力を探る展示とした。また、展示室内で公演記録映像を編集した「ひらかな盛衰記~矢箆梅~」を上映し、第3部上演場面の大道具(無間の鐘)の展示物とともに、「ひらかな盛衰記」の理解が更に深まるものとした。
- ・常設展示「文楽入門」では、太夫・三味線・人形の三業についての基本的な資料により文楽を解説紹介する「文楽入門」と、文楽座命名一五〇年にちなんだ企画コーナー「文楽座の歴史 I」を開催し、文楽座経営者であった植村家や松島文楽座、御霊文楽座に関する資料を中心に紹介した。また、永らく所在不明であった貴重なゆかりの品(初代植村文楽軒の肖像画等)を紹介したパンフレットを作成し、来場者に配布した。

iv. 国立劇場おきなわ

- ・第1回企画展「舞のこころ—近現代の女性舞踊家」では、芸能を極め、戦前から戦後に活躍した女性舞踊家達を紹介した。

- ・第2回企画展「子どもと芸能」では、組踊、琉球舞踊、民俗芸能など様々な角度から子どもに関する芸能を紹介した。関連して、8/14に「こどもサマースクール」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、「こどもサマースクール」は11/7に延期となった。
 - ・第3回企画展「御冠船躍の彩々」では、獅子舞、からくり花火、唐棒、入子躍などに注目し、御冠船躍の多彩な演目について紹介した。関連して、10/12に公演記録鑑賞と講座「御冠船躍の彩々」と10/14に実演「花火・からくり物」を実施した。からくり花火については、動画配信も実施した(再生回数639回)。
 - ・第4回企画展「雪ものがたり」では、組踊「伊祖の子組」の上演にちなみ、「伊祖の子組」と異名同作の組踊「雪払い」、能「竹雪」、併せて八重山舞踊 勤王流 について紹介した。また、関連して、1/12に講座「能『竹雪』を知る」を実施した。
- v. 年度計画外の展示公開
- ・東京国立博物館表慶館において、日本博主催・共催型事業として、「体感！日本の伝統芸能 歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界」を実施し、ユネスコ無形文化遺産に登録された5つの芸能の魅力について、再現舞台や衣裳、小道具、楽器をそれぞれの芸能を支える「わざ」とともに紹介した。(主催：文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社)

■展示公開に関する広報等

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、Twitter等SNS、メールマガジンにて開催案内や会期中の紹介等広報を行った。
- ・国立能楽堂では、特別展及び企画展のポスター・チラシを作成し、全国の美術館・博物館に送付した。

《展示等に関する動画配信》

動画コンテンツ名	配信期間	再生回数	備考
江戸の役者に会いにいこう	R2/7/31～	2,902	
歌川豊国－歌川派の役者絵－	R2/7/31～	3,674	
国立能楽堂特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」(バーチャル日本博)	8/17～	734	日本博
National Noh Theatre Special Exhibition 2021, Japanese People and Nature: Noh and Japanese Art	9/1～	623	日本博
※一部、日本博事業と重複あり	合計	4件	7,933

《アンケート結果》

区分	会場	回収数	満足数	満足回答率
企画展示「躍動する歌舞伎－歌舞伎役者はアスリート！？」(6/2～9/21)	伝統芸能情報館	63人	60人	95.2%
企画展示「舞台の花鳥風月－装いの美－」(10/2～1/27)	伝統芸能情報館	44人	41人	93.2%
「新収蔵資料展」(4/1～7/25)	演芸場	29人	28人	96.6%
演芸資料展「江戸の名どころ嘶めぐり」(8/1～11/23)	演芸場	29人	26人	89.7%
演芸資料展「講談展 ー国立劇場所蔵資料にみる」	演芸場	37人	34人	91.9%
国立文楽劇場常設展示「文楽入門」企画コーナー「文楽座の歴史 I」	文楽劇場	124人	112人	90.3%
国立劇場おきなわ全展示期間中	国立劇場おきなわ	69人	62人	90.0%

※文楽劇場では公演アンケートに併催して実施。回収数は資料展示鑑賞者の数。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・「躍動する歌舞伎」は新しい切り口から歌舞伎を紹介することができた。異分野の監修者とのコラボレーションは新鮮であった。
- ・演芸場及び伝統芸能情報館の「新収蔵資料展」は国立劇場の収集の継続性と信頼の高さを示すことができた。
- ・夏休み期間に開催の「文楽入門」のキャプションの漢字にルビが付していたことは適切な処置と思う。
- ・「ひらかな盛衰記」は、一つの演目に焦点を当てた展示は見ごたえがあった。
- ・「伝統芸能展」は舞台を示す構造物や小道具と画像・映像が一体となり、伝統芸能を視覚的に理解させるといふ点では優れた展示といえる。
- ・衣裳や小道具など、間近に見ることができ、ビジュアルで伝統芸能の魅力を全面に打ち出していて、楽しくワクワクするような展示になっていた。
- ・それぞれの芸能について、再現した舞台を作り上げ、そこに観覧者が立てるようにしており、自分の

姿を写真で撮影できる点など、「体感」が目的であることがはっきり示せる魅力的な展覧会となっていた。

- ・歌舞伎、文楽、能楽、組踊、雅楽というユネスコ無形文化遺産に登録されている芸能を同一会場で見えて体感できることに大きな意義がある。

＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・「文楽の景色」は、とても面白い切り口で、ともすれば浄瑠璃本や浮世絵といった印刷物や衣裳などになりがちだが、舞台の小道具のみならず大道具までもが展示品になることが、今回の企画展示は証明したのではないだろうか。
- ・「ひらかな盛衰記」は、「平家物語」や「源平盛衰記」の実物から馬や弓矢の小道具、あるいは神崎揚屋の大道具まで並ぶバラエティに富んだ展示品は見応えがあった。
- ・「文楽座の歴史 I」は、文楽座の歴史をあらためて意識できたことについての意義は大きい。実際に文楽軒に関する資料が実在することが必須であり、それらの稀覯資料を呂勢太夫氏が所持しておられ、展示に供されたことには感謝せずにはいられない。

(d) 展示図録の刊行

- ・特別展「日本人と自然 能楽と日本美術」図録(能楽堂・再掲)
 - ◇ 監修者の河野元昭氏(静嘉堂文庫美術館館長)による基調論文「能謡曲と日本の絵」を掲載した。美術史から見た能楽という、これまでの国立能楽堂の展示にはなかった新たな視点を示すことができた。カラー図版には、能・狂言の装束・楽器と日本美術(絵画・工芸品)を比較掲示するとともに、初公開となる資料を多数掲載し、研究者や美術史界の注目を集め、高い評価を得た。
- ・企画展「小道具から見る能」図録(能楽堂・再掲)
 - ◇ 監修者の小田幸子氏(能狂言研究家)による基調論文「小道具から見る能」を掲載した。能の小道具について、その歴史や意義を体系的に示した。小道具に関する著作は少ないため、今後、小道具に関する貴重な論考になると考えられる。カラー図版には初公開となる観世・金春・宝生の各宗家所蔵資料や文献・絵画を多数掲載した。研究者や能楽界から高い評価を得た。

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

① 作成実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 56 公演(中止 2 回)、扮装図鑑 6 公演、文楽人形等 0 公演(撮影中止)
能楽堂	映像・音声・写真 49 公演
文楽劇場	映像・音声 12 公演(中止 1 公演)、写真 14 公演(中止 1 公演)
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 14 公演、小道具写真 2 公演

・公演内容に応じて、扮装図鑑・下座の附帳等の写真による記録を作成した。

② 活用実績

区分	視聴			複製
	一般	関係者(出演者等)	合計	関係者(出演者等)
本館	353 件(579 時間)	159 件(196 時間)	512 件(775 時間)	251 件(447 時間)
能楽堂	1,035 件(1,769 時間)	604 件(1,034 時間)	1,639 件(2,802 時間)	203 件(246 時間)
文楽劇場	92 件(125 時間)	661 件(754 時間)	753 件(879 時間)	228 件(732 時間)
国立劇場おきなわ	175 件(240 時間)	792 件(999 時間)	967 件(1,239 時間)	39 件(31 時間)

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。

イ 普及活動

① 伝統芸能に関する公開講座等

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率

伝統芸能情報館	伝統芸能講座	4回	4回	100.0%
	公演記録映像 アーカイブ有料配信	4回	4回	100.0%
能楽堂	能楽鑑賞講座	4回	4回	100.0%
	能楽特別講座	3回	3回	100.0%
文楽劇場	公演記録映像 アーカイブ有料配信	4回	4回	100.0%
	文楽特別講座	4回	4回	100.0%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会・ 沖縄伝統芸能公開講座	3回	3回	100.0%
伝統芸能分野 合計		26回	26回	100.0%

(年度当初の計画)

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
伝統芸能情報館	伝統芸能講座	4回	4回	100.0%
	公演記録映像 アーカイブ有料配信	4回	4回	100.0%
能楽堂	能楽鑑賞講座	4回	4回	100.0%
	能楽特別講座	3回	3回	100.0%
文楽劇場	公演記録映像 アーカイブ有料配信	4回	4回	100.0%
	文楽特別講座	4回	4回	100.0%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会・ 沖縄伝統芸能公開講座	3回	4回	75.0%
伝統芸能分野 合計		26回	27回	96.3%

- 一部の伝統芸能講座について、動画を作成して有料配信を行った。

《講座の有料配信実績》

コンテンツ名	期間	参加者数
第81回伝統芸能講座「国立劇場所蔵資料からみる講談の歴史」(2/21開催)	3/10~4/10	19
合計	1件	19

(a) 伝統芸能情報館

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、定員を120名から56名に減らし、席は自由席制から座席指定制に変更するなどの感染症対策を講じた上で開催した。
- 企画展示「舞台の花鳥風月一装いの美」開催にちなみ、歌舞伎の装いをテーマに第79回伝統芸能講座「入門：歌舞伎のかつら」（講師：東京演劇かつら川口清和氏）(11/12)と第80回伝統芸能講座「入門：歌舞伎の衣裳」（講師：松竹衣裳株式会社高橋孝子氏）(12/16)を開催し、歌舞伎を支える技術とその魅力について講演を行った。
- 第81回伝統芸能講座「国立劇場所蔵資料からみる 講談の歴史」(2/21)は、演芸資料展「講談展」開催にちなみ、監修の今岡謙太郎氏を講師として、国立劇場所蔵資料を中心に講談の魅力を紹介した。また、抽選に落選した方からや講座受講者のアンケートにおける要望を踏まえ、講座内容のインターネット配信を行なった(有料：1,000円)。
- 第82回伝統芸能講座「国立劇場所蔵 芝居版画の世界」は、文化デジタルライブラリー「芝居版画等 図録第18巻(web 図録第6巻)」公開にちなみ、国立劇場所蔵の錦絵調査に長年携わっている吉田弥生氏を講師として、図録に収録する錦絵の見どころを紹介した。

(b) 能楽堂

- 公開講座及び特別講座は、新型コロナウイルス感染拡大のリスクを低減するため定員160名から70名に制限し、開催した。
- 公開講座(能楽鑑賞講座)は、主催公演のチケット発売前に開催した。対象月の公演について、配布資料やスライド、公演記録映像をふんだんに用いて解説し、観客誘致につなげた。
- 特別展関連講座(有料)は、「日本人と自然 能楽と日本美術」をテーマに、同展監修の静嘉堂文庫美術館館長・河野元昭氏を講師として開催した。楽しくかつ分かりやすい語り口で、専門的な内容も含む講座は好評だった。

- 令和2年度より開始した特別講座「能楽囃子講座」(有料)は、第2回・第3回を開催した。東京能楽囃子科協議会の協力により、会員能楽師のデモンストレーションを交え、講座各回でテーマを設定して開催した。

(c) 文楽劇場

- 従来の無料講座(伝統芸能講座)を終了し、新たに有料講座「文楽特別講座」を開催した。
- 第1回(10/23)は竹本千歳太夫と豊澤富助が演奏技術や聞きどころなど、第2回(10/27)は人間国宝の桐竹勘十郎が作品の見どころや傾城の人形の遣い方など、錦秋公演「ひらかな盛衰記」神崎揚屋の段に関連した講座を開催した。
- 令和4月文楽公演に向け、第3回(3/25)は人間国宝の吉田和生が「摂州合邦辻」合邦住家の段で遣う玉手御前のことやかしら割について、第4回(3/27)は文化功労者として顕彰された人間国宝の豊竹咲太夫が出演する「義経千本桜」河連法眼館の段について講座を行った。

(d) 国立劇場おきなわ

- 第1回企画展「舞のこころ—近現代の女性舞踊家」に関連して講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため延期した。
- 「こどもサマースクール」を第2回企画展「こどもと芸能」に関連して8/14に実施する予定にしていたが、「特措法に基づく緊急事態措置に係る沖縄県対処方針」を受けて延期し、11/7に実施した(参加者数164人)。
- 公演記録鑑賞と講座「御冠船躍の彩々」を第3回企画展「御冠船躍の彩々」と関連して実施した(10/12、参加者数196名)。
- 観客誘致につなげるため、1/22の組踊公演「伊祖の子組」と異名同作である組踊「雪払い」の原案ともされる能「竹雪」について、講座「能『竹雪』を知る」実施した(1/12、参加者数50名)。また、この講座と関連して、第4回企画展「雪ものがたり」を開催した。

■講座に関する広報等

- 公演解説書、振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、Twitter等SNS、メールマガジン、チラシにて開催案内、募集状況、実施報告等広報を行った。

《調査事業委員会における外部専門家からの主な意見》

- 講座の有料化は、参加者からの希望もあってとのことだが、参加人数の落ち込みもなく、質疑応答など活気のある講座が行われ関心の高さが伺えた。今後も充実させてほしい。
- 講座の配信は遠方の居住者の受講も可能となるので、受講者数の増加も期待できる。
- 展示の関連講座は、所蔵資料を詳しく解説し紹介することにより、国立劇場の資料収集事業の継続性と質の高さのアピールになっている。

②公演の実施にあわせたワークショップ等

イベント名	期間	会場	出演者等	参加者数
千代田区在住・在勤者限定「はじめての歌舞伎講座」(全3回)(東京都千代田区後援事業)	2/26・3/12・3/26	伝統芸場情報館レクチャー室、歌舞伎の演目に所縁の区内史跡	—	46人
演芸レクチャーデモンストレーション「楽しもう演芸の世界」(協力=日本演芸家連合)	9/25～26	伝統芸場情報館レクチャー室	金原亭馬生、東家孝太郎、ケン正木、青空キュートほか	106人
国立文楽劇場バックステージツアー(有料・参加費1,000円)	2/12～13	国立文楽劇場2階文楽劇場舞台・客席等	—	193人
組踊ワークショップ	7/10	国立劇場おきなわ大稽古室	上原崇弘、高井賢太郎、新垣勝裕	11人
劇場バックステージツアー *	7/31～8/1	国立劇場おきなわ大劇場・大稽古場	伊藝武士、比嘉大志、山城峻称、仲嶺良盛	—
おでかけワークショップ in 浦添小学校	10/27	浦添市立浦添小学校体育館	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	107人
おでかけワークショップ in 前田小学校	11/16	浦添市立前田小学校体育館	上原崇弘、比嘉大志、新垣勝裕(子の会)	102人
外国人のための組踊ワークショップ	11/27	国立劇場おきなわ大稽古室	山城峻称、高井賢太郎、佐久田朝太	27人
おでかけワークショップ in 沢岬小学校	12/13	浦添市立沢岬小学校体育館	嘉数道彦、仲嶺良盛、玉城匠	123人
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「伊祖の子組」と琉球の歴史文化を学ぶ *	1/22	伊祖グスク(浦添市内)、国立劇場おきなわ	嘉数仁然	—
組踊ワークショップ *	1/22	国立劇場おきなわ大稽古室	玉城匠、知花令磨、棚原健太	—
無形文化遺産でつながるアジアの芸能座談会	2/9	国立劇場おきなわ大稽古室	嘉数道彦、金城真次、福岡正太、Gopal Venu、Kapila Venu、Endo	9人

			Suanda, Suksanti Wangwan, Hoang Trong Cuong, Eddin Khoo	
近畿日本ツーリスト沖縄 組踊「二童敵討」と琉球の歴史文化を学ぶ旅 *	2/12	勝連城跡あまわりパーク、 国立劇場おきなわ	嘉数仁然	—
組踊ワークショップ *	2/12	国立劇場おきなわ 大稽古室	上原崇弘、玉城慶、仲嶺良盛	—
県外組踊ワークショップ富山	3/4	富山県 高志の国文学館	嘉数道彦、仲村逸夫、玉城匠	28人

* 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

- ・ 演芸場9月特別企画公演「演芸大にぎわい～東から西から～」の関連企画として、演芸レクチャーデモンストラーション「楽しもう！演芸の世界」を開催。定員を20名に限定、講師・参加者・スタッフのマスク・フェイスシールド・手袋着用、会場でのアクリル板設置、換気・消毒の徹底、自由席制から座席指定制への変更等、新型コロナウイルス感染症対策を徹底の上開催した。
- ・ 「国立文楽劇場バックステージツアー」は、舞台等の見学・体験を通じて、劇場、舞台芸術に親しみを持ってもらい、集客に繋げることを企図した。
- ・ 近畿日本ツーリスト沖縄との連携企画では、演目に関連する歴史文化史跡を巡り、組踊ワークショップを体験後、国立劇場おきなわ大劇場で組踊公演を鑑賞した。
- ・ 「無形文化遺産でつながるアジアの芸能 座談会」は、オンラインによるアジア6か国の伝統芸能の研究者や実演家による意見交換を実施した。YouTube ライブ配信も実施し、常時約60名が視聴した。

③公演記録映像の有効活用

- ・ 新たに「国立劇場くろごちゃんねる」として、国立劇場公演記録映像を有料で配信した。視聴者がダウンロードして利用できる解説を提供した。
- ・ 「文楽プレミアムシアター」として、国立文楽劇場公演記録映像を有料で配信した。映像には字幕を表示した。
- ・ 振興会ホームページ内の「国立オンライン劇場」において、公演記録映像を活用した動画を無料配信した。また、英語版ホームページ内の「National Theatre Online」において、J-LODlive等にて海外向けに作成された公演記録映像のダイジェスト版を無料配信した。
- ・ 映像の一部を宣伝用動画として活用して、振興会ホームページ、Twitter 及びメールマガジンによる配信案内を行った。
- ・ 伝統芸能情報館では企画展示の都度、シアタースペースにおいて展示内容に因んだ過去の公演記録映像や入門的な映像等10分～30分程度のを数編用意し上映した。
- ・ 文楽劇場では企画展示「文楽の景色」において、文楽の景色にまつわる演目の公演記録映像を展示室内で上映した。また、企画展示「ひらかな盛衰記」において、錦秋文楽公演第3部鑑賞の導入となるよう「ひらかな盛衰記」の公演記録映像を編集し、「ひらかな盛衰記～矢筈梅～」と題した映像を上映した。

《公演記録映像アーカイブ有料配信》

区分	動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	売上件数
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第1回 文楽「心中宵庚申」	昭和60年2月 国立劇場	10/2～24	64
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第2回 「日蓮宗の声明」	平成28年2月 国立劇場	12/4～26	16
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第3回 雅楽公演「舞楽」	平成28年2月 国立劇場	1/8～30	18
伝統芸能情報館 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立劇場くろごちゃんねる 第4回 民俗芸能公演「早池峰神楽 大償と岳」	平成15年6月 国立劇場	3/5～27	6
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第1回文楽プレミアムシアター 「ひらかな盛衰記 辻法印の段・神崎揚屋の段・奥座敷の段」	昭和63年11月 国立文楽劇場	6/1～21	105
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第2回文楽プレミアムシアター 「伊賀越道中双六 沼津の段」	昭和59年11月 国立文楽劇場	9/1～21	97
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第3回文楽プレミアムシアター 「艶容女舞衣 酒屋の段」	昭和62年1月 国立文楽劇場	12/1～21	70
文楽劇場 公演記録映像アーカイブ有料配信	国立文楽劇場 第4回文楽プレミアムシアター 「義経千本桜 渡海屋・大物浦の段」	昭和59年4月 国立文楽劇場	3/1～21	82
合計			8件	458

《その他公演記録映像を活用した無料配信》

動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	売上件数 再生回数	備考
令和2年11月歌舞伎公演	令和2年12月 国立劇場	R3/3/5~3/7	5,654	J-LODlive
令和2年12月歌舞伎公演 第一部	令和2年12月 国立劇場	R3/3/19~3/22	10,617	J-LODlive
令和2年12月歌舞伎公演 第二部	令和2年12月 国立劇場	R3/3/24~3/25	4,443	J-LODlive
令和3年初春歌舞伎公演	令和3年1月 国立劇場	4/27~R4/5/31	7,356	J-LODlive
令和3年3月歌舞伎公演	令和3年3月 国立劇場	4/27~R4/5/31	8,527	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第1部「菅原伝授手習鑑」	令和2年2月 国立劇場	11/5~R4/11/4	566	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第2部「傾城反魂香」	令和2年2月 国立劇場	11/5~R4/11/4	444	J-LODlive
国立劇場令和2年2月文楽公演第3部「鳴響安宅新関」	令和2年2月 国立劇場	11/5~R4/11/4	1,002	J-LODlive
令和2年9月文楽公演 第一部「寿二人三番叟」 「姫山姥」	令和2年9月 国立劇場	R3/2/16~2/28	2,952	J-LODlive
令和2年9月文楽公演 第二部「鑓の権三重帷子」	令和2年9月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,042	J-LODlive
令和2年9月文楽公演 第三部「絵本太功記」	令和2年9月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,717	J-LODlive
令和2年9月文楽公演 第四部(Discover BUNRAKU)	令和2年9月 国立劇場	4/20~R4/5/31	1,356	日本博
令和2年12月文楽公演 第一部	令和2年12月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,771	J-LODlive
令和2年12月文楽公演 第二部	令和2年12月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,635	J-LODlive
令和2年12月文楽鑑賞教室	令和2年12月 国立劇場	R3/2/16~2/28	2,426	J-LODlive
令和2年12月文楽公演(Discover BUNRAKU)	令和2年12月 国立劇場	4/20~R4/5/31	1,795	日本博
令和3年2月文楽公演 第一部	令和3年2月 国立劇場	4/20~R4/5/31	1,325	J-LODlive
令和3年2月文楽公演 第二部	令和3年2月 国立劇場	4/20~R4/5/31	1,047	J-LODlive
令和3年2月文楽公演 第三部	令和3年2月 国立劇場	4/20~R4/5/31	1,170	J-LODlive
令和2年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より「善知鳥」	令和2年11月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,060	J-LODlive
令和2年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より「鉄輪」	令和2年11月 国立劇場	R3/2/16~2/28	4,261	J-LODlive
令和2年11月舞踊公演「舞の会—京阪の座敷舞—」より「ぐち」	令和2年11月 国立劇場	R3/2/16~2/28	1,090	J-LODlive
令和2年11月雅楽公演「管絃 王朝の遊び」	令和2年11月 国立劇場	4/20~R4/5/31	2,570	J-LODlive
11月雅楽公演【管絃 王朝の遊び】ダイジェスト版	令和2年11月 国立劇場	5/24~	1,363	日本博
国立劇場令和3年2月特別企画公演「月・雪・花—四季折々のこころ—」	令和3年2月 国立劇場	9/1~	5,132	日本博
Moon, Snow and Flowers - Performing Arts Celebrating the Natural Beauty of Japan	令和3年2月 国立劇場	9/1~	243	日本博
New Year Bunraku Performance Part 1	令和3年1月 国立文楽劇場	R3/3/24~3/31	1,897	J-LODlive
New Year Bunraku Performance Part 2	令和3年1月 国立文楽劇場	R3/3/24~3/31	2,423	J-LODlive
New Year Bunraku Performance Part 3	令和3年1月 国立文楽劇場	R3/3/24~3/31	2,835	J-LODlive
Rokyoku Performance by Leading Performers National Bunraku Theatre	令和3年2月 国立文楽劇場	R3/3/24~3/31	694	J-LODlive
2022年2月12日(土)視聴チケット発売開始!組踊「執心鐘入」(日本語字幕版)		2/4~	453	※
2022年2月12日(土)視聴チケット発売開始!組踊「執心鐘入」(英語字幕版)		2/4~	179	※
「執心鐘入」ダイジェスト版(15分版)日本語字幕	令和2年 国立劇場おきなわ	9/30~	1,955	※
「執心鐘入」ダイジェスト版(15分版)英語字幕	令和2年	9/30~	243	※

	国立劇場おきなわ			
組踊「二童敵討」ダイジェスト版(2分版)		1/12～	464	※
組踊「二童敵討」ダイジェスト版(15分版)		1/12～	1,765	※
組踊「二童敵討」(英語字幕版)フルバージョン		2/1～	756	※
※令和2年度沖縄県文化観光戦略推進事業制作		合計	37件	86,228

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・ 動画配信については、著作権等の処理の問題を乗り越えて配信したことは新たな鑑賞者層の獲得や将来的な収入基盤の強化につながるものだけではなく、ポストコロナ後の研究・教育にも重要である。
- ・ 動画の無料のコンテンツはダイジェストであってもコロナ禍におけるオンライン講義での教材として大学の講義で活用できる。今後も継続して配信してもらいたい。

＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・ 企画展示「ひらかな盛衰記」での、今回上演されなかった段の映像公開は、「ひらかな盛衰記」の理解を促すためには行き届いた方法だと思う。

④組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・ 学校に実演家が赴いて、学生に琉球芸能の魅力を伝えるおでかけワークショップを引き続き実施した。

4 - (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、以下に掲げる調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進めるなど効果的に活用

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する

他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、インターネット等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、現状分析を行い、活用方法等、施設の在り方を現行中期目標期間中に検討

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、閲覧・視聴に供する

イ 伝統芸能及び現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、公開講座、公演記録の鑑賞会等を実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い、内容の充実を図る

公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等を実施

② 他劇場等の情報を収集して公演の充実等に活用、公演プログラム等において公開

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等への貸与

④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供する他の劇場施設等への貸与を実施

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮し利用促進に努める

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化を実施

③ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 11 のとおり実施

舞台美術センター資料館については外部施設を活用したアウトリーチによる展示に特化するとともに、衣裳等の保管機能を強化することとし、具体的な準備を進める

ホームページで公開している「主催公演記録データベース」の充実に努める

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、次のとおり普及活動を実施

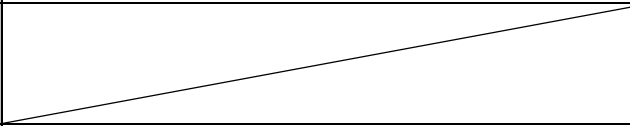
① 現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 12 のとおり実施

広報活動を十分に実施、参加者へのアンケート調査を行い内容等の充実に努める

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開

③ 公演記録映像については、必要な著作権処理を行った上で一層の有効活用に努める

《中期目標の指標・関連指標》

<p>4-1 展示公開の来場者数 (前中期目標期間実績以上)</p>	<p>2,653 人 (H25-29 実績平均 : 801.4 人)</p>
<p>4-3 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用について、目標に従い業務を実施しているか (評議員会の評価を踏まえ判断)</p>	
<p>4-A 公演記録の作成状況(公演記録の作成件数等)</p>	<p>P.178 に掲載</p>

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

①現代舞台芸術に関する調査研究・調査結果の活用

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び3名の委員による「演劇研究会」を定期的に開催し、その成果として演劇制作の現場や舞台の周辺など様々な切り口で掘り下げる「ギャラリープロジェクト」を開催。令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「おうちでバックステージツアー」「トークセッション」「中高生のためのどっぴり演劇 2Days オンライン」をオンラインにて実施した。
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催。(新型コロナウイルス感染症拡大の影響でシアタートークを実施予定の日程が公演中止となった「東京ゴッドファーザーズ」を除く4公演で実施)
- ・オペラ「カルメン」指揮の大野和士、作曲の藤倉大、演出のアレックス・オリエをゲストにYouTube ライブ配信でのオペラトークを開催。新演出のコンセプトを対談形式で解説し、カバー歌手による歌唱も交えて、充実した内容で新作オペラへの期待感醸成を図った。また、後日アーカイブ映像を公開した(6/24、無料)
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として下記公演プログラムに掲載した。
オペラ：10冊、演劇：6冊

②他劇場等の情報収集・活用

- ・「演劇研究会」により国内の劇場(AI・HALL伊丹市立演劇ホール、京都芸術センター、メディキット県立文化センター(宮崎県立芸術劇場)、可児市文化創造センター--ala-、JMS アステールプラザ、神戸アートビレッジセンター)を調査研究し、成果を演劇公演プログラム(6冊)に掲載した。
- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施した。

③公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料の整理・保存を行った。
- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録し、公開した。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した(5件)。

イ 現代舞台芸術の図書・資料の収集・活用

①情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	441冊	23点	2,293人	223日	121人	425人	-	1,000件

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び東京都の要請等を踏まえ、情報センター閲覧室を休室した(4/27～5/11)。
- ・情報センター内ビデオシアターについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため年度を通して閉鎖とし、公演記録映像の閲覧についてはタブレット機器の貸出によって実施した。
- ・舞台美術センター資料棟を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館とした。
- ・上演する公演に合わせて、関連書籍、過去の公演プログラム等を閲覧室の開架とし、広く利用に供した。
- ・閲覧室に「調査研究関連コーナー」を設置(年間14コーナー)、情報センターが収蔵する資料から舞台芸術に関する調査、研究報告書をピックアップして開架し、ホームページでも紹介した。
- ・情報センターにおいて、オペラ「蝶々夫人」「椿姫」などの上演に関連する所蔵資料を展示し、インターネットやSNS等で周知した。

(b) 現代舞台芸術に関する図書・資料等の他の劇場施設等への貸与等

区分	活動名	会場	主催等	活用内容	期間
オペラ	「オペラの扉 2021 KNOCKING ON THE DOOR OPERA EXHIBITION」	ロームシアター京都及び特設WEBサイト	公益財団法人ローム ミュージックファンデーション、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	舞台装置模型・衣裳貸出	9/14～12/5
オペラ・バレエ	新国立劇場 舞台美術展で巡るオペラ・バレエの世界～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～	東京スカイツリーソラマチ	主催：新国立劇場	公演記録写真・舞台装置模型・衣裳を使用	2/19～20

- ・多数の観光客が訪れる観光スポットである「東京スカイツリーソラマチ」にて、「新国立劇場 舞台美

術展で巡るオペラ・バレエの世界 ～Opera&Ballet Stage Set&Design Exhibition～を開催し、公演記録写真、舞台装置模型及び衣裳を展示した。併せてミニ・コンサートも実施し、劇場の紹介と舞台芸術の普及に努めた。解説を日英2言語で記載した。

②図書資料管理システム(図書等の情報)・所蔵品管理システム(寄贈資料・公演関連資料)のデータベース化

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。
- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

ウ 資料等の展示公開

展示室	企画内容	期間	日数(日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
新国立劇場内	公演関係展示(劇場ホワイエ)	随時	11	6,616		
	公演関連展示(情報センター)	随時	220	2,653	1,500	176.9%
	公演関連展示(劇場内公開空地)	随時	362	—		

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、国の緊急事態宣言及び東京都の要請等を踏まえ、情報センターを休室した(4/27～5/11)。
- ・「初台アート・ロフト」について、7月より「パレード展」、1月より「生命の木展」と題して展示内容の更新を行った。また、公演の上演期間にあわせた展示替えも随時行い、来場される方への興味関心に合わせた展示を実施した。
- ・「初台アート・ロフト」について、展示紹介動画を作成・公開し、周知に努めた。
- ・引き続き3年度においても、新型コロナウイルス感染症対策のため、「初台アート・ロフト」該当エリアへの立ち入りを制限する必要があったが、公演来場者の目に留まるエリアに展示の一部を移すなどして企画の維持に努めた。参考値として展示エリアの一部である劇場ロビーを通過した人数(=オペラ・中劇場の入場者数)に情報センター来場者数を加えた数を示す。

合計：214,732人(主催公演：103,231人、研修公演：6,218人、貸劇場：102,630人、情報センター来場者数：2,653人)

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため劇場内の動線が制限されているため、展示の内容や設営の過程を紹介する動画等をYouTubeで公開し、劇場に来館できない方への発信にも努めた。

《展示等に関する動画配信》

コンテンツ名	期間	再生回数
初台アート・ロフト『生命の木展』	1/20～	810
2021年 初台アート・ロフト『パレード展』	7/19～	1,453
合計	2件	2,263

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

区分	実績
記録件数・内容	映像・音声・写真 23 公演
公開件数(記録写真)	23 公演
公開件数(記録映像)	0 件

- ・記録写真をホームページの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。

イ 普及活動

①現代舞台芸術に関する公開講座等

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための中止分を除く)

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
新国立劇場内	現代舞台芸術講座	13回	13回	100.0%
新国立劇場 情報センター	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	0回	0回	—
現代舞台芸術分野 合計		13回	13回	100.0%

(年度当初の計画)

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
----	-------	----	------	-----

新国立劇場内	現代舞台芸術講座	13回	15回	86.7%
新国立劇場 情報センター	現代舞台芸術鑑賞会 (情報センター上映会)	0回	24回	0.0%
現代舞台芸術分野 合計		13回	39回	33.3%

i. 現代舞台芸術講座(ギャラリープロジェクト他)

- ・現代舞台芸術講座としてギャラリープロジェクトをオンライン(YouTube)で開催した。

《ギャラリープロジェクト開催実績》

イベント名	期間	再生回数
おうちでバックステージツアー～斬られの仙太 編～	4/16～6/20	2,088
ギャラリープロジェクト演劇 劇 Vol.4 神田真紅のちょこっと講談「水戸天狗党！」	4/20～6/6	1,429
おうちでバックステージツアー～東京ゴッドファーザーズ 編～	5/28～6/30	1,811
ギャラリープロジェクト演劇 劇 Vol.5「今 敏の映像世界と「東京ゴッドファーザーズ」の魅力」	5/17～6/30	1,522
おうちでバックステージツアー～キネマの天地 編～	6/18～7/31	1,294
ギャラリープロジェクト演劇 劇 Vol.6 「キネマの天地」とその時代	6/21～7/31	1,398
演劇のおしごと Vol.10～「ヘアメイク」とは?～	7/13～8/31	857
おうちでバックステージツアー～反応工程編～	7/19～8/31	1,122
中高生のためのどっぶり演劇 2Days オンライン 2021	8/3～4	20
おうちでバックステージツアー～イロアセル編～	11/19～1/4	790
演劇のおしごと Vol.11～「音楽」とは?～	11/24～1/4	452
おうちでバックステージツアー～あーぶくたつた、にいたつた編～	12/16～1/31	711
演劇のおしごと Vol.12～「アクション」とは?～	12/24～1/31	817
合計	13回	14,311

※新型コロナウイルス感染症の影響により海外招聘公演「ガラスの動物園」が中止になったことに伴い、2回開催する計画であった「ガラスの動物園」関連のギャラリープロジェクトも中止とした。

ii. 公演記録映像上映会

- ・例年月例で実施していた情報センターでの上映会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会場であるビデオシアターの使用を停止しているため、実施を見送った。

②公演記録映像等の有効活用

- ・11月より新国立劇場主催公演等の映像配信について情報を集約し発信する「新国デジタルシアター」を開設し、公演記録映像等をインターネット配信した。
- ・「斬られの仙太」(2021年4月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて放送された。
- ・「キネマの天地」(2021年6月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて放送された。
- ・「焼肉ドラゴン」(2008年6月公演)がBSプレミアム「プレミアムステージ」にて再放送された
- ・オペラ及び舞踊芸術監督による2021/2022シーズン紹介動画や各公演の宣伝動画等に公演記録映像を使用。インターネット配信や劇場ホワイエ等で上映し、周知に努めた。

《公演記録映像を活用した動画配信》

動画コンテンツ名	公演年月・劇場	配信期間	売上件数 再生回数	備考
オペラ「セビリアの理髪師」	2020年2月 新国立劇場	12/24～1/14	5,694	
オペラ研修所修了公演「悩める劇場支配人」(ハイライト)	2021年3月 新国立劇場	10/25～R4/4/25	8,900	
演劇「消えていくなら朝」	2018年7月 新国立劇場	12/24～1/14	4,675	
合計		3件	19,269	

■公演記録映像の活用による海外広報戦略強化

- ・海外での公演映像上映会により、顧客層の掘り起こしを実施した。

上映会名	会場	期間	回数	参加者数
中国国家大劇院 オペラ「トゥーランドット」(2019年7月公演)	中国国家大劇院	10/10	1回	261人
台中国立歌劇院 舞台映像上映会 オペラ「Super Angels スーパーエンジェル」(2021年8月公演)	台中国立歌劇院中劇場	2/2	1回	168人

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために とるべき措置

1 業務運営の効率化

1 業務運営の効率化	p.180
(1) 組織体制の整備・強化	p.183
(2) 給与水準の適正化	p.185
(3) 契約の適正化	p.185
(4) 共同調達等の取組の推進	p.186
(5) 情報システムの活用	p.187
(6) 予算執行の効率化	p.187

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業の改善を図る

1 業務運営の効率化に関する取組

平成29年度予算を基準として中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、事業費についても毎事業年度につき1%以上の効率化を図る。ただし、特殊要因経費はその対象としない

また、人件費については3項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、業務・組織体制について検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施することにより、契約の適正化を推進する。毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直しを実施

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進し、使用資源の縮減を図り、環境に配慮した業務運営に努める

6 情報システムの活用

効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

2020年東京大会を契機とする文化プログラムの中核的事業として実施する「日本博」において、我が国の文化芸術の魅力を国内外に戦略的に発信するため、日本博事務局を運営し、引き続き企画立案・広報機能の強化を図る

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする

また、その取組状況をホームページで公表

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

法人間又は周辺の他機関と連携し、次の品目について共同調達を推進

この他の品目の共同調達の実施については費用対効果に配慮しつつ検討

- ① コピー用紙
 - ② トイレ用ペーパー及びペーパータオル
- イ 省エネルギー、リサイクルの推進
- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の排出削減を推進
 - ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る
 - ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底
 - ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める
 - ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進
- (5) 情報システムの活用
- ア 業務システムの安定稼働を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う
 - イ 基幹の情報システムの更新を行い、勤務形態の変化への対応、情報セキュリティの強化、外部サービスの一層の活用を推進しつつ、業務のデジタル化を進め、システムの最適化を踏まえた業務の効率化を図る
- (6) 予算執行の効率化
- 運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目につき、計画どおり必要な措置を講じた。 ・業務システムについて、仮想デスクトップシステムや電子承認機能を導入するなど、業務の効率化を図った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	「業務運営の効率化に関する取組」参照
主要な業務実績	<p>(1) 組織体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備等事業の業務実施体制強化のため、関係省庁等の協力を得て、国立劇場再整備本部の拡充と増員を実施した。 <p>(2) 給与水準の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 <p>(3) 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本芸術文化振興会会計規程実施細則の一部を改正し、電磁的記録による契約事務処理等について定めた。 <p>(4) 共同調達等の取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの4者により共同調達を実施した。 ・トイレットペーパー及びペーパータオルについては、公益財団法人新国立劇場運営財団と共同調達を実施した。 ・光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支障のない範囲で節電対策を実施した。 ・廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底した。 ・ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施した。 <p>(5) 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮想デスクトップシステムを導入し、在宅勤務での利用や国立劇場再整備に対応した。 ・財務、人事、出演料、文書等の各管理業務に係る業務システムについて電子承認の機能を導入し、業務の効率化を図った。 ・助成業務システムの更新を行い、従来の事務処理機能に加えて、助成受付データの取込機能を追加し、統計分析・支払処理等業務の効率化を図った。また、システムをクラウド環境に移設し、可用性を強化した。 <p>(6) 予算執行の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。

1 業務運営の効率化

【業務運営の効率化に関する取組】

一般管理費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：平成 29 年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の一般管理費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

事業費：以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

$$\text{増減比率} = (B-A) \div A$$

A：前年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B：当該年度の事業費予算額(特殊要因及び人件費を除く)

《一般管理費》(単位：百万円、%)

区分	金額
平成 29 年度予算(A)	444
令和 3 年度予算(B)	400
増減比率	△10%

令和 3 年度予算額は、消費税影響額 7 百万円を除けば 393 百万円で、△11%となっている。

《事業費》(単位：百万円、%)

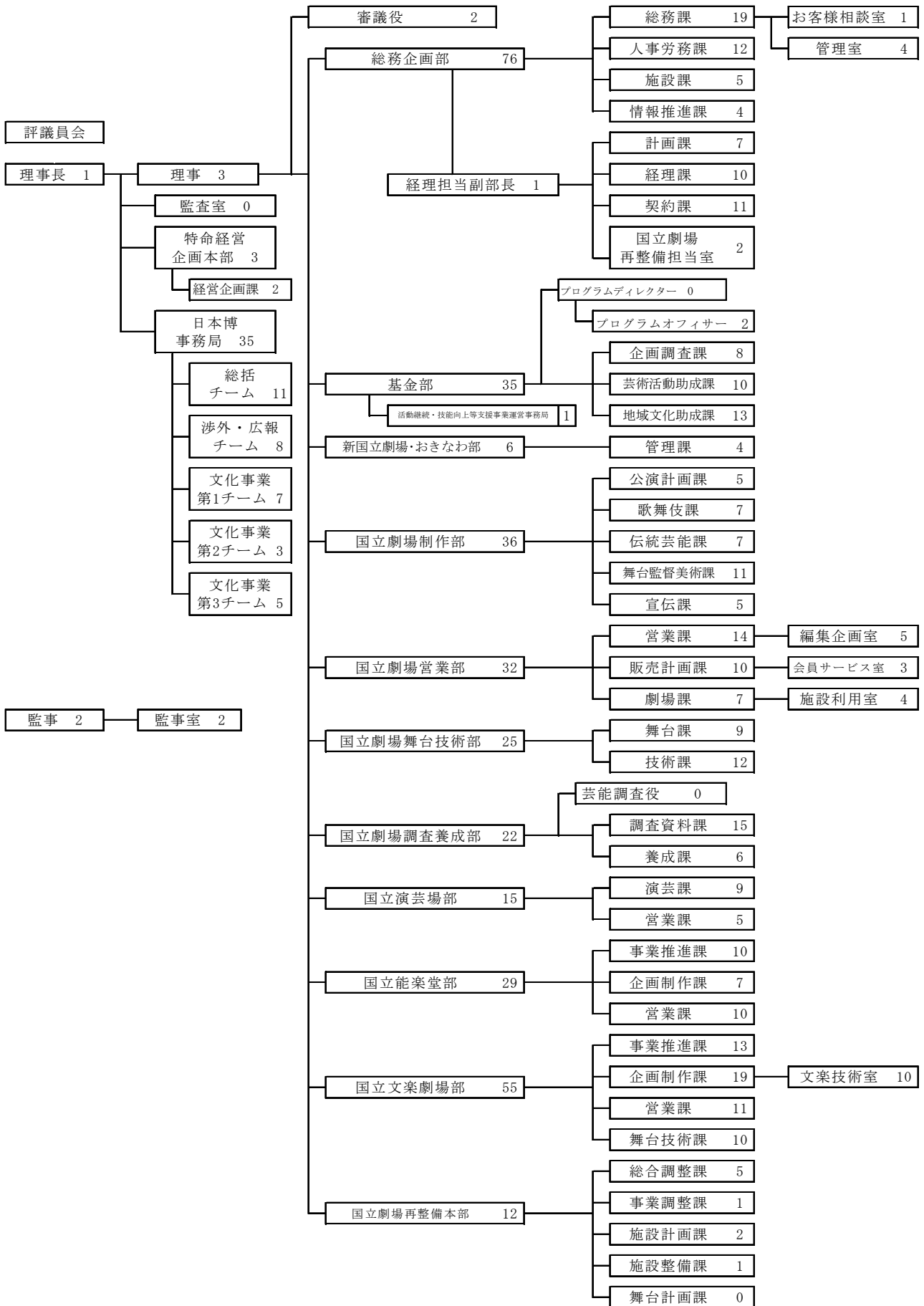
区分	金額
令和 2 年度予算(A)	6,709
令和 3 年度予算(B)	6,642
増減比率	△1%

(1) 組織体制の整備・強化

- ・ 国立劇場再整備等事業の業務実施体制強化のため、関係省庁等の協力を得て、国立劇場再整備本部の拡充と増員を実施した。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和4年3月31日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 対国家公務員指数への適正な水準の維持

・ラスパイレス指数[※]は、107.7（地域・学歴勘案＝94.4）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。

また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.3（地域・学歴勘案＝100.9）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数＝国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

<国からの財政支出>

支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 90.3%

(国からの財政支出額 67,558 百万円／支出予算の総額 74,833 百万円(令和2年度予算))

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取組状況の公表

・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和2年度ベース)。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

・公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和3年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。

・「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の検収に際し調達原課以外の職員による立会いを行うなど、相互牽制の体制を整備した。

・「調達等合理化計画」に基づき、調達に関するガバナンスの徹底のため、少額随意契約を除く随意契約を締結することとなる案件について、経理担当副部長及び契約担当部署が調達原課の報告に対し点検を行い、随意契約に関する内部統制の確立に努めた。

イ 契約監視委員会における契約の点検

・第25回契約監視委員会(6/14)

議事：令和2年度契約に関する点検・見直し(審議)、令和3年度調達等合理化計画の策定について(審議)、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和元年度及び令和2年度分)について(報告)、令和2年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告)

・第26回契約監視委員会(12/6)

議事：連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和3年度分)について(審議)、令和3年度調達等合理化計画における進捗状況について(報告)

・外部有識者を含めた委員による「日本芸術文化振興会契約監視委員会」(第25回、第26回)において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出した。

・第25回契約監視委員会を開催し、競争性のある契約(一般競争・企画競争)及び競争性のない随意契約について、契約変更の妥当性や予定価格の算定方法の適正性等を点検審議した(6/14)。

・第26回契約監視委員会を開催し、連続一者応札・応募等事案について点検を行い、競争性の確保等を審議した(12/6)。

《改善内容》

・「令和3～5年度定期健康診断」(仕様を見直し、1年間の契約から3年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

・「令和4・5年度国立文楽劇場産業廃棄物の収集運搬・処分業務」(仕様を見直し、1年間の契約から2年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

・「令和4・5年度国立文楽劇場公演記録音声収録業務及び視聴覚資料の複製等業務」(仕様を見直し、1年間の契約から2年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

・「令和4・5年度国立文楽劇場公演記録映像の収録及び完成パッケージ作成業務」(仕様を見直し、1年間の契約から2年間の複数年契約として一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

・「令和4年度国立文楽劇場内舞台照明用電球及びカラーフィルター等の供給」(国立文楽劇場内舞台照明用電球等単価契約及び国立文楽劇場内舞台照明用カラーフィルター等単価契約2件を統合し、一般競争入札を実施することにより、業務の効率化を図った。)

- ・「令和4・5年度国立文楽劇場公演記録写真撮影業務」（仕様を見直し、1年間から2年間の複数年契約の随意契約に変更することにより、業務の効率化を図った。）

ウ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

エ 規則整備

- ・独立行政法人日本芸術文化振興会会計規程実施細則の一部を改正し、電磁的記録による契約事務処理等について定め、書面・押印・対面によって行われてきた手続きの見直しを行った。

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

①コピー用紙

- ・振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施。

②トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

①地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・隼町地区の原油換算エネルギー使用量が3か年連続して1,500kl未満となり、指定地球温暖化対策事業所の対象外となったため、令和3年9月に新国立劇場のみ「地球温暖化対策計画書」を提出。
地球温暖化対策を推進するために、自らの温室効果ガス排出量の把握に努め、東京都の削減目標に従って計画的削減に努めた。

②光熱水量の節減

- ・引き続き各館において、観劇環境や業務に支障のない範囲で以下の節電対策を行った。
 - ◇ 執務室、会議室、通路等の照明を業務に支障のない範囲で間引き・減灯した。
 - ◇ 事務所部分を中心に夏季の軽装を奨励するとともに、冷暖房の抑制(夏季ピーク時の制限、設定温度の制限)を実施。
- ・前年度は新型コロナウイルス感染症による公演中止や緊急事態宣言による出勤抑制等により使用量が例年より大きく減少していたが、当年度は概ね計画どおりに公演等事業を実施したため、例年並みの使用量に戻っている。ただし、水道使用量については、入場者数が減少したため、前々年度よりも減少した。

事 項	区 分	使用量	対前年度増減	対前々年度増減
電 気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	4,750,184 kwh	10.0%	△ 6.4%
	能楽堂	818,561 kwh	2.8%	0.4%
	文楽劇場	1,192,276 kwh	17.6%	△ 2.2%
	合 計	6,761,021 kwh	10.3%	△ 4.9%
ガ ス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	178,506 m ³	14.7%	10.2%
	能楽堂	85,766 m ³	1.4%	9.1%
	文楽劇場	94,566 m ³	20.7%	△ 0.1%
	合 計	358,838 m ³	12.7%	7.0%
水 道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	27,363 m ³	15.1%	△ 25.0%
	能楽堂	7,120 m ³	21.0%	△ 11.8%
	文楽劇場	8,292 m ³	27.5%	△ 23.7%
	合 計	42,775 m ³	18.3%	△ 22.8%

③廃棄物の減量化

- ・引き続き廃棄物の減量化に努めた。
- ・入場者数が減少したため、廃棄量が前々年度よりも大幅に減少した。

事 項	区 分	処理量	対前年度増減	対前々年度増減
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	25,216 kg	0.2%	△ 48.2%
	能楽堂	5,103 kg	17.7%	9.3%

	文楽劇場	9,077 kg	22.7%	△ 24.5%
	合計	39,396 kg	6.7%	△ 39.8%
再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	33,720 kg	6.9%	△ 17.5%
	能楽堂	6,237 kg	△ 17.6%	△ 20.1%
	文楽劇場	11,740 kg	△ 26.5%	△ 21.6%
	合計	51,697 kg	△ 6.2%	△ 18.7%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,043 kg	△ 15.5%	△ 77.0%
	能楽堂	777 kg	△ 4.4%	△ 29.6%
	文楽劇場	5,290 kg	△ 6.2%	△ 33.3%
	合計	8,110 kg	△ 8.6%	△ 54.8%

④ペーパーレス化

- 引き続き、両面コピー、グループウェアの活用等によりペーパーレス化促進に努めた。
- 前年度は新型コロナウイルス感染症による公演中止や緊急事態宣言による出勤抑制等によりコピー用紙の使用量・購入枚数ともに例年より大きく減少していた。当年度は概ね計画どおりに公演等事業を実施したため、前年度よりも使用量・購入枚数とも増加しているが、在宅勤務の推進により前々年度よりも使用量が減少している。伝統芸能情報館でコピー用紙使用量が減少している要因は、日本博事業でペーパーレス化を促進するなど節減に努めたことである。

事項	区分	枚数	対前年度増減	対前々年度増減
コピー用紙 使用量	本館・演芸場	957,180 枚	9.1%	△ 18.3%
	事務棟	2,387,233 枚	15.0%	7.7%
	伝統芸能情報館	655,020 枚	△ 13.6%	△ 44.3%
	能楽堂	317,480 枚	17.3%	2.2%
	文楽劇場	239,415 枚	16.4%	△ 16.0%
	合計	4,556,328 枚	8.8%	△ 11.7%
	うち管理部門	1,497,008 枚	26.2%	16.9%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	3,350,000 枚	28.7%	△ 4.3%
	能楽堂	396,000 枚	18.4%	12.8%
	文楽劇場	315,500 枚	3.1%	△ 26.0%
	合計	4,061,500 枚	25.3%	△ 5.0%

⑤グリーン購入法に基づく調達

- 事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

- 助成業務システムの更新を行い、従来の事務処理機能に加えて、別途委託業者が行った助成受付データの取込機能を追加し、統計や支払処理等に効率的に活用できるようにした。また、システムをクラウド環境に移設し、可用性を強化した。
- 財務、予算、物品・資産、人事・給与、出演料、文書等の各管理業務に係る業務システムを更新し、電子承認の機能を導入することで、効率的な業務遂行のための基盤を整備した。
- 仮想デスクトップシステムの導入を中心としたネットワーク基盤全体を更新し、在宅勤務環境での利用及び国立劇場再整備に対応するとともに、セキュリティの向上を行った。
- クライアントパソコンを更新し、仮想デスクトップやソフトウェアを含めた統一的な事務環境を整備するとともに、各事業に特化した機能を有する業務用パソコンを整備した。
- 在宅勤務環境でのクライアントパソコンの利用等に関する実施手順を整備した。

(6) 予算執行の効率化

- 各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。
- 令和2事業年度財務諸表の官報公告について、関係法令に則って財務諸表の一部を電子公告として、必要最小限の官報公告としたことにより対前年度約100万円の経費削減を図った。
(参考:令和3年度548,717円(令和2年度1,606,958円))

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画	p.188
1 予算	p.190
2 収支計画	p.192
3 資金計画	p.193
4 保有資産の処分	p.193

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

収入面に関しては実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で劇場入場料等自己収入の増加を図ることや税制措置を活用した寄附金の確保等により、計画的な収支計画による運営を図る

管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」(平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知)に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円。

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した目黒職員宿舎、船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する。

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる。

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

収入面については、寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得

4 保有資産の処分

保有資産については保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては不要財産として国庫納付等を行う

自己評定	B
自己評定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行った。前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響により、特に上半期は、国からのイベント自粛要請・収容率制限等を受け、年度全体でも大幅な減収が見込まれたが、感染症拡大防止の観点から適切な対応を取りつつ、全体的に支出の執行抑制を行った。 ・公演事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により公演が中止となったり客席数の制限を行ったりしたため、国立劇場公演の劇場入場料や劇場使用料が大幅に減少したことにより、年度計画予算に対し収入額が減少した。一方で、公演費等の節減により、年度計画予算に対し支出額を減少させ、収支差の改善に努めた。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・各館の公演等事業への寄附金を得るため、前年度に引き続き、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」への寄附を募った。 ・収入の減に対応するため、補助金等外部資金の積極的な獲得を行った。 ・令和2年度補正予算で措置された活動継続・技能向上等支援事業費補助金を令和3年度に繰り越して、前年度に引き続き、助成金の交付事業を行った。 ・令和元年度から継続している「日本博」事業について、令和3年度においても国からの委託費、補助金の措置を受けて実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	数値目標なし
主要な業務実績	1 予算 <ul style="list-style-type: none"> ・活動継続・技能向上等支援事業については、令和3年度も延長して実施するべく、令和2年度補正予算を繰り越して、多額の予算を執行することとなったが、法人全体で的確に執行に取り組み、事業に一定の成果を出した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な収入減となったが、積極的に外部資金を獲得することで、事業に対する影響を軽減することができた。 2 収支計画 3 資金計画 4 保有資産の処分
課題と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。

《方針》

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。

※ 以下、計数は、それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1 予算

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	11,136,977	11,136,977	0
雑収入	67,131	70,736	3,605
文化芸術振興費補助金	7,429,261	7,406,397	△22,864
施設整備費補助金	906,407	311,663	△594,744
活動継続・技能向上等支援事業費補助金	－	16,252,152	16,252,152
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金	45,672	281,220	235,548
基金運用収入	1,010,326	1,015,532	5,206
寄附金収入	200,000	224,952	24,952
その他の助成事業収入	12,979	53,160	40,181
公演事業収入	2,392,287	1,665,117	△727,170
公演受託事業収入	2,350,957	2,467,282	116,325
計	25,551,997	40,885,189	15,333,192
支 出			
一般管理費	1,550,921	1,422,932	127,989
うち人件費	1,174,958	1,097,828	77,130
うち物件費	375,963	325,104	50,859
事業費	9,653,187	9,521,102	132,085
うち人件費	2,217,808	2,231,111	△13,303
うち助成情報提供等事業費	215,640	182,308	33,332
うち国立劇場事業費	2,197,035	2,084,980	112,055
うち国立劇場おきなわ事業費	712,985	712,985	0
うち新国立劇場事業費	4,309,719	4,309,718	1
文化芸術振興費	7,429,261	6,615,614	813,647
施設整備費	906,407	311,663	594,744
活動継続・技能向上等支援事業費	－	14,591,882	△14,591,882
うち人件費	－	50,964	△50,964
うち物件費	－	14,540,919	△14,540,919
コンテンツグローバル需要創出促進事業費	45,672	281,482	△235,810
基金助成事業費	1,223,305	1,048,290	175,015
うち人件費	153,785	153,136	649
うち物件費	1,069,520	895,154	174,366
公演事業費	2,392,287	2,081,452	310,835
公演受託事業費	2,350,957	2,339,067	11,890
計	25,551,997	38,213,486	△12,661,489

《主な増減理由》

(1) 収入

- ・ 雑収入(運営費交付金見合いの自己収入)については、資料複製手数料が増加したこと等から 3,605 千円の増となった。
- ・ 文化芸術振興費補助金については、助成事業において令和4年度へ繰り越したこと等により 69,017 千円の減となった一方、公演事業において計画額に計上していない「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業(21,183 千円)」及び「コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業(25,000 千円)」を令和3年度中に新たに獲得したことにより、22,864 千円の減となった。
- ・ 施設整備費補助金については、計画額には令和3年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(125,950 千円)」

「国立能楽堂防災設備改修工事(81,363千円)」「国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備(64,900千円)」「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(58,148千円)」「舞台芸術グローバル拠点事業(576,046千円)」について計上したのに対し、実績額には、令和2年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(311,300千円)」及び令和3年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(363千円)」を計上したことにより、結果として594,744千円の減となった。

- ・活動継続・技能向上等支援事業費補助金については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業期間の延長によって令和2年度から繰り越したため、16,252,152千円の増となった。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金については、計画額には令和3年4月文楽公演交付決定額(45,672千円)を計上したのに対し、実績額は以降の公演も含めて獲得した補助金額(281,220千円)を計上した。
- ・寄附金収入については、寄附金を財源として支出した基金助成事業費、公演事業費及び研修事業費と同額を収入実績額として計上したことにより、24,952千円の増となった。
- ・その他の助成事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度助成金の減額や取下げに伴う精算金が見込みよりも多かったため、40,181千円の増となった。
- ・公演事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演及び貸劇場公演を全部又は一部中止したことや、実施公演の客席収容率を制限したこと、それに伴う劇場使用料の減額措置等により、727,170千円の減となった。
- ・公演受託事業収入については、計画額には令和3年度補正予算事業の「日本博デジタルコンテンツ・プラットフォーム構築・運用・発信業務(194,957千円)」について計上したのに対し、実績額には令和2年度補正予算事業の同業務(300,000千円)について計上したこと等により、116,325千円の増となった。

(2) 支出

- ・一般管理費のうち人件費については、退職手当が自己都合退職者が見込みより少なかったこと等により、77,130千円の減となった。また、物件費については、保守修繕費が減少したこと等により、50,859千円の減となった。
- ・事業費のうち助成情報提供等事業費については、非常勤職員手当・旅費交通費等が減少したこと、また国立劇場事業費については、保守修繕費が減少したこと等により、事業費全体で132,085千円の減となった。
- ・文化芸術振興費については、令和3年度助成事業において新型コロナウイルス感染症の影響により助成金の取下げや減額、繰越しが発生したこと等により935,444千円の減となった一方、計画額に計上していない令和2年度助成事業を繰り越して139,864千円支出したこと等により、813,647千円の減となった。
- ・施設整備費については、計画額には令和3年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(125,950千円)」「国立能楽堂防災設備改修工事(81,363千円)」「国立文楽劇場舞台運営監視装置設備整備(64,900千円)」「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(58,148千円)」「舞台芸術グローバル拠点事業(576,046千円)」について計上したのに対し、実績額には、令和2年度補正予算事業の「国立劇場再整備事業(311,300千円)」及び令和3年度補正予算事業の「国立劇場おきなわ冷却塔更新工事(363千円)」を計上したことにより、結果として594,744千円の減となった。
- ・活動継続・技能向上等支援事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業期間の延長によって令和2年度事業から繰り越したため、14,591,882千円の増となった。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費については、計画額には令和3年4月文楽公演交付決定額(45,672千円)を計上したのに対し、実績額は以降の公演も含めた支出額(281,482千円)を計上した。
- ・基金助成事業費の物件費については、新型コロナウイルス感染症の影響で、想定していた海外現地調査等を実施しなかったこと等により業務委託費が減少したこと、また助成金の取下げや減額が発生したこと等により、174,366千円の減となった。
- ・公演事業費については、新型コロナウイルス感染症の影響により主催公演を全部又は一部中止したことにより公演費が減少したこと、また公演費の一部が令和3年度中に新たに獲得した「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」や「文化芸術振興費補助金(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)」にて執行されたこと等により、310,835千円の減となった。

2 収支計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費	10,579,914	10,518,970	△60,944
新国立劇場公演等事業費	4,590,167	4,448,888	△141,279
基金助成事業費	8,222,378	30,366,578	22,144,200
一般管理費	1,297,233	1,474,474	177,241
財務費用	8,106	7,373	△ 733
雑損失	-	3,077	3,077
臨時損失	-	331	331
計	24,697,798	46,819,691	22,121,893
収益の部			
運営費交付金収益	10,032,253	10,088,133	55,880
事業収入	3,291,772	2,521,795	△ 769,977
受託事業収入	2,350,957	2,655,983	305,026
財産利用収入	49,519	46,458	△ 3,061
資産見返負債戻入	674,583	581,491	△ 93,092
文化芸術振興費補助金収益	7,429,261	6,602,430	△ 826,831
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金収益	45,672	281,220	235,548
活動継続・技能向上等支援事業費補助金収益	-	23,130,820	23,130,820
施設整備費補助金収益	-	311,300	311,300
寄附金収益	200,000	224,952	24,952
賞与引当金見返に係る収益	245,859	250,976	5,117
退職給付引当金見返に係る収益	236,490	△ 37,061	△ 273,551
財務収益	96,883	95,577	△1,306
雑益	44,549	100,665	56,116
臨時利益	0	282	282
計	24,697,798	46,855,021	22,157,223
純利益	0	35,330	35,330
積立金取崩額	0	-	-
総利益	0	35,330	35,330

《主な増減理由》

(1)費用の部

- ・新国立劇場公演等事業費については、固定資産取得額が計画よりも多かったこと等から、141,279千円の減となった。
- ・基金助成事業費については、活動継続・技能向上等支援事業の令和3年度への繰越し等により、22,144,200千円の増となった。

(2)収益の部

- ・事業収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により劇場入場料、劇場使用料等が減少したため、769,977千円の減となった。
- ・文化芸術振興費補助金収益については、助成事業の取下げや減額により不用額が発生したこと、令和4年度への繰越しが発生したことから、826,831千円の減となった。
- ・活動継続・技能向上等支援事業費補助金収益については、新型コロナウイルス感染症の影響による事業期間の延長によって令和3年度へ繰越したため、23,130,820千円の増となった。
- ・施設整備費補助金収益については、国立劇場の再整備に関する事業を計上したため、311,300千円の増となった。

3 資金計画

(単位：千円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	42,922,034	61,916,214	18,994,180
業務活動による支出	30,024,248	45,814,964	15,790,716
投資活動による支出	2,400,729	1,452,936	△ 947,793
財務活動による支出	227,020	161,001	△ 66,019
翌年度への繰越金	10,270,037	14,487,313	4,217,276
資金収入	42,922,034	61,916,214	18,994,180
業務活動による収入	30,145,590	39,974,627	9,829,037
運営費交付金による収入	11,136,977	11,136,977	-
補助金による収入	7,474,933	18,040,763	10,565,830
公演事業による収入	2,392,287	1,682,126	△ 710,161
公演受託事業による収入	2,350,957	2,095,630	△255,327
養成事業による収入	21,437	20,499	△ 938
基金運用による収入	1,010,326	1,015,532	5,206
その他の収入	5,758,673	5,983,100	224,427
投資活動による収入	1,906,407	1,311,749	△ 594,658
施設整備費補助金による収入	906,407	311,663	△ 594,744
その他の収入	1,000,000	1,000,086	86
財務活動による収入	600,000	600,582	582
民間出えん金受入れによる収入	600,000	600,582	582
前年度よりの繰越金	10,270,037	20,029,256	9,759,219

《主な増減理由》

(1) 資金支出

・業務活動による支出については、固定資産取得額が減少したこと等により、15,790,716千円の増となった。

(2) 資金収入

- ・補助金による収入については、活動継続・技能向上等支援事業費補助金について令和3年度中に額の確定が行われず、補助金の返還を行わなかったこと等のため、10,565,830千円の増となった。
- ・公演事業による収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により劇場入場料、劇場使用料等が減少し、710,161千円の減となった。
- ・施設整備費補助金による収入については、概算払が令和3年度中に行われなかったため、594,744千円の減となった。

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和3年度の稼働率の実績:P.124 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 令和3年度の稼働率の実績:P.124 参照
新国立劇場 舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパトリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	6	東京地区(5) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があるため、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 22 戸(入居予定含む)、廃止宿舎・廃止予定宿舎を除く)、入居率 56.4%。

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 100,000 千円
有価証券： 10,899,621 千円
投資有価証券： 65,597,490 千円
長期性預金： 2,900,000 千円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

芸術文化振興基金については、芸術文化振興基金の運用の基本的考え方を踏まえ、毎年度芸術文化振興基金運用計画を策定し、長期的・安定的な運用を行っている。(運用状況は I-1-(3) 基金の管理運用 を参照)

政府出資金見合いの資金については、「政府出資金見合いの資金及びその運用に関する基準」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業を安定的に継続するため、可能な限り長期的な運用を行うこととしている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

目黒職員宿舎・船橋第三職員宿舎・習志野職員宿舎を令和 4 年度中に国庫納付するため、現況の調査を行った。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、令和 3 事業年度の当期総利益は 35,330 千円である。

《利益が生じた主な理由》

[収入支出決算]

- (1) その他の助成事業収入について、前年度助成金の減額や取下げに伴う精算金等が、年度計画予算に対し 40,181 千円増加した。
- (2) 公演事業収入が、年度計画予算に対し 727,170 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 劇場入場料収入の減 577,802 千円
 - ・ 附属施設使用料収入の減 54,325 千円
 - ・ 劇場使用料収入の減 47,087 千円
 - ・ 解説書収入の減 24,123 千円
- (3) 一般管理費が、年度計画予算に対し 127,989 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 人件費の減 77,130 千円
 - ・ 保守修繕費の減 48,219 千円
- (4) 事業費が、年度計画予算に対し 132,085 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 国立劇場事業費の保守修繕費の減 53,261 千円
 - ・ 国立劇場事業費の業務委託費の減 28,308 千円
 - ・ 助成情報提供等事業費の非常勤職員手当の減 11,738 千円
 - ・ 助成情報提供等事業費の旅費交通費の減 8,742 千円
- (5) 基金助成事業費が、年度計画予算に対し 175,015 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 業務委託費の減 130,555 千円
 - ・ 助成費の減 87,535 千円
- (6) 公演事業費が、年度計画予算に対し 310,835 千円減少した。その主な内容は次のとおり。
 - ・ 出演費の減 214,800 千円

[損益計算]

- ・ 有価証券の償却原価法による増価により、1,975 千円の収益の増となった。

2. 運営費交付金債務

令和4年3月31日現在における運営費交付金債務残高は83,829千円である。

(単位：千円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額				引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		
11,220,806	10,088,133	503,917	—	221	544,707	83,829

3. 外部資金の獲得状況

区分	件数(件)	金額(千円)
文化庁芸術祭主催公演等における負担金による収入	3	47,449
助成調査研究への寄附	1	200,000
芸術文化振興基金に対する民間出せん金	19	600,582
文化芸術復興創造基金	115	64,477
国立劇場基金(くろごちゃんファンド)	287	5,549
国庫財源以外による外部資金の獲得状況(小計)	425	918,057
文化芸術振興費補助金(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)	1	25,000
文化芸術振興費補助金(文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業)	5	21,183
コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金	8	281,220
国庫財源による外部資金の獲得状況(小計)	14	327,403
合計	439	1,245,460

- ・文化芸術振興費補助金(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)
補助金を獲得し、感染症対策を十分に実施したうえで、公演を実施した。
- ・文化芸術振興費補助金(文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業)
補助金を獲得し、公演の実施に必要な感染症予防対策(消毒液・パーテーション・フェイスシールド・非接触体温計・サーモグラフィ等の購入等)を行った。
- ・コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金
補助金を獲得し、公演の実施及び当該公演の海外向け動画の配信を行った。
- ・効果的な寄附金募集の遂行のため、外部コンサルティング会社に寄附金事業の戦略立案及び実行支援を委託し、職員を対象としたファンドレイジング研修の実施や、調査分析をふまえた戦略の提案を得た。
- ・国立劇場基金(くろごちゃんファンド)では、口座振替やオンラインでのクレジットカード決済による「継続寄附」の仕組みも導入した。また、各種媒体での広報のほか、3月歌舞伎公演や研修修了発表会では「くろごちゃん」の着ぐるみや担当者がロビーに立ち、寄附金事業の周知に努めると共に、寄附の募集をした(ロビーでの呼びかけによる寄附金合計：478,378円・継続寄附申込み：53件)。

4. 目的積立金等の状況

(単位：百万円、%)

	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
前期中期目標期間繰越積立金	570	570	570	570	
目的積立金	0	0	0	0	
積立金	0	0	0	0	
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	0	0	0	0	
運営費交付金債務	5	104	84	84	
当期の運営費交付金交付額 (a)	10,089	10,449	11,503	11,137	
うち年度末残高 (b)	5	104	84	84	
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	0.05%	1.00%	0.73%	0.75%	

IVその他業務運営に関する重要事項

IVその他業務運営に関する重要事項	p.196
1 その他業務の運営に関する取組	p.201
2 施設及び設備に関する計画	p.205
3 人事に関する計画	p.206
4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項	p.209

IV その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

(1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価

振興会が行う自己点検評価、事業の実施結果に対する当該分野の外部専門家からの意見聴取等を踏まえ実施
評価結果の公表、評価結果の組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映
業務運営の効率化・国民に対するサービスの向上等に努める

(2) 運営費交付金等を有効に活用、理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実について検討、その結果を逐次運営管理に反映させるなど内部統制の充実・強化

(3) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報セキュリティ対策

法令等に基づき適切に情報の開示を行う

政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進

3 施設及び設備に関する計画

施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上、バリアフリー化等のため、各劇場等施設について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について、「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、振興会が実施主体となってPFI事業実施に向けた手続きを推進

事業推進にあたっては関係省庁の協力を得て事業実施に必要な体制の強化を図る

4 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 職員に対する実務研修等の充実により、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行い、より効率的な業務運営を図る

② 適切な労務管理の実施

③ 多様な働き方の検討

ウ 人材確保・育成方針を策定し、ア及びイの取組の向上を図る

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

(参考)

中期目標の期間中の人件費見込み 9,985百万円

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次の必要な費用に充てる

(1) やむを得ない事由により前期中期目標期間中に完了しなかった業務

(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務

(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理

(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るた

め、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

なお、委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

IV その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 令和2年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を実施

自己点検評価をもとに、評議員会に置かれた外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を実施

評価結果は公表し、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映

イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を充実するとともに、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化を図る

ウ リスク管理委員会において、引き続き業務ごとに内在するリスクを把握するとともに、リスク顕在時における対応策を策定

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進
情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
より効果的な情報発信に向けてホームページの体裁の検討を進める

(2) 情報セキュリティ対策

ア 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、実施手順等関係文書の整備、役職員の研修、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る

イ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応

ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練を実施、組織的対応能力の強化に取り組む

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、政府及び都道府県の要請等を踏まえ、必要に応じて専門家の意見を聴取することとし、観客、出演者・関係者及び役職員の安心・安全に配慮した適切な業務運営を実施

2 施設及び設備に関する計画

(1) 令和2年度に策定した「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、施設・設備の状態を常に把握し、施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進

施設・設備及び舞台設備の機能維持に必要なメンテナンスを実施

国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備(以下「国立劇場等」という。)の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(以下「PT」という。)により策定された「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づき、実施方針を策定・公表、特定事業を選定・公表

なお、国立劇場再整備に向けた検討及び調査研究については、PT、評議員会等の意見を踏まえながら、国立劇場再整備委員会が中心となって実施

(2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施

その際、国立劇場等については、今後の再整備計画との関連に留意

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成

イ 次の取組により、事務能率の維持、増進を図る

① 各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施

② 国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る

③ 多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討

ウ ア及びイの取組の向上を図るため、人材確保・育成方針を策定

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う
また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評価	C
自己評価の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年12月に国立劇場大劇場地下1階において職員が転落する事故が発生し、振興会及び事故発生当時の現場責任者が労働安全衛生法違反の疑いで書類送検された。この労働災害事故を踏まえて、再発防止策を講じた。更に対応を強化するため、令和4年度に実施する法務・コンプライアンス室の設置、劇場安全強化月間の設定及び「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」の改訂について、準備を進めた。 ・文化芸術関係者及び振興会関係者を対象として、文化庁と共同で新型コロナウイルスワクチン職域接種を実施した。 ・「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年7月30日法律第117号)に基づいて、国立劇場再整備等事業に関する特定事業の実施に関する方針の公表、特定事業の選定及び客観的評価の結果の公表等を、当初の予定どおり行うことができた。 ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。 ・両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	<p>1 その他業務の運営に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響下において、理事長のリーダーシップの下に着実に業務を執行するため、9月、1月に理事長から全役職員にメッセージを発信。振興会の財政状況と将来に向けた新しい取組について言及した。 ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映した ・適切な情報セキュリティ対策を講じた。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、ガイドライン・実施要領等に従って、公演・展示等の各事業を実施した。 ・文化芸術関係者及び振興会関係者を対象として、文化庁と共同で新型コロナウイルスワクチン職域接種を2回実施した(1回目：7/5～9、文化芸術関係者2,055名、振興会関係者1,145名、合計3,200名。2回目：8/9～13、文化芸術関係者2,059名、振興会関係者1,141名、合計3,200名)。 <p>2 施設及び設備に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場再整備等事業において「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年7月30日法律第117号)(以下、「PFI法」という。)に基づく事業がより効率的かつ効果的に実施されるよう、特定事業の実施に関する方針の公表に先立ち、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」を取りまとめ、振興会ホームページにて公表した(4月)。 ・PFI法第15条第1項の規定により、「PFI事業に係る実施方針の策定の見直し」を振興会ホームページにて公表した(9月)。 ・PFI法第5条第1項の規定により、「特定事業の実施に関する方針」を定め、同条第3項の規定により振興会ホームページにて公表した(11月)。また、寄せられた質問(1,155件)に対して回答を作成し、振興会ホームページにて公表した(2月)。 ・都市計画(霞が関一団地の官公庁施設)の見直しについて、都市計画変更の決定が行われ、国立劇場の敷地等が一団地の官公庁施設の区域から削除された(11月)。 ・国立劇場再整備に関するプロジェクトチームにおいて「国立劇場の再整備に係る整備計画」が一部改定された(3月)。 ・PFI法第7条の規定により、特定事業「国立劇場再整備等事業」を選定し、同法第11条第1項の規定により客観的評価の結果を振興会ホームページにて公表した。これにより、PFI事業として実施することが決定した(3月)。

	<p>3 人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施。 <p>4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営。
<p>課題と対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のメンタルケアについて、引き続き研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

①自己点検評価について

《2年度自己点検評価の経過》

3年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
3年3月	各部において自己点検評価を実施
3年3月末～5月	総務企画部計画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
3年5月11日	理事長により自己点検評価を決定
3年6月28日	評議員会において、2年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

②外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第56回	6/28	令和2年度評価及び令和2年度決算についての審議、令和2年度評価結果についての報告、令和3年度計画実施状況の報告、令和4年度計画についての審議、国立劇場再整備事業に係る審議等
	第57回	10/27	
	第58回	3/24	
評価委員会	令和2年度第2回	5/12*	令和2年度評価の実施 *令和2年度第2回は書面開催
	第3回	6/11	
	第4回	6/21	
	令和3年度第1回	10/14	
芸術文化振興基金 運営委員会	第57回	9/21	令和2年度評価の決定、令和4年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和4年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和4年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等 令和3年度第58回は書面開催
	第58回	1/28	
	第59回	3/14	
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	6月(書面) ・3/23	令和3年度公演計画の説明・意見聴取等、 令和3年度公演状況の報告、 令和4年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	7月(書面) ・3/25	
	舞踊公演専門委員会	7月(書面) ・3/30	
	邦楽公演専門委員会	7月(書面) ・3/28	
	雅楽・声明公演専門委員会	7月(書面) ・3/24	
	民俗芸能公演専門委員会	7月(書面) ・3/30	
	大衆芸能公演専門委員会	7月(書面) ・3/29	
	能楽公演専門委員会	2/2・ 3/7(書面)	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	7月(書面) ・3/7	
	短期公演等専門委員会(文楽劇場)	7月(書面) ・3/4	
事業委員会	養成事業委員会	7月(書面) ・2/28	令和2年度評価結果の報告、令和3年度の事業実施状況、令和4年度事業計画についての意見聴取等
	調査事業委員会	7月(書面) ・3/9	
	養成事業委員会(おきなわ)	3/14	
	調査事業委員会(おきなわ)	3/29	
	公演事業委員会(おきなわ)	8/25 ・3/1	

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化

①内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- 役員会を毎月2回開催し、業務に係る重要事項を審議(開催回数：24回)
- 中期計画、年度計画の遂行に関わる、目標達成状況、収支状況、予算執行状況等を定期的に理事長に報告
- 状況把握に基づき、理事長より各部署に改善等を指示
- 各部署は対策を案出し、措置状況を役員会で報告

(b) 情報伝達

- 新型コロナウイルス感染症の影響下において、理事長のリーダーシップの下に着実に業務を執行するため、9月、1月に理事長から全役職員にメッセージを発信。前年度決算と今年度の状況について、また、将来に向けた新たな取組について言及。
- 状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇談会」において随時協議し、①役員会、②担当役員から関係部署、③又は総務・人事労務担当課等からの連絡により、周知と意思疎通を図ってきた。
- 全役員及び総務企画部長による会合を役員会の前に実施し、情報共有を行った。
- 部長会を開催し、各部相互における情報共有を行った(開催回数：10回)。
- 事故等発生時の際は、定められた方法により関係者間の情報共有、理事長への報告を行った。

(c) 内部統制委員会等の定期開催

- 理事長、理事、内部統制推進総括責任者で構成する内部統制委員会を開催し、内部統制の整備に係る取組等を審議。(第1回：9/9、第2回：1/24～1/28(書面開催)、第3回：3/17)
 - ◇ 業務方法書第5章の規定に係る内部統制システムの整備状況を確認。
 - ◇ 事業継続計画を策定。
 - ◇ 内部統制研修：常勤職員を対象に、書面による研修を実施(3/29～5/31、2/1～2/28)。

②監査

(a) 監事監査

定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(令和2事業年度決算監査及び令和3事業年度業務監査)の経過》

4/13	令和3事業年度監査計画 理事長へ提出
6/11	監事と会計監査人とのディスカッション(令和2事業年度決算監査報告)
6/11	令和2事業年度監査報告 理事長へ提出 ※指摘すべき重大な事項は認められなかった。
1/12	監事と会計監査人とのディスカッション(令和3事業年度監査計画説明)

(b) 内部監査

内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

8/31	内部監査計画の作成及び監事への通知
9～2月	監査実施
2/15	監査報告書 理事長へ提出(2/17 監事にデータを送付) ※改善を要すると認められた点については、報告書に意見として記載した。 「法人の意思決定プロセス(主催公演の実施に係る意思決定)」について、優先的に対応措置が必要と認めた。 ※改善を要する事項については、所管の部長宛に必要な措置を講じるよう指示(2/21)

ウ リスク管理委員会

- リスク管理委員会を開催した(第1回：10/13、第2回：11/29～12/3(書面開催)、第3回：3/3～3/9(書面開催))。
 - ◇ 重点対応リスクに係る対策の構築を検討。
 - ◇ 業務フローを作成し、内在するリスクの洗い出し及び評価を実施。
 - ◇ リスク顕在時の広報方針を策定。

エ 情報開示の推進

- 公文書等の管理に関する法律(平成21年法律第66号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 適切な情報セキュリティの確保

- 新たに Windows10Pro パソコンをネットワークに安全に接続できるようにするため、グループポリシー機能を強化した。
- ポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部のeラーニングシステムを活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤)、アルバイト及び医師・看護師等利用者全員を対象に実施した。
- 標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的に、訓練用の標的型攻撃メールの受信体験を通じて同攻撃への適切な対処を職員に身につけさせることを意図した「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。
- 各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施した。

- ・内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供される脆弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行った。また、年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を適宜周知した。
- ・情報セキュリティポリシーに基づき、助成業務システムを対象としてセキュリティ監査を行った。

イ 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応

- ・振興会ホームページについて第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター等から公表されるソフトウェアの脆弱性情報に対して、随時振興会内の全情報システムを調査し、必要な対策を行った。
- ・全職員に対しウイルス情報、不審メール情報等を電子掲示板やメール等で随時周知した。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

《緊急事態宣言・まん延防止等重点措置による振興会事業への影響》

	本館・演芸場・能楽堂・新国立劇場	文楽劇場	国立劇場おきなわ
4月		4/5	
	4/12 4/24	・営業時間 20時まで	4/12
	4/25	・公演を中止	・収容率 50%以内
5/11 5/12	・展示室等を休室		
5月		4/25	
		・公演を中止 ・展示室等を休室	5/22
6月		5/31	5/23
	6/1	[土・日] ・公演を中止 ・展示室等を休室	・土・日の公演を中止 ・展示室等を土・日休室
	6/20	[平日] ・収容率 50%以内 ・営業時間 21時まで	
7月	6/20	6/20	6/20
	6/21	・営業時間 21時まで	6/21
8月	7/11	7/11	・収容率 50%以内
	7/12	・営業時間 21時まで	
9月		8/1	8/6
		・収容率 50%以内 ・営業時間 21時まで	8/7
10月		8/2	[土・日・祝日] ・公演を中止 ・展示室等を休室
		・収容率 50%以内 ・営業時間 21時まで	[平日] ・収容率 50%以内
11月	9/30	9/30	9/30
12月			
1月			1/9
	1/21	・営業時間等の制限なし	1/27
2月		・営業時間等の制限なし	2/20
3月	3/21	3/21	

- …緊急事態宣言(公演中止や無観客での実施を要請)
- …緊急事態宣言(土・日・祝日の公演中止や収容率の制限を要請)
- …まん延防止等重点措置(営業時間等の制限を要請)

- ・ガイドライン・実施要領等に従って、公演・展示等の各事業を実施した。
- ・公演の実施に際しては、事前に出演者・スタッフ等にPCR検査を実施するなどの対策を講じた。

- ・各劇場・展示室等では掲示・場内アナウンス等による注意喚起、消毒液の設置、職員等のマスク着用、換気の強化等の取組を実施した。
- ・前年度から引き続き実施している新型コロナウイルス感染症対策につき、次のことを追加で実施した。
 - ◇ 対策への取組やお客様へのお願いに関する内容をより分かりやすく伝えるため、写真又はスライドで紹介するページを作成し、各劇場ホームページに掲載した。
 - ◇ 前年度に実施済の国立劇場おきなわ以外の全館で、客席、ロビーをはじめとする施設の抗菌・抗ウイルスコーティング施工を実施した。
- ・新型コロナウイルスの感染症の拡大防止のため中止とした公演について、チケット代金の払戻しを行った。また、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の発出期間中に行った公演については、感染予防のために観劇を取り止めた購入者に対してチケット代金の払戻しを行った。
- ・前年度から続く新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、特に学校等の大規模団体が来場する各館の鑑賞教室の実施を前に、感染防止を目的とする鑑賞申込み団体からの中止の申し入れへの対応につき、本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場との間で共通の基準を明確に定めた。
- ・文化庁と共同で新型コロナウイルスワクチン職域接種を国立劇場本館において2回実施した(各回3,200名)。
 - ◇ 日程：1回目…7/5～9、2回目…8/9～13
 - ◇ 対象者：文化芸術関係者(1回目2,055名、2回目2,059名)、振興会関係者(1回目1,145名、1,141名)
- ・さらに、国立新美術館における職域接種(8/19～10/7。振興会関係者14名)、日本芸術院における職域接種(3/15～17。3回目接種。振興会関係者266名)への協力を行い、職員及び劇場関係者へのワクチン接種を促進した。

(4) 労働災害事故の再発防止策

■事故の概要等

- ・令和2年12月に、国立劇場大劇場地下1階において、横4m・縦2m・高さ2.85mの舞台備品運搬用台車を使用して舞台備品を載せて収納場所へ移動する作業を行っていた職員が、台車上床面から転落する事故が発生した。振興会及び事故発生当時の現場責任者が、労働基準監督署により労働安全衛生法違反の疑いで書類送検(注)された。

(注)令和4年4月に東京簡易裁判所から、振興会及び事故発生当時の現場責任者がそれぞれ罰金20万円の略式命令を受けた。略式命令を受け、速やかに罰金を納付するとともに、理事長及び担当理事2名は役員報酬を自主返納し、事故発生当時の現場責任者であった元職員を戒告相当とした。

■再発防止策

- ・振興会内に事故調査委員会を設置し、外部有識者の意見も聞いて本件事故の原因分析と再発防止策の検討を行うとともに、役員会で早急に再発防止策を講じることを決定し、下記の再発防止策を実施した。
- ・事故発生時に使用していた舞台備品運搬用台車の使用を即刻禁止にするとともに、備品収納スペースを別に確保して作業内容を全面的に見直し、事故が発生した同じ内容の作業が発生しないよう再発防止策を講じた。
- ・高所で行う作業の洗い出しと作業内容等の再点検を実施した上で、必要に応じて作業内容等の見直しや防護柵・手摺等の設置など安全対策を講じた。
- ・危険を伴う作業全般にかかる作業手順等の再点検を行うとともに、保護具の着用等の安全対策を再確認した。
- ・各作業現場における危険箇所等の再点検を行った上で、危険箇所の解消や注意喚起の標示板の設置等を行った。
- ・現場責任者の役割の再確認及び役職指定による選任を行うとともに、現場責任者による作業内容の事前説明や注意事項の周知徹底等を図った。
- ・作業マニュアルである「舞台安全運用の手引き」の記載内容の点検見直しを行い、専門の第三者機関による確認を受けた。
- ・未受講者には、「フルハーネス型墜落制止用具特別教育」及び「足場の組立て等作業従事者特別教育」を受講させるなど、安全教育を推進した。
- ・舞台安全保持委員会の構成員を見直し安全管理体制を強化するとともに、法令上設置が必要な業種ではないが、安全委員会に準ずる組織として衛生委員会を改組した安全衛生委員会を任意で設置し、組織体制の強化を図った。
- ・専門の第三者機関による安全診断を受診し、指摘のあった安全強化については速やかに対策を講じた。
- ・更に対応を強化するため、令和4年度に実施する法務・コンプライアンス室の設置、劇場安全強化月間の設定

及び「国立劇場の舞台技術—伝統芸能の上演のために—」の改訂について、準備を進めた。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 年度計画に沿った整備の推進、国立劇場等の再整備

ア 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づく整備

- 本館等の施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、再整備までの期間、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して計画的に保守・点検等を行うこととしている。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立劇場再整備事業関連調査等	311,300 千円
----------------	------------

《運営費交付金による施設・設備の整備等》

国立能楽堂空調等設備更新工事(IV期)	38,170 千円
国立劇場おきなわ大劇場・小劇場・可搬型ワイヤレスマイク設備整備	35,211 千円
新国立劇場空調設備改修工事	12,540 千円
国立文楽劇場小ホール改修(空調機・天井)工事	12,100 千円
新国立劇場電気室高圧真空遮断器更新工事	11,330 千円
新国立劇場中劇場拡声用音響調整卓及び小劇場音響調整卓オーバーホール	10,669 千円
国立劇場小劇場舞台機構改修工事	10,120 千円

イ 国立劇場本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- 国立劇場再整備等事業に係る協議を関係省庁並びに千代田区、東京都、首都高速道路株式会社等の関係機関と行った。
- 国立劇場再整備等事業の検討体制強化のため、国立劇場再整備本部職員の増員を図り、新たに「事業調整課」を設置した(5/6)。
- 国立劇場再整備等事業において「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年7月30日法律第117号)(以下、「PFI法」という。)に基づく事業がより効率的かつ効果的に実施されるよう、実施方針の公表に先立ち「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」を取りまとめ、振興会ホームページにて公表した(4/26)。
- 国立劇場再整備等事業のPFI事業手続きにおける業務要求水準書の策定を行うため、香山・山下PMC設計共同体に技術アドバイザー業務を委託した(4/15～R4.3/31)。
- 国立劇場再整備等事業のPFI法に基づく民間事業者の募集及び選定手続きを行うため、PwCアドバイザー合同会社に総合的なアドバイザー業務及び都市計画変更手続きに係る業務を委託した(4/21～R4.3/31)。また、要求水準書策定における運営業務に関する検討を行うため、仕様を変更(業務追加)した(6/16変更契約)。
- 国立劇場再整備等事業の基礎資料とするため、株式会社建築地盤に現地敷地の地盤調査業務を委託した(4/8～8/31)。その他敷地測量、建物等調査、地歴調査、建物図面データ化、アスベスト分析調査等を行うため、各社に業務を委託した。
- 国立劇場再整備等事業について、「文化観光拠点としての機能強化」に資する展示機能と普及・発信機能の概要の整理、施設整備、維持管理・運営に関する検討を行うため、株式会社丹青社に検討業務を委託した(4/21～8/31)。
- 業務要求水準書(案)の劇場施設に関する内容について実演家団体等への意見聴取を行った。(7月、8月)
- PFI法第15条第1項の規定により、「PFI事業に係る実施方針の策定の見通し」を振興会ホームページにて公表した。(9/1)
- 令和3年度第1回国立劇場再整備委員会を開催し、実施方針(案)・業務要求水準書(案)の概要等について確認した(9/9)。
- 国立劇場再整備等事業における普及・発信機能に係る検討業務契約について、所蔵する美術品等の保存・展示環境の調査及び普及・発信機能の各機能におけるイメージパースの作成を追加する仕様変更を行った(7/27変更契約)。
- 国立劇場再整備等事業に係るアドバイザー業務契約について、新たな国立劇場内に整備するレストラン・カフェ、店舗(ショップ)、自動販売機、事務室の使用許可に基づく適切な使用料の水準に関する鑑定調査書の取得業務を追加する仕様変更を行った(9/22変更契約)。

- ・PFI 事業に係る特定事業の選定及び民間事業者の選定を行うにあたり、評価の客観性を確保するため、振興会に国立劇場再整備等事業有識者委員会を設置した。第1回を開催し、事業概要の説明、スケジュールの説明、確認を行った(10/15)。
- ・令和3年度第2回国立劇場再整備委員会を開催し、実施方針の公表資料の内容等について承認された(11/8)。
- ・国立劇場再整備に関するプロジェクトチームの会合が書面審議により開催され、再整備される国立劇場の規模及びスケジュール(実施方針の公表含む)について承認された(11/9・10)。
- ・PFI 法第5条第1項の規定により、「特定事業の実施に関する方針」を定め、同条第3項の規定により振興会ホームページにて公表した(11/10)。
- ・都市計画(霞が関一団地の官公庁施設)の見直しについて、国土交通省の協力のもと所管の東京都と協議の結果、都市計画審議会(10/26)を経て、都市計画変更の決定(11/26)が行われ、国立劇場の敷地等が一団地の官公庁施設の区域から削除された。
- ・国立劇場再整備等事業に係る技術アドバイザー業務契約について、国立劇場本館の建築史的評価報告書の作成、国立劇場本館等の記録の各業務を追加する仕様変更を行った(12/16 変更契約)。
- ・国立劇場再整備に関する永田町駅・半蔵門駅からの徒歩アプローチの改善等に係る検討会が設置され、警視庁、国土交通省東京国道事務所、最高裁判所、首都高速道路株、千代田区、東京地下鉄株、内閣官房、振興会、文化庁、森ビル株の出席で第1回が開催された(12/17)。
- ・「特定事業の実施に関する方針」(11/10 公表)に関する質問への回答を振興会ホームページにて公表した(2/24)。
- ・国立劇場再整備等事業に係る技術アドバイザー業務契約について、国立能楽堂の記録の業務を追加する仕様変更を行った(2/25 変更契約)。
- ・国立劇場再整備等事業有識者委員会(第3回)を開催し、特定事業の選定、事業者選定基準等について意見を聴取した(3/4)。
- ・国立劇場再整備に関するプロジェクトチームの会合が書面審議により開催され、「国立劇場の再整備に係る整備計画」について、その後の進捗を踏まえ一部改定について承認された(3/7)。
- ・国立劇場再整備等事業に係るアドバイザー業務契約について、付帯事業に係る計算書等の作成、法定共用部分に係る管理規約案の作成、定期借地権に関する課題の検討、Libor 公表停止に伴う基準金利に関する資料の作成、事業提案説明会の実施に関する検討及び資料の作成、有識者委員会における提案書の審査・採点に関する検討及び関連資料の作成の各業務を追加する仕様変更を行った(3/11 変更契約)。
- ・令和3年度第3回国立劇場再整備委員会を開催し、特定事業の選定、入札公告について承認された(3/17)。
- ・PFI 法第7条の規定により、特定事業「国立劇場再整備等事業」を選定し、同法第11条第1項の規定により客観的評価の結果を振興会ホームページにて公表した。これにより、PFI 事業として実施することが決定した(3/24)。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、適切な人事交流の実施

- ・令和3年度は、新規採用の事務職員、非常勤嘱託からの採用試験を経た舞台技術職員、58歳以上を対象とした高齢者雇用制度による職員及び任期付きの職員を採用した。
- ・国の機関、国立大学法人及び地方自治体等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣し、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	19人	国の機関への実務研修者	1人
千葉市からの出向者	1人	国の機関への職員の出向	3人
出雲市からの出向者	1人	国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣	2人
独立行政法人国立文化財機構からの出向者	2人	新国立劇場運営財団への職員の派遣	3人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1人		
公益財団法人札幌市芸術文化財団からの出向者	1人		
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1人		

北九州市からの実務研修者	1人	
一般財団法人建築コスト管理システム研究所	1人	

イ 事務能率の維持、増進

①各種研修の実施、適切な労務管理

(a) 各種研修の実施

令和3年度の研修の実施にあたっては、主に階層別の研修について、種類と対象年次を中心に整理し見直しを行った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえ、研修内容に応じて一部をeラーニングで実施した。加えて、新規感染者数が落ち着いた夏場から初冬にかけては参集型の研修を実施した。冬季以降は新規感染者数が大きく増加したため、参集型の研修は中止又は延期とした

研修名	実施日	参加者数
新入職員研修	4/1～4/7	29名
ハラスメント防止研修(eラーニング講座)	5/14～5/31	33名
パソコン研修(eラーニング講座)	9/1～9/30	54名
パソコン研修(eラーニング講座)	10/1～10/31	45名
部長業務研修(1年次職員)	10/20・11/15	15名
課長業務研修(1年次職員・2年次職員)	12/14・12/24・1/14	29名
公演研修(1年次職員)	11/26・12/3・12/22・1/17	15名
営業研修(1年次職員・2年次職員)	1/12・1/18・3/28	29名
調査研究業務研修(1年次職員～10年次職員)	2/28～3/13	33名
若手職員ステップアップ研修	12/17・12/21	29名

(b) 適切な労務管理

(1) 勤怠管理システムの導入

- ・ 職員の勤怠管理を、出勤簿への押印に基づき行っていたが、平成30年6月29日に働き方改革関連法案が成立し、平成31年4月1日より管理監督者も含め、全ての労働者の労働時間の状況を客観的な方法その他適切な方法で把握することが義務付けられた。振興会でも令和3年9月から勤怠管理システム「勤革時」の試験導入を開始し、令和4年1月から常勤職員への本格運用を開始した。

(2) ハラスメント防止への取組

- ・ ハラスメント防止研修 5/14～5/31(参加者：33名)

(3) メンタル不全対策の実施

- ・ 新卒採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した(9/1～3/31)。メンターである職員は、メンター研修により、メンタリングの基本となる傾聴や質問といったスキルを習得した。
- ・ 引き続き、メンタルヘルスに関する相談窓口業務を外部専門業者に委託し、連携を密にとりながら電話・メール・面談等により、プライバシーの保護に配慮しつつ、職員が気軽に相談できる環境を整えた。
- ・ 産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、メンタル不全者の復職支援、長時間労働者と産業医との面談等の相談業務を実施した。
- ・ ストレスチェックを実施した(10/15～10/29、375名)。
- ・ 特定の年次の若手・中堅職員に対してメンタルヘルスカウンセリングを実施し、メンタルヘルスの維持・向上を図った(12/3、12/17、12/24、2/9、2/18、2/25、29名)。

- (4) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出及び事業活動の継続の状況に応じ、以下の期間において、勤務体制の特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を実施した。

②外部研修への職員の派遣

研修名	実施日	参加者数
ファンドレイジング研修 *	4/26、5/13、6/8、6/29、7/26	のべ84名
公文書管理研修 I(独法等向け第1回)	5/26	1名
クレーム対応研修 初級編(Aコース)	5/26～5/29	20名
クレーム対応研修 中級・上級編(Bコース)	5/27	4名

クレーム対応研修 中級・上級編(Cコース)	6/8	1名
2021年度東京大学職員階層別研修(課長級・副課長級・係長級(初任者))	7/1~9/30	1名
服務・懲戒実務研修会	7/2	1名
公文書管理セミナー	7/2	1名
公文書管理研修Ⅱ(第1回)	7/15~7/16	1名
社会共生セミナー	8/12	6名
アーカイブズ研修Ⅰ	8/23~8/27	1名
「公募型」養成課程(第三級陸上特殊無線技士)	8/23	3名
給与実務研修会(諸手当関係)	8/30	1名
給与実務研修会(人事院勧告説明会)	9/7	1名
令和3年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第1回)	9/16~9/17	2名
第59回政府関係法人会計事務職員研修	9/29~11/11	2名
甲種防火管理再講習	9/30	1名
足場の組立て等作業従事者特別教育(PAC)	10/1	3名
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育(PAC)	10/2	3名
情報公開セミナー	10/4	1名
非常勤職員制度実務研修会	10/5	1名
大学図書館員のためのIT総合研修	10/13~10/15	1名
給与実務研修会(俸給関係及び給与の支給関係)	10/18	1名
令和3年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第2回)	10/27~10/28	2名
舞台技術講座44th 舞台技術安全講座	10/28~10/29	7名
個人情報保護セミナー(その1)	10/29	1名
苦情相談実務研修会	11/5	1名
2021年度・官公庁向けリース研修会	11/15~11/29	1名
個人情報保護セミナー(その2)	11/30	1名
公文書管理研修Ⅱ(第2回)	12/7~12/8	1名
令和3年度図書館等職員著作権実務講習	12/9~12/10	1名
	12/13~12/27	3名
全国劇場・音楽堂等職員 舞台技術研修会	12/20~12/22	9名
全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会	1/11~2/28	20名
令和3年度政策評価に関する統一研修(講義型研修)	1/20~2/28	2名
Technical Theatre Training Program 舞台技術講座45th 安全セミナー	1/28	4名
給与実務研修会(初任給決定・扶養手当等の認定)	3/1	1名
防火・防災管理講習	3/15~3/16	1名
KAAT 舞台技術講座 2021「舞台で働くすべての人に共通理解を」【プログラムB】「高所作業をイチから学ぶ」	3/19	5名
足場組立て等作業従事者特別教育(PAC)	3/28	22名
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育(PAC)	3/29	11名

* 振興会における寄附金事業の効果的な実施のため、外部コンサルティング会社による「ファンドレイジング研修」を実施した。全4回からなる(4/26、5/13 は同内容)参加型の研修であり、寄附金募集の基本的な知識の習得とともに、寄附金事業の取組への前向きな機運を醸成した。

③多様で柔軟な働き方を推進する制度導入の検討

- ・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための特別措置として、在宅勤務の実施、時差出勤の奨励、平日が勤務日の職員を対象とした土日祝日への振替出勤の奨励、臨時休校の影響を受ける職員のための特例等を実施した。
- ・男性職員の育児休業の取得への取組として、対象職員への制度説明を実施した。

ウ 人材確保・育成方針の策定

- ・以下の取組の向上を図るため、人材確保・育成方針の策定を継続した。
- ・職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成すること。

- ・各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施すること。
- ・国際力を養う海外研修を含め、外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討すること。

(2) 人員に係る指標

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(令和2年度ベース)。
- ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

4月1日付けで、4月1日から3月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について67,019,300円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、3月16日付けで676,604,000円に変更した。委託費の確定額は676,604,000円である。

イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的な提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

①委託費の推移

(単位:千円)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
金額	656,320	664,059	690,828	679,753	676,604
前年度比	100.6%	101.2%	104.0%	98.4%	99.5%

②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め、利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ホームページで競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等

入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減	対前々年度増減
光熱水量	電気使用量	1,838,940 kwh	△ 1.1%	△ 14.8%
	ガス使用量	23,101 m ³	14.8%	△ 44.5%
	水道使用量	1,473 m ³	△ 24.1%	△ 65.1%
廃棄物	一般廃棄物	1,300 kg	5.7%	△ 76.4%
	産業廃棄物	836 kg	178.7%	△ 34.7%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	515,185 枚	△ 5.0%	△ 18.9%
	用紙購入枚数	507,000 枚	△ 5.7%	10.2%

※前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止があったため、使用量・処理量が大幅に減少していたが、当年度は概ね計画どおりに公演を実施したため、前年度と比較すると増加した。しかし、入場者数の減少やテナントの撤退により、前々年度と比較すると減少している。ただし、水道使用量はテナントの撤退のため、前年度からさらに減少している。

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

令和3年4月14日付けで令和3年4月1日から令和4年3月31日までの現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について3,954,093,000円を限度として締結。その後、業務委託契約の限度額を、令和4年3月31日付けで4,446,986,000円に変更した。委託費の確定額は4,446,986,000円である。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

カ 情報開示の推進

- ・公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ホームページにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

① 委託費の推移

(単位:千円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
金額	4,228,851	4,107,897	4,061,155	4,440,663	4,446,986
前年度比	105.8%	97.1%	98.9%	109.3%	100.1%

②自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業にかかる支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。また賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和 3 年度の外部委託契約 54 件のうち、委託業務 37 件(うち複数年契約 28 件)、物品の製造販売工事等 5 件の合計 42 件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が 1 件ある。令和 3 年度に行った入札及び公募は 26 件(うち複数年契約 12 件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが 21 件となっている。振興会との共同での入札は振興会が担当した 1 件が行われた。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

事項	区分	使用量/処理量	対前年度増減	対前々年度増減
光熱水量	電気使用量	6,197,309 kwh	11.9%	△ 0.3%
	ガス使用量	371 m ³	△ 92.5%	△ 93.9%
	水道使用量	10,161 m ³	9.9%	2.7%
廃棄物	一般廃棄物	24,128 kg	33.4%	△ 18.1%
	再利用廃棄物	15,974 kg	17.6%	△ 44.6%
	産業廃棄物	16,650 kg	18.7%	△ 33.4%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	2,279,290 枚	2.0%	△ 10.8%
	用紙購入枚数	2,348,000 枚	21.1%	△ 7.0%

※前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止があったため、使用量・処理量が大幅に減少していたが、当年度は概ね計画どおりに公演を実施したため、前年度と比較すると増加し、前々年度と同程度の水準に戻っている。ただし、ガス使用量は楽屋食堂の撤退のため、前々年度と比較しても大幅に減少している。また、廃棄物処理量は、舞台装置の廃棄方法・計上方法変更により前々年度よりも減少している。

※地球温暖化対策においても、省エネルギー対策を実施し、光熱水量については、大きなウェイトを占める地域冷熱(冷水、蒸気)を含め、使用量の節減に努めている。

(c) 情報システムの活用

- ・昨年度から引き続き、導入済みのクラウドサービスの利用促進により、財団内部における同時編集、ファイル共有、意見収集等の効率化を図った。共有したデータを会議資料としても活用するなど利用が進み、業務の効率化・紙使用量の縮減にも繋がっている。
- ・劇場外部における情報システム利用する場合の制約をなくすために、劇場内で使用している PC で劇場外部から各種情報システムに安全にリモートアクセスできる環境を整備し、在宅勤務、営業先、出張先等における業務の効率化に繋がっている。
- ・7月にPCの入れ替えを行い、従来のノートPCよりも小型かつ軽量のPCに更新することで、劇場内におけるPCの持ち運びが容易になり、打合せ資料等のペーパーレス化が促進された。
- ・電子承認のツールを導入し、紙ベースで運用していた一部の申請業務がデジタル化された。
- ・昨年度から引き続き、劇場関係者の体調管理や感染状況を迅速に把握するために、緊急時対応のメールツールの使用を、役職員だけでなく、出演者やスタッフに拡大して運用している。
- ・昨年度から引き続き、感染症対策を目的として、稽古映像の関係者への配信やラインアップ発表会のマスコミ向け配信を実施し、また理事会・評議員会等の会議をオンライン開催するなど、接触機会の低減を図りつつ関係者が必要な映像を視聴できる取組を行った。

令和3事業年度評価報告書

第19期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

令和4年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 4 年 6 月 27 日に開催された第 59 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会
令和3事業年度評価報告書

令和4年6月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 3 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和 3 年 10 月 14 日
第 2 回評価委員会	令和 4 年 5 月 13 日
第 3 回評価委員会	令和 4 年 6 月 6 日
第 4 回評価委員会	令和 4 年 6 月 15 日

令和3事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 概観

○新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）拡大の中で、積極的なオンラインの活用や早期概算払いを実施した。文化芸術活動の計画変更を余儀なくされている状況を考慮し、手続の負担軽減を図った助成金や補助金の交付要綱を一部改正した。加えて、文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とした助成事業を2回実施するなど、文化芸術活動の支援のため、柔軟かつ適切に対応した。また、助成対象活動について専門委員、専門調査員、プログラムディレクター・プログラムオフィサー、文化芸術活動調査員による公演等の調査を行い、事後評価を徹底した。

○数値目標に関して、会計調査及び応募相談会実施件数がいずれも目標を達成した。特に応募相談会実施件数においては達成率が181.5%となった。感染症拡大の中、活動継続の不安を抱える団体にオンラインなどを駆使して対応できたことは高く評価する。

○アーツカウンシル機能の今後の方向性の検討結果をまとめ、報告書を公開した。地域のアーツカウンシルとの各種情報の共有や連携推進は地域での文化芸術振興に寄与するものである。

○活動継続・技能向上等支援事業費補助金の繰越分について額の確定を行い、業務を完了した。並びに、新型コロナウイルスワクチンの文化芸術関係者への職域接種を実施したことは評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○助成した公演などの実施状況に関する調査は、感染症による制限を受け困難な部分もあったが、各種芸術活動団体間の格差を生じさせないためにも、また今後の公正な助成活動継続のためにも、確実な情報収集と適正な対応をお願いしたい。

○文化芸術復興創造基金への寄附金を原資とした助成事業のように、外部資金を取り入れ柔軟に対応できる助成事業を増やしてほしい。

○応募相談会実施件数が前年度に比べて大幅に増えているのは、感染症拡大に

よる諸団体の事業実施の困難さを反映していると思われる。各団体の具体的な相談内容を集計、分析し、これを今後の業務内容、手続きなどの改善に活かすことが望まれる。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症の拡大という状況下で、振興会の助成事業は適切かつ確実な対応が行われている。加えて、文化芸術活動に対する援助の方策と方法について検討し、支援の在り方に関する調査・研究に継続的に取り組んでおり、評定としてはBが適切と判断できる。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1) 概観

《全般》

○感染症対策を講じた上で、公演を中止したものを除き概ね計画どおりに実施できた。感染症による制約が多い中で、動画配信や入場者数の制限、公演の形式の変更など様々な工夫を重ねて、伝統芸能の魅力を広く国民に伝えることができた。

《歌舞伎》

○上演時間など様々な制約がある中で、「伊勢音頭恋寝刃」「南総里見八犬伝」を通し狂言の形態で公演できたことは、振興会ならではの長年の実績に基づく成果である。また、「一谷嫩軍記」「近江源氏先陣館」は、若手俳優を積極的に起用することによって技芸の継承を図り、さらに、名作の魅力をわかりやすく伝えるなど振興会の目的と合致した公演である。

《文楽》

○全ての公演を三部制で上演し、コロナ禍における文楽の公演形態が定着した。公演時間も2時間半前後におさめつつ、通しや見取りなどバリエーションを持たせており、配役にもベテラン、若手・中堅が活躍できるように工夫している。さらに、技芸伝承の観点から名作を積極的に上演するとともに、上演機会の少ない演目にも取り組んでいる。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか》

○聖徳太子千四百年御聖忌にちなんだ天王寺舞楽の公開や、舞踊、邦楽の丁寧な解説を交えた普及公演、テーマで公演の特色を出すなどきめ細かな配慮が見られた。

《大衆芸能》

○「国立名人会」「特別企画公演」は、特色ある企画で観客を楽しませた。大衆芸能をより身近に体験できる演芸レクチャーデモンストレーションは、感染症の影響下にあっても参加者を集め、その満足度も高かった。

《能楽》

○定例公演、企画公演と多彩で斬新な企画が常に観客の興味・関心を引き付けており、感染症の影響を受けず高い入場率を記録したことは公演の質の高さに対する評価である。また、流儀を越えた番組が組めるのは国立能楽堂ならではのことである。

《組踊等沖縄伝統芸能》

○様々な制約がある中でも、三線音楽、組踊、アジア・太平洋地域の芸能公演は目標入場者数を上回る来場者があり、根強い人気が維持できている。なかでも三線音楽「古典音楽の美」は、安富祖流、野村流、湛水流の三流が一堂に会した公演で、国立劇場おきなわならではの企画である。また、中堅・若手を中心とした組踊「執心鐘入」の上演や、上演機会の少ない組踊「大川敵討」の公演は、組踊の保存、継承の促進機会にもなっている。

《演目の拡充》

○伝統芸能の各分野において、復活上演、復曲、上演機会の少ない作品、新作の上演、組踊「伊祖の子組」の上演など演目の拡充が着実に進められた。また、新作歌舞伎脚本の募集・審査、新作組踊・戯曲大賞の公募・選考も行われており、演目の拡充が進んでいる。

《青少年等を対象とした公演》

○各分野の鑑賞教室で、歌舞伎「人情噺文七元結」「義経千本桜 河連法眼館の場」、文楽「新版歌祭文」、能楽「殺生石」などわかりやすい演目が選ばれ、公演内容の解説に映像を交えるなど青少年向きに工夫した。解説パンフレットにイ

ラストを活用し、座席字幕表示に子供向けチャンネルを設けるなど、様々な方法が導入されているのも振興会ならではの取組である。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○通常の公演に加え、動画用のコンテンツ制作の作業量は、編集処理や権利処理などを勘案すると膨大であり、積極的な取組として評価できる。

○特別企画公演「二つの宇宙ーめぐりあう今ー」において、アーツカウンシル東京との連携協力により、歌舞伎舞踊と文楽、声明とコンテンポラリーダンスのコラボという、ダイナミックで多様性のある作品を上演した。

《快適な観劇環境の形成》

○骨伝導イヤホンや多言語による解説など高齢者、障害者、外国人利用者への配慮・サービスの充実を図るための様々な方策を検討し、着実に実行している。

○歌舞伎公演では演目に関連した地域と連携し、物産展やその地の紹介展示などを行ったことは、地域振興への取組として評価できる。

《広報・営業活動の充実》

○観光と絡んだ広域からの集客について、新たな関連団体との連携を試み、功を奏している。初めて提携したエイチ・アイ・エスなど民間企業が構築している経済的活動の連携の中に入り込む戦略は有効である。今後、国立劇場が行う伝統芸能の公演などへのインバウンド客誘致の切り札となる可能性がある。

○テレビ・ラジオ、新聞・雑誌、チラシ・ポスター、SNS・メールマガジン・リーフレットなど多様なメディアや舞台裏を含む国立劇場のVR映像などを活用した広報に努めることができた。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○稼働率はほぼ順調である。ただし、国立劇場が再整備期間に入って以降の、これまで劇場を利用してきた実演家の動向が懸念される。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○団体客の割合が高い伝統芸能のジャンル、特に歌舞伎で感染症拡大のため観客数が伸び悩んだ。文楽では人形遣い吉田蓑助の引退など、集客が期待できる技芸員の減少は懸念材料である。大衆芸能では、定席公演があつてこそ演者が育ち、その上で寄席人気を高める企画公演があるところ、定席公演では集客の苦心が

続いている。各分野において工夫を望みたい。

○感染症の影響により中止となった公演のうち、特に民俗芸能については地元での上演も困難な場合が多い。国立劇場での公演は、その継承意欲の向上にもつながっており、今後の継続が望まれる。

○歌舞伎のアンケートの回収数が集客規模からみて少ない。アンケートから得られる結果は重要な定性・定量指標となるため、更なる回収数の増加を期待する。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症対策など多くの制約がある中で、伝統芸能の保存継承、振興が着実に図られていると評価できる。特に、舞台芸術の映像配信、SNSによる情報、魅力の発信が拡充されており、振興会ならではの取組が随所に見られることから、評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈2〉 現代舞台芸術の公演

(1) 概観

《全般》

○感染症による公演中止や延期、海外からの入国制限など様々な制約を受けながらも、出演者と制作側の努力により活気ある革新性に富んだ舞台を上演し続けた。また動画配信も積極的に行い、新たな観客層の掘り起こしを推進した。

《オペラ》

○感染症の影響による入国制限で出演できなかった主役級歌手の代役として、日本人歌手が質の高いパフォーマンスを見せた。大胆な演出の新制作オペラ「カルメン」を、別キャストで、本公演とほぼ並行して「高校生のためのオペラ鑑賞教室」で上演したことは画期的である。

○「ドン・カルロ」のフィリッポ二世の歌唱等により、妻屋秀和が令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

《バレエ》

○吉田都芸術監督のセカンドシーズンで、年末年始を通じて上演された「くるみ割り人形」など集客も好調で、子供から大人まで幅広い年齢層の観客が見られた。また、新制作バレエ「白鳥の湖」は、新国立劇場バレエ団の高い技術力と表現力を生かす上質な舞台作品となった。

○令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞など複数出演者の様々な受賞につながっ

たことは質の高い公演の成果である。

○公演中止を余儀なくされた「コッペリア」の無観客上演・ライブ配信は、約16万件の視聴となり、優れた対応だった。

《現代舞踊》

○「オバケッタ」、「ふしぎの国のアリス」などは子供も大人も楽しめる公演だった。20世紀の個性的なモダンダンスとは違い、協調性と多様性を追求するカジュアルなコンテンポラリーダンスの広がりをみせた。

○集客率も高く、現代舞踊の振興普及に貢献している。

《演劇》

○英国ロイヤルコート劇場との協力で、オンラインを駆使したワークショップを実施し、国を超えた交流と研鑽の機会を通じて、日本の若手の戯曲作家を育て、さらにはグローバルな活躍も期待できる人材を育成している。

○「斬られの仙太」「反応工程」などフルオーディションによる上演が、現代演劇の古典ともいえるべき名作で大きな成果を上げた。

《青少年等を対象とした公演》

○バレエの「竜宮」や現代舞踊「ふしぎの国のアリス」などが東京だけではなく、大阪、富山でも上演された。若い観客層の育成を図る上で大きな意義がある。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○多くの制約がある中で、全国各地の劇場等と連携し、オペラ、バレエ、演劇、現代舞踊の公演が持続できた。また、新国立劇場合唱団の外部公演への出演が多いことも、合唱団の実力の表れと評価できる。さらにオンラインによる海外劇場との国際会議への参加、オペラビジョン(ヨーロッパ最大級のオペラ配信プラットフォーム)による新制作オペラのオンライン配信が実現された。

○舞台芸術グローバル拠点事業の一環として、アーティストの活動環境の整備に着手した。

《快適な観劇環境の形成》

○視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートとして、リアルタイム音声ガイド放送、ポータブル字幕機の貸出など、複数の演劇公演において実施した。これらのサポート提供は、より労力と予算を要することであり、高く評価できる。

《広報・営業活動の充実》

○SNS を効果的に活用し、稽古場の風景や出演者らのインタビュー記事などを積極的に配信しており、ホームページのアクセス数も 739 万件を突破している。ホームページを戦略的に活用し、内容も充実したものになっている。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○利便性の高い中劇場、小劇場が貸劇場として十分に利用されている実績は公的施設の役割として好ましい。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○舞台芸術グローバル拠点事業で国際的な評価の確立に向けた様々な取組を推進してほしい。

○「竜宮」は、青少年に優れた現代舞台芸術に触れるという趣旨に合った佳作であり、舞台も美しく魅力的と評価が高い。こういった作品をより多くの地域で上演し、子供の鑑賞機会の確保に努めてほしい。

○アンケート回答数が、入場者数に比してかなり少ない。回答数の向上に努めてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症対策の厳しい制約の中にもありながらも、質の高い舞台芸術作品を上演、公開し続けた努力を評価し、評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈3〉 日本博の運営・実施

(1) 概観

○主催・共催型プロジェクト、イノベーション型プロジェクトの審査や補助金の交付、参画プロジェクトの認証など多岐にわたる運営に取り組み、中期目標にはない事業を遂行したことは高く評価できる。

○日本博全体の戦略的プロモーションとして、バーチャル日本博などを筆頭に、幅広い切り口で取り組んだ。

○日本博ホームページへの海外からのアクセス件数も増え、今後の国内観光需要の喚起や、インバウンド需要回復に向けた取組を推進できた。

○新聞、メディアとタイアップし、SNS 等で情報発信を積極的に行うことができた。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○日本博のような大規模プロジェクトを通して、伝統芸能・文化を国内外に向けて発信していく機会には文化史的な意義を有する取組であるが、それを今後も継続的に実施していくことができるよう今回のノウハウを蓄積し、活用できる体制を整えておくことが重要である。

○日本博ホームページへのアクセス件数が海外から約 194 万件あり、日本文化の海外発信に成果を上げた。2025 年の大阪・関西万博に向け、日本博がもっと国民に周知され支持されるよう、日本博の国内周知もさらに強化する必要がある。日本博にしかできない国際的なスケール感のあるイベントを期待したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○短期間に大きな成果を上げることができたこと、多様なプロジェクトを推進することができたこと、組織的に連携できる運営方法を蓄積できたことなどから、評定としては A が適切と判断できる。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

(1) 概観

○伝統芸能分野の研修生応募者数の減少に対して、研修事業の積極的な広報に取り組み、コロナ禍の厳しい状況の中で、概ね計画どおり研修生を受け入れることができた。

○感染症の影響で一部予定を変更しながらも、研修発表会や既成者研修発表会を実施し、観客の前で日頃の成果を披露することができたことは、技芸伝承の観点から評価できる。

○全ての研修修了者の入門先、就業先を決定するなど成果を上げた。

○年度計画では予定されていなかった文楽研修生の募集を行うなど柔軟に対応した。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○研修生応募者数が減少傾向にある中、安定的に養成するためには、修了後に伝承者・実演家として生きていけるような道筋を示しておくことが必要である。そのため、関係団体等とも協議して受入れ側の体制を整えていくことが必要であ

る。また、高校生の進路選択の一つとして、生徒やその保護者が相談できる窓口を設けるなど、具体的な方策の検討が必要である。

○研修中途での辞退者が出ており、その対応策を講じる必要がある。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症の影響下においても、伝承者の募集、養成など地道に取り組むことができた。評定としてはBが適切と判断できる。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 概観

○観客の前での研修発表会が実施できた。また、オペラ公演や演劇公演では多くの修了生が起用され、研修の成果が上がっている。

○感染症の影響による入国制限で外国人歌手が出演できないオペラ公演において、代役となった修了生が観客を魅了し、国内歌手の質の高さを世に知らしめた。

○各種コンクールでの受賞者を輩出しているのは、実演家の研修機関としての実績と評価できる。

○研修の応募者数が多く、オペラとバレエは受験倍率が約 10 倍となっている。これは新国立劇場の研修が、プロの実演家を目指す人たちから高い評価を得ている表れといえる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○オペラとバレエの研修所には民間航空会社の支援を得たスカラシップ制度があり、応募への動機付けとなっているといえる。感染症の影響により、実施が見送られているが、このような海外との交流、研修の機会という貴重な場を途切れることなく続けてほしい。

○五館合同特別講義は感染症のため中止となったが、これからも継続し、国際的な活躍の前に日本の舞台人としての教養を振興会ならではの共同研修で身に付けてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○修了及び受講終了者がほぼ予定どおり出ていること、研修発表会が実施されていること、オペラでは海外からの招聘歌手の来日が困難な中で、多くの研修修了者が起用されたことなどから、評定としてはBが適切と判断できる。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

4-(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

- 文化デジタルライブラリーのアクセス件数が年度計画を大きく超え、達成率は 270.5%となった。さらに、舞台芸術教材に「日本の民俗芸能」が加わった。これらは全国の大学・高等学校など教育機関で活用されており、感染症の影響下において、手軽に視聴でき、親しみながら知識を身に付けられることは意義がある。
- 国立劇場や国立文楽劇場の公演記録映像を有料配信したことなど、デジタルアーカイブの充実は評価できる。
- 「近代歌舞伎年表」や「義太夫年表」など研究者に有用な資料の研究・出版は、振興会の公演を支える事業といえる。
- 感染症対策による制約がある中で、公演記録の作成・活用が着実に進んでいる。
- 国立能楽堂企画展「小道具から見る能」の図録は、観世・金春・宝生の各宗家所蔵資料、図版などが豊富に収録され、質の高い展示となった。
- 東京国立博物館で開催された「体感！日本の伝統芸能」展は、歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、組踊の5つの芸能の魅力をわかりやすく展示したことで、より幅広い層への伝統芸能の紹介となった。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 上演資料集が WEB 化されたが、今後も近年の資料を組み入れながら、積極的に進めてほしい。
- 文化デジタルライブラリーへのアクセス件数が 143 万件以上という驚異的な成果を上げている。貴重な資料に関心が高まっているのは素晴らしい。公演記録映像の配信などに尽力し、伝統芸能を文化資源として積極的に活用されるよう期待したい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能の多様性と個性に即した資料調査とその成果の収集・公開が適切に行われている。公演記録映像アーカイブが大いに活用されている。評定としては A が適切と判断できる。

4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 概観

- 「演劇研究会」による公演の情報発信や国内劇場の調査を実施するとともに、公演関連の所蔵資料のデータベース化を行い、ホームページで公開した。
- 公演記録データベースやWeb資料集などのネット検索の利便性が増している。安部公房略年譜や三島由紀夫略年譜、英国王朝系図など演劇資料集は観劇の助けともなる。
- ギャラリープロジェクトは初心者にも鑑賞しやすい切り口で制作されている。13回の配信での合計再生回数も1万4千件を超え、新たな層への発信につながっている。
- 公演記録映像などのインターネット配信を行う「新国デジタルシアター」を新たに開設した。
- 劇場内のオープンスペースを活用した「初台アート・ロフト」は舞台芸術鑑賞への自然なアプローチとなり、若い世代の関心も引き、評価できる。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 現代舞台芸術に係る調査研究に関しては、新国立劇場として何をどのような理念で進めるのかが取組内容からは分かりにくく、この点の再検討と明確化が必要だろう。
- 公演記録の調査や収集の対象を国内に限らず、海外にも広げて、グローバルな視点から捉えれば、現代舞台芸術の現状をより幅広く紹介することができるのではないだろうか。
- 新国立劇場は開場から25年となり、蓄積されたアーカイブも重要な意味を持ってきている。オペラ、バレエ、演劇と著作権の処理を的確にしつつ、過去の公演映像の公開などを積極的に行ってほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

- 主催公演に関する研究、資料の収集保存と活用、記録映像の作成と活用は着実に進んでいる。評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 概観

- 国立劇場再整備等事業を効果的に推進していくために、国立劇場再整備本部

の拡充と増員が実現できた点は、今後の文化芸術の振興にとって重要な役割を果たすものとして評価できる。

○契約の適正化などについては、電磁的記録による契約事務処理に関する規則整備、コピー用紙・トイレットペーパーの共同調達などが実施されており、中期計画・年度計画に基づく措置が確実に遂行されている。

○助成業務システムの更新や、クラウド環境の充実など、デジタル化を進めている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○国立の劇場として全国各地の劇場の手本となるよう、デジタル技術の活用などによる業務効率化を進めてほしい。

○感染症の拡大防止への対応に端を発した公演記録映像のインターネット配信など、伝統芸能や現代舞台芸術の情報、魅力発信は新たな段階を迎えた。公演記録映像などの活用は、国立劇場再整備等事業に伴う措置としても有効である。各劇場における公演記録映像の活用の効果をより上げるため、それらを統括する組織的対応が将来的に必要である。

○日本博や国立劇場再整備等事業などではマンパワーの充実が求められるが、職員個人への負担増にならないよう増えた人員の配置を工夫して、健全な職場環境を維持してほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○国立劇場再整備等事業に向けた業務運営の適正化を行うとともに、情報システムの活用、経費の削減など中期計画・年度計画に基づく措置・取組が的確に遂行されている。評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

(1) 概観

○集客の難しさに伴う収入減という、感染症の影響を継続して受けながら、節約や外部資金の獲得などでおおよそ3千5百万円の黒字を達成し、困難な状況を乗り越えた努力を評価する。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○積極的な業務運営のために、外部資金の導入はなお一層の充実を図るべく努力してもらいたい。ただし、補助金に大きく依存する資金計画は、今後を考える

と不安がある。これからも思い切った施策と慎重な方針で進んでもらいたい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症対策など多くの制約がある中で、収入・支出の財務バランスを図る努力が行われ、加えて寄附金や補助金などの外部資金の獲得が積極的に進められた。評定としてはBが適切と判断できる。

IV その他業務運営に関する重要事項

(1) 概観

○感染症対策を徹底し、感染状況に応じてきめ細かな対策を講じ、ワクチンの職域接種も積極的に推進できた。

○国立劇場再整備等事業を PFI 事業として実施することが正式決定し、新たな局面へ進展したことは喜ばしいことであり、ここまで積み上げてきた振興会の努力を高く評価したい。

○令和 2 年 12 月の国立劇場大劇場地下における職員の労働災害事故について、労働安全衛生法違反の疑いにより国の機関である振興会が書類送検されたことは重大な事案である。

○この事故の反省に基づき、法務・コンプライアンス室を設置するなど、強力な再発防止策が講じられている。

(2) 改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○労働災害事故について、厳粛に受け止め、再発防止と対応強化が図られている。今後一層留意し、適切・適正な運営を実施して、日本の文化芸術に関わる劇場の環境改善をリードしてほしい。

○PFI という手法による新しい取組が正しい道であったと後に評価されるよう、慎重かつ思い切った国立劇場再整備等事業への取組を期待したい。

○国立劇場再整備等事業についての青写真や進捗状況を、適宜、国民にわかりやすく伝えることで、周知を図る努力をしてほしい。

(3) 自己点検評価に対する意見

○感染症拡大防止対策、国立劇場再整備等事業の進展は、大いに評価できるが、労働災害事故を防ぐことが難しかった点を踏まえて、評定としては C が適切と判断できる。

令和3年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿
(任期：令和3年7月1日～令和4年6月30日)

委員長 葛西 聖 司 (古典芸能解説者)

委員長代理 小川 直 之 (國學院大學教授)

委員 大久保 充 代 (八尾市文化会館(プリズムホール) 館長)

委員 小玉 祥 子 (毎日新聞社学芸部専門編集委員)

委員 古谷 伸太郎 (公認会計士)

委員 山田 和 人 (同志社大学教授)

委員 山田 美也子 (文化ジャーナリスト・エッセイスト)

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日

改正 平成21年 3月27日

評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務企画部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

平成15年10月31日
改正 平成16年 4月 1日
改正 平成17年 3月16日
改正 平成20年 6月19日
改正 平成21年 4月 1日
改正 令和 4年 4月 1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、9人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、財務企画部計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月31日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則（平成20年6月21日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則（平成21年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和4年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、令和4年4月1日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和3事業年度 業務実績報告書

令和4年6月29日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：財務企画部 計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表） / FAX：03-3265-8782

<https://www.ntj.jac.go.jp/>